
各務原市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和6年3月

- 目次 -

I. 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 配布・回収数	1
4 集計方法	1
II. 調査結果（一般市民）	2
1 あなた（回答者）ご自身について	2
2 家庭生活等について	6
3 就労・働き方について	26
4 地域生活について	34
5 「男女の地位・平等」について	41
6 人権の配慮について	62
7 困難を抱える女性への支援について	81
8 「男女共同参画社会」について	82
9 行政への要望について	94
10 自由意見	96
III. 調査結果（小・中学生）	104
1 あなた自身のことについて	104
2 男女共同参画について	105
3 普段の生活について	108
4 仕事・将来について	119
5 デートDVについて	126
6 自由意見	127
IV. 高校生・大学生グループインタビュー	136
1 調査目的	136
2 調査概要	136
3 調査結果	136
V. 団体ヒアリング	138
1 調査目的	138
2 調査概要	138
3 調査結果	138

I. 調査概要

1 調査の目的

各務原市では、男女共同参画のさらなる推進を図るため、令和7年度を初年度とする「第5次かかみがはら男女共同参画プラン」を策定する予定です。今回の調査は、「第4次かかみがはら男女共同参画プラン」に掲げた目標の達成状況の確認や、新たなプランの施策検討にあたって、市民の皆さんのお考えをお聞きするため、実施しました。

2 調査方法

区分	一般	中学生	小学生
調査客体	市内在住の18歳以上の方	市内各中学校の2年生のうち2学級の生徒	市内各小学校の5年生のうち1学級の生徒
調査票の配布・回収	郵送による調査票の配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式	WEB回答方式	WEB回答方式
調査基準日	令和5(2023)年10月1日現在		
調査期間	令和5(2023)年10月4日(水)～令和5(2023)年10月27日(金)		

3 配布・回収数

区分	一般	中学生	小学生
配布数(A)	2,000	498	495
有効回答件数(B)	758	373	418
有効回答率(B/A)	37.9%	74.9%	84.4%

4 集計方法

- ・ グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略しています。また、選択肢の見出しを簡略化してある場合もあります。
- ・ クロス集計では、分析軸の「その他」「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の合計値と全体の数値が合わない場合があります。

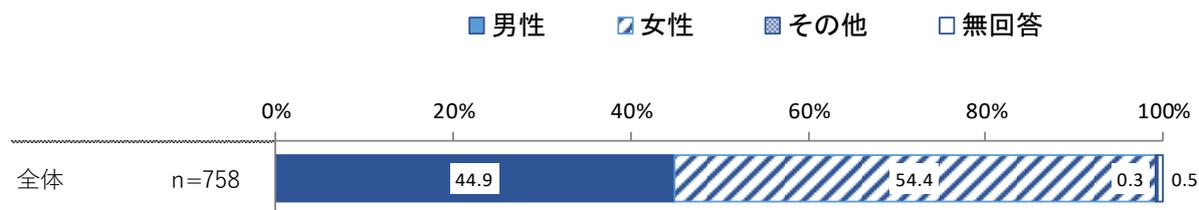
II. 調査結果（一般市民）

1 あなた（回答者）ご自身について

あなたの性別（○は1つだけ）

- 回答者の性別は、「男性」が44.9%、「女性」が54.4%と、「女性」の占める割合が高くなっています。

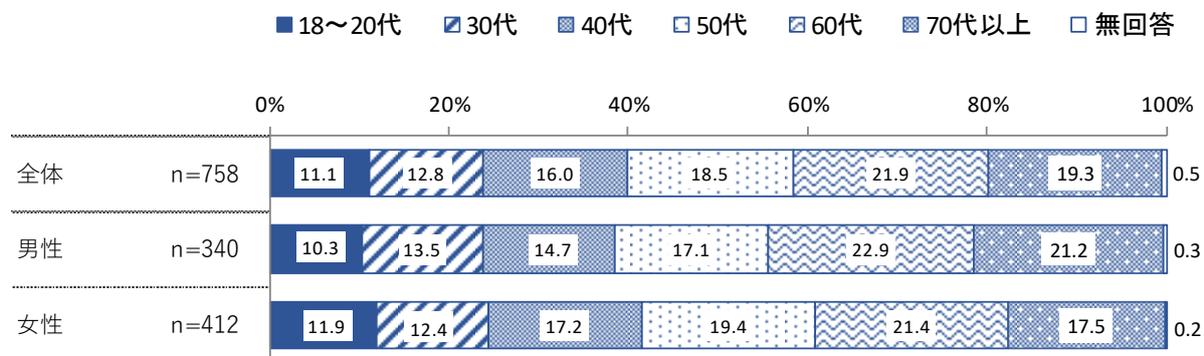
図表1 性別



あなたの年齢（○は1つだけ）

- 回答者の年代は、「60代」が21.9%と最も多く、次いで「70代以上」(19.3%)、「50代」(18.5%)、「40代」(16.0%)、「30代」(12.8%)、「18～20代」(11.1%)となっています。

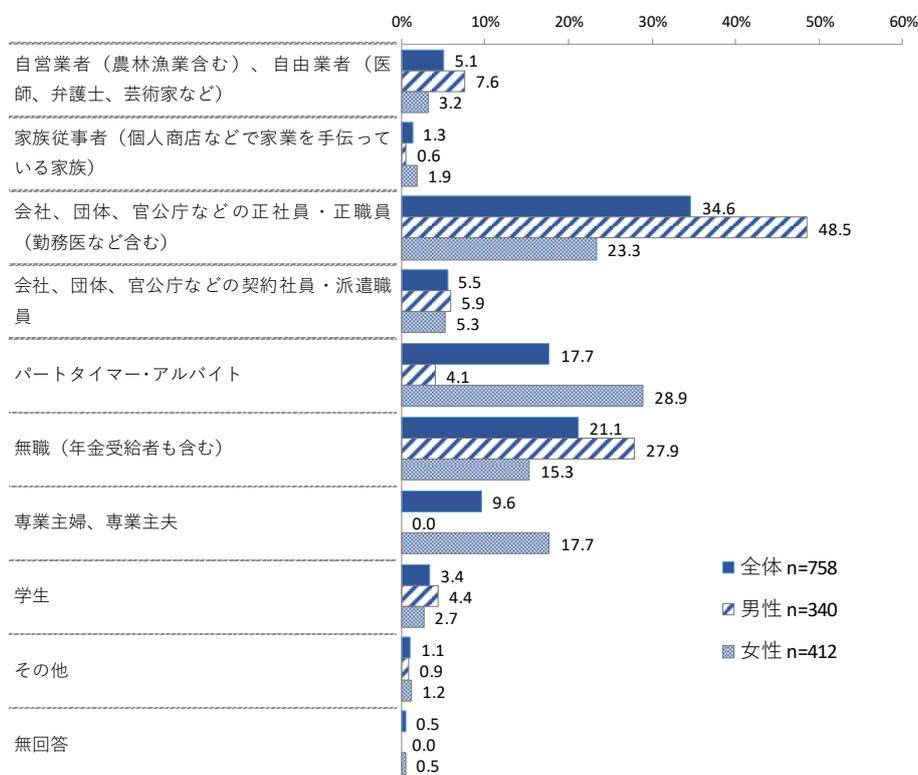
図表2 年代



あなたの職業（○は1つだけ）

- 回答者の職業は、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員（勤務医など含む）」が 34.6%と最も多く、次いで「無職（年金受給者も含む）」が 21.1%、「パートタイマー・アルバイト」が 17.7%、「専業主婦、専業主夫」が 9.6%となっています。

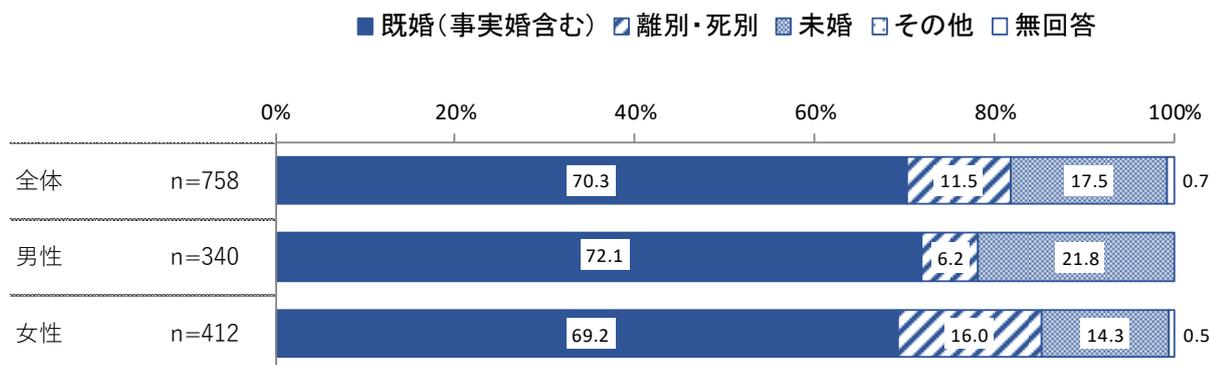
図表 3 職業



婚姻の状況（○は1つだけ）

- 婚姻の状況に関しては、「既婚（事実婚含む）」が 70.3%、「未婚」が 17.5%、「離別・死別」が 11.5%となっています。

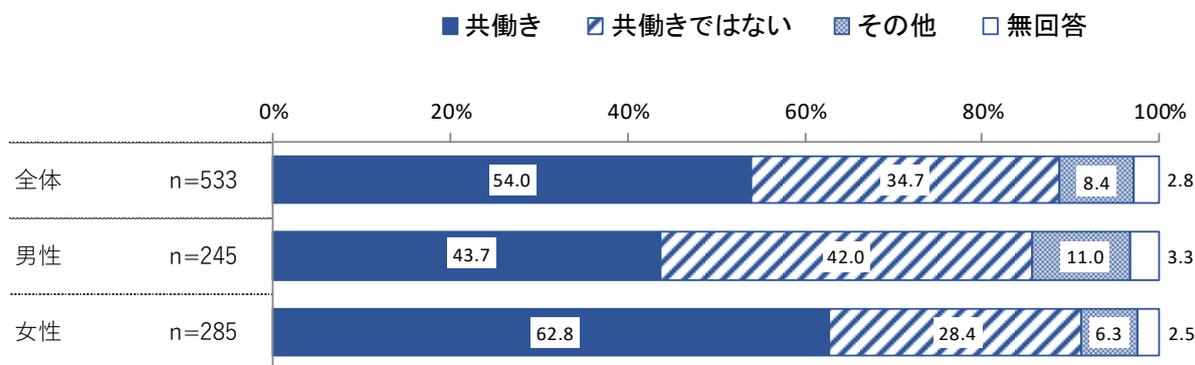
図表 4 婚姻の状況



夫婦の働き方（○は1つだけ） ※既婚（事実婚を含む）の方のみお答えください。

➤ 夫婦の働き方については、「共働き」が54.0%、「共働きではない」が34.7%となっています。

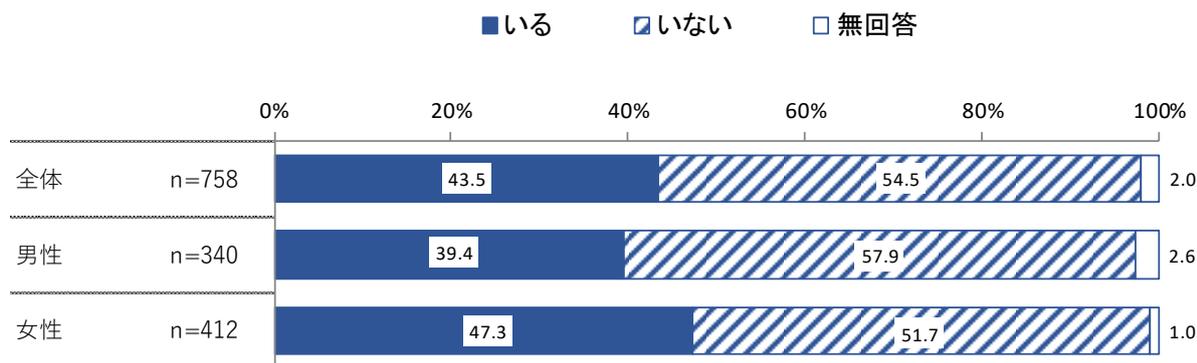
図表 5 夫婦の働き方



同居の子どもの有無（○は1つだけ）

➤ 同居の子どもの有無については、「いる」が43.5%、「いない」が54.5%となっています。

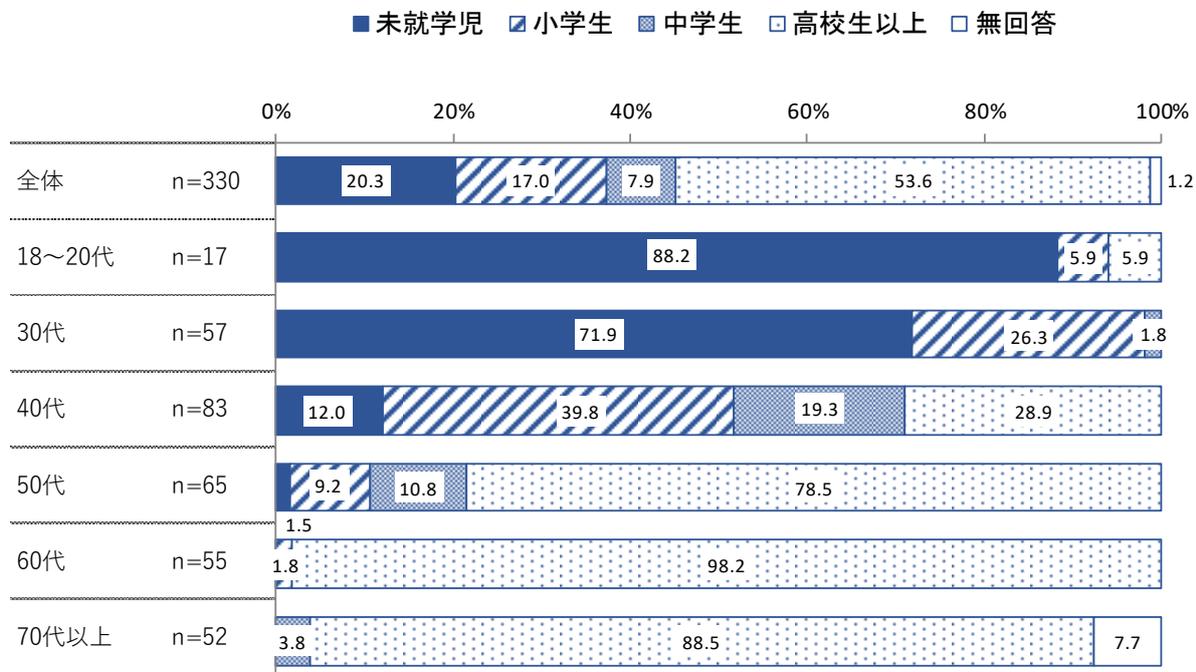
図表 6 同居の子どもの有無



一番下の子どもの年齢（○は1つだけ） ※お子さんがいる方のみお答えください。

- ▶ 一番下の子どもの年齢は、「高校生以上」が53.6%と最も多く、次いで「未就学児」(20.3%)、「小学生」(17.0%)、「中学生」(7.9%)となっています。

図表 7 末子の子どもの年齢



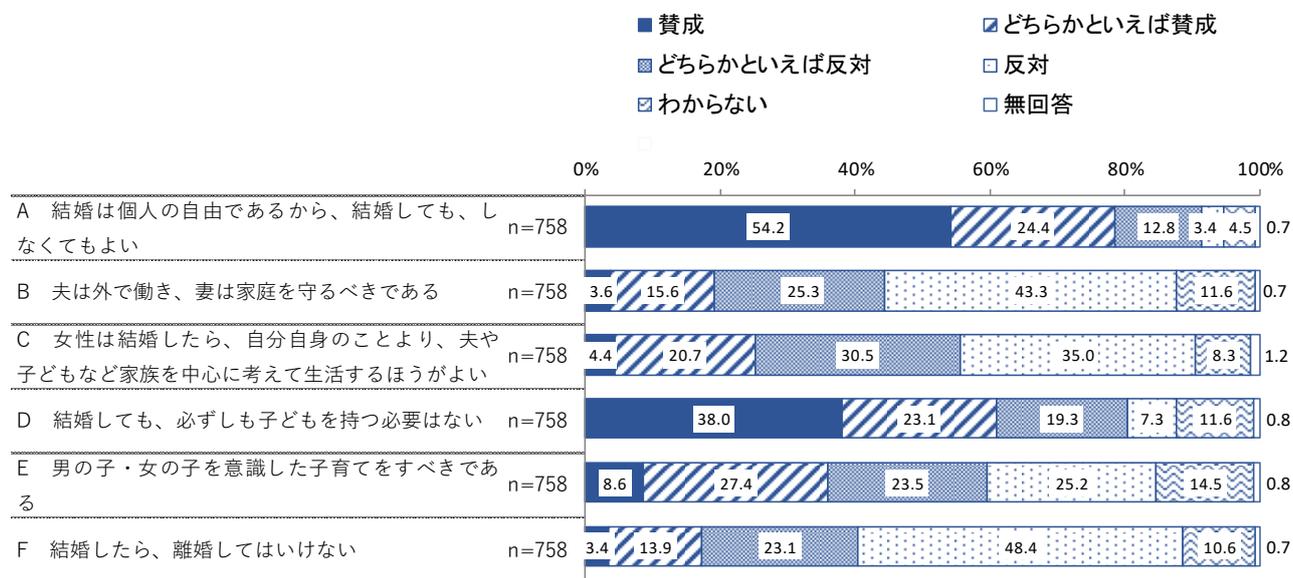
2 家庭生活等について

問2 AからFの考えについて、それぞれ該当する番号（1～5）から選んでください。

（A～Fでそれぞれ○は1つ）

- 【A 結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい】という考え方については、「賛成」が54.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が24.4%となっており、これらを合わせた“賛成派”の割合が78.6%となっています。
- 【B 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】という考え方については、「反対」が43.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が25.3%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が68.6%となっています。
- 【C 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活するほうがよい】という考え方については、「反対」が35.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が30.5%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が65.5%となっています。
- 【D 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】という考え方については「賛成」が38.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が23.1%となっており、これらを合わせた“賛成派”の割合が61.1%となっています。一方で、“反対派”（「反対」+「どちらかといえば反対」）は26.6%となっています。
- 【E 男の子・女の子を意識した子育てをすべきである】という考え方については、「どちらかといえば賛成」が27.4%と最も多く、これに「賛成」（8.6%）を合わせた“賛成派”の割合が36.0%となっています。
- 【F 結婚したら、離婚してはいけない】という考え方については、「反対」が48.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が23.1%となっており、これらを合わせた“反対派”の割合が71.5%となっています。

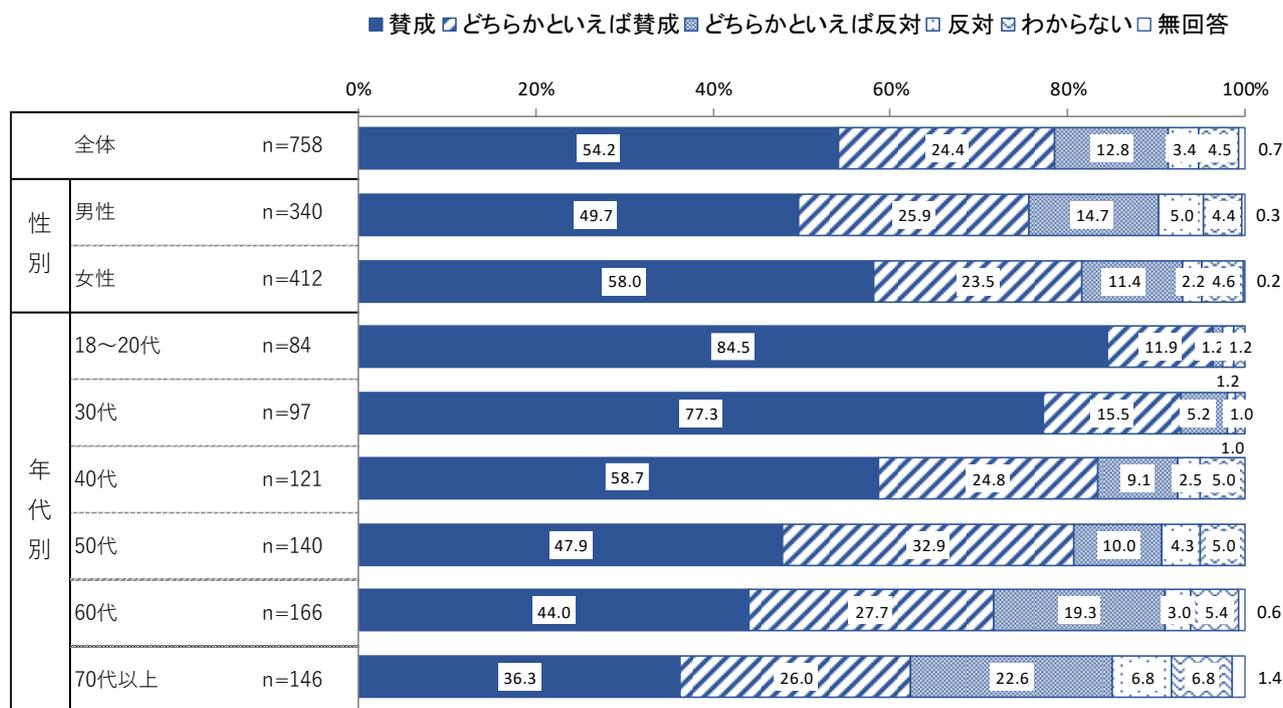
図表 8 家庭や結婚等の考え方について



< A 結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい >

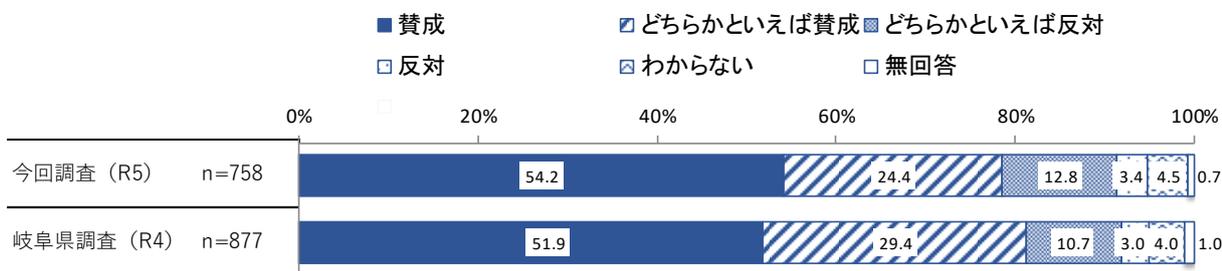
- 性別で見ると“賛成派”の割合は男性で 75.6%、女性で 81.5%と、女性が 5.9 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると“賛成派”の割合は 18～20 代で 96.4%、30 代で 92.8%と 9割を超え高くなっています。また、“賛成派”の傾向としては年代とともに割合が低くなっており、70 代以上では 62.3%にとどまっています。

図表 9 結婚について



- 県の調査と比較すると、“賛成派”は 2.7 ポイント下回っているのに対し、“反対派”は 2.5 ポイント上回っています。

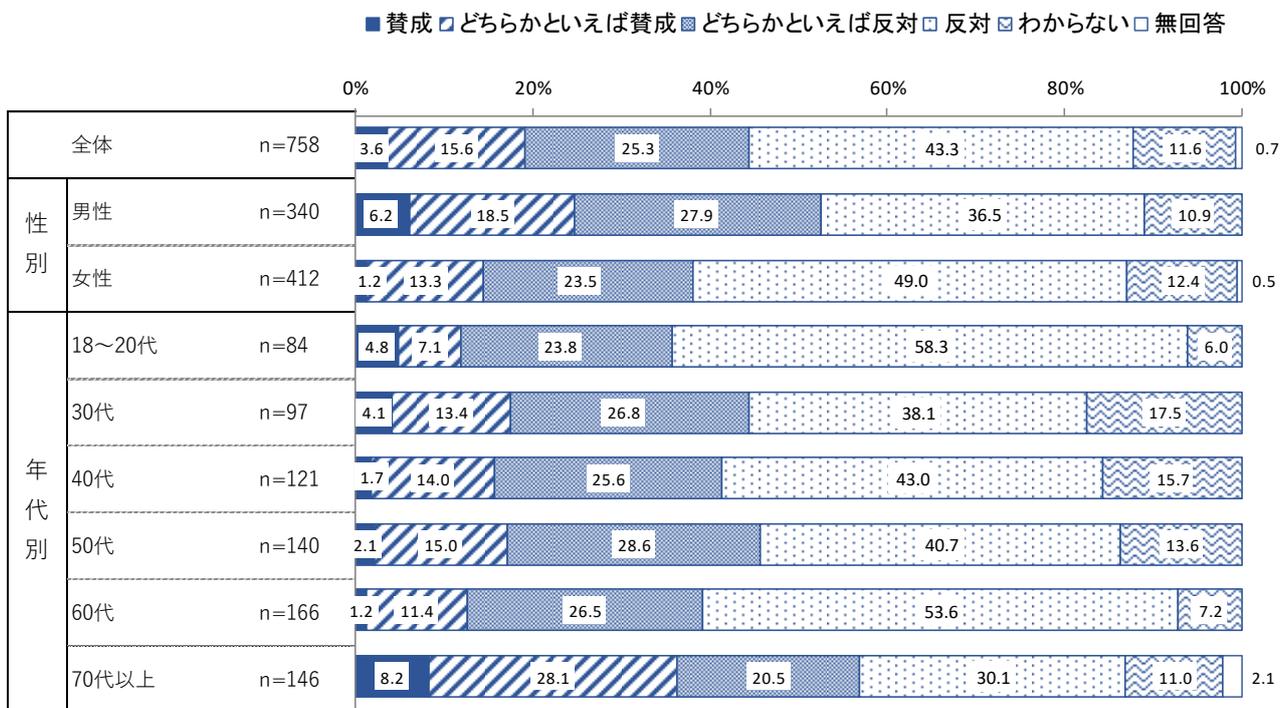
【岐阜県との比較】



< B 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである >

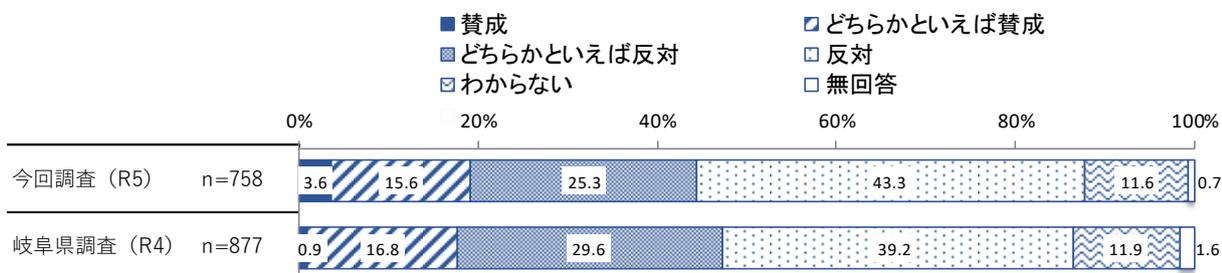
- 性別で見ると“賛成派”の割合は男性で 24.7%、女性で 14.5%と、男性が 10.2 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると“賛成派”の割合は、18～60 代では1割台となっているのに対し、70 代以上では4割弱となっており、年代による意識に差がみられます。

図表 10 家庭について



- 県の調査と比較すると、“賛成派”は 1.5 ポイント上回っているのに対し、“反対派”は 0.2 ポイント下回っています。

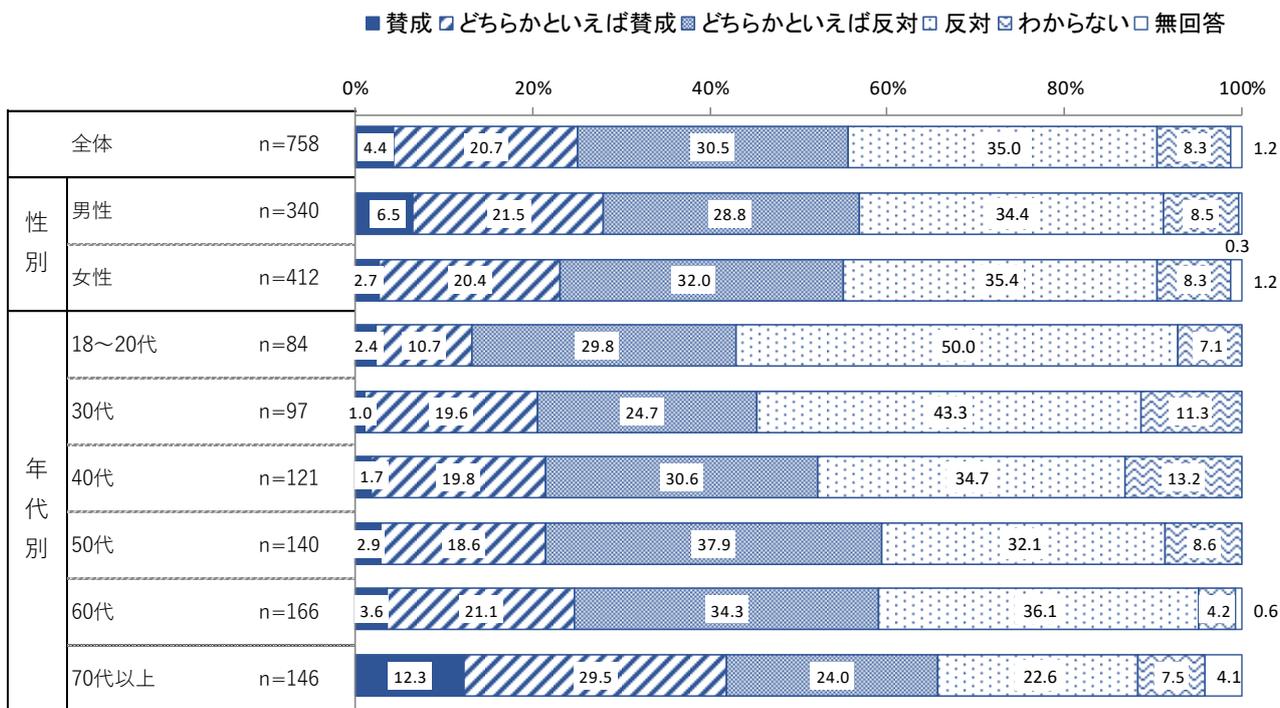
【岐阜県との比較】



<C 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活するほうがよい>

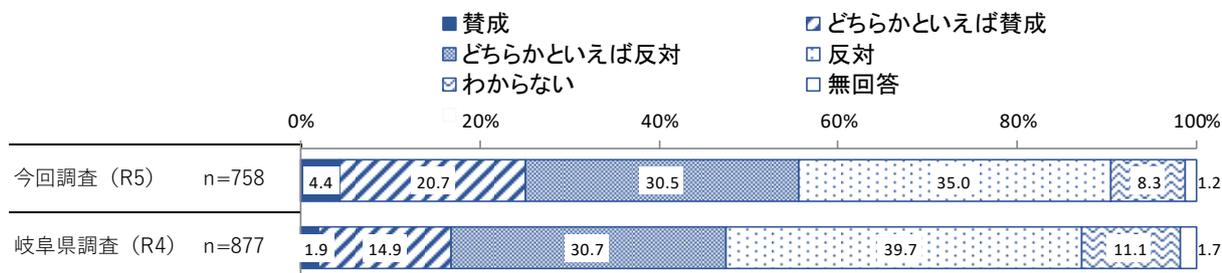
- 性別で見ると“賛成派”の割合は男性で28.0%、女性で23.1%と、男性が4.9ポイント上回っています。
- 年代別で見ると“賛成派”の割合は、18～20代では1割台、30～60代では2割台となっているのに対し、70代以上では約4割となっており、年代による意識に差がみられます。

図表 11 結婚後の女性の生活について



- 県の調査と比較すると、“賛成派”は8.3ポイント上回っているのに対し、“反対派”は4.9ポイント下回っています。

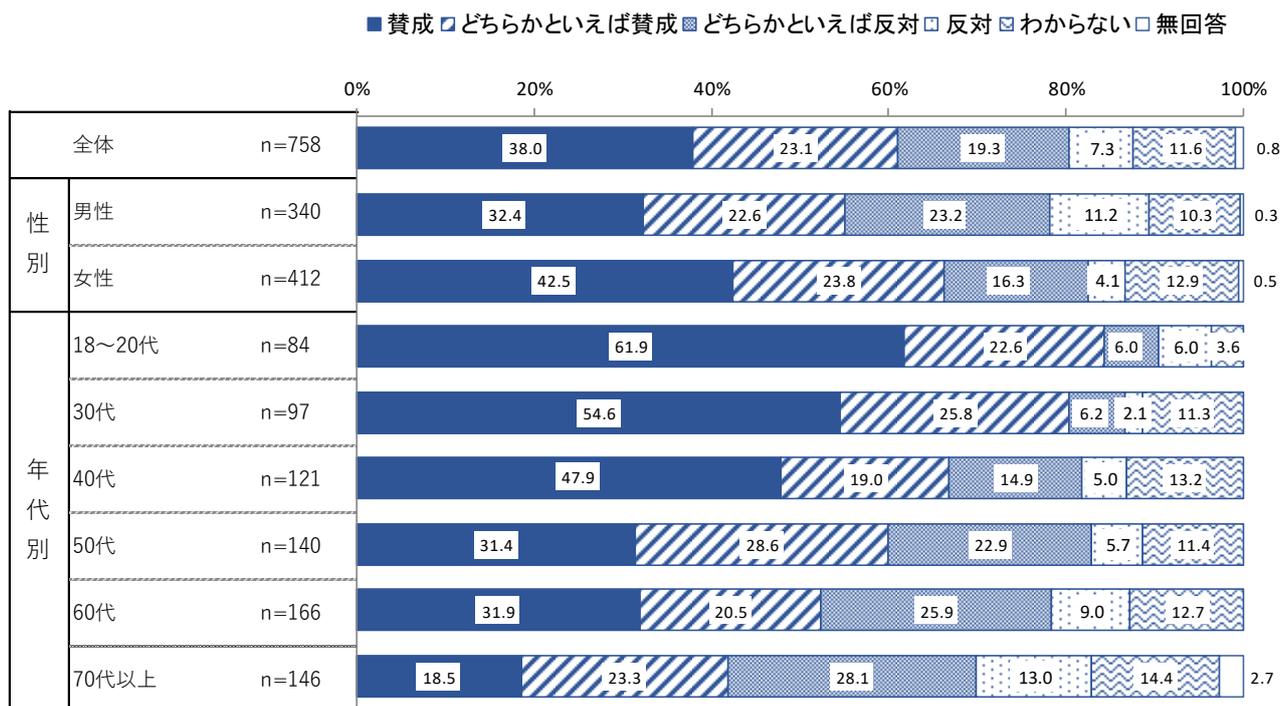
【岐阜県との比較】



<D 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない>

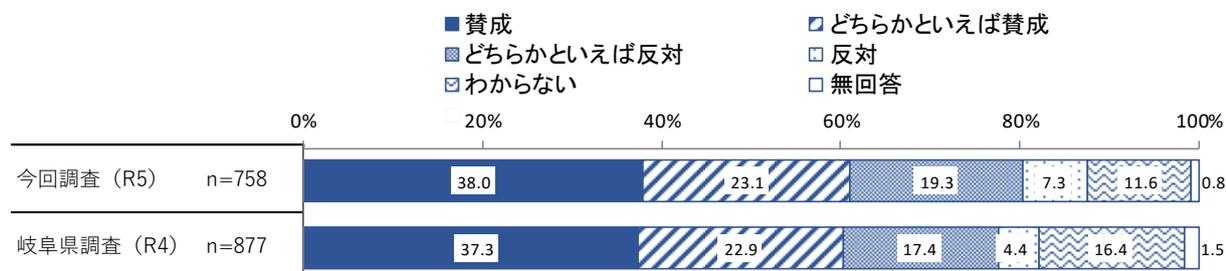
- 性別で見ると“賛成派”の割合は男性で 55.0%、女性で 66.3%と、女性が 11.3 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると“賛成派”の割合は 18～20 代で 84.5%、30 代で 80.4%と8割を超え高くなっています。また、“賛成派”の傾向としては年代とともに割合が低くなっており、70 代以上では 41.8%となっています。

図表 12 結婚後に子どもを持つべきか



- 県の調査と比較すると、“賛成派”は 0.9 ポイント、“反対派”は 4.8 ポイント上回っています。

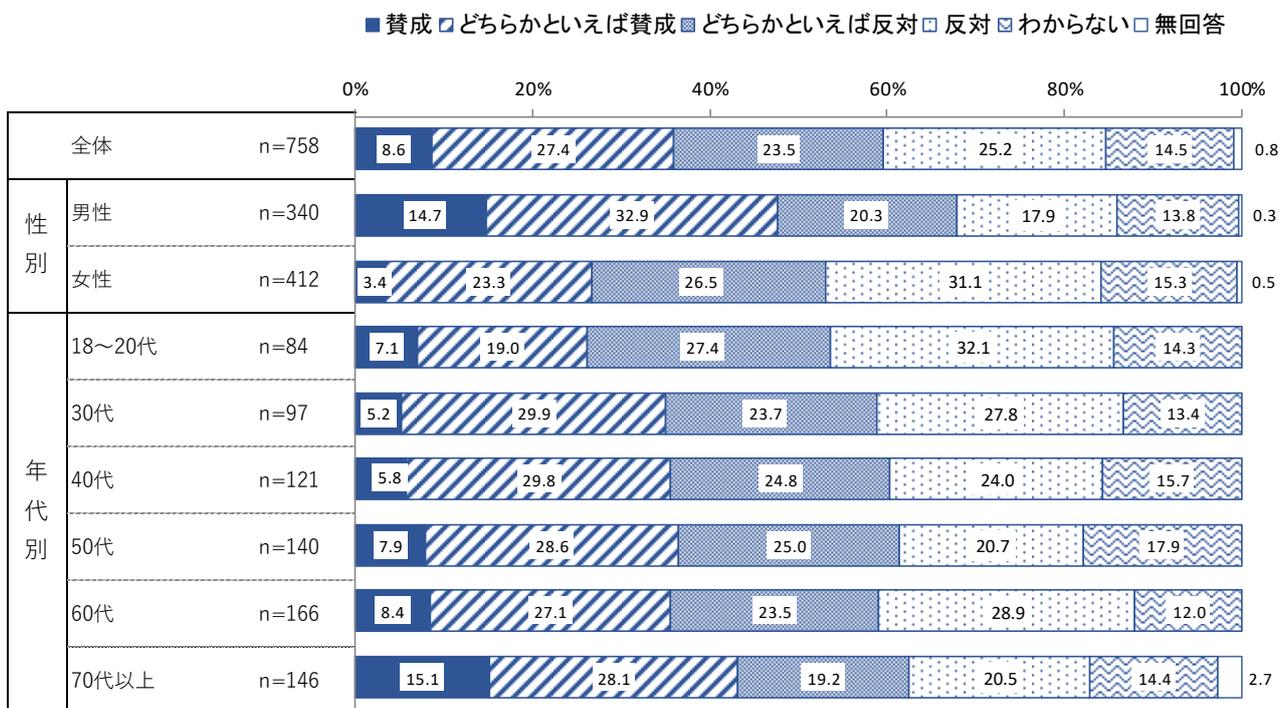
【岐阜県との比較】



< E 男の子・女の子を意識した子育てをすべきである >

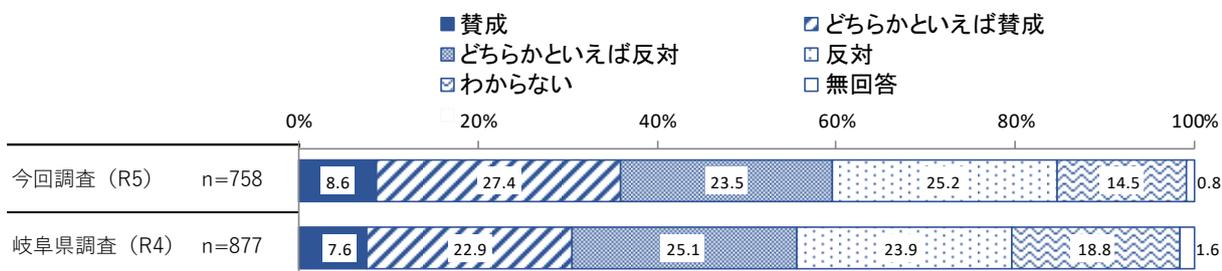
- 性別で見ると“賛成派”の割合は男性で 47.6%、女性で 26.7%と、男性が 20.9 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると“賛成派”の割合は、18～20 代では2割台、30～60 代では3割台となっているのに対し、70 代以上では4割強となっています。

図表 13 性別を意識した子育てについて



- 県の調査と比較すると、“賛成派”は 5.5 ポイント上回っているのに対し、“反対派”は 0.3 ポイント下回っています。

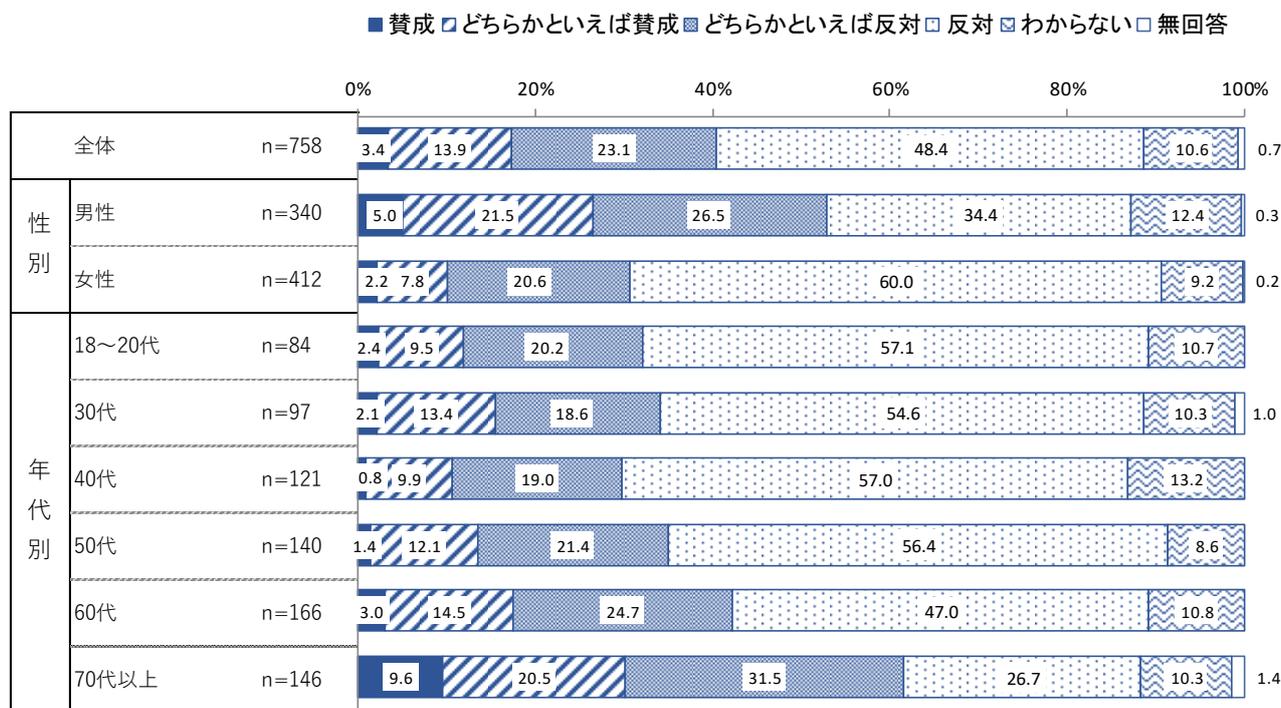
【岐阜県との比較】



< F 結婚したら、離婚してはいけない >

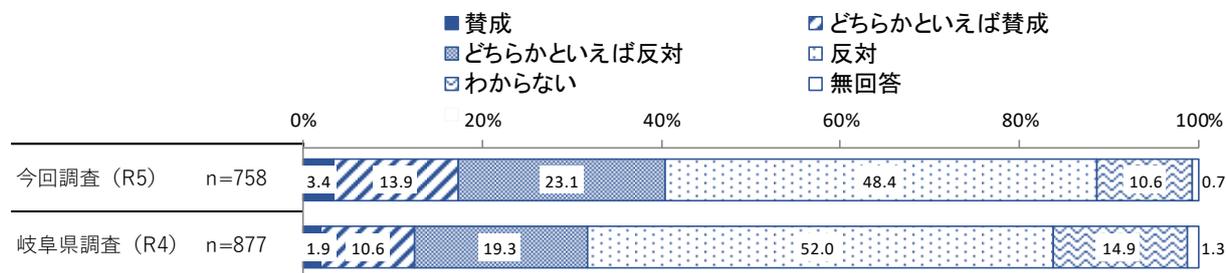
- 性別で見ると“賛成派”の割合は男性で 26.5%、女性で 10.0%と、男性が 16.5 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると“賛成派”の割合は、18～60 代では1割台となっているのに対し、70 代以上では約3割となっています。

図表 14 離婚について



- 県の調査と比較すると、“賛成派”は 4.8 ポイント、“反対派”は 0.2 ポイント上回っています。

【岐阜県との比較】



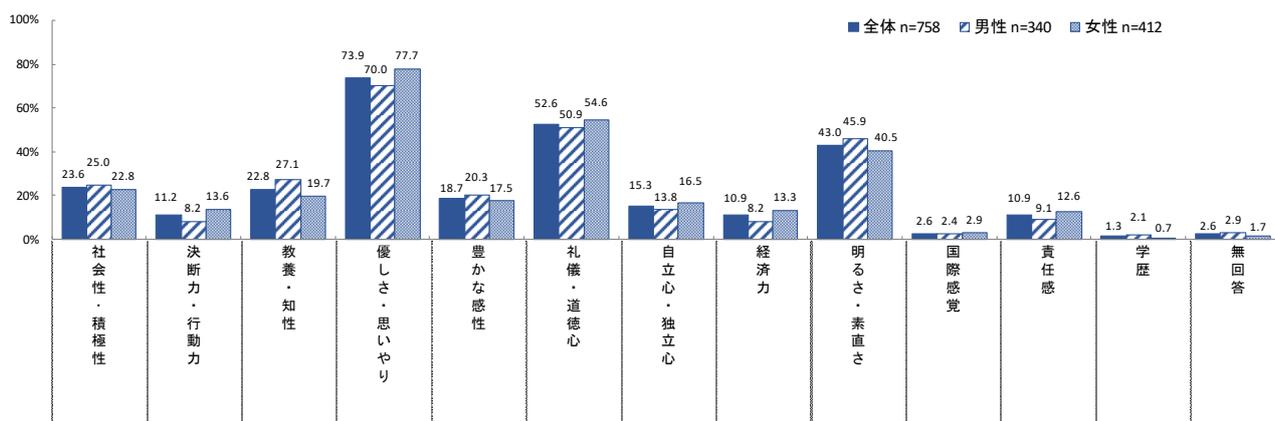
問3 あなたは、ご自身の子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。
 <女の子><男の子>それぞれについて3つまで選んでください。

(お子様がいない場合は、いると仮定してお答えください。)

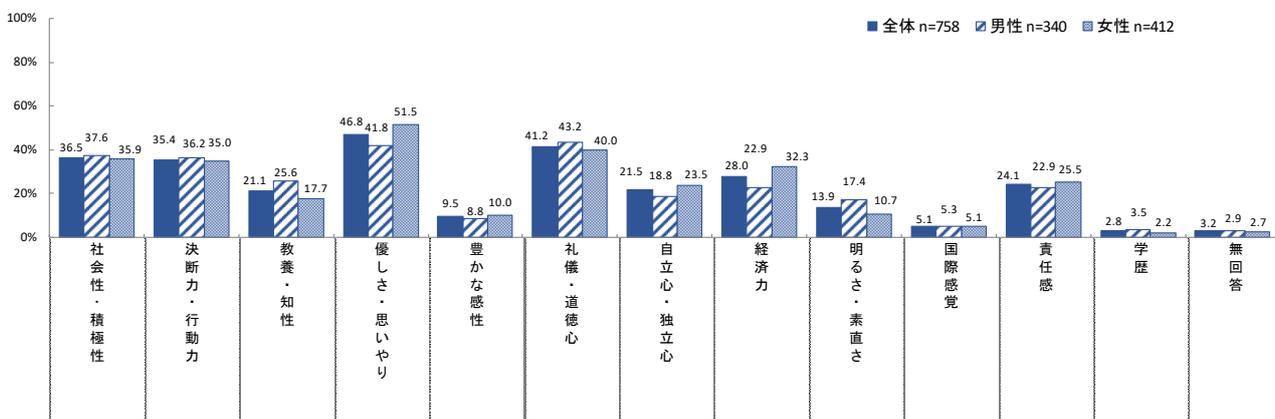
- 女の子に身につけてほしいと思うことは、「優しさ・思いやり」が73.9%と最も多く、次いで「礼儀・道徳心」が52.6%、「明るさ・素直さ」が43.0%、「社会性・積極性」が23.6%、「教養・知性」が22.8%となっています。
- 男の子に身につけてほしいと思うことは、「優しさ・思いやり」が46.8%と最も多く、次いで「礼儀・道徳心」が41.2%、「社会性・積極性」が36.5%、「決断力・行動力」が35.4%、「経済力」が28.0%となっています。
- 性別で見ると、女の子、男の子どちらに対しても「優しさ・思いやり」は、男性より女性が高くなっています。一方、「教養・知性」「明るさ・素直さ」は、女性より男性が高くなっています。
- 女の子、男の子で比較すると、女の子に対しては「優しさ・思いやり」「明るさ・素直さ」が男の子に比べて特に高くなっており、男の子に対しては「決断力・行動力」「経済力」「責任感」などが高くなっています。

図表 15 子どもに身につけてほしいこと

【女の子】



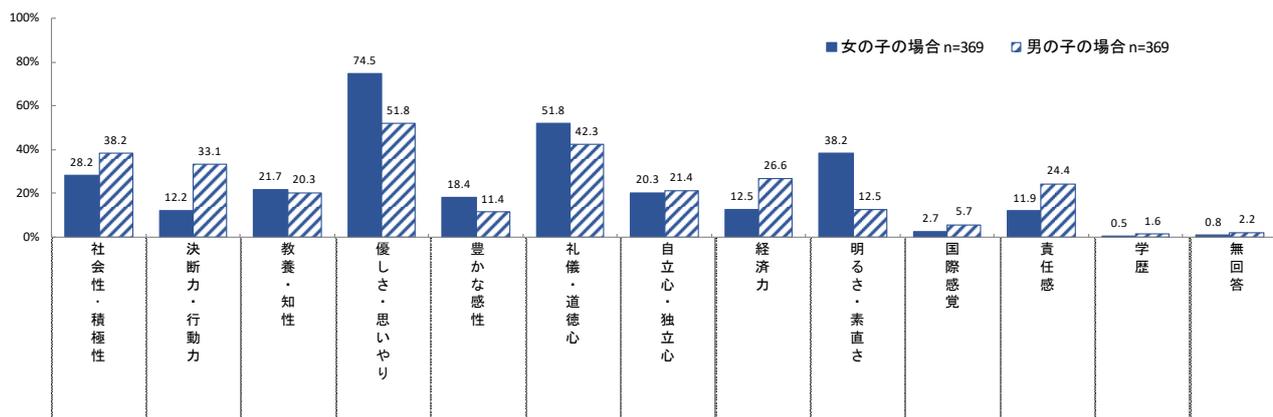
【男の子】



<問2の「E 男の子・女の子を意識した子育てをすべきである」で「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人のみの集計>

- 男の子・女の子を意識した子育てに反対している人の回答をみると、女の子に身につけてほしいことは「明るさ・素直さ」が 25.7%、「優しさ・思いやり」が 22.7%、「礼儀・道徳心」が 9.5%、男の子の場合に比べて高くなっています。一方、男の子に身につけてほしいことは「決断力・行動力」が 20.9%、「経済力」が 14.1%、「責任感」が 12.5%、「社会性・積極性」が 10.0%、女の子の場合に比べて高くなっています。

図表 16 問2Eで反対×子どもに身につけてほしいこと

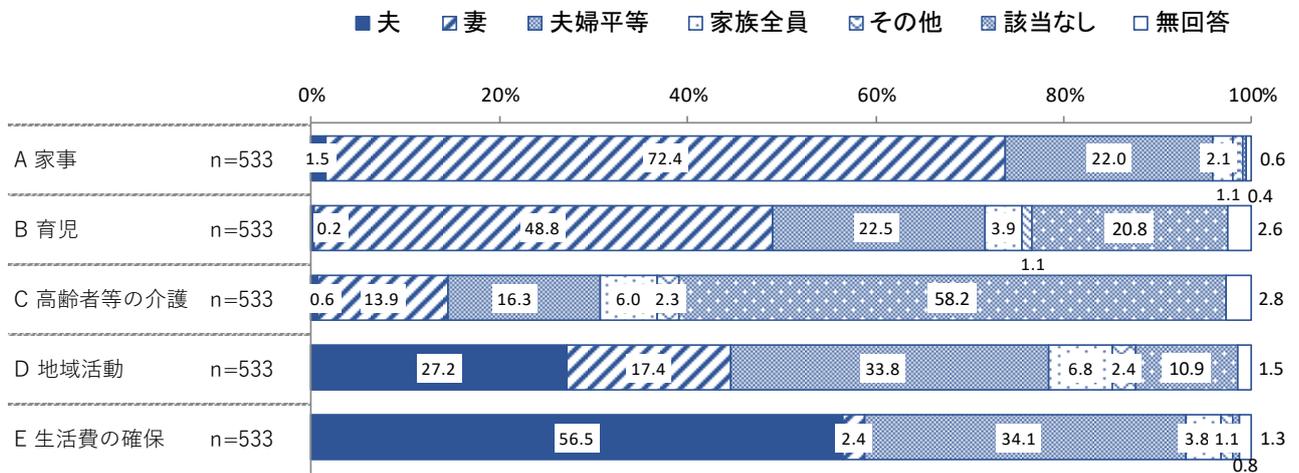


<配偶者がいる方(事実婚を含む)におたずねします>

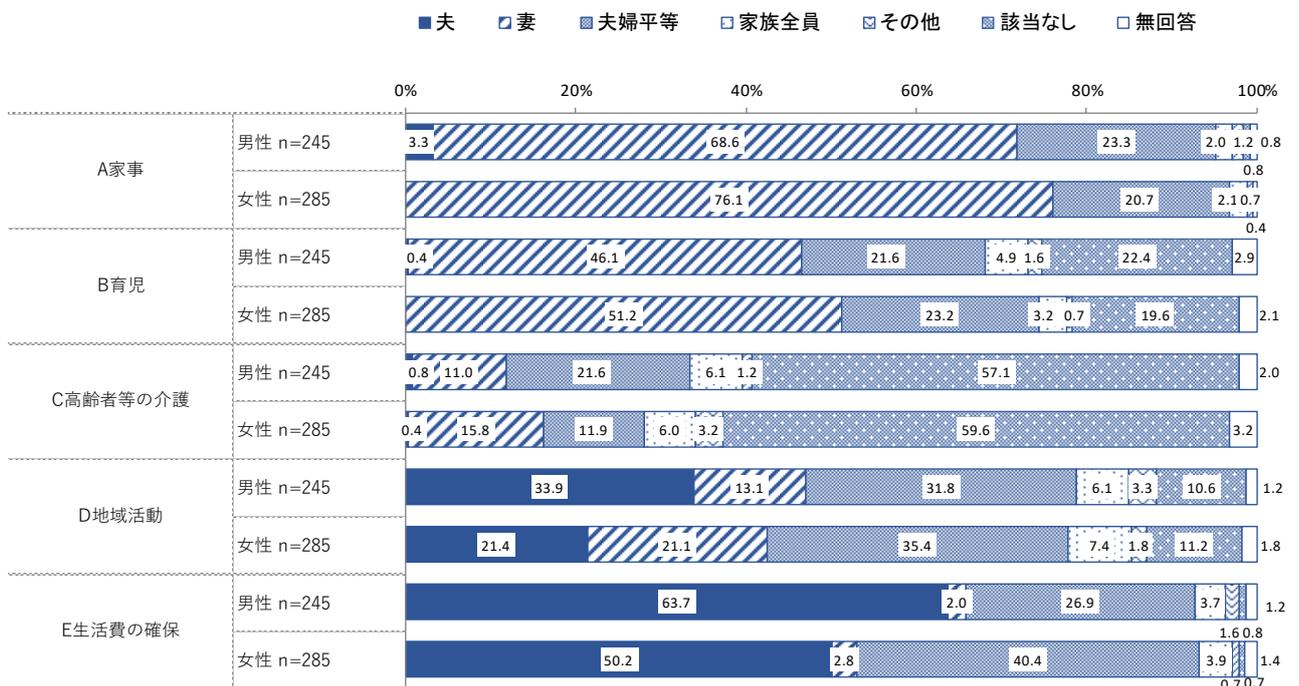
問 4 あなたの家庭では、次の A から E のことについて、主として誰が行っていますか。それぞれ該当する番号 (1~6) から選んでください (A~E でそれぞれ〇は1つ)

- 家庭の仕事の役割については、【A 家事】や【B 育児】では「妻」の占める割合が高くなっており、家事では7割強、育児では約5割を占めています。【D 地域活動】では「夫婦平等」が、「E 生活費の確保」は「夫」の占める割合が最も高くなっていきます。また、【C 高齢者の介護】は「該当なし」が約6割を占めており、「夫婦平等」が2割弱、「妻」が1割強となっています。
- 性別でみると、「男性」のほうが「女性」より大きく上回っている項目は、「夫」における【E 生活費の確保】で13.5ポイント、【D 地域活動】で12.5ポイントの差があります。
- “女性”のほうが“男性”より大きく上回っている項目は、「夫婦平等」における【E 生活費の確保】で13.5ポイントの差があります。

図表 17 家庭での役割

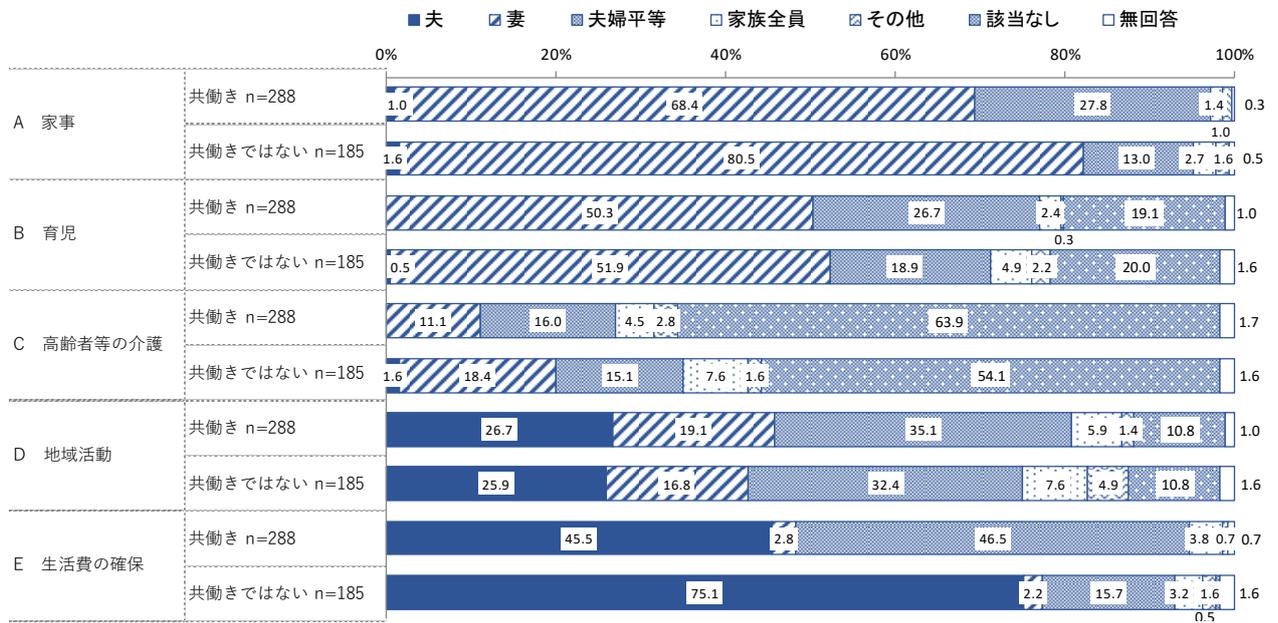


<性別>



➤ 共働きの状況別でみると、共働きか否かに関わらず、家事・育児の役割が「妻」に偏っていることがうかがえます。

<共働き状況別>



<配偶者がいる方(事実婚を含む)で、現在、職業に就いている方のみお答えください>

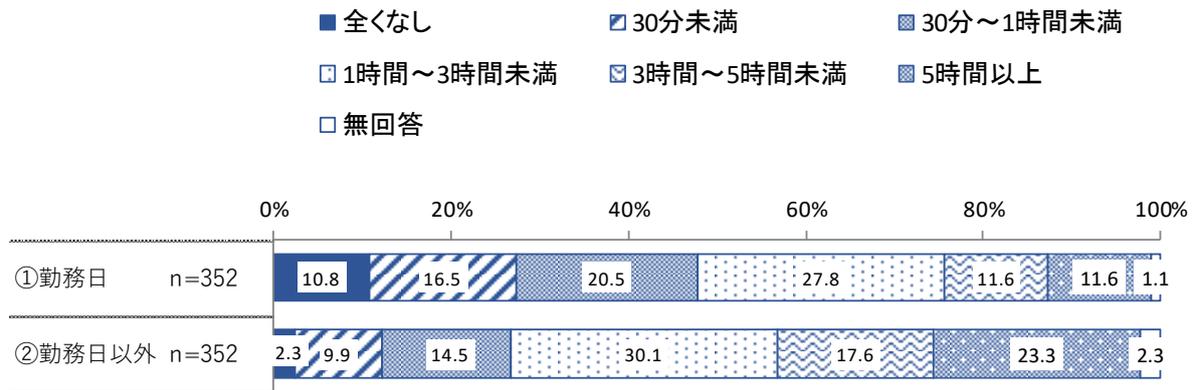
問5 あなたが家事・育児・介護に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。

<①勤務日>と<②勤務日以外>それぞれについて該当する番号(1~6)を選んでください。

(①②でそれぞれ〇は1つ)

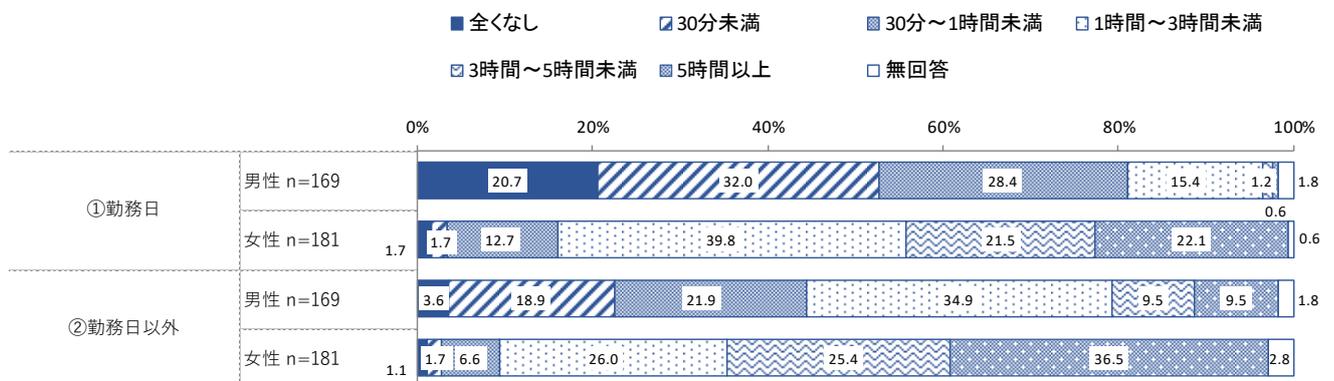
- 【①勤務日】に家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間は、「1時間~3時間未満」が27.8%と最も多く、次いで「30分~1時間未満」が20.5%、「30分未満」が16.5%となっています。
- 【②勤務日以外】に家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間は、「1時間~3時間未満」が30.1%と最も多く、次いで「5時間以上」が23.3%、「3時間~5時間未満」が17.6%となっています。

図表 18 1日の家事・育児・介護に携わる時間



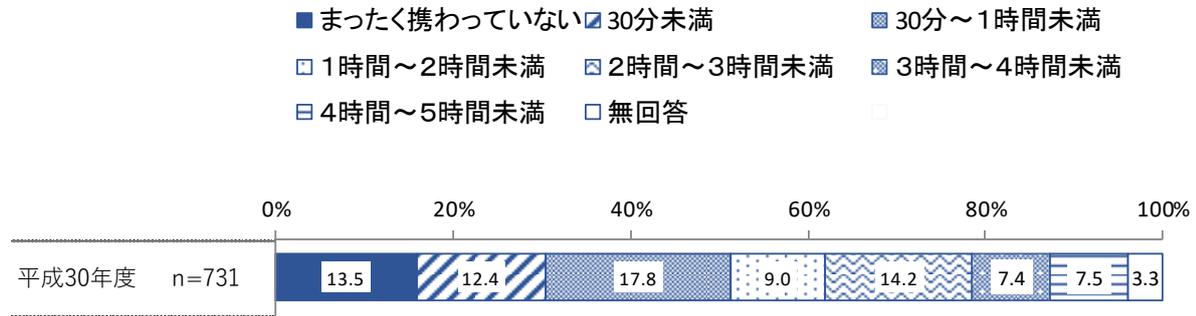
- 性別でみると、男性では【①勤務日】で「全くなし」「30分未満」を合わせて52.7%となっています。一方で、【②勤務日以外】では「全くなし」と「30分未満」は22.5%に減少し、「1時間~3時間未満」が15.4%から34.9%に、家事に携わる時間が増加しています。
- 女性では【①勤務日】で「1時間~3時間未満」が39.8%と最も多くなっているのに対し、【②勤務日以外】の日では「5時間以上」が36.5%と最も多くなっています。

【性別】



【経年比較】 <参考>

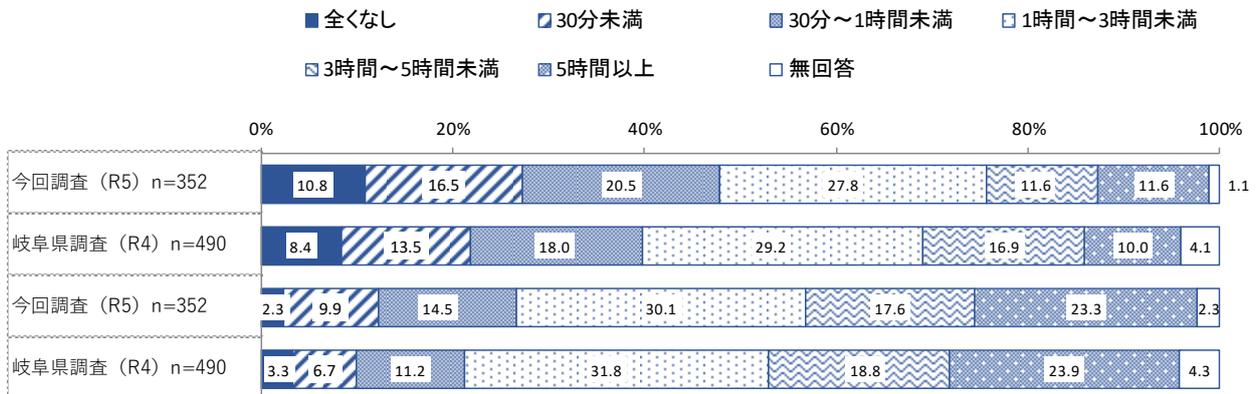
問 あなたは、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間はどのくらいですか。



※前回調査（平成30年度）と質問や選択肢が異なるため、参考値として記載

- 県の調査と比較すると、【①勤務日】では「全くなし」「30分未満」では県を5.4ポイント上回っています。また、「3時間～5時間未満」では5.3ポイント下回っています。
- 【②勤務日以外】では特に大きな違いはみられません。

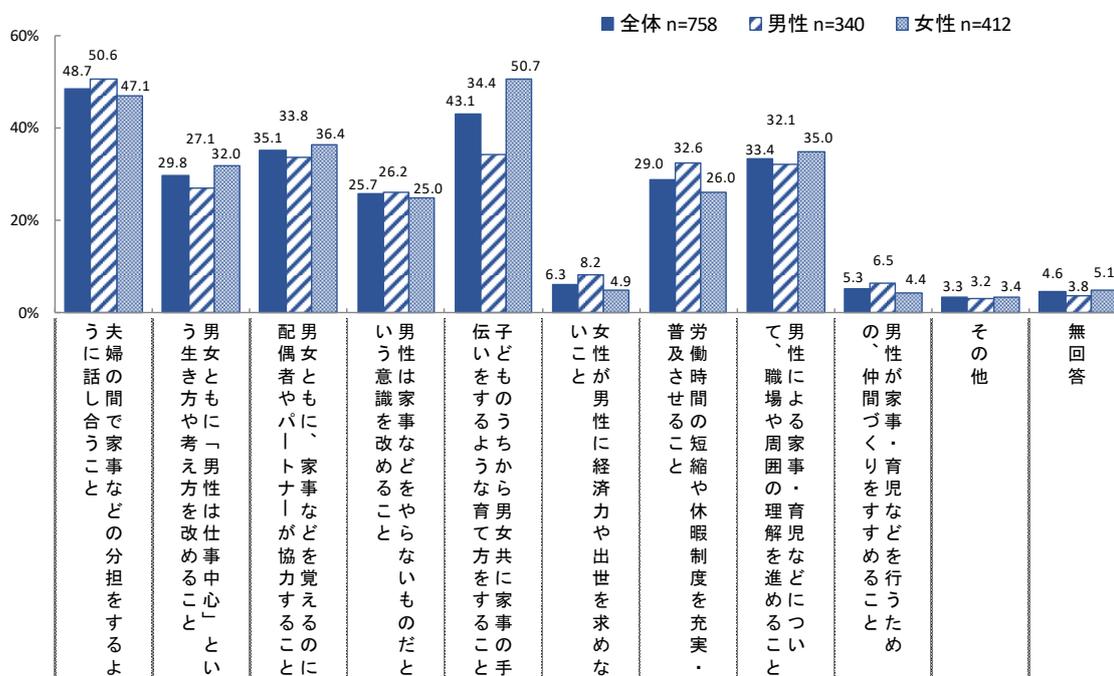
【岐阜県との比較】



問6 あなたは男性が、家事、子育て、介護、地域の活動などに積極的に参加していくためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

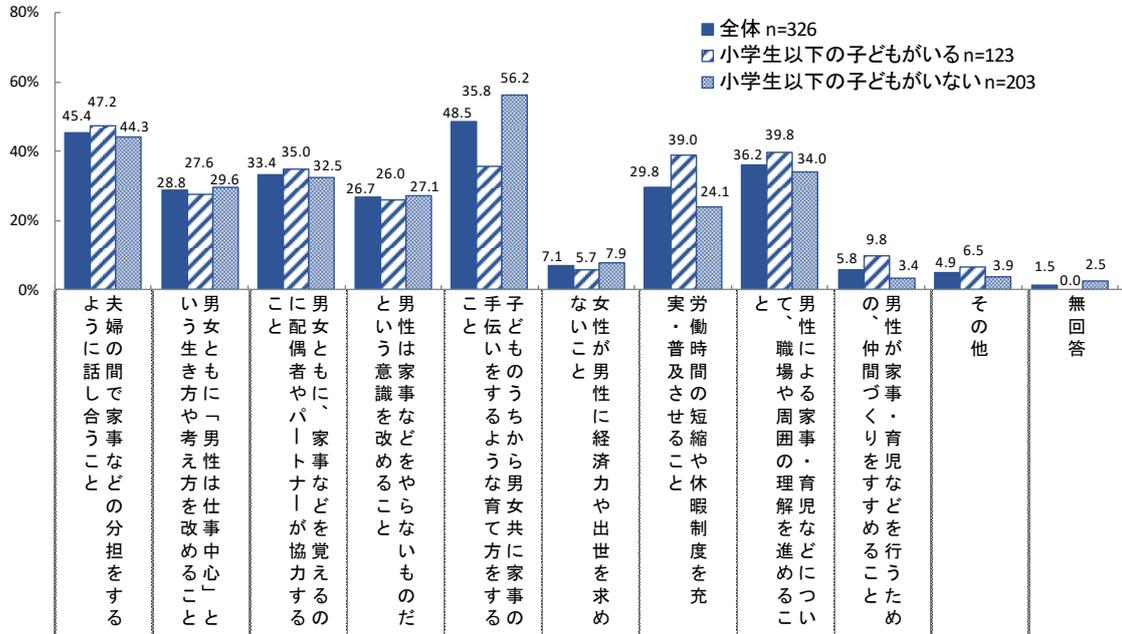
- ▶ 男性が家事、子育て、介護、地域の活動などに積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦の間で家事などの分担をするように話し合うこと」が48.7%と最も多く、次いで「子どものうちから男女共に家事の手伝いをするような育て方をすること」が43.1%、「男女ともに、家事などを覚えるのに配偶者やパートナーが協力すること」が35.1%、「男性による家事・育児などについて、職場や周囲の理解を進めること」が33.4%となっています。
- ▶ 性別でみると、男性では「夫婦の間で家事などの分担をするように話し合うこと」、女性では「子どものうちから男女共に家事の手伝いをするような育て方をすること」が最も高くなっています。また、「子どものうちから男女共に家事の手伝いをするような育て方をすること」は16.3ポイント、女性が男性を上回っています。

図表 19 男性が、家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと



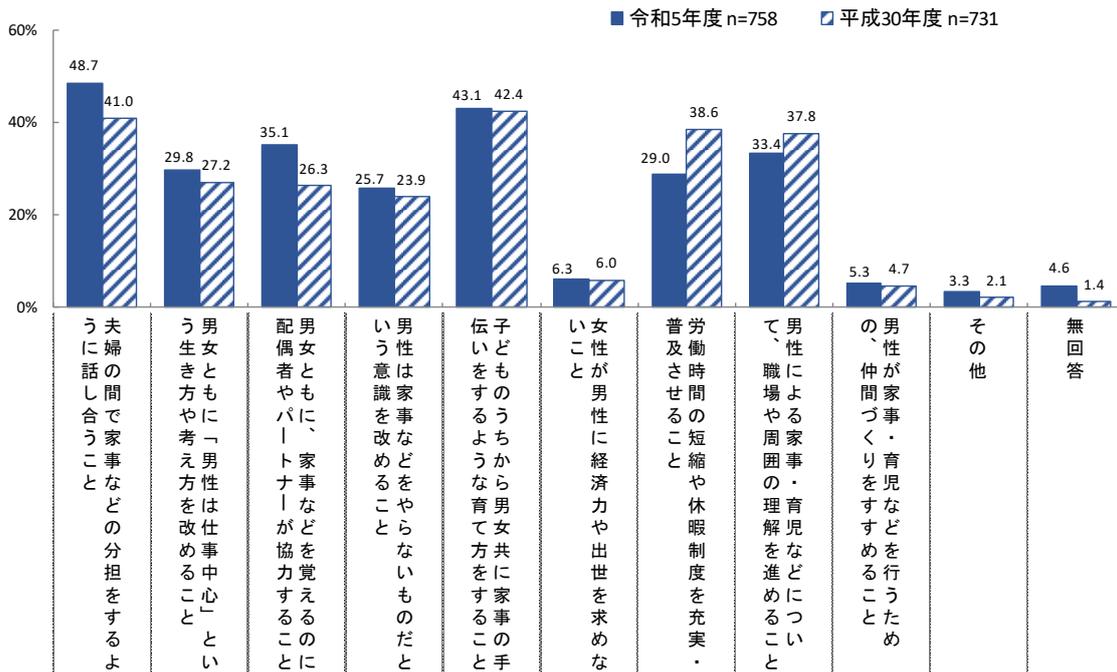
- 小学生以下の子どもの有無別でみると、「労働時間の短縮や休暇制度を充実・普及させること」は、小学生以下の子どもがいる保護者からのニーズが高くなっています。

<小学生以下の子どもの有無別>



- 前回調査と比較すると、「労働時間の短縮や休暇制度を充実・普及させること」は 9.6 ポイント減少したのに対し、「男女ともに、家事などを覚えるのに配偶者やパートナーが協力すること」「夫婦の間に家事などの分担をしように話し合うこと」は、それぞれ 8.8 ポイント、7.7 ポイント増加しています。

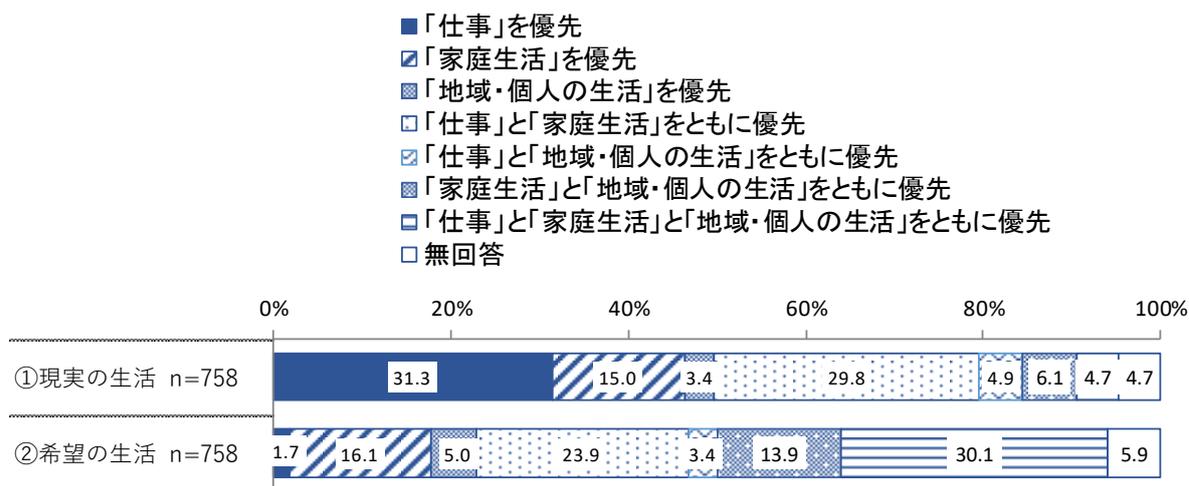
<経年比較>



問7 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度についてお伺いします。＜①現実の生活＞＜②希望の生活＞それぞれにおいて、どれが最も近いですか。（①②でそれぞれ〇は1つ）

- 【①現実の生活】は、「仕事」を優先している」が31.3%と最も多く、次いで、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が29.8%、「家庭生活」を優先している」が15.0%となっています。
- 【②希望の生活】は、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が30.1%と最も多く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が23.9%、「家庭生活」を優先したい」が16.1%となっています。
- 現実と希望については、「仕事」を優先したい」が希望で1.7%となっているのに対し、現実では「仕事」を優先している」が31.3%となっており、現実には希望と違って仕事を優先している状況がうかがえます。
- 希望の第1位にあげられている「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」人は30.1%となっているのに対し、現実にてできている人は4.7%となっており、ここでも希望と現実の間に大きなギャップがみられます。

図表 20 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現実と優先度

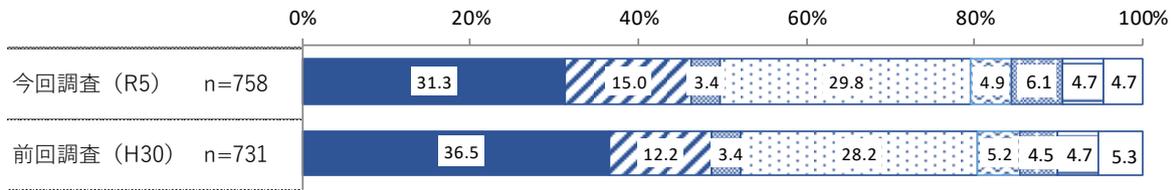


- 【①現実の生活】については、「仕事」を優先しているが 36.5%から 31.3%に 5.2 ポイント減少しています。
- 【②希望の生活】については、特に大きな変化はみられません。

<経年比較>

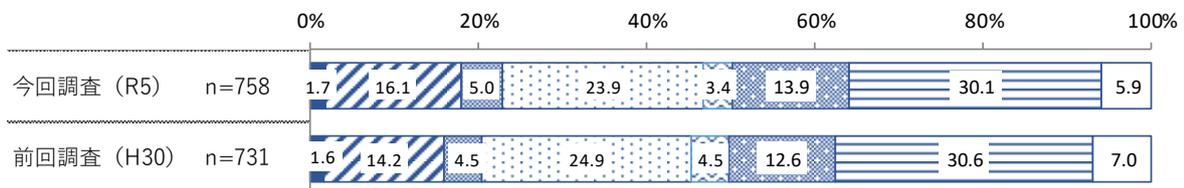
【現実の生活】

- 「仕事」を優先
- ▣ 「家庭生活」を優先
- ▤ 「地域・個人の生活」を優先
- ▥ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▦ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▧ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 無回答



【希望の生活】

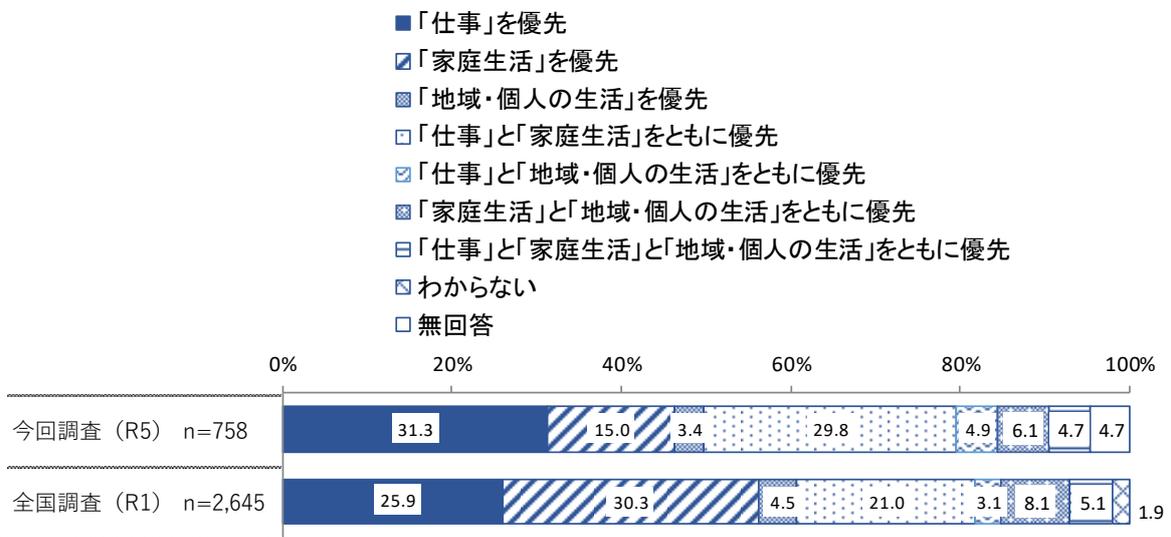
- 「仕事」を優先
- ▣ 「家庭生活」を優先
- ▤ 「地域・個人の生活」を優先
- ▥ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▦ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▧ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 無回答



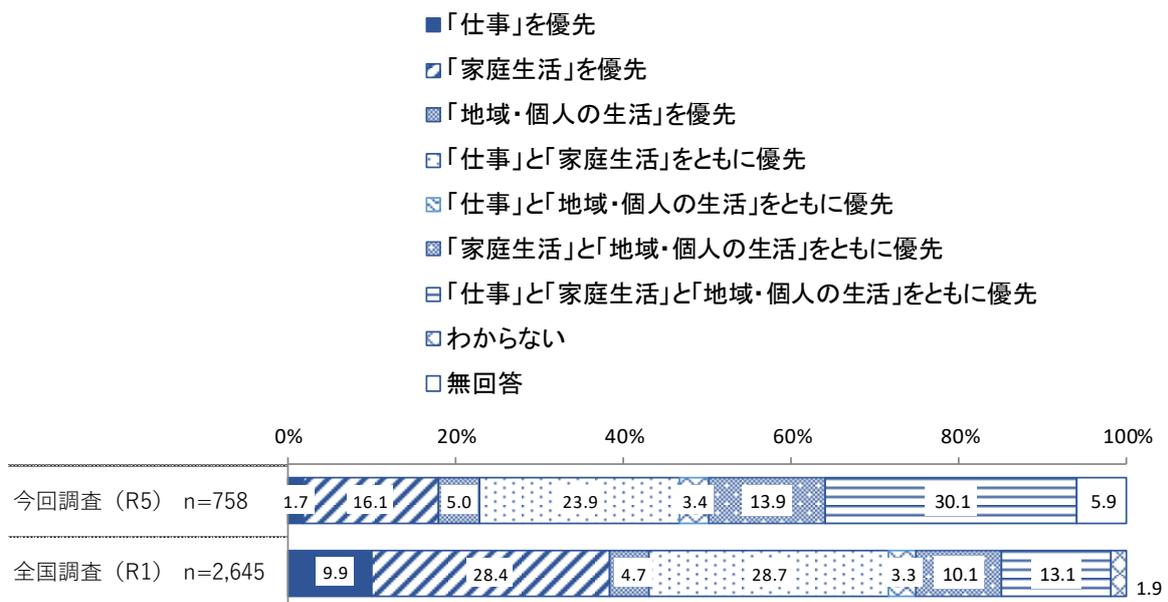
- 【①現実の生活】で「家庭生活」を優先している」と回答した人は、全国に比べて 15.3 ポイント低く、「仕事」を優先している」と回答した人は全国に比べて 5.4 ポイント高くなっています。また、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と回答した人は全国に比べて 8.8 ポイント高くなっています。
- 【②希望の生活】で「仕事」を優先したい」「家庭生活」を優先したい」と回答した人は、全国に比べてそれぞれ 8.2 ポイント、12.3 ポイント低くなっているのに対し、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と回答した人は 17.0 ポイント高くなっています。

<国との比較>

【現実の生活】



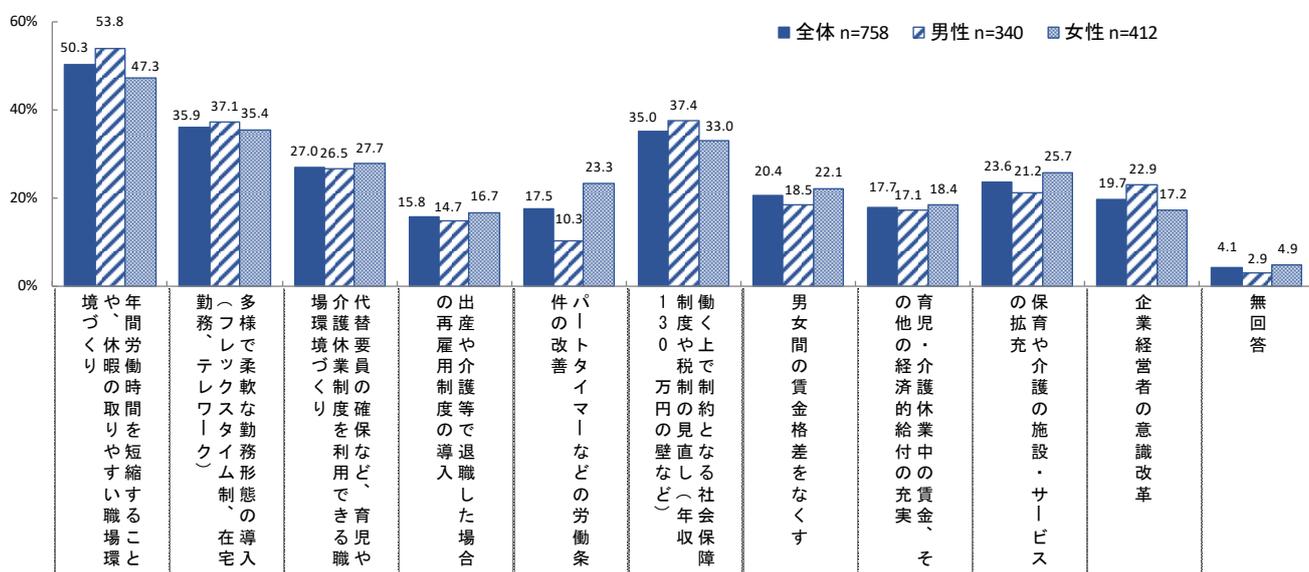
【希望の生活】



問 8 それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭の両立」をするためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

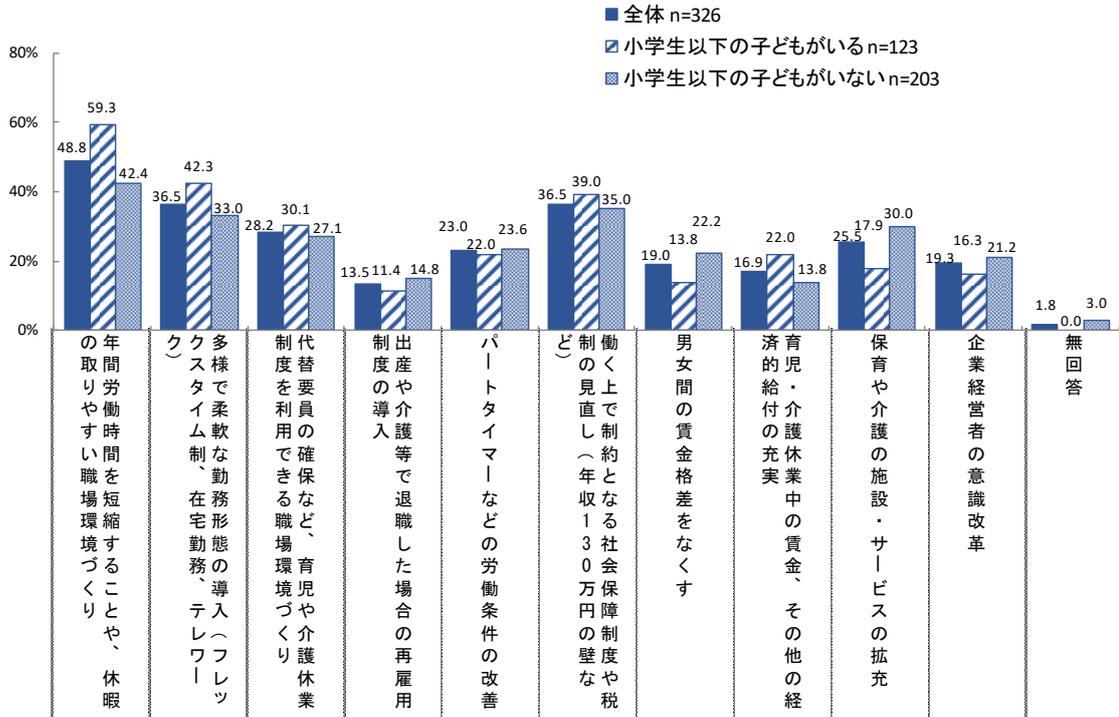
- ▶ 男女が共に「仕事と家庭の両立」をするために必要な条件の整備については、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」が 50.3%と最も多く、次いで「多様で柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務、テレワーク）」が 35.9%、「働く上で制約となる社会保障制度や税制の見直し（年収 130 万円の壁など）」が 35.0%、「代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用できる職場環境づくり」が 27.0%、「保育や介護の施設・サービスの拡充」が 23.6%となっています。
- ▶ 性別でみると、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」が男女ともに最も高くなっています。また、「パートタイマーなどの労働条件の改善」は 13.0 ポイント、女性が男性を上回っています。

図表 21 「仕事と家庭の両立」をするために必要な条件整備



- 小学生以下の子どもの有無別でみると、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」「多様な柔軟な勤務形態の導入(フレックスタイム制、在宅勤務、テレワーク)」などは、小学生以下の子どもがいる保護者からのニーズが高くなっています。

<小学生以下の子どもの有無別>



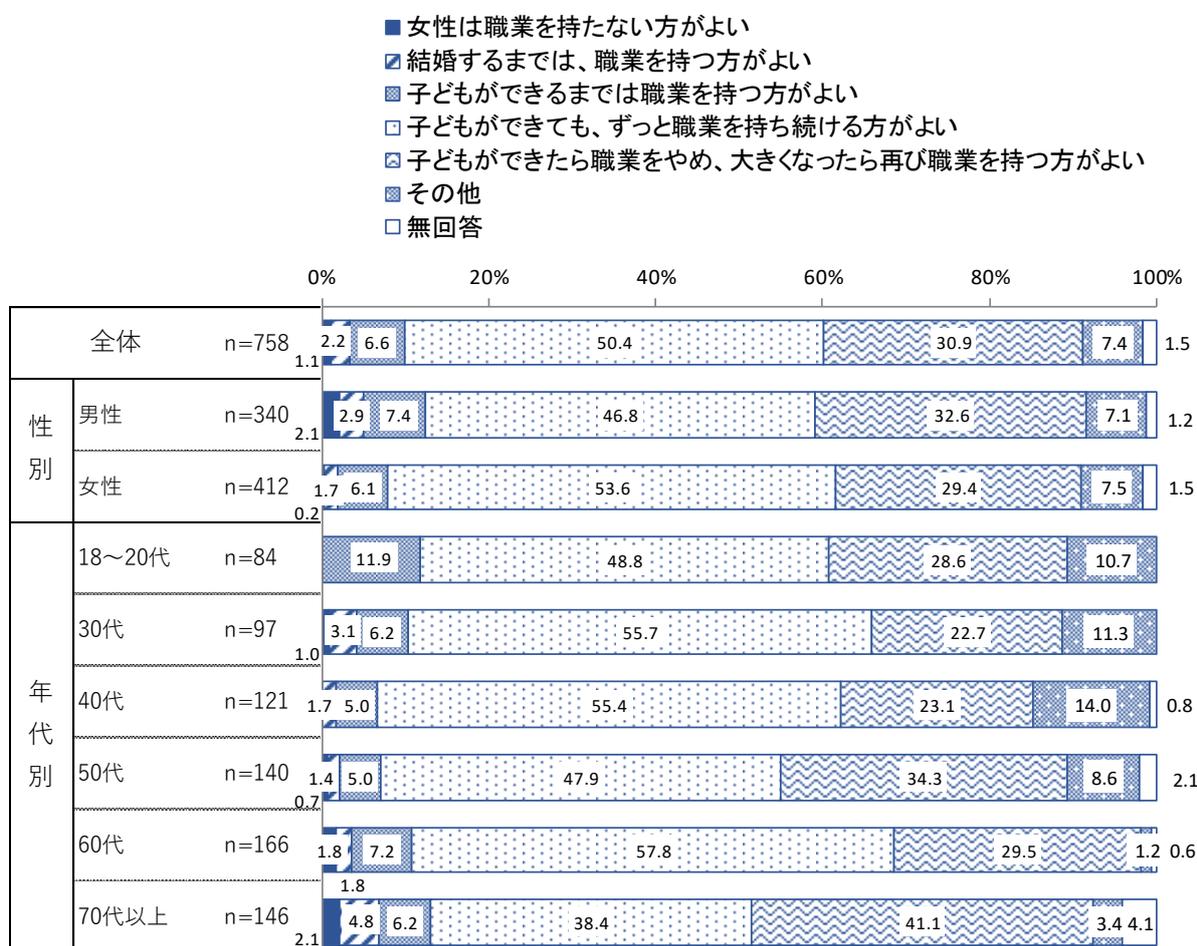
3 就労・働き方について

問9 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

- 一般的に女性が職業を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が50.4%と最も多く、次いで、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が30.9%となっています。
- 性別で見ると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が男女ともに最も高くなっています。
- 年代別で見ると、60代以下では「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高くなっています。また、70代以上では「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっています。

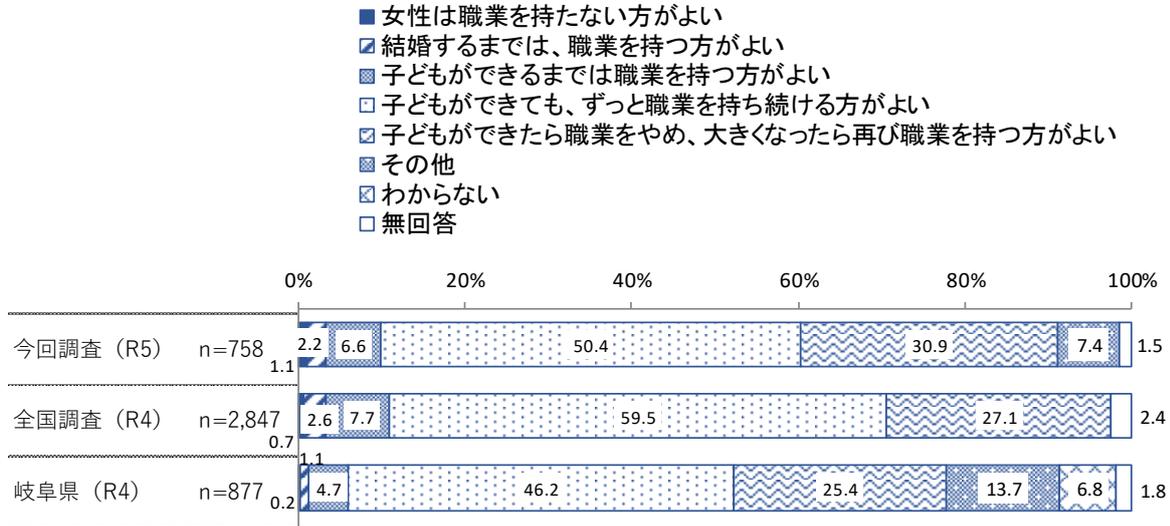
図表 22 女性が職業を持つことについて

【全体・性別・年代別】



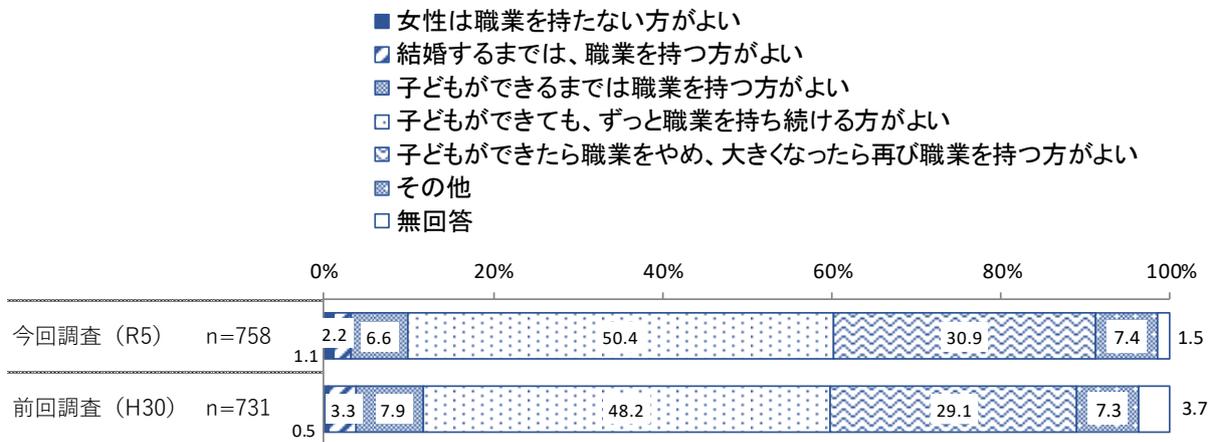
- 全国や県の調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人は、全国を9.1ポイント下回っているのに対し、県を4.2ポイント上回っています。

【国、岐阜県との比較】



- 前回調査と比較してみると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が5割前後を占めており、特に大きな変化はみられません。

<経年比較>



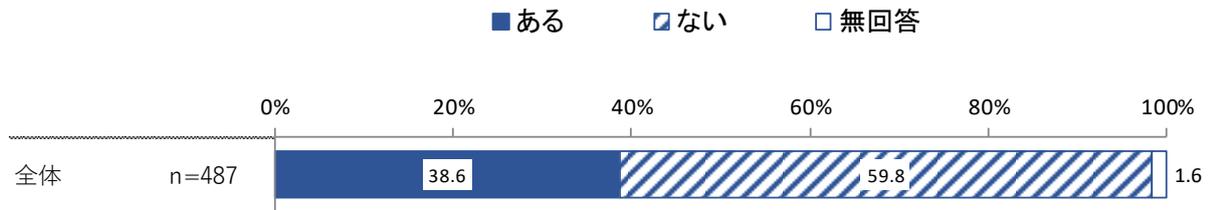
<現在、働いている方にうかがいます>

問 10 あなたの職場では、慣行や待遇、仕事の内容などで性別による差があると思いますか。

(○は1つだけ)

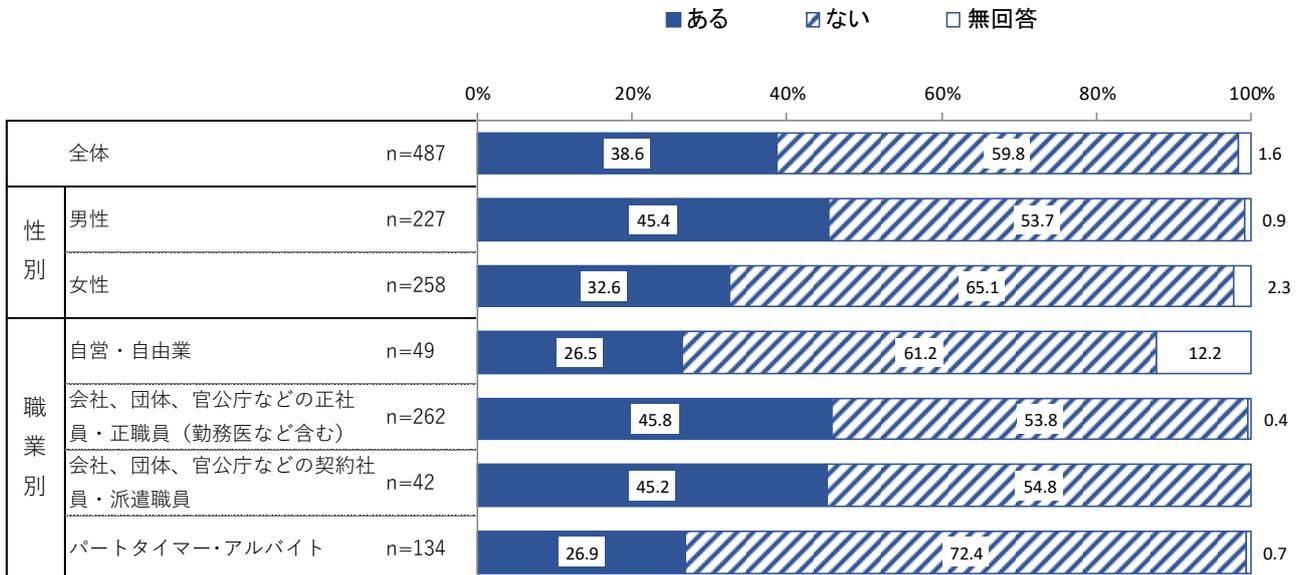
- 職場での慣行や待遇、仕事内容などによる性別の差の有無については、「ある」が 38.6%、「ない」が 59.8%となっています。

図表 23 職場における性別による差について



- 性別で見ると、「ある」と回答した人は男性では 45.4%、女性では 32.6%となっており、男性が女性を 12.8 ポイント上回っています。
- 職業別で見ると、「ある」と回答した人は、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員（勤務医など含む）」や「会社、団体、官公庁などの契約社員・派遣職員」などで4割を超えています。

<性別・職業別>

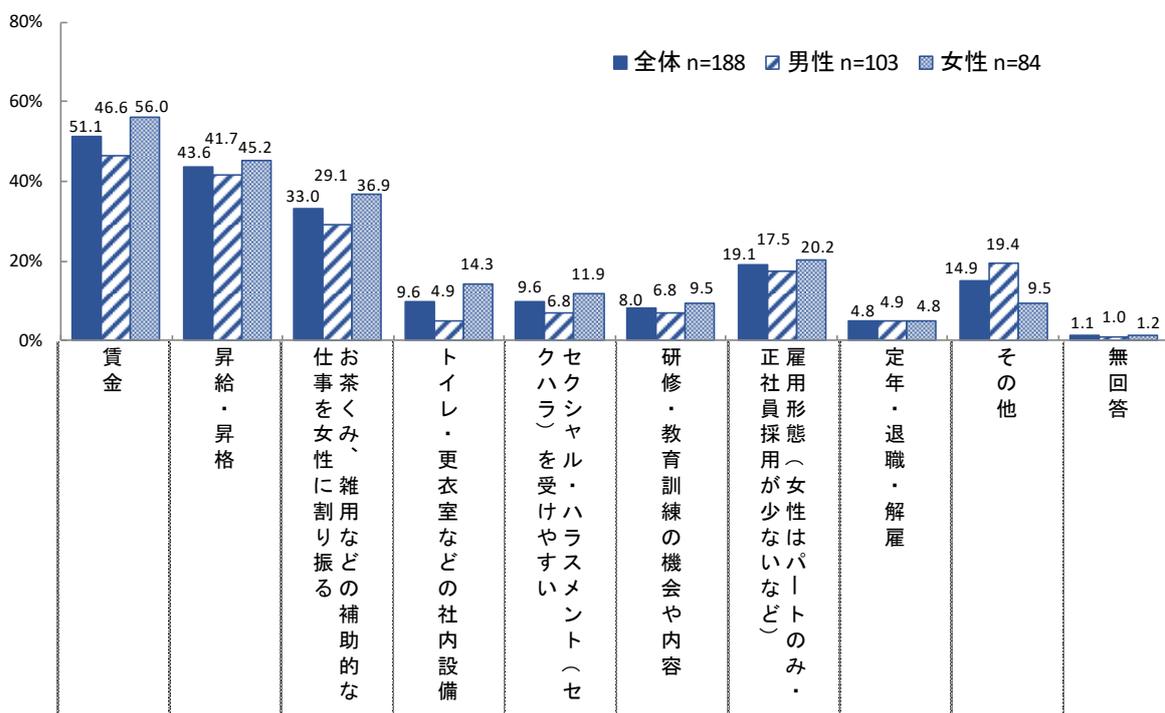


<問 10で「1. ある」と回答した方にかがいます>

問 11 どういう面で差があると思いますか。(〇はいくつでも)

- 職場での差がある面については、「賃金」が 51.1%と最も多く、次いで「昇給・昇格」が 43.6%、「お茶くみ、雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」が 33.0%、「雇用形態(女性はパートのみ・正社員採用が少ないなど)」が 19.1%となっています。
- 性別でみると、男女とも「賃金」「昇給・昇格」が上位2項目としてあげられています。また、全体的に男性に比べ女性の方が高い割合を示す項目が多くなっており、特に「賃金」「お茶くみ、雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」などは、男女差が大きい項目となっています。

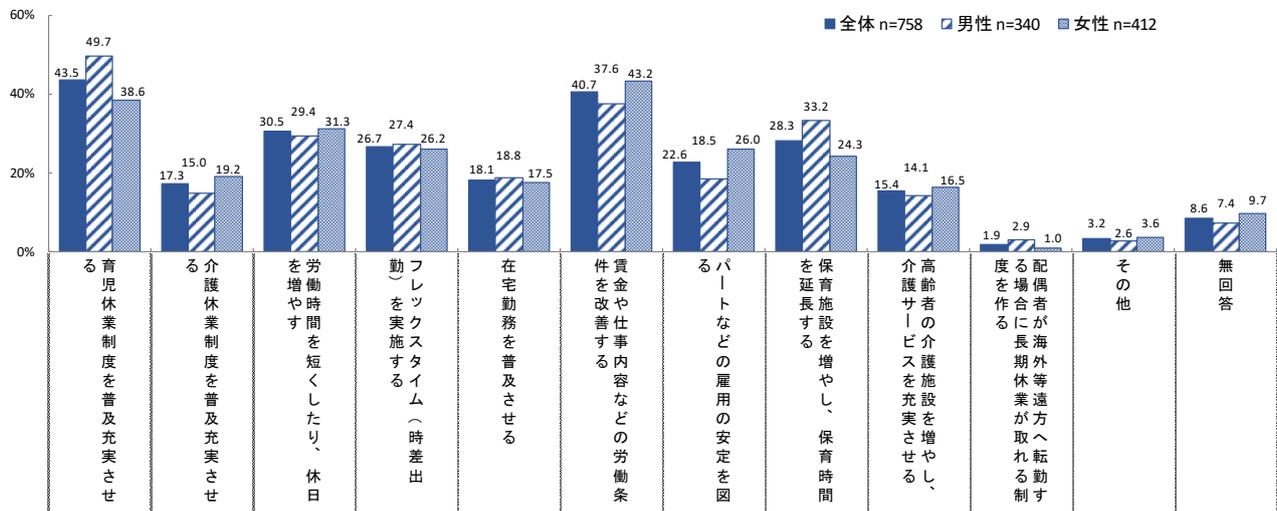
図表 24 性別による差の内容



問 12 女性の職業活動や再就職をしやすいようにするために整備すべきと考えられるものを選んで下さい。(〇は3つまで)

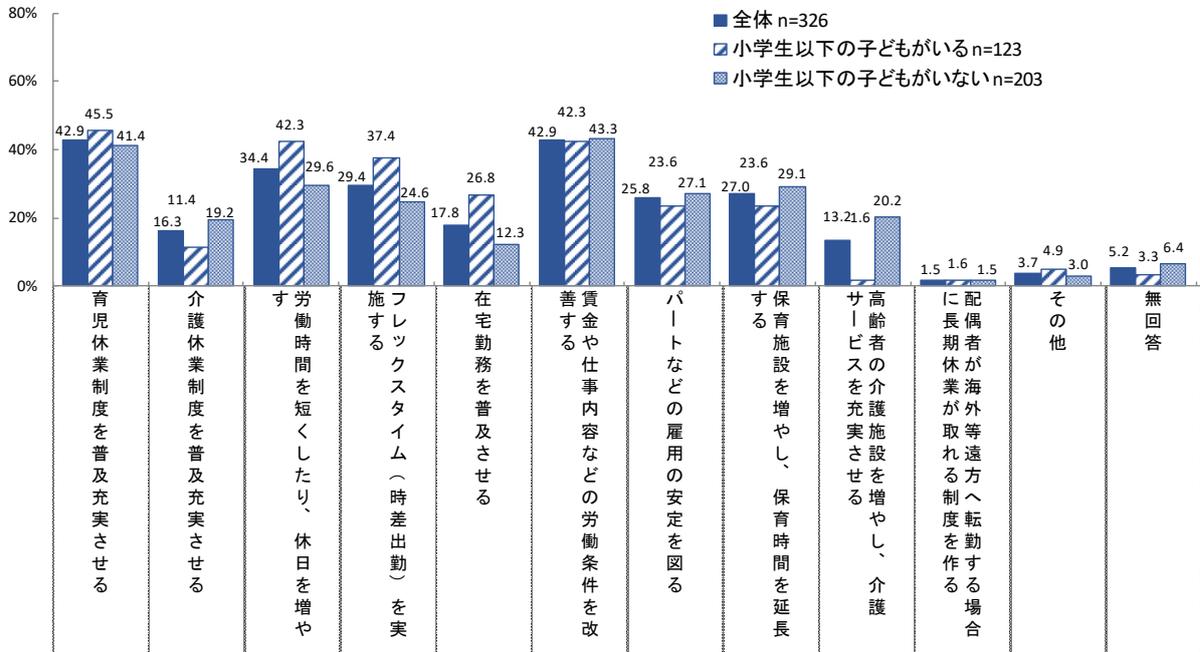
- 女性の職業活動や再就職をしやすいようにするために整備すべきと考えられるものについては、「育児休業制度を普及充実させる」が 43.5%と最も多く、次いで「賃金や仕事内容などの労働条件を改善する」が 40.7%、「労働時間を短くしたり、休日を増やす」が 30.5%、「保育施設を増やし、保育時間を延長する」が 28.3%となっています。
- 性別で見ると、男性では「育児休業制度を普及充実させる」、女性では「賃金や仕事内容などの労働条件を改善する」が最も高くなっています。また、「育児休業制度を普及充実させる」「保育施設を増やし、保育時間を延長する」で女性に比べ男性の割合が高くなっているのに対し、「パートなどの雇用の安定を図る」などでは、女性が男性を上回っています。

図表 25 女性の職業活動や再就職をしやすいようにするために整備すべきこと



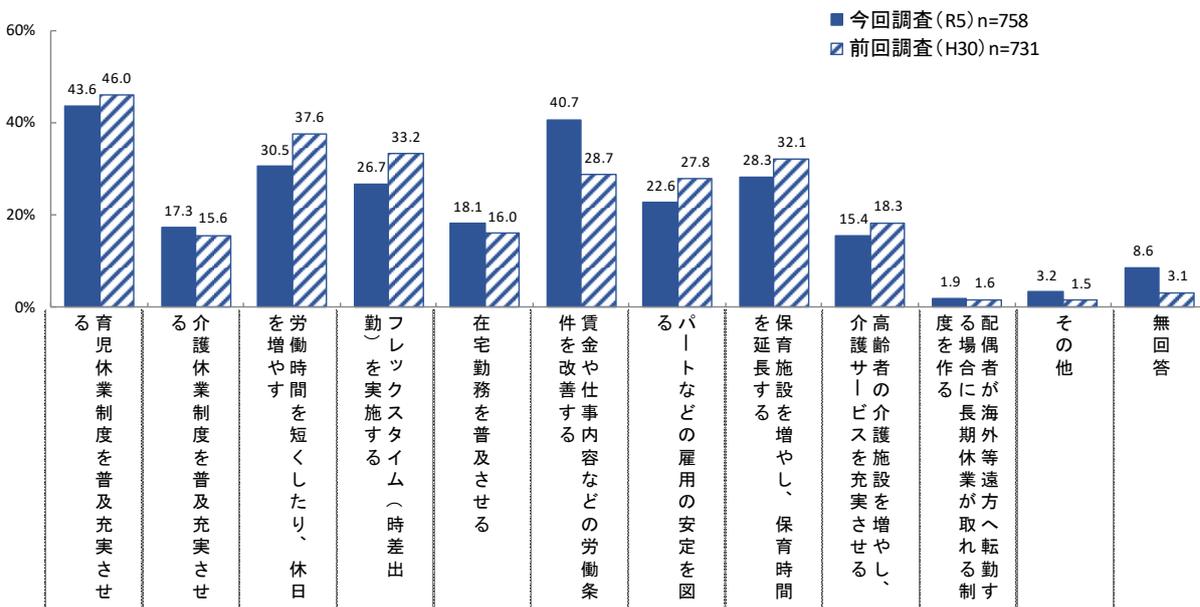
- 小学生以下の子どもの有無別でみると、「労働時間を短くしたり、休日を増やす」「フレックスタイム(時差出勤)を実施する」「在宅勤務を普及させる」などは、小学生以下の子どもがいる保護者からのニーズが高くなっています。

<小学生以下の子どもの有無別>



- 前回調査と比較すると、「賃金や仕事内容などの労働条件を改善する」は 12.0 ポイント増加したのに対し、「労働時間を短くしたり、休日を増やす」「フレックスタイム(時差出勤)を実施する」は、それぞれ 7.1 ポイント、6.5 ポイント減少しています。

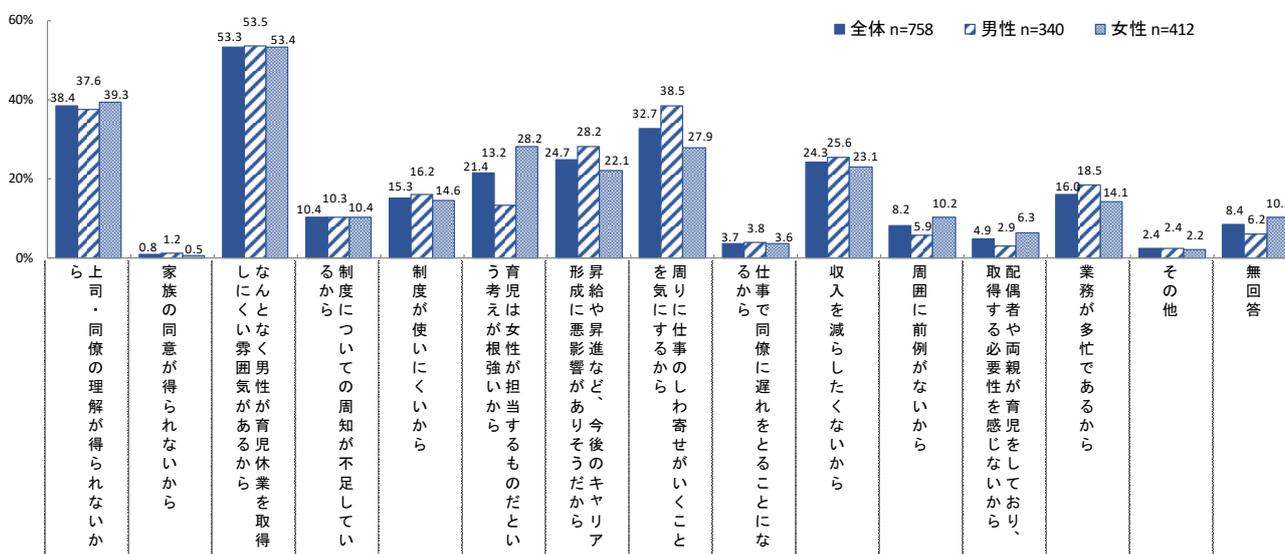
<経年比較>



問 13 男性の育児休業取得者が少ない理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)

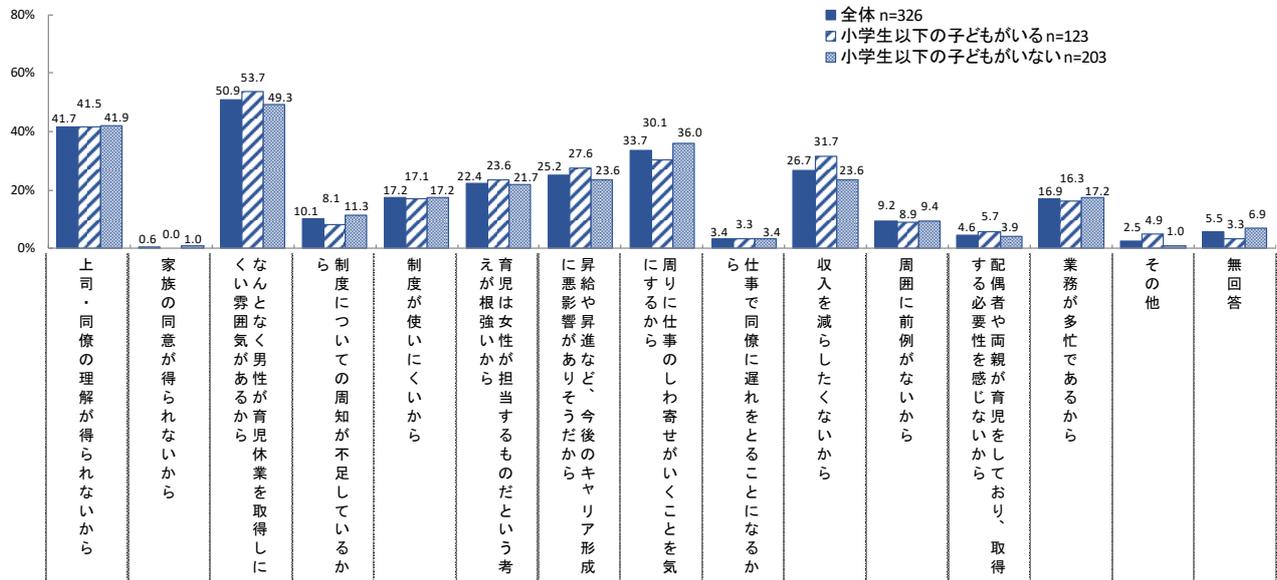
- ▶ 男性の育児休業取得者が少ない理由については、「なんとなく男性が育児休業を取得しにくい雰囲気があるから」が 53.3%と最も多く、次いで「上司・同僚の理解が得られないから」が 38.4%、「周りに仕事のしわ寄せがいくことを気にするから」が 32.7%、「昇給や昇進など、今後のキャリア形成に悪影響がありそうだから」が 24.7%、「収入を減らしたくないから」が 24.3%となっています。
- ▶ 性別でみると、「なんとなく男性が育児休業を取得しにくい雰囲気があるから」が男女ともに最も高くなっています。また、「周りに仕事のしわ寄せがいくことを気にするから」は女性に比べ男性の割合が高くなっているのに対し、「育児は女性が担当するものだという考えが根強いから」では、女性が男性を上回っています。

図表 26 男性の育児休業取得者が少ない理由



▶ 小学生以下の子どもの有無別でみると、「収入を減らしたくないから」は、小学生以下の子どもがいる保護者からのニーズが高くなっています。

<小学生以下の子どもの有無別>

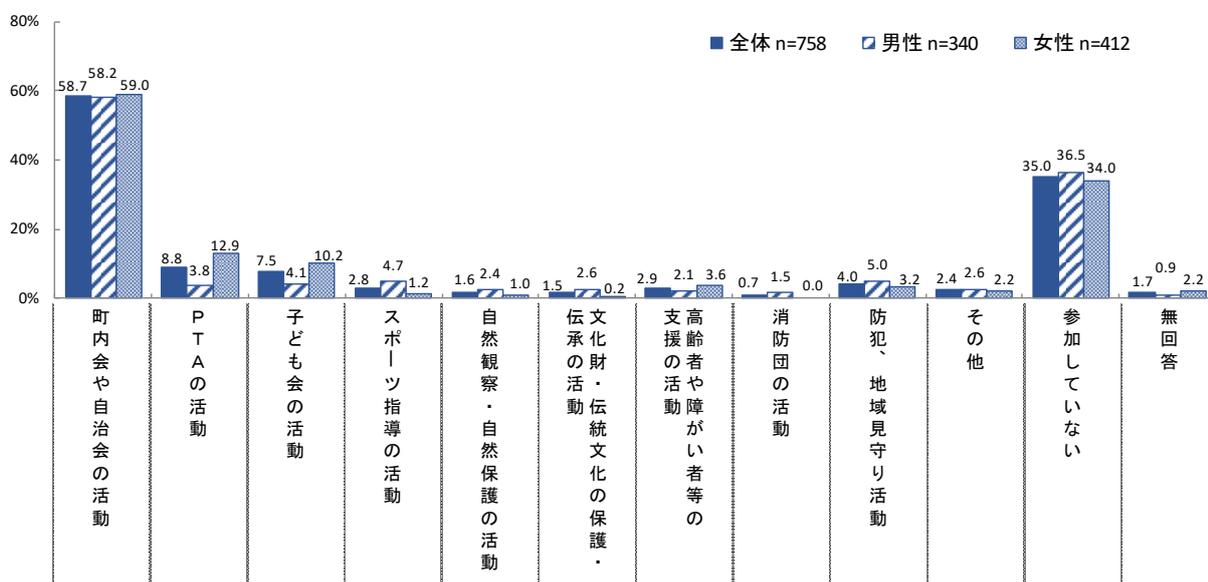


4 地域生活について

問 14 次の地域社会活動のうち、あなたが参加している活動は何ですか。(〇はいくつでも)

- ▶ 参加している地域活動については、「町内会や自治会の活動」が 58.7%と最も多く、次いで、「PTAの活動」が 8.8%、「子ども会の活動」が 7.5%となっています。一方、「参加していない」人は 35.0%となっています。
- ▶ 性別でみると、「町内会や自治会の活動」が男女ともに最も高くなっています。女性は「PTA の活動」「子ども会の活動」などで男性より高くなっています。
- ▶ 年代別でみると、「参加していない」は 18～20 代や 30 代で高くなっています。

図表 27 参加している地域活動



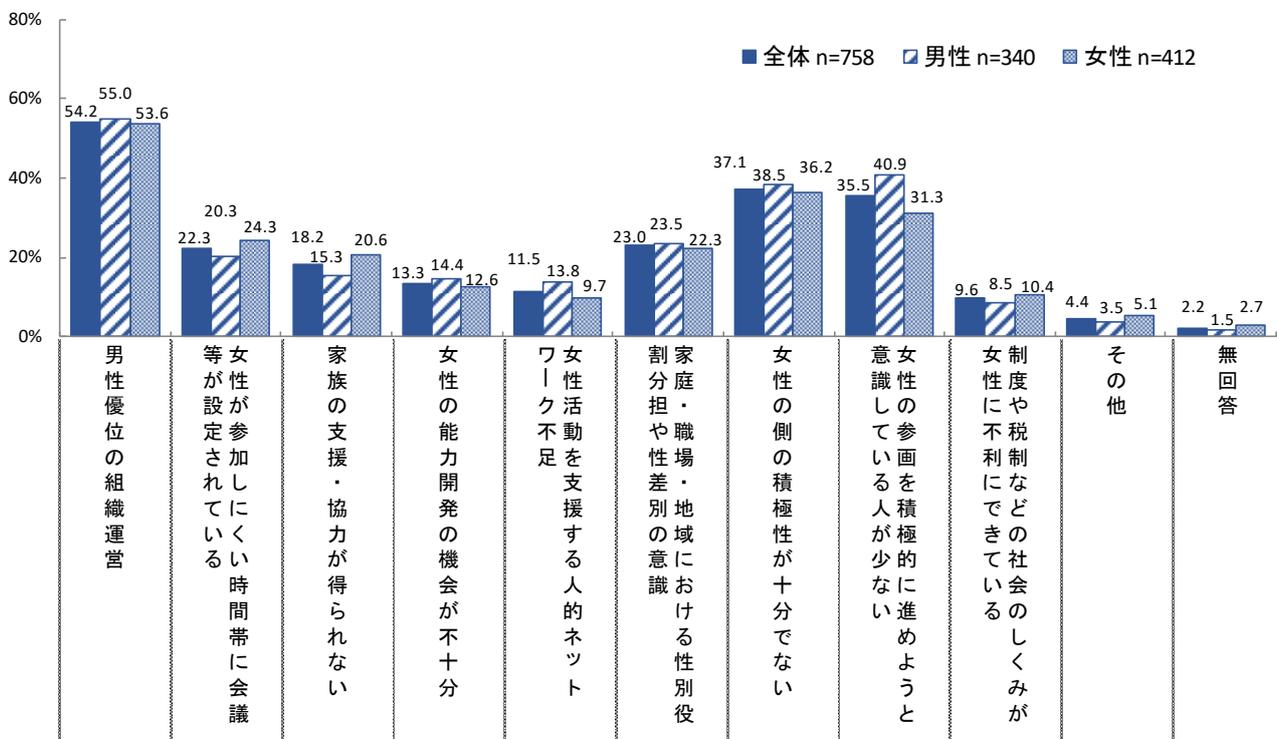
<年代別>

	全 体	町内会や自治会の活動	P T A の活動	子ども会の活動	スポーツ指導の活動	自然観察・自然保護の活動	文化財・伝統文化の保護・伝承の活動	高齢者や障がい者等の支援の活動	消防団の活動	防犯、地域見守り活動	その他	参加していない	無回答
全 体	758	58.7	8.8	7.5	2.8	1.6	1.5	2.9	0.7	4.0	2.4	35.0	1.7
年 齢	18～20代	84	17.9	1.2	1.2	0.0	1.2	1.2	1.2	0.0	1.2	78.6	0.0
	30代	97	48.5	15.5	17.5	4.1	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	42.3	0.0
	40代	121	62.8	27.3	19.0	4.1	0.8	0.0	1.7	2.5	4.1	28.9	0.0
	50代	140	72.1	10.0	4.3	5.7	1.4	0.0	4.3	0.0	1.4	24.3	0.7
	60代	166	69.9	1.2	2.4	1.2	2.4	1.2	4.2	0.6	3.6	28.9	0.0
	70代以上	146	59.6	0.7	3.4	1.4	2.7	4.1	4.1	0.0	9.6	6.2	27.4

問 15 女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ、女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。(〇は3つまで)

- 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」が 54.2%と最も多く、次いで、「女性の側の積極性が十分でない」が 37.1%、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」が 35.5%、「家庭・職場・地域における性別役割分担や性差別の意識」が 23.0%、「女性が参加しにくい時間帯に会議等が設定されている」が 22.3%となっています。
- 性別で見ると、「男性優位の組織運営」が男女ともに最も高くなっています。また、女性では「家族の支援・協力が得られない」が 20.6%と、男性より 5.3 ポイント高くなっています。一方で、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」では、男性が女性を 9.6 ポイント上回っています。

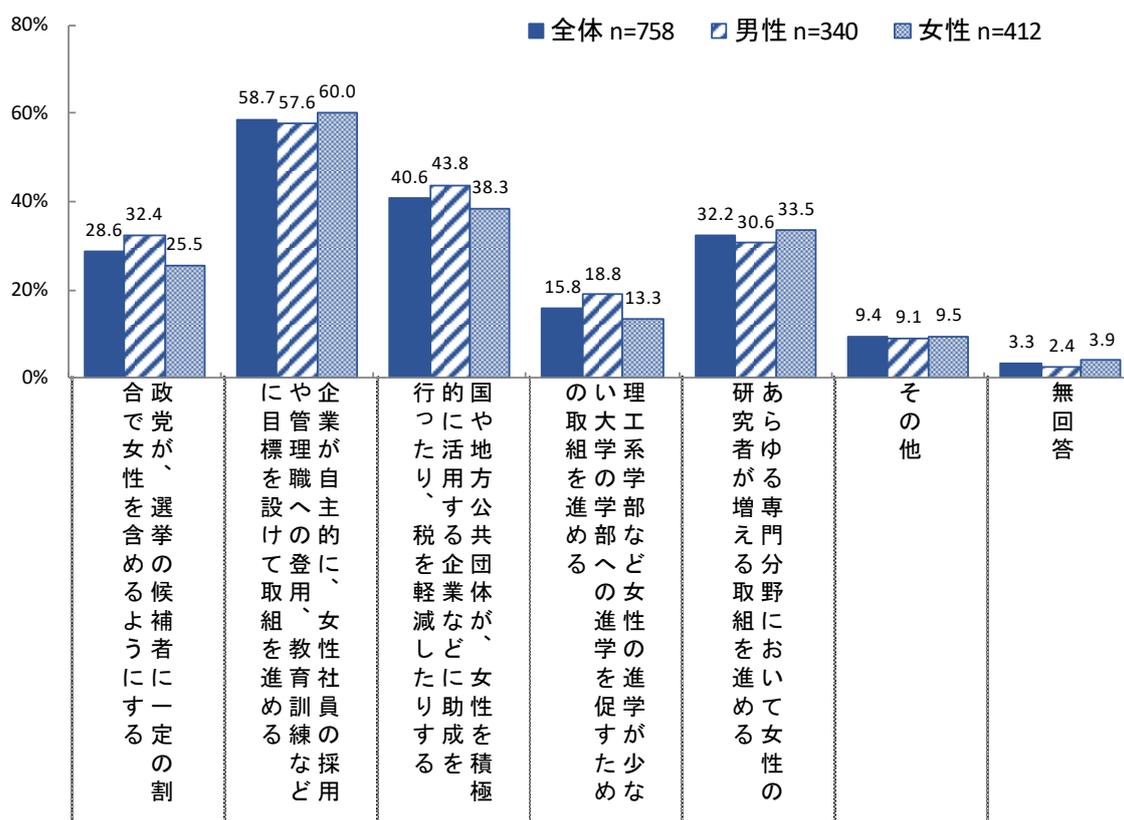
図表 28 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由



問 16 女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- ▶ 女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくために必要なことについては、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」が58.7%と最も多く、次いで、「国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする」が40.6%、「あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める」が32.2%となっています。
- ▶ 性別でみると、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める」が男女ともに最も高くなっています。また、「政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」「国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする」「理工系学部など女性の進学が少ない大学の学部への進学を促すための取組を進める」などでは、男性が女性を5.0ポイント以上上回っています。

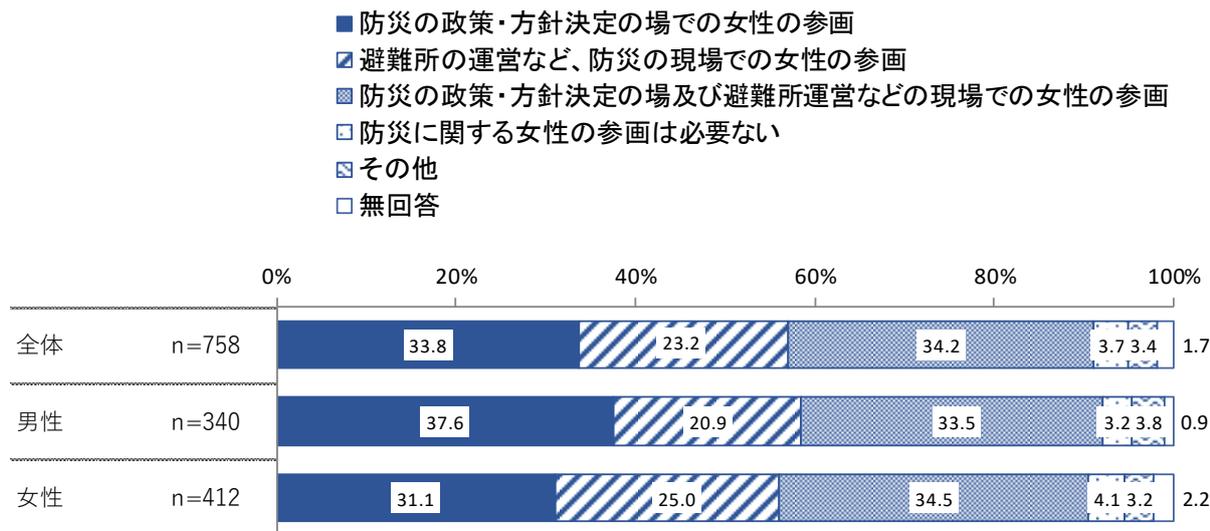
図表 29 女性の進出を進めていくために必要なこと



問 17 防災における男女共同参画を進めるため、防災に関する女性の参画について、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

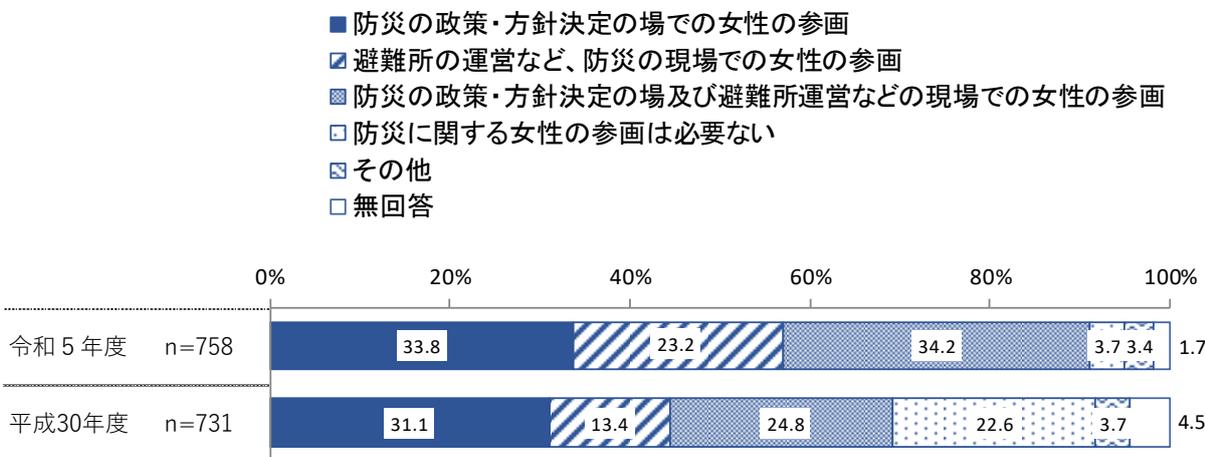
- ▶ 防災に関する女性の参画について必要なことについては、「防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画」が 34.2%と最も多く、次いで、「防災の政策・方針決定の場での女性の参画」が 33.8%、「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」が 23.2%となっています。
- ▶ 性別でみると、「防災の政策・方針決定の場での女性の参画」と回答した人は男性では37.6%、女性では 31.1%となっており、男性が女性を 6.5 ポイント上回っています。

図表 30 防災に関する女性の参画について必要なこと



- ▶ 前回調査と比較すると、「防災に関する女性の参画は必要ない」は 18.9 ポイント減少したのに対し、「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」「防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画」は、それぞれ 9.8 ポイント、9.4 ポイント増加しています。

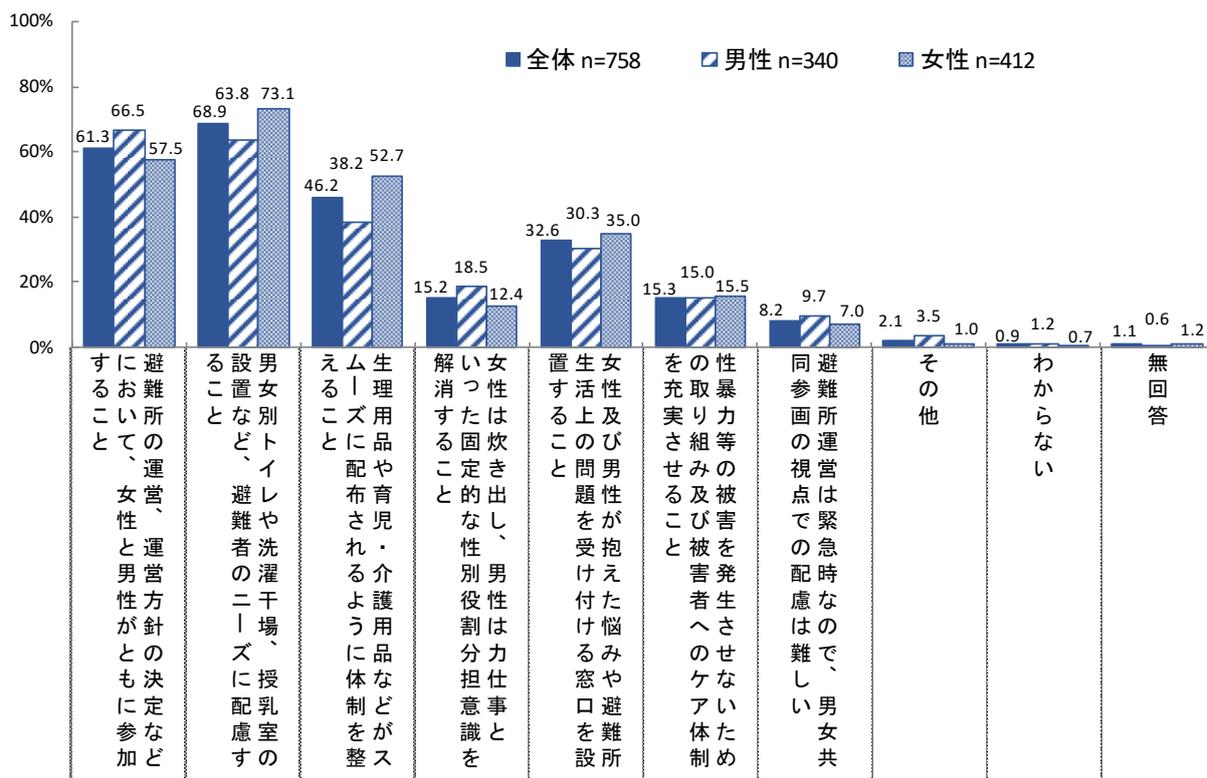
<経年比較>



問 18 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- ▶ 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点から必要なことについては、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が 68.9%と最も多く、次いで、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が 61.3%、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が 46.2%、「女性及び男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口を設置すること」が 32.6%となっています。
- ▶ 性別でみると、上位3項目に違いはないものの、男性では「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」、女性では「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高くなっています。また、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」「女性は炊き出し、男性は力仕事といった固定的な性別役割分担意識を解消すること」などでは、女性に比べ男性の割合が高くなっているのに対し、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」などでは、男性に比べ女性の割合が高くなっています。

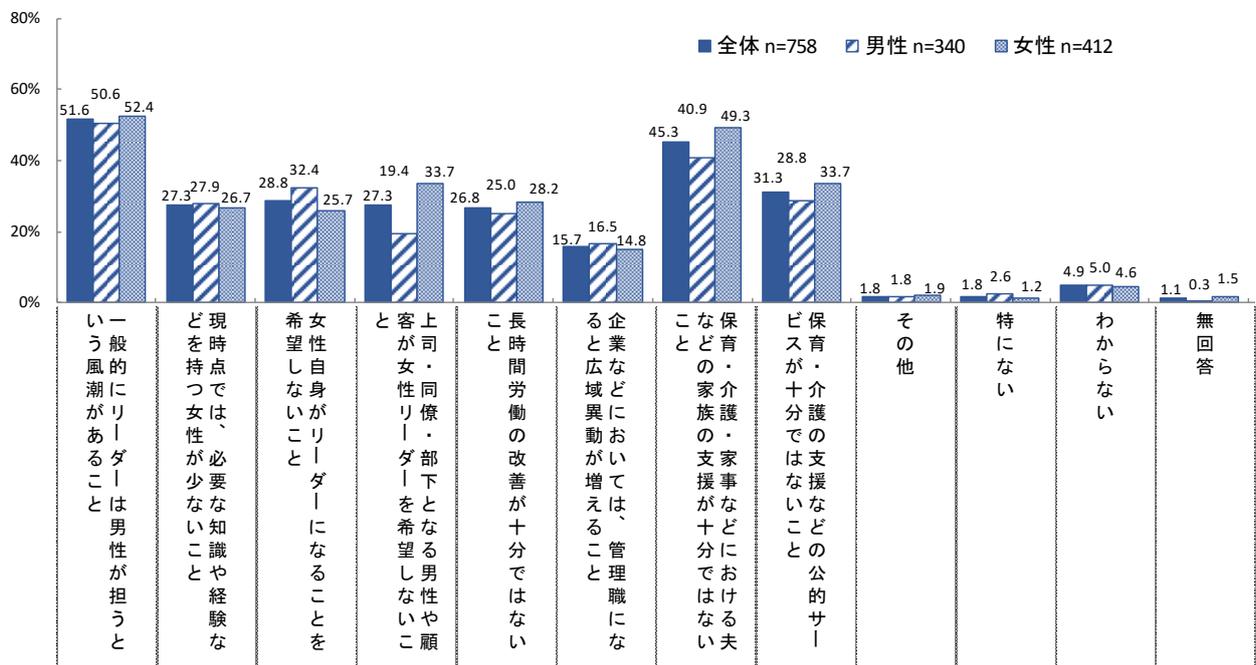
図表 31 災害時の避難所運営で男女共同参画の視点から必要なこと



問 19 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障がいとなるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

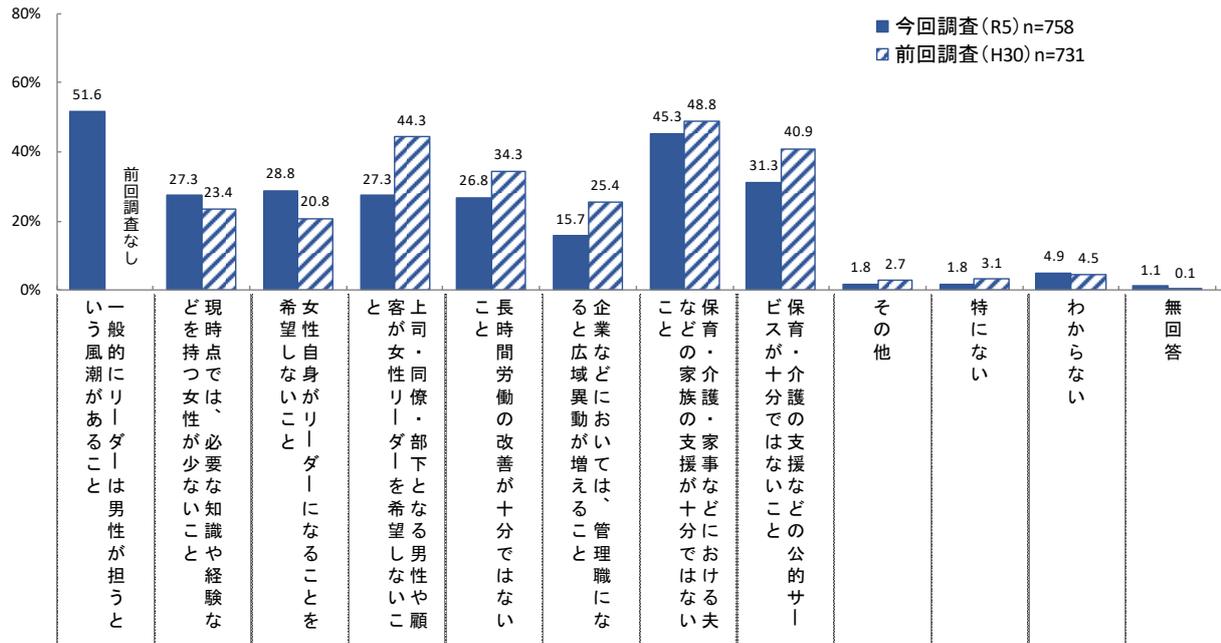
- 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障がいとなるものについては、「一般的にリーダーは男性が担うという風潮があること」が51.6%と最も多く、次いで、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が45.3%、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が31.3%となっています。
- 性別で見ると、「一般的にリーダーは男性が担うという風潮があること」が男女ともに最も高くなっています。また、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」などでは、女性が男性を上回っています。

図表 32 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障がいとなるもの



- 前回調査の選択肢になかった「一般的にリーダーは男性が担うという風潮があること」が最も多くなっており、選択肢の違いにより単純比較はできないものの、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」「長時間労働の改善が十分ではないこと」などは相対的に減少しています。

【経年比較】 <参考>



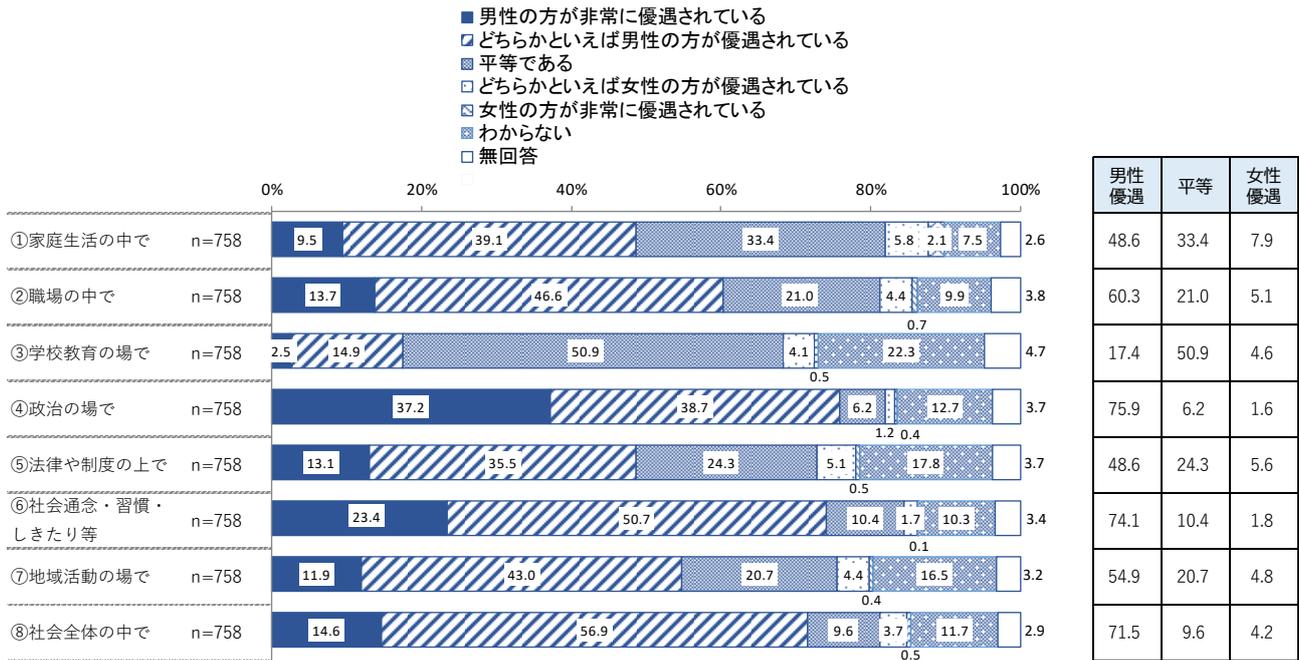
※前回調査（平成 30 年度）と選択肢が異なるため、参考値として記載

5 「男女の地位・平等」について

問 20 あなたは次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つだけ)

- 【①家庭生活の中】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 39.1%と最も多く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(9.5%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 48.6%となっています。
- 【②職場の中】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 46.6%と最も多く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(13.7%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 60.3%となっています。
- 【③学校教育の場】については、「平等である」が 50.9%と最も多くなっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合は 17.4%となっています。
- 【④政治の場】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 38.7%と最も多く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が 37.2%となっており、これらを合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 75.9%となっています。
- 【⑤法律や制度の上】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 35.5%と最も多く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(13.1%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 48.6%となっています。
- 【⑥社会通念・習慣・しきたり等】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 50.7%と最も多く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が 23.4%となっており、これらを合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 74.1%となっています。
- 【⑦地域活動の場】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 43.0%と最も多く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(11.9%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 54.9%となっています。
- 【⑧社会全体の中】については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 56.9%と最も多く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が 14.6%となっており、これらを合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 71.5%となっています。

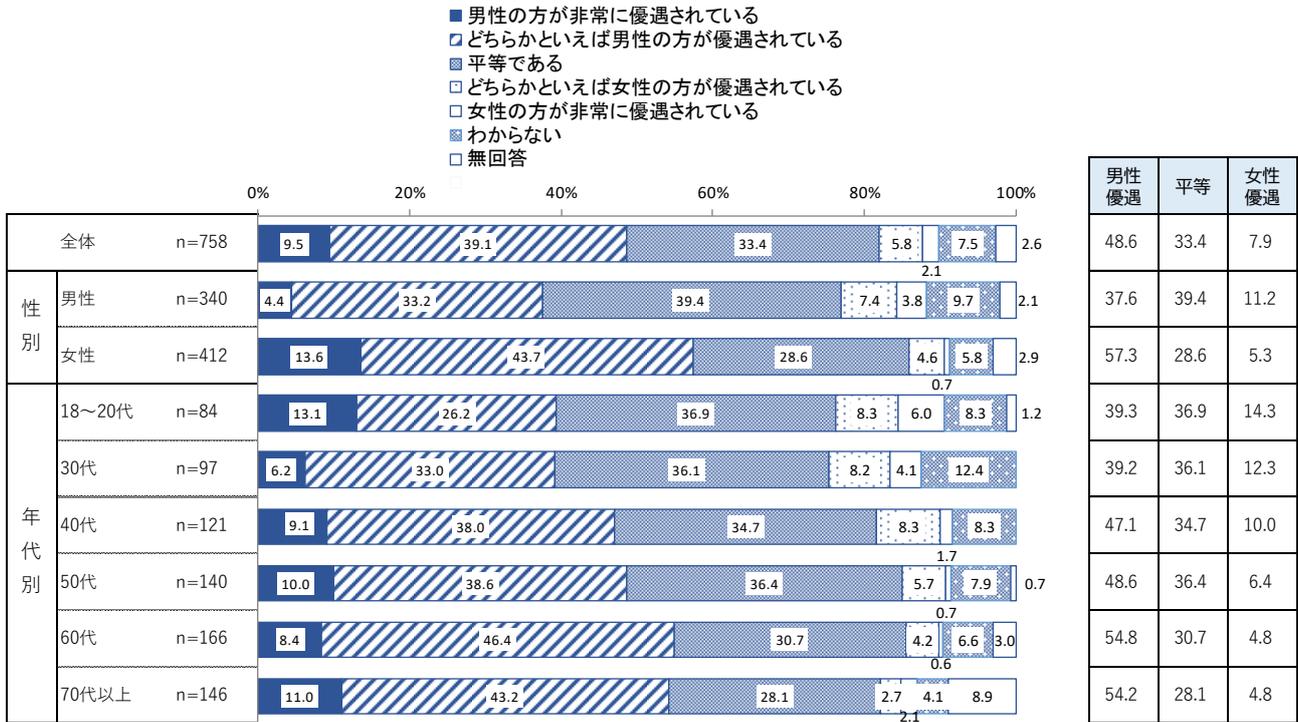
図表 33 各分野における男女の平等



【①家庭生活の中で】

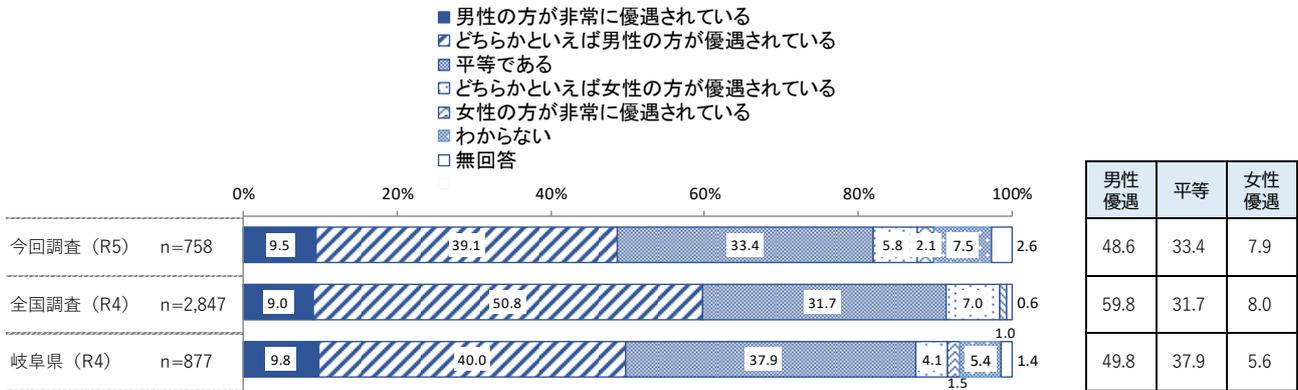
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 37.6%、女性で 57.3%と、女性が19.7ポイント上回っています。
- 年代別では、60代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加するという傾向がみられます。

<性・年代別>



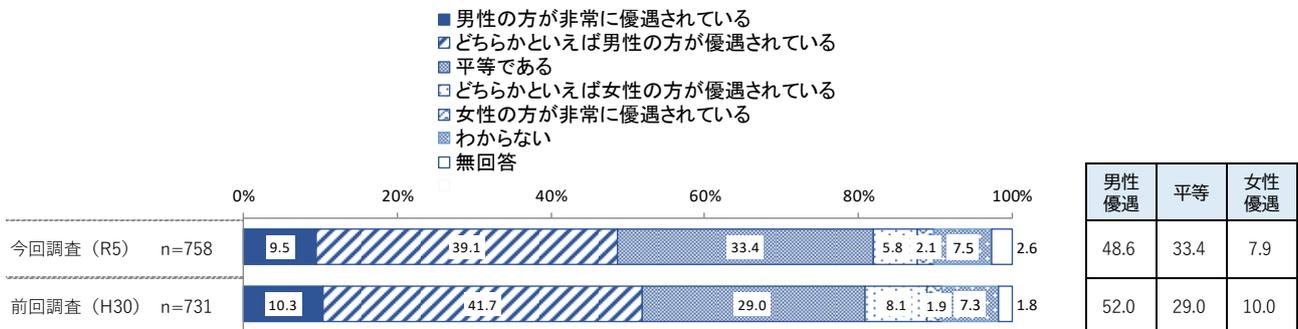
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 11.2 ポイント、県に比べて 1.2 ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 1.7 ポイント高く、県に比べて 4.5 ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 3.4 ポイント減少しています。

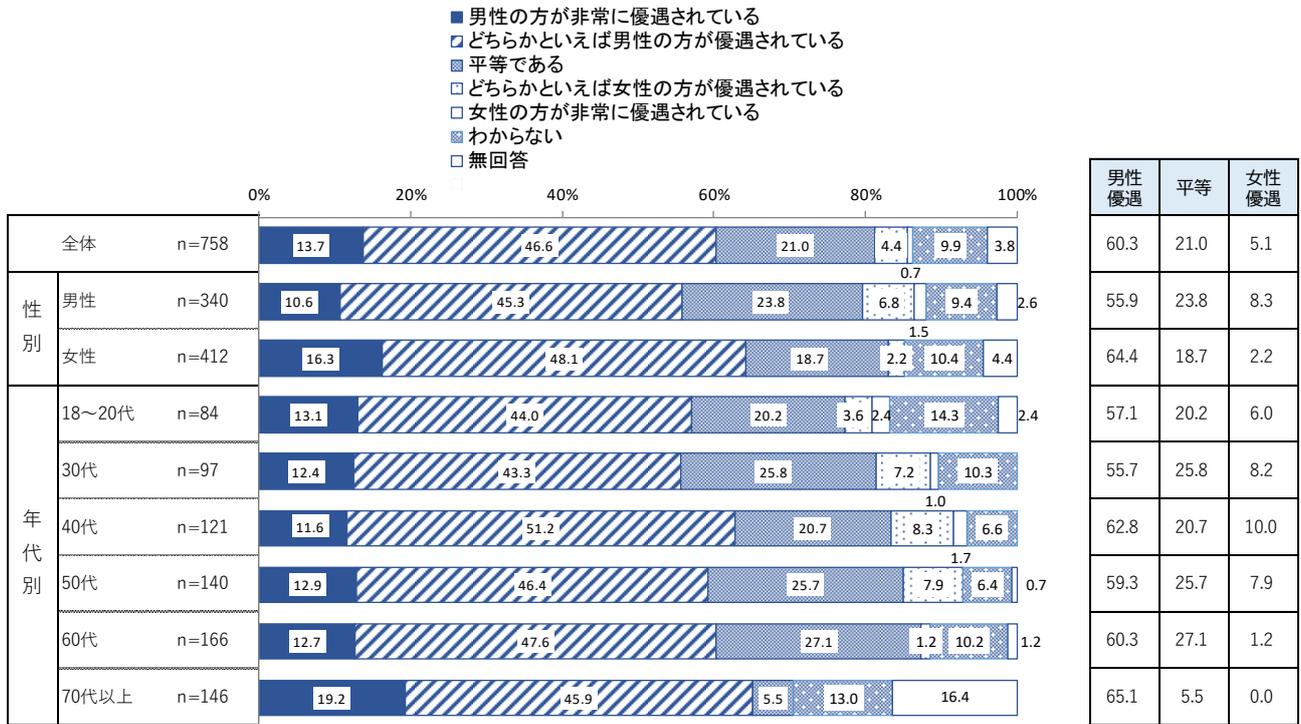
<経年比較>



【②職場の中で】

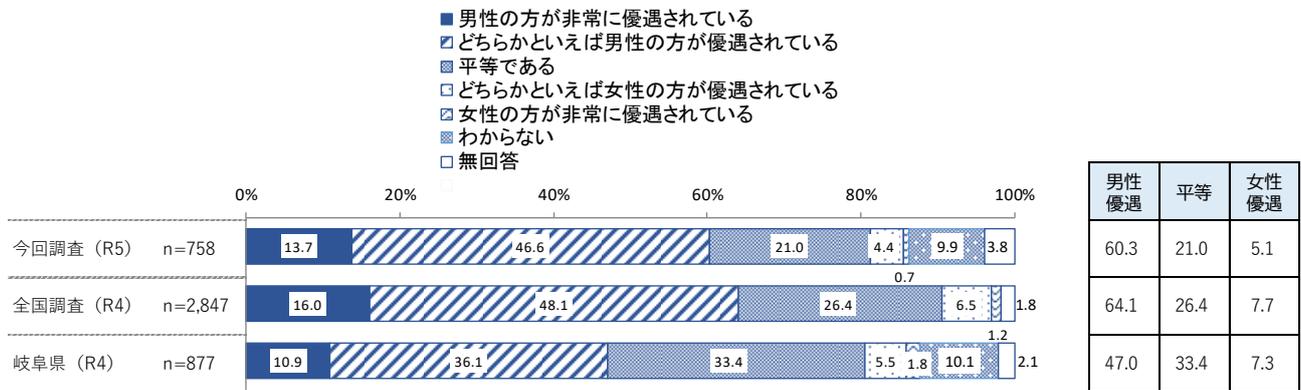
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 55.9%、女性で 64.4%と、女性が 8.5 ポイント上回っています。
- 年代別では、いずれの年代においても“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合は6割前後を占めています。

<性・年代別>



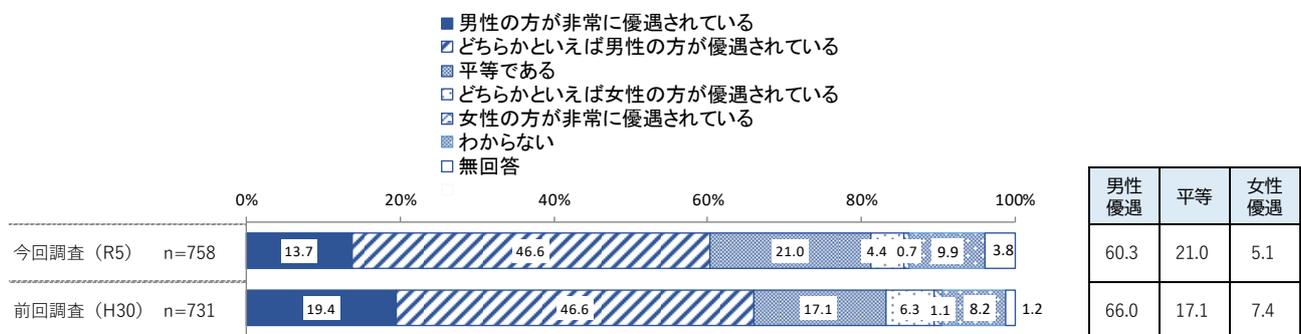
- 「男性の方が優遇されていると感じている人」の割合が、全国に比べて 3.8 ポイント低く、県に比べて 13.3 ポイント高くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 5.4 ポイント、県に比べて 12.4 ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、「男性の方が優遇されていると感じている人」の割合が 5.7 ポイント減少しています。

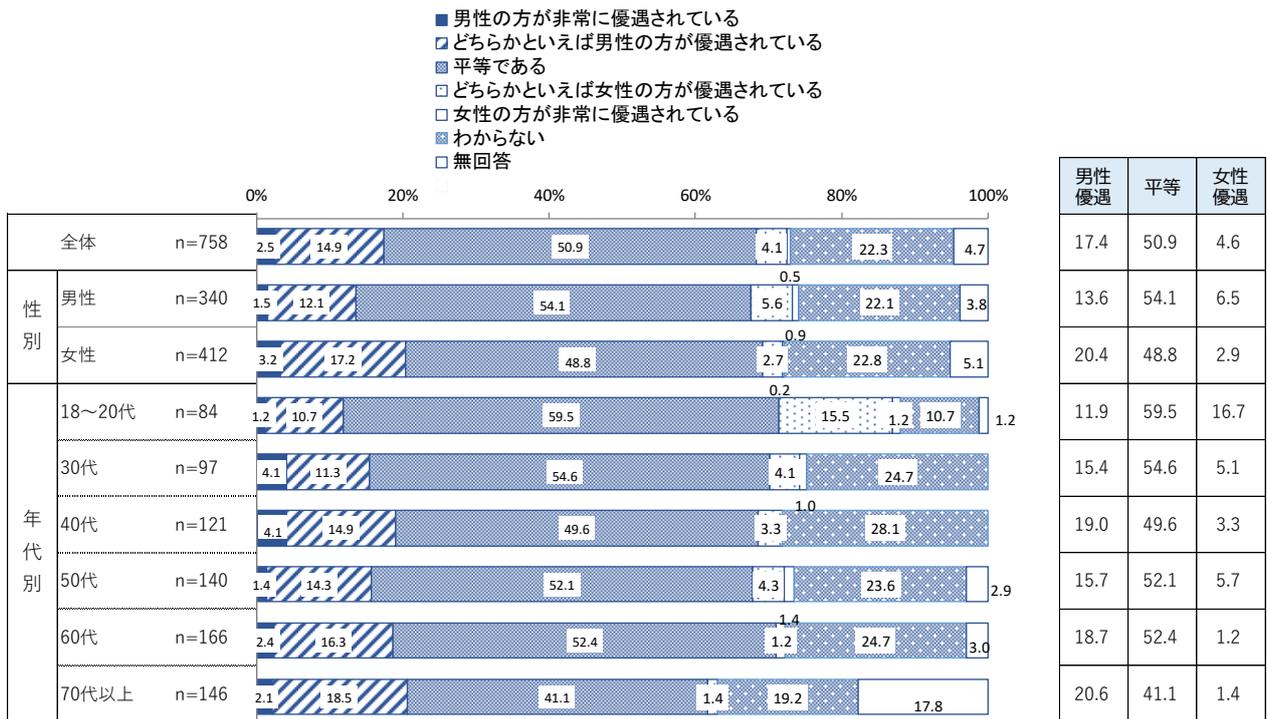
<経年比較>



【③学校教育の場で】

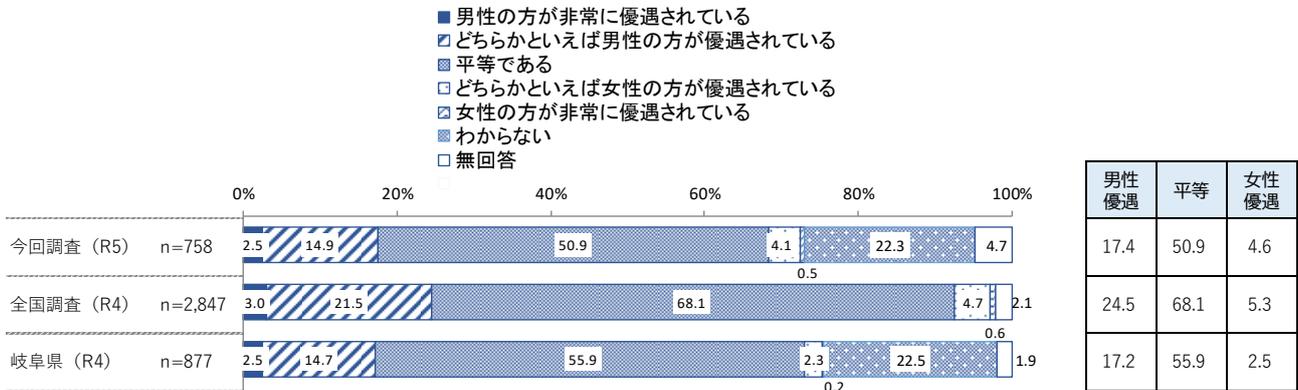
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 13.6%、女性で 20.4%と、女性が6.8ポイント上回っています。
- 年代別では、50代を除いては年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

<性・年代別>



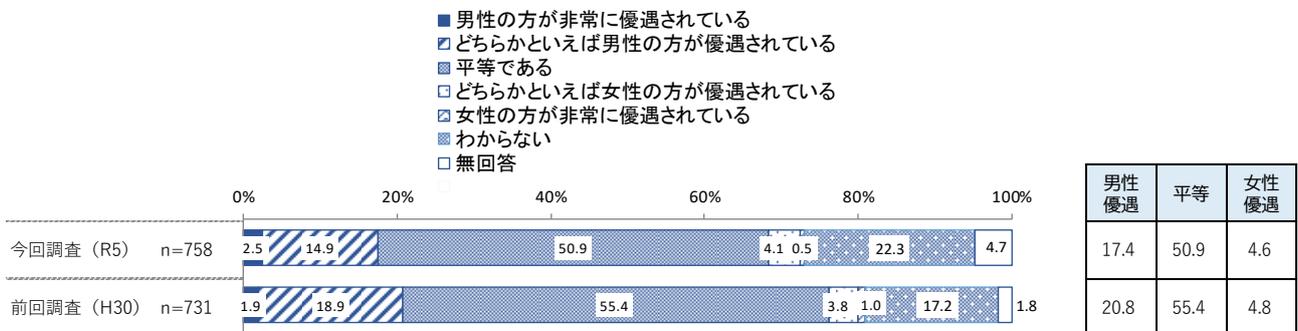
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 7.1 ポイント低く、県とほぼ同程度となっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 17.2 ポイント、県と比べて 5.0 ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 3.4 ポイント減少しています。

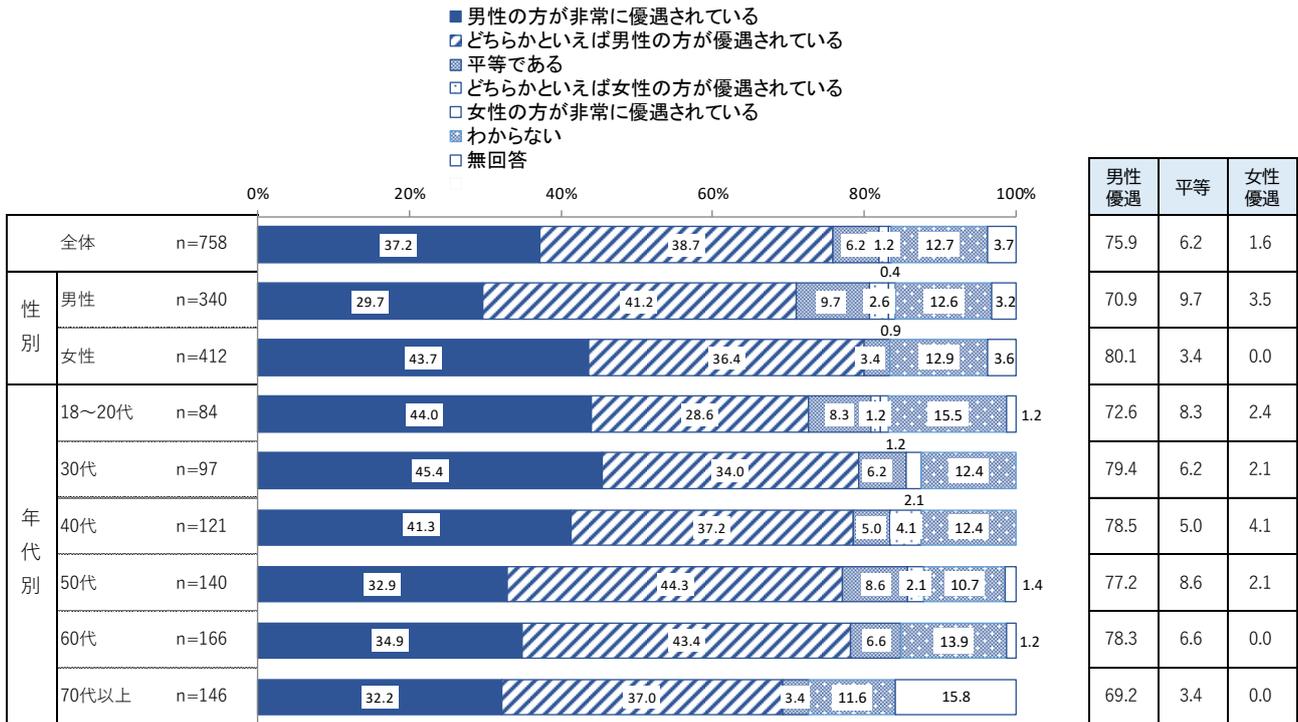
<経年比較>



【④政治の場で】

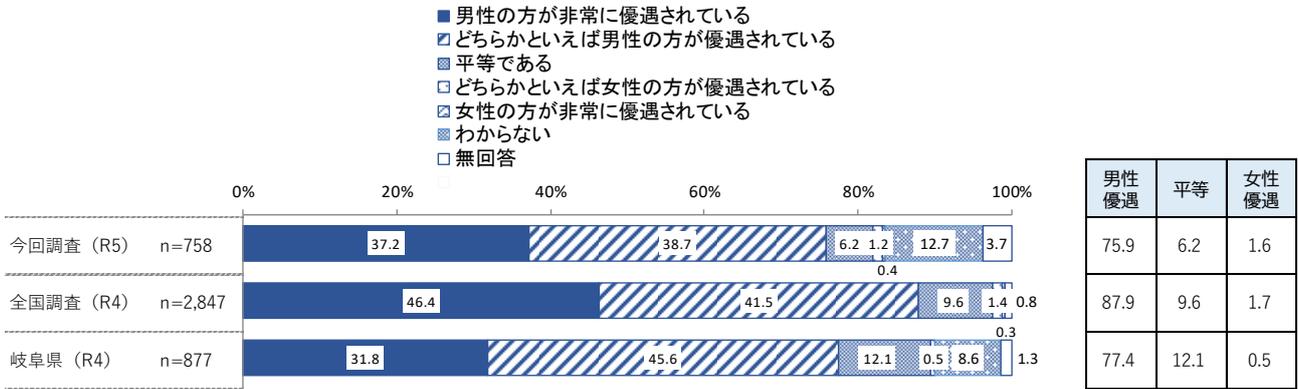
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 70.9%、女性で 80.1%と、女性が9.2ポイント上回っています。
- 年代別では、30～60代までは“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が約8割を占めています。

<性・年代別>



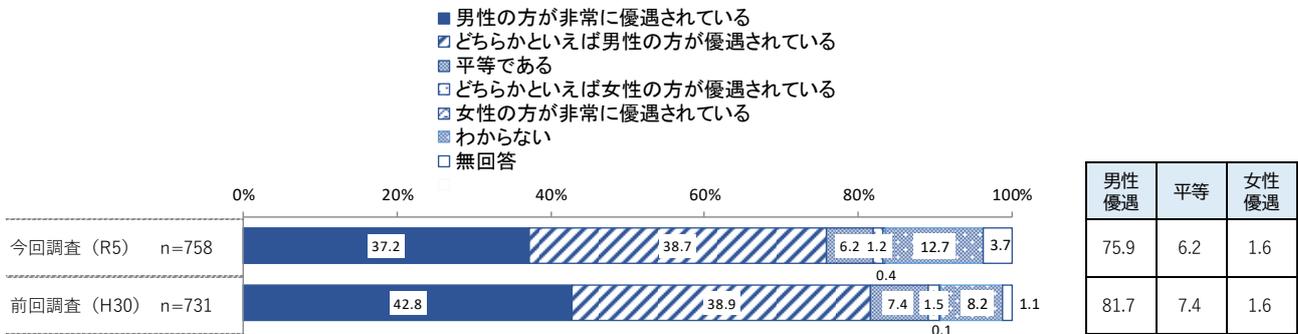
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 12.0 ポイント、県に比べて 1.5 ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 3.4 ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 5.8 ポイント減少しています。

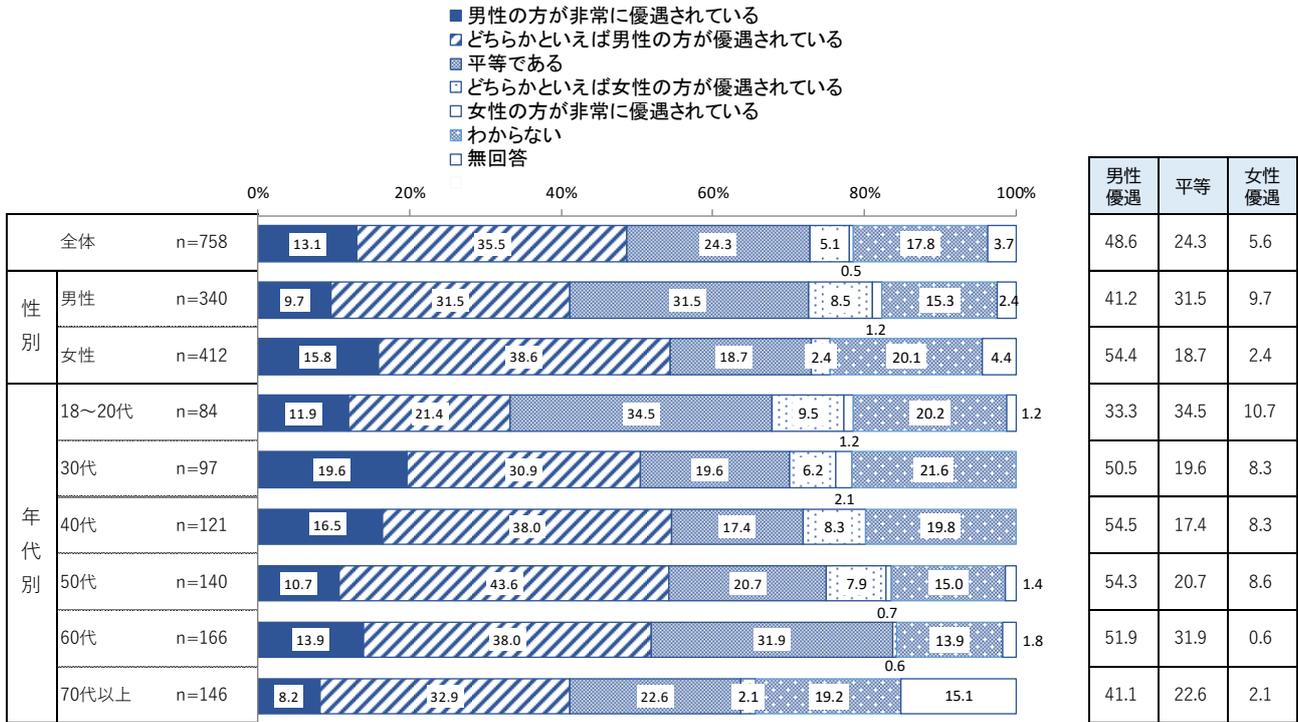
<経年比較>



【⑤法律や制度の上で】

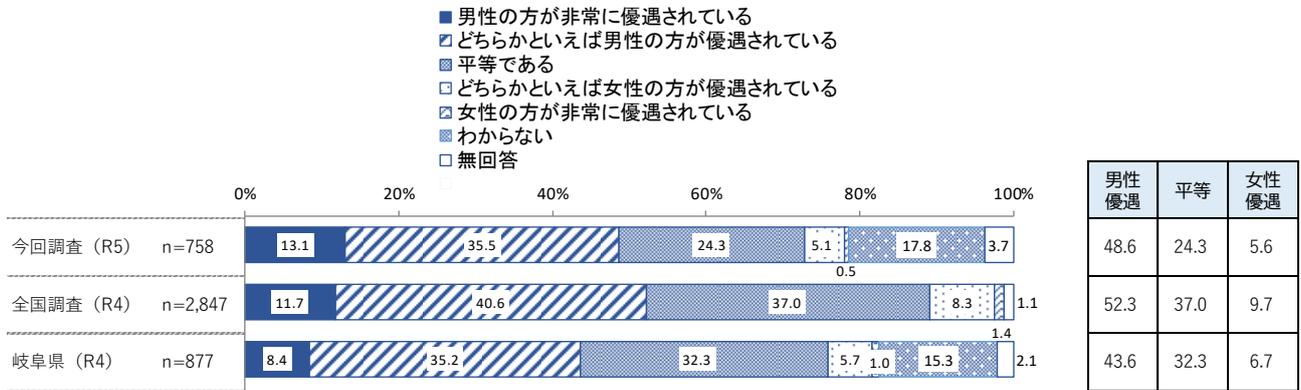
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 41.2%、女性で 54.4%と、女性が13.2ポイント上回っています。
- 年代別では、30～60代で“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が5割を超えています。

<性・年代別>



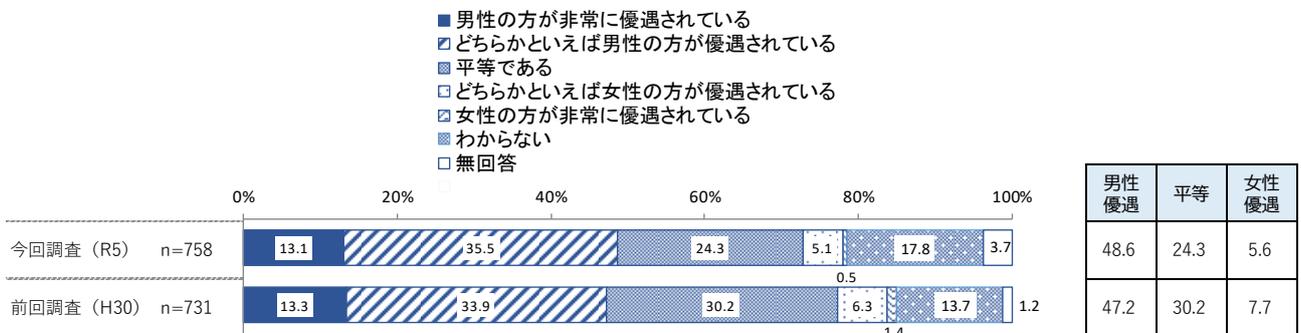
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 3.7 ポイント低く、県に比べて 5.0 ポイント高くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 12.7 ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 1.4 ポイント増加しています。

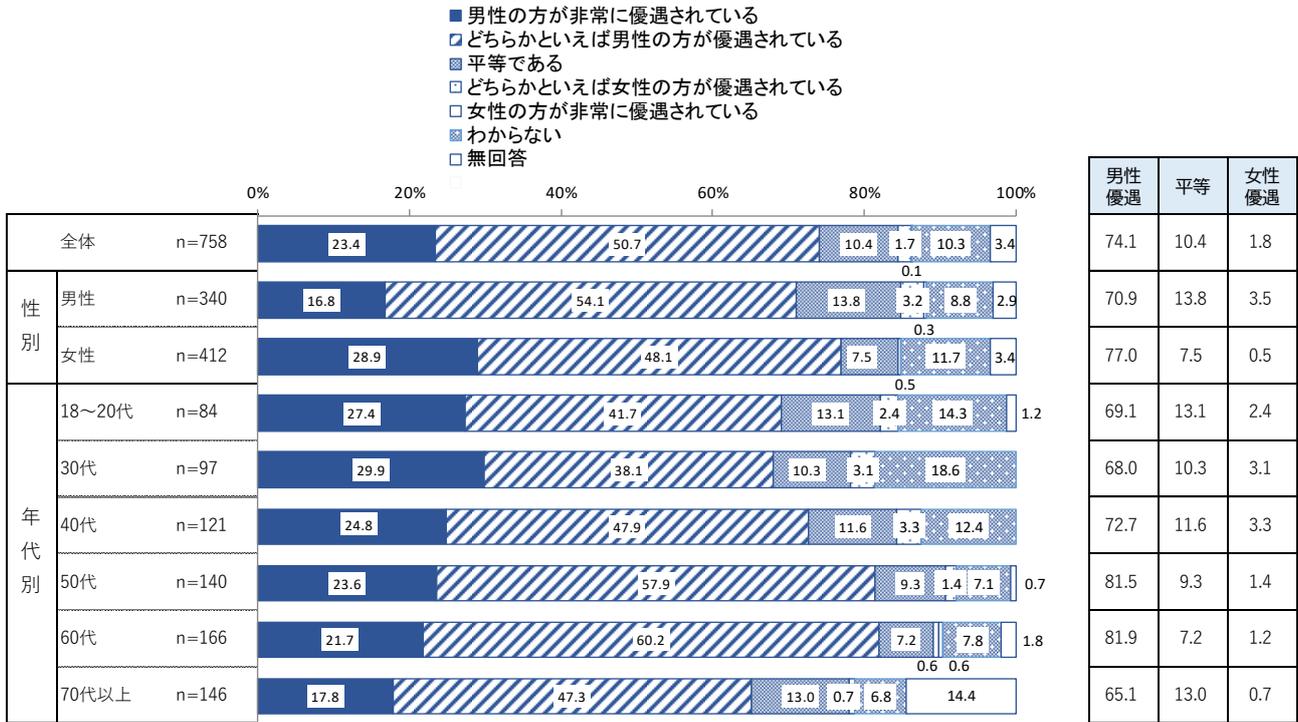
<経年比較>



【⑥社会通念・習慣・しきたり等】

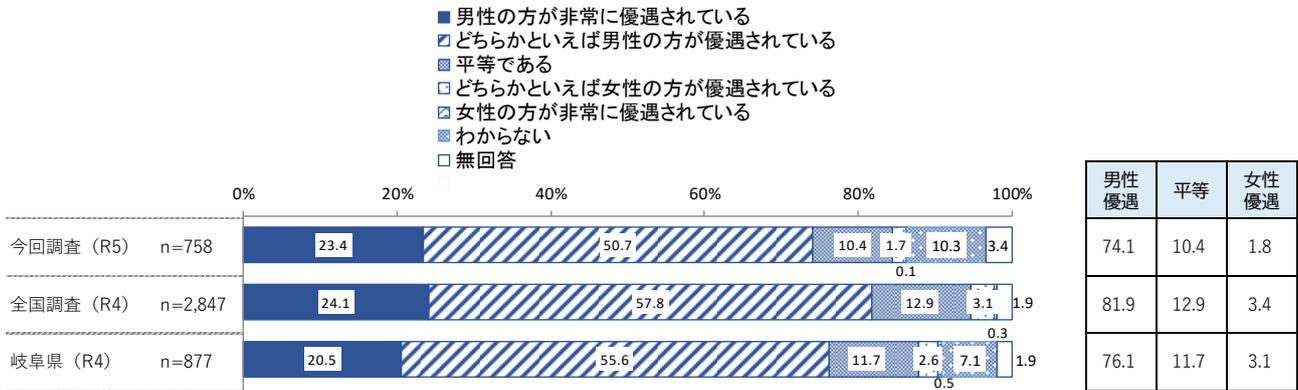
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 70.9%、女性で 77.0%と、女性が6.1ポイント上回っています。
- 年代別では、60代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

<性・年代別>



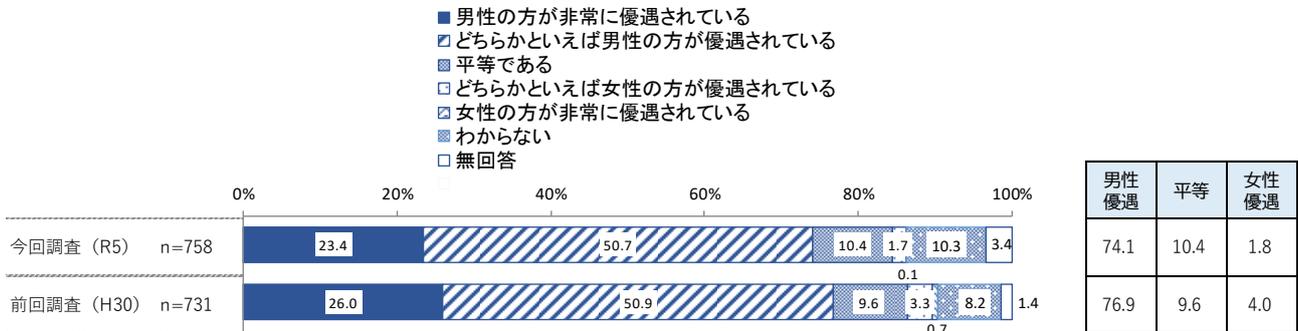
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて7.8ポイント、県に比べて2.0ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて2.5ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が2.8ポイント減少しています。

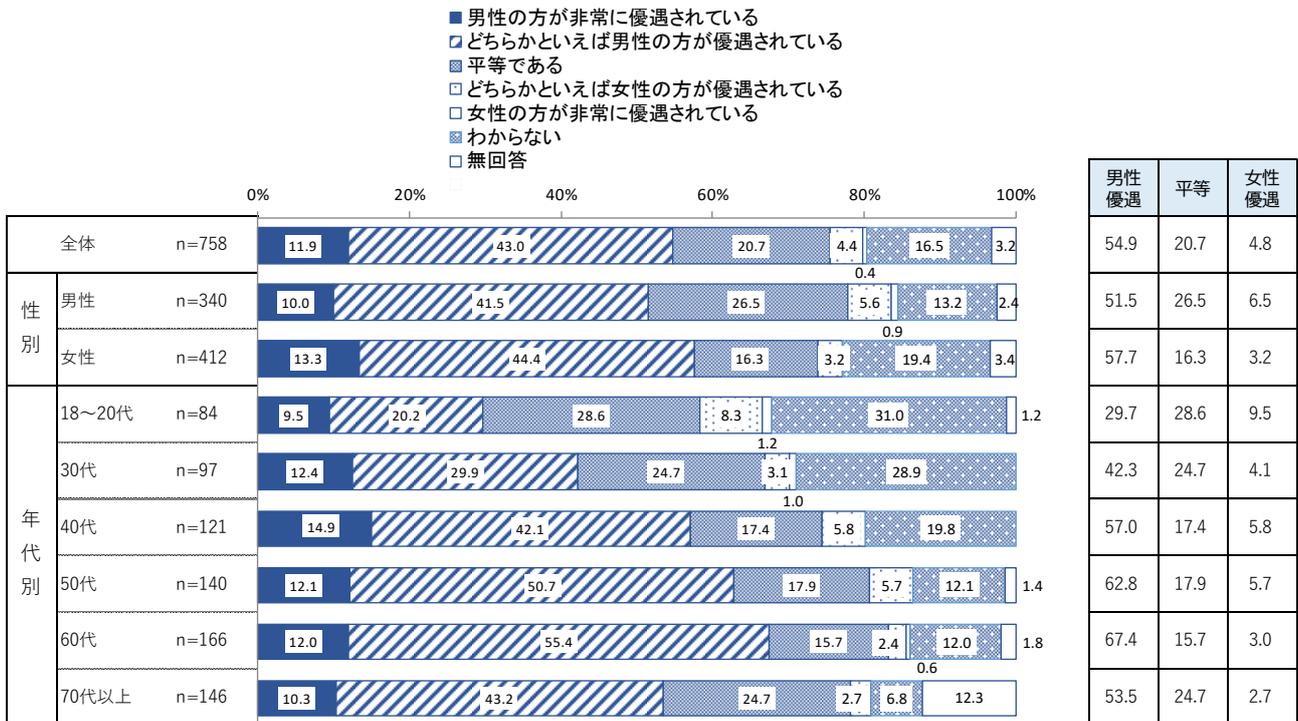
<経年比較>



【⑦地域活動の場で】

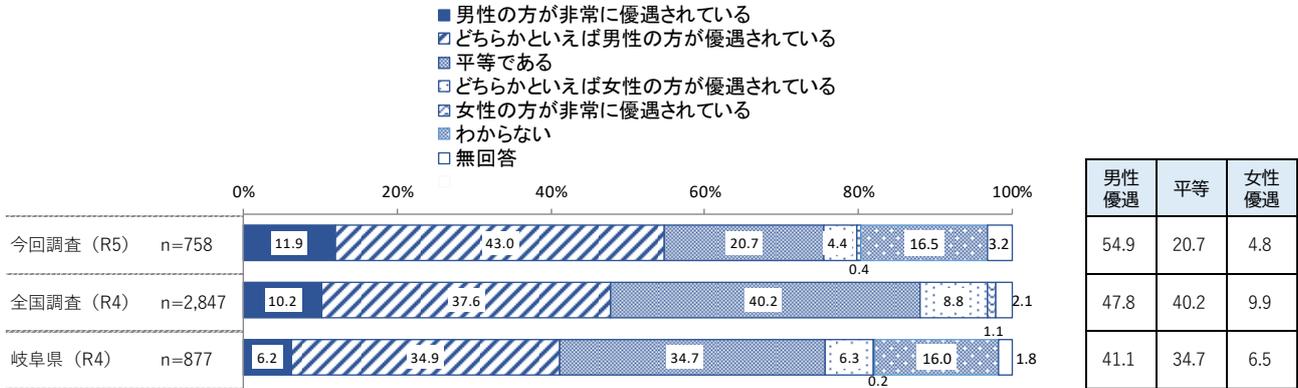
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 51.5%、女性で 57.7%と、女性が6.2ポイント上回っています。
- 年代別では、60代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

<性・年代別>



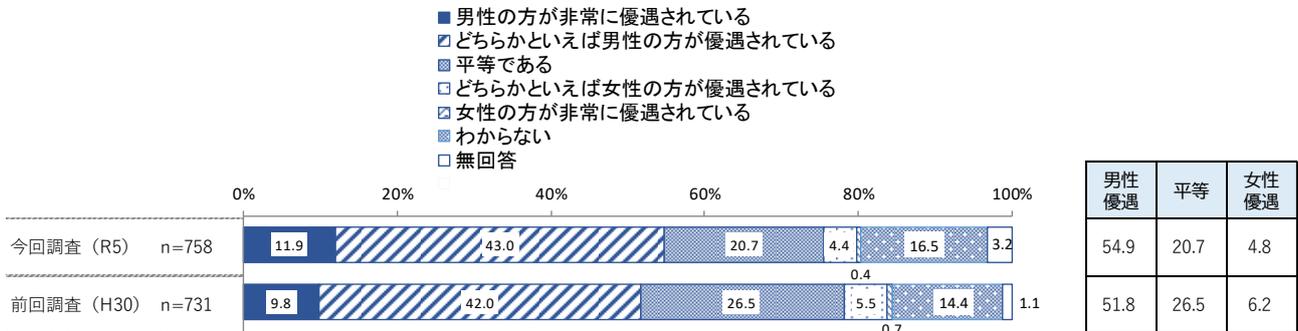
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 7.1 ポイント、県に比べて 13.8 ポイント高くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 19.5 ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 3.1 ポイント増加しています。

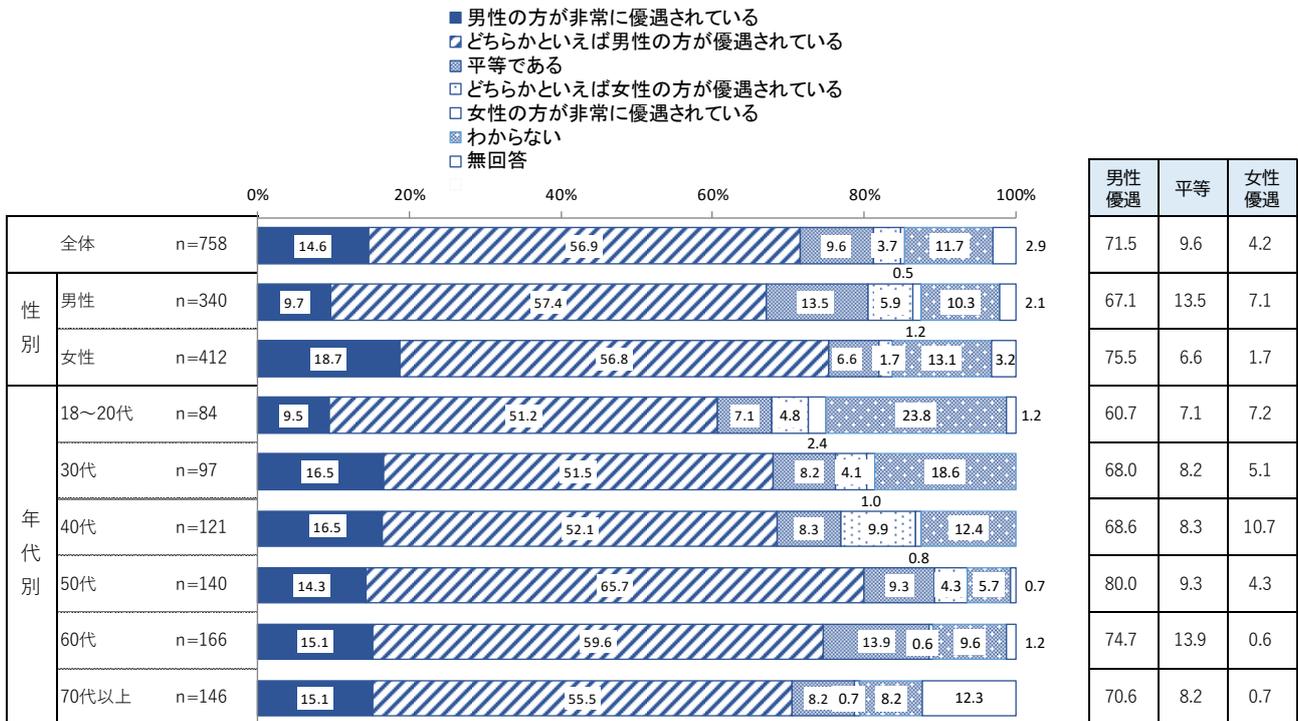
<経年比較>



【⑧社会全体の中で】

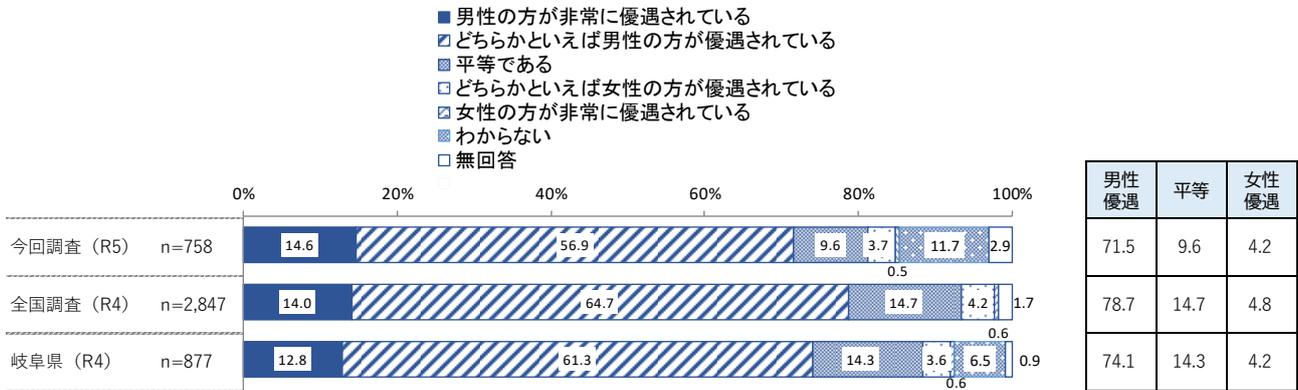
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 67.1%、女性で 75.5%と、女性が 8.4 ポイント上回っています。
- 年代別では、50 代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

<性・年代別>



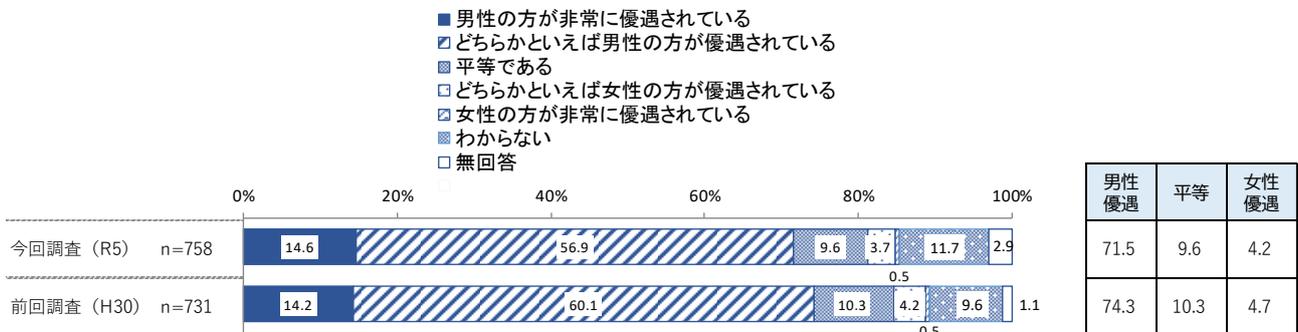
- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて7.2ポイント、県に比べて2.6ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて5.1ポイント低くなっています。

<国や岐阜県との比較>



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が2.8ポイント減少しています。

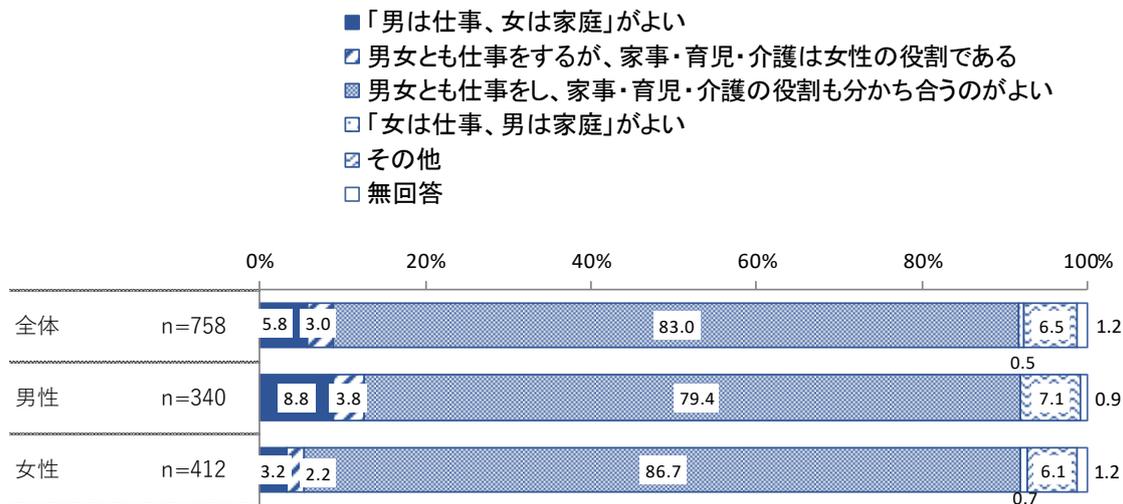
<経年比較>



問 21 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。(〇は1つだけ)

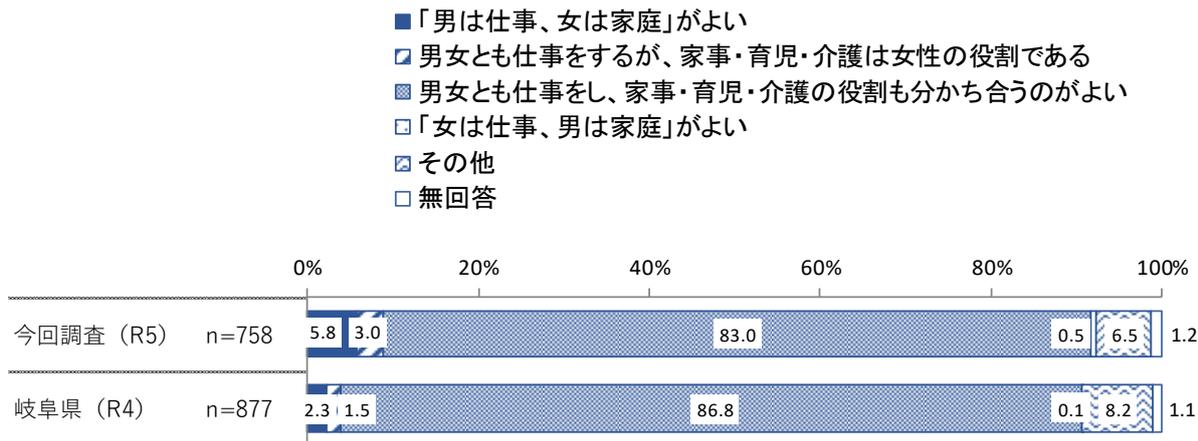
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が83.0%と圧倒的に多くなっています。
- 性別で見ると、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が男女ともに最も高くなっており、特に女性が男性を7.3ポイント上回っています。

図表 34 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



- 県の調査と比較すると、いずれも「男女とも仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」が最も多く、大きな傾向の差はみられません。

<岐阜県との比較>



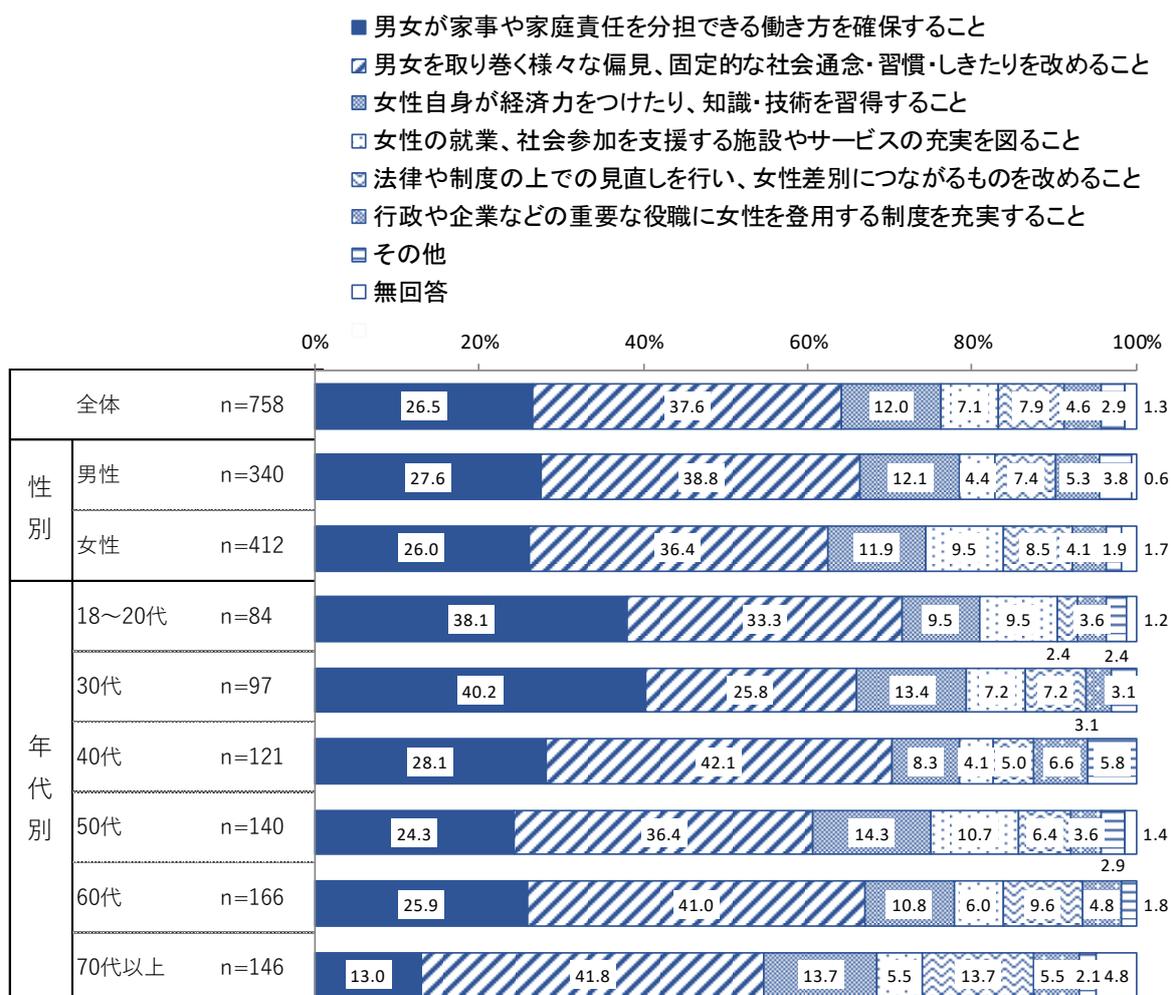
問 22 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何ですか。

(○は1つだけ)

- 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要だと思うことについては、「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」が 37.6%と最も多く、次いで「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」が 26.5%、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が 12.0%となっています。
- 性別で見ると、「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」が男女ともに最も高くなっています。また、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」は女性が男性を 5.1 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると、「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」は 18～20 代や 30 代で、「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」は 40 代以上で最も高くなっています。

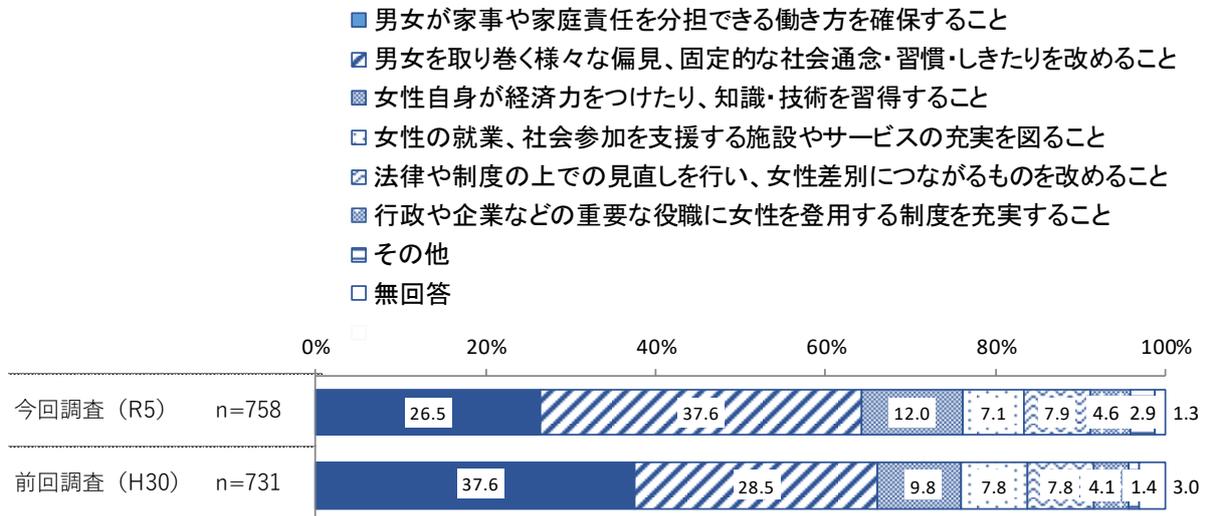
図表 35 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと

<全体・性別・年代別>



- 前回調査と比較すると、「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」は 11.1 ポイント減少したのに対し、「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」は 9.1 ポイント増加しています。

<経年比較>

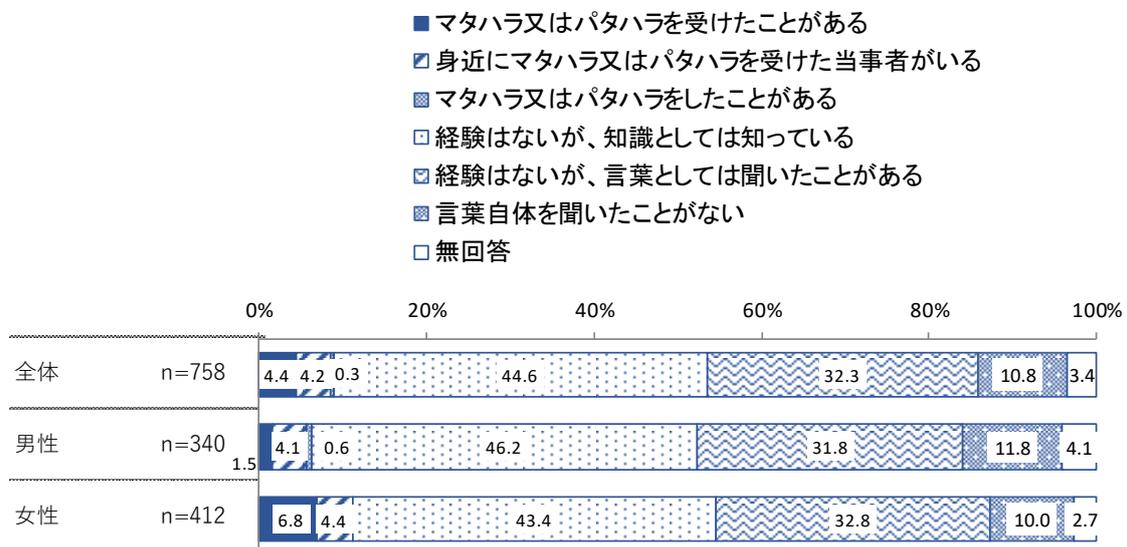


6 人権の配慮について

問 23 妊娠・出産、育児休業等を理由とする不利益取扱い・嫌がらせ(マタハラ、パタハラ)に関して、あなたは経験したり、見聞きしたことがありますか。(〇は1つだけ)

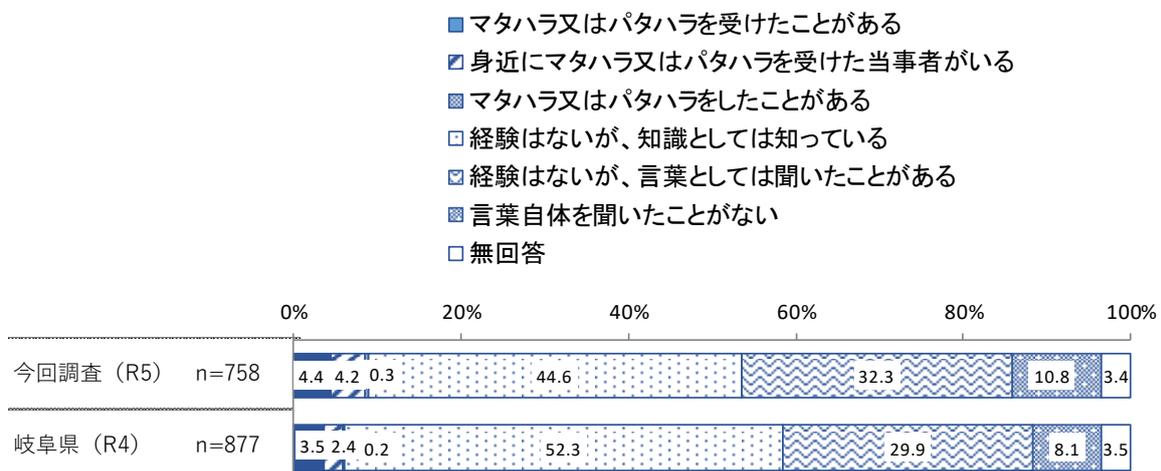
- 妊娠・出産、育児休業等を理由とする不利益取扱い・いやがらせの経験や見聞きの有無については、「経験はないが、知識としては知っている」が44.6%と最も多く、次いで「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」が32.3%となっています。一方で、「言葉自体を聞いたことがない」人は10.8%と1割程度みられます。
- 性別でみると、「経験はないが、知識としては知っている」が男女ともに最も高くなっています。また、「マタハラ又はパタハラを受けたことがある」が男性は1.5%、女性が6.8%と男性よりも女性でやや高くなっています。

図表 36 マタハラ・パタハラの経験



- 県の調査と比較すると、「経験はないが、知識としては知っている」と回答した人は、県を7.7ポイント下回っています。

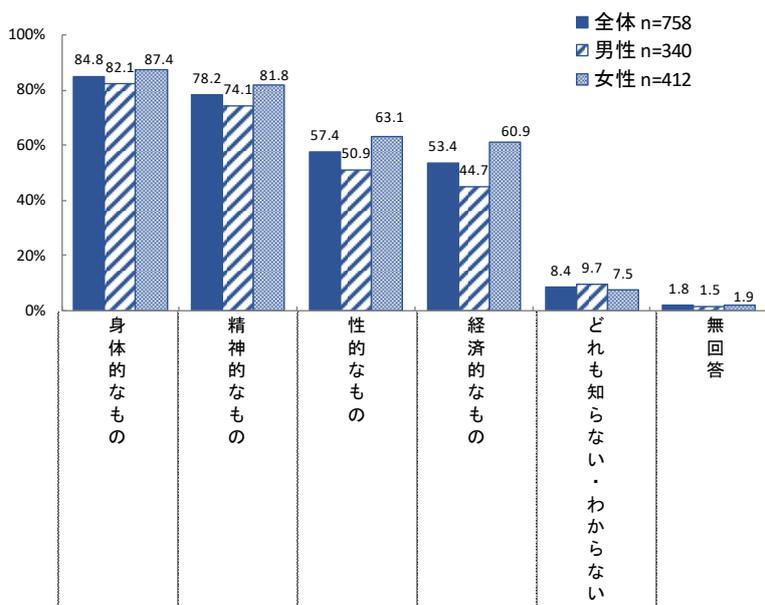
<岐阜県との比較>



問 24 あなたがドメスティック・バイオレンスとして、知っているものはどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

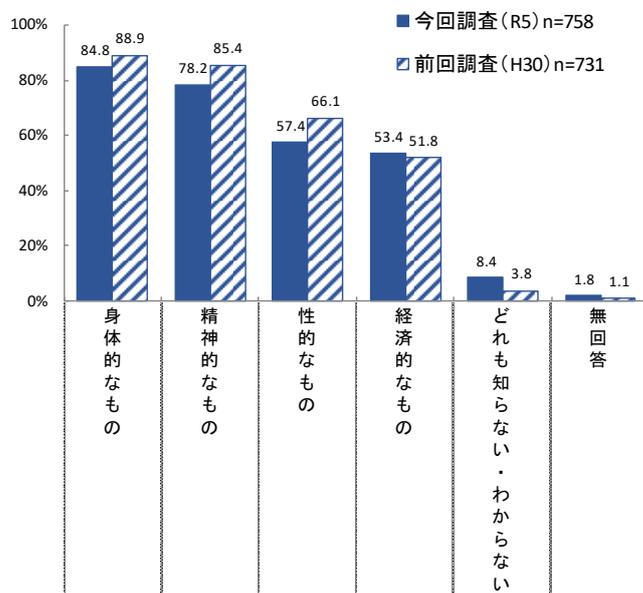
- ドメスティック・バイオレンスとして、知っているものについては、「身体的なもの」が84.8%と最も多く、次いで「精神的なもの」が78.2%、「性的なもの」が57.4%、「経済的なもの」が53.4%となっています。一方で、「どれも知らない・わからない」人は8.4%と1割程度みられます。
- 性別でみると、全体的に男性に比べ女性の認知度が高くなっており、特に「経済的なもの」「性的なもの」などでは男性を10ポイント以上上回っています。

図表 37 ドメスティック・バイオレンスとして、知っているもの



- 前回調査と比較すると、「経済的なもの」以外は、いずれも減少しています。

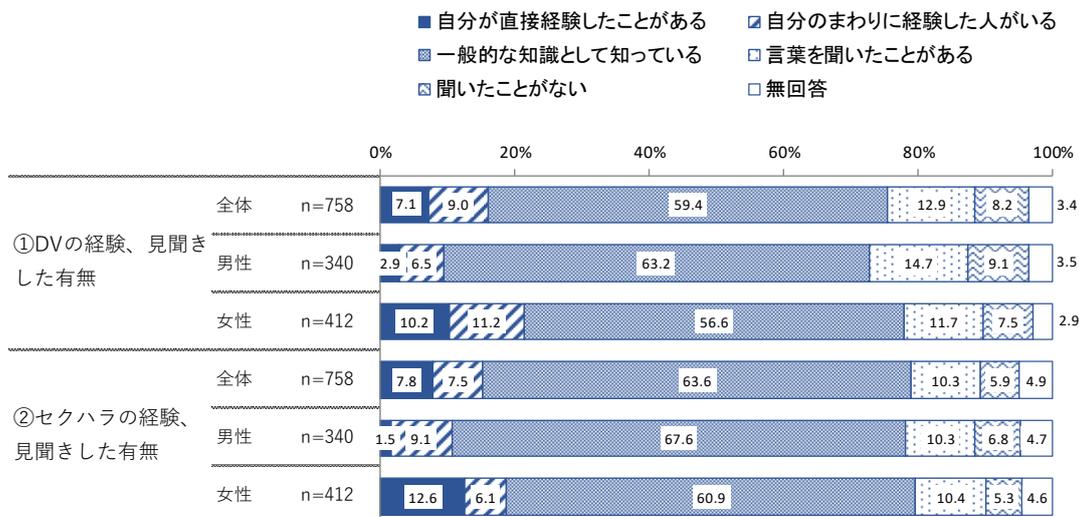
<経年比較>



問 25 あなた自身が、ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントについて、経験をしたり、話を聞いたことがありますか。(①②でそれぞれ○は1つ)

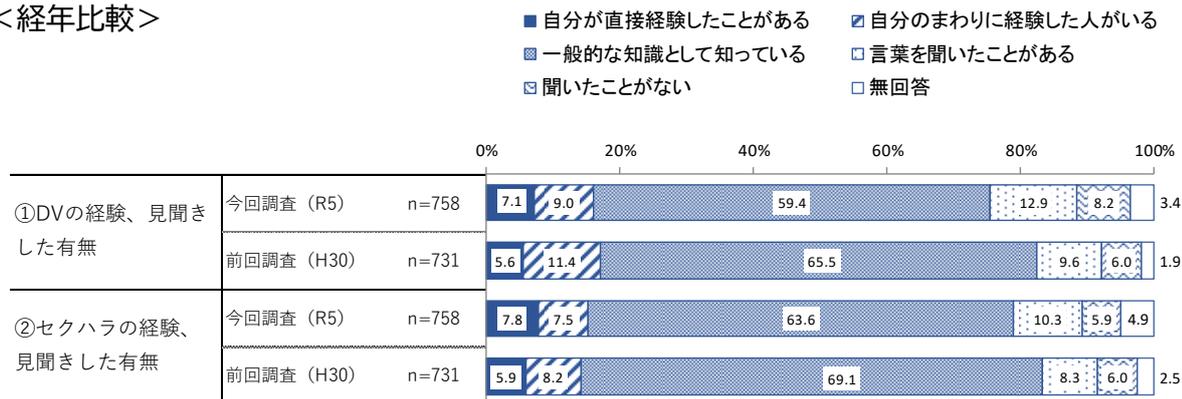
- 【①ドメスティック・バイオレンスの経験、見聞きした有無】については、「一般的な知識として知っている」が59.4%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことがある」が12.9%となっています。また、“自分がDVを受けたり、まわりに経験した人がいる”人は、16.1%となっています。一方で、「聞いたことがない」人は8.2%と1割程度みられます。
- 性別で見ると、「一般的な知識として知っている」が男女ともに最も高くなっており、男性が女性を6.6ポイント上回っています。また、“自分がDVを受けたり、まわりに経験した人がいる”人は、男性が9.4%となっているのに対し、女性は21.4%と、男性の約2倍強となっています。
- 【②セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞きした有無】については、「一般的な知識として知っている」が63.6%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことがある」が10.3%となっています。また、“自分がセクシュアル・ハラスメントを受けたり、まわりに経験した人がいる”人は、15.3%となっています。一方で、「聞いたことがない」人は5.9%となっています。
- 性別で見ると、「一般的な知識として知っている」が男女ともに最も高くなっており、男性が女性を6.7ポイント上回っています。また、“自分がセクシュアル・ハラスメントを受けたり、まわりに経験した人がいる”人は、男性で10.6%、女性で18.7%と、女性が8.1ポイント上回っています。

図表 38 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントの経験、見聞きした有無



- 前回調査と比較してみると、特に大きな変化はみられません。

<経年比較>

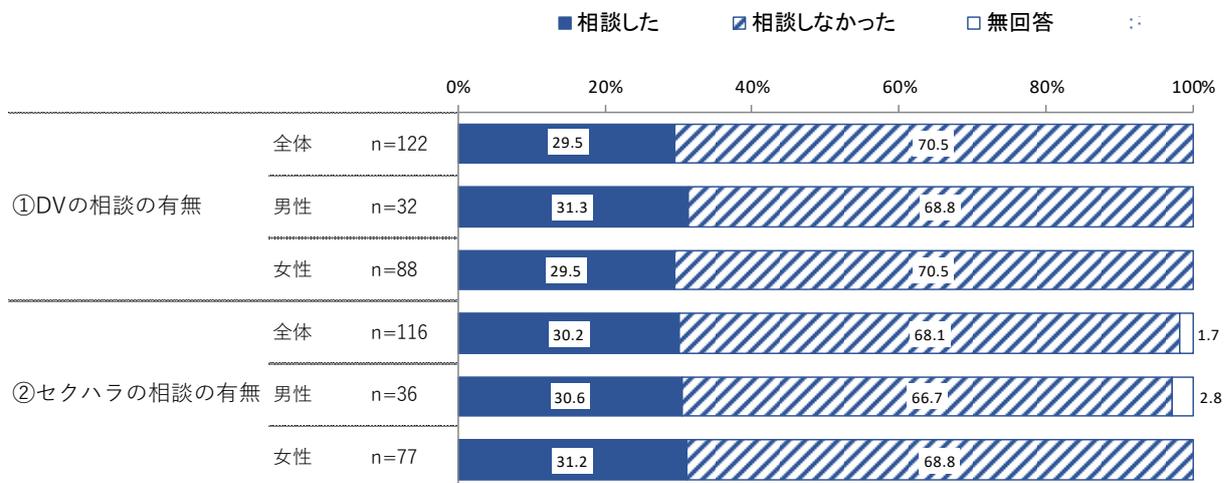


<「1. 自分が直接経験したことがある」または「2. 自分のまわりに経験した人がある」と答えた方におたずねします>

問 26 そのような行為について、相談しましたか。(①②それぞれどちらかに○)

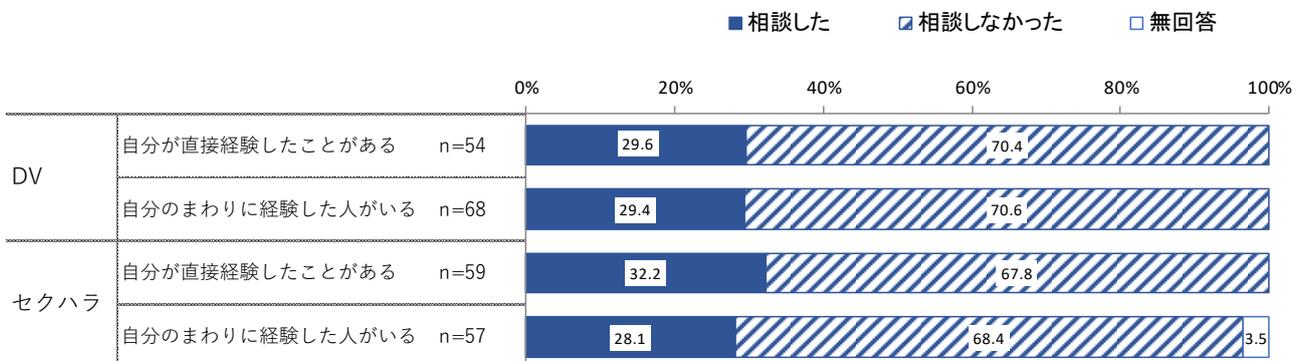
- 【①ドメスティック・バイオレンスの相談の有無】については、「相談した」が 29.5%、「相談しなかった」が 70.5%となっています。
- 性別でみると、「相談した」人は男女とも3割程度となっています。
- 【②セクシュアル・ハラスメントの相談の有無】については、「相談した」が 30.2%、「相談しなかった」が 68.1%となっています。
- 性別でみると、「相談した」人は男女とも3割程度となっています。

図表 39 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントの相談の有無



- DVやセクハラ被害経験、まわりにいる経験者がいる人別でみると、DV、セクハラとも相談した人は3割程度となっており特に大きな違いはみられません。

<DVやセクハラ被害経験、まわりにいる経験者がいる人別>

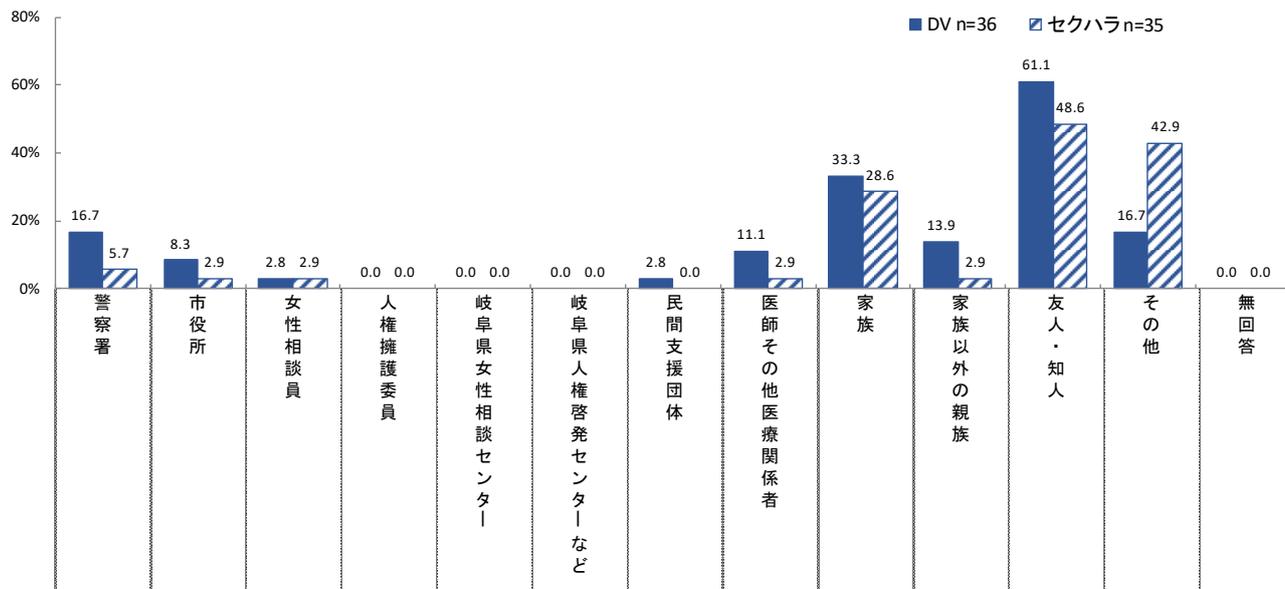


<問 26 で「1. 相談した」と答えた方におたずねします>

問 26-1 だれに（どこに）相談しましたか。（DV・セクハラそれぞれあてはまるものすべてに○）

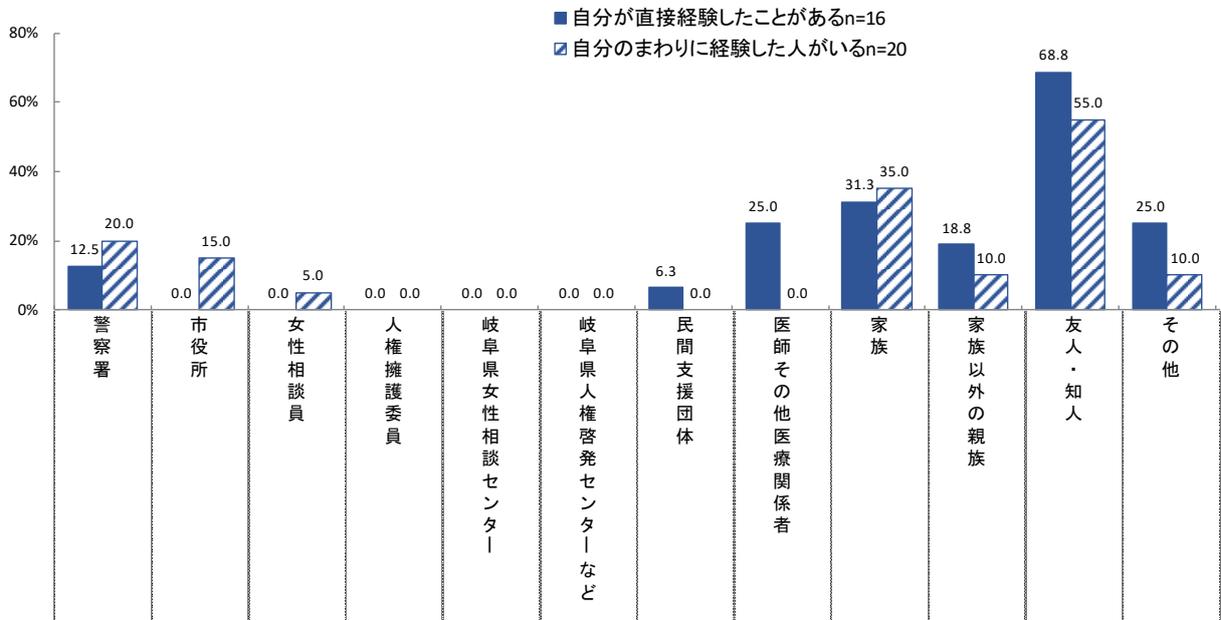
- ▶ ドメスティック・バイオレンスの相談先については、「友人・知人」が 61.1%と最も多く、次いで「家族」が 33.3%、「警察署」が 16.7%となっています。
- ▶ セクシュアル・ハラスメントの相談先については、「友人・知人」が 48.6%と最も多く、次いで「家族」が 28.6%となっています。

図表 40 相談先



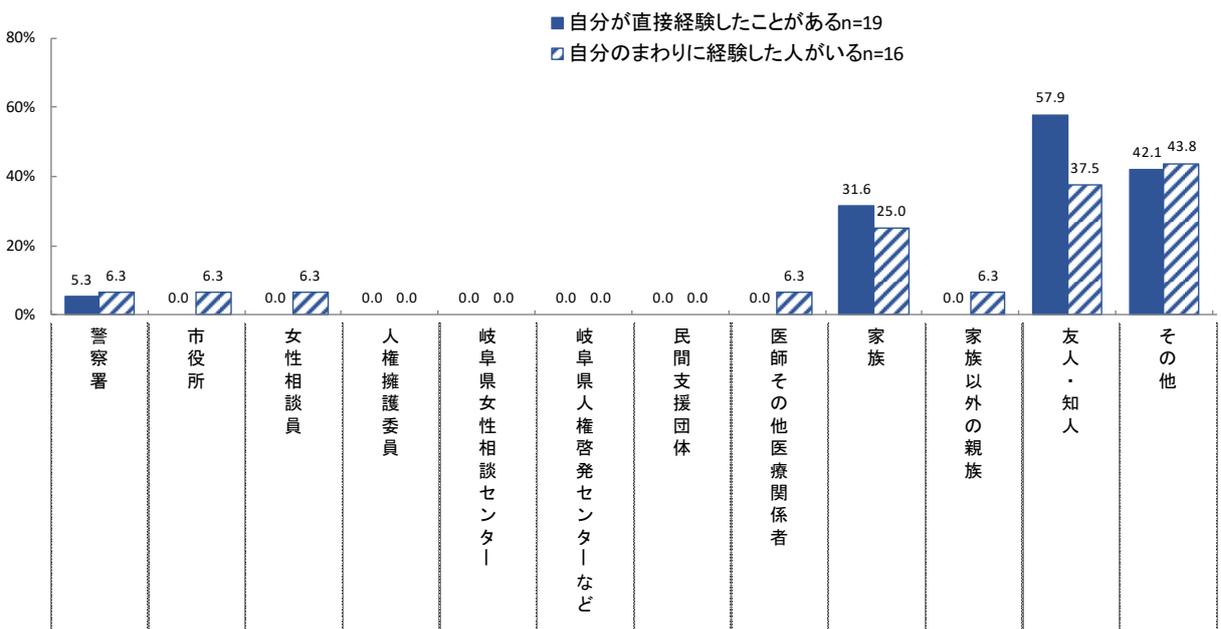
- DVの被害経験、まわりにいる経験者がいる人別で見ると、経験に関係なく「友人・知人」が最も多くなっており、特に経験者ほど友人や知人に相談する割合は高くなっています。

<DV>



- セクハラ被害経験、まわりにいる経験者がいる人別で見ると、経験者では「友人・知人」が最も多くなっています。

<セクハラ>



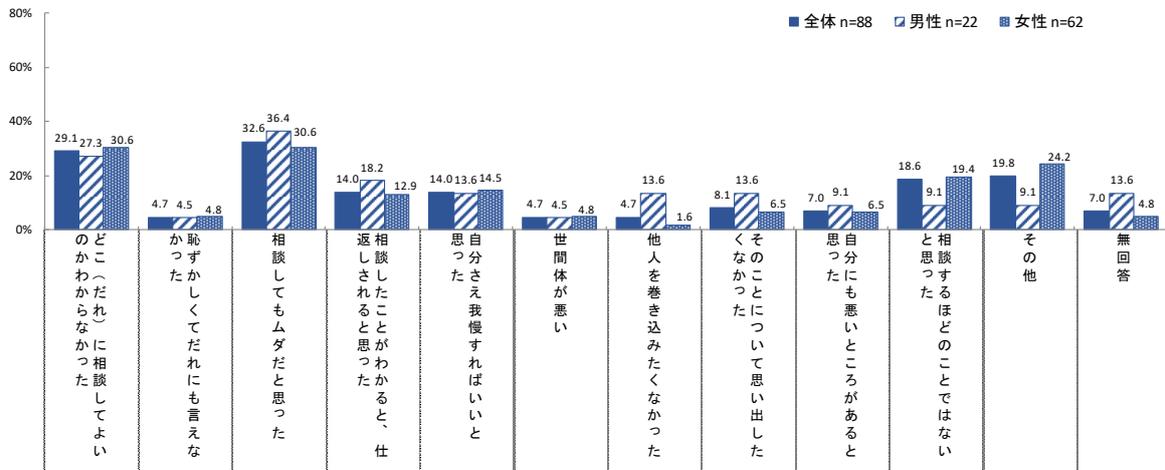
<問 26 で「2. 相談しなかった」と答えた方におたずねします>

問 26-2 相談しなかった理由は何ですか。(DV・セクハラそれぞれあてはまるものすべてに○)

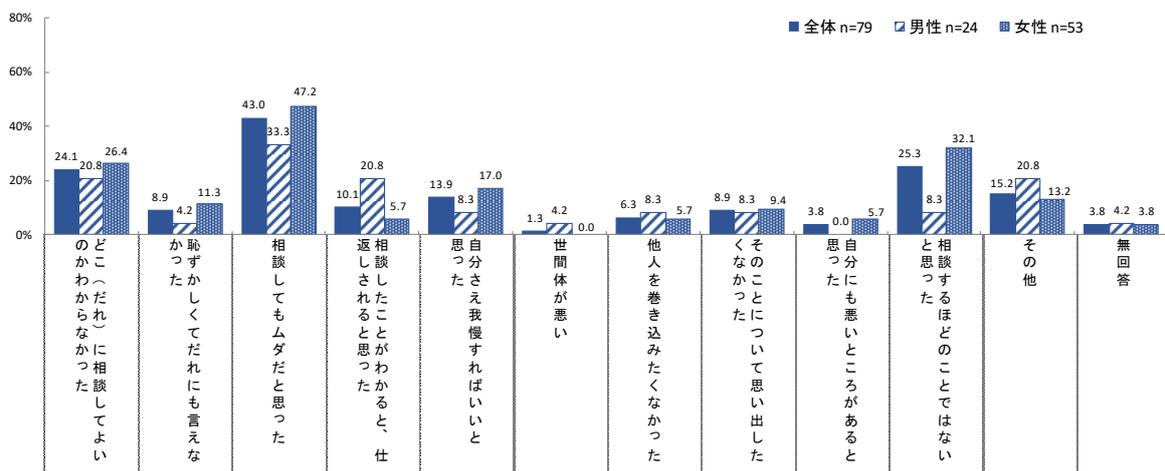
- ドメスティック・バイオレンスを受けて相談しなかった理由については、「相談してもムダだと思った」が 32.6%と最も多く、次いで「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった」が 29.1%、「相談するほどのことではないと思った」が 18.6%となっています。
- 性別で見ると、「相談してもムダだと思った」「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった」が男女とも上位2項目としてあげられています。また、「他人を巻き込みたくなかった」は、男性が女性を 12.0 ポイント上回っているのに対し、「相談するほどのことではないと思った」は、女性が男性を 10.3 ポイント上回っています。
- セクシュアル・ハラスメントを受けて相談しなかった理由については、「相談してもムダだと思った」が 43.0%と最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思った」が 25.3%、「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった」が 24.1%となっています。
- 性別で見ると、「相談してもムダだと思った」が男女ともに最も高くなっており、女性が男性を 13.9 ポイント上回っています。また、「相談したことがわかると、仕返しされると思った」は、男性が女性を 15.1 ポイント上回っているのに対し、「相談するほどのことではないと思った」は、女性が男性を 23.8 ポイント上回っています。

図表 41 相談しなかった理由

<DV>

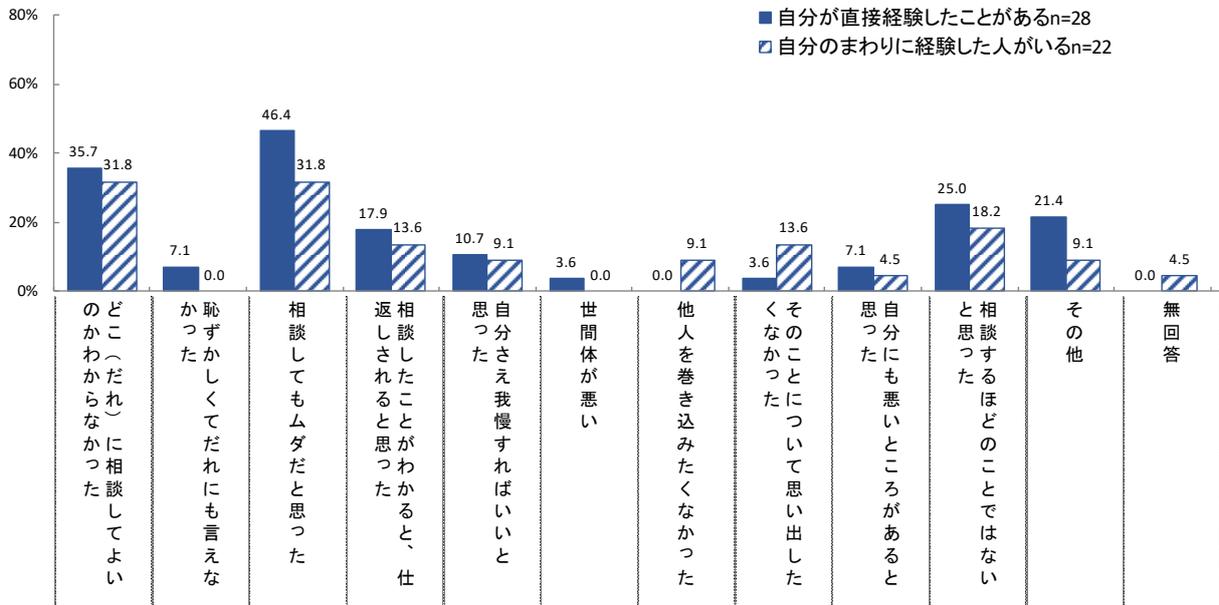


<セクハラ>



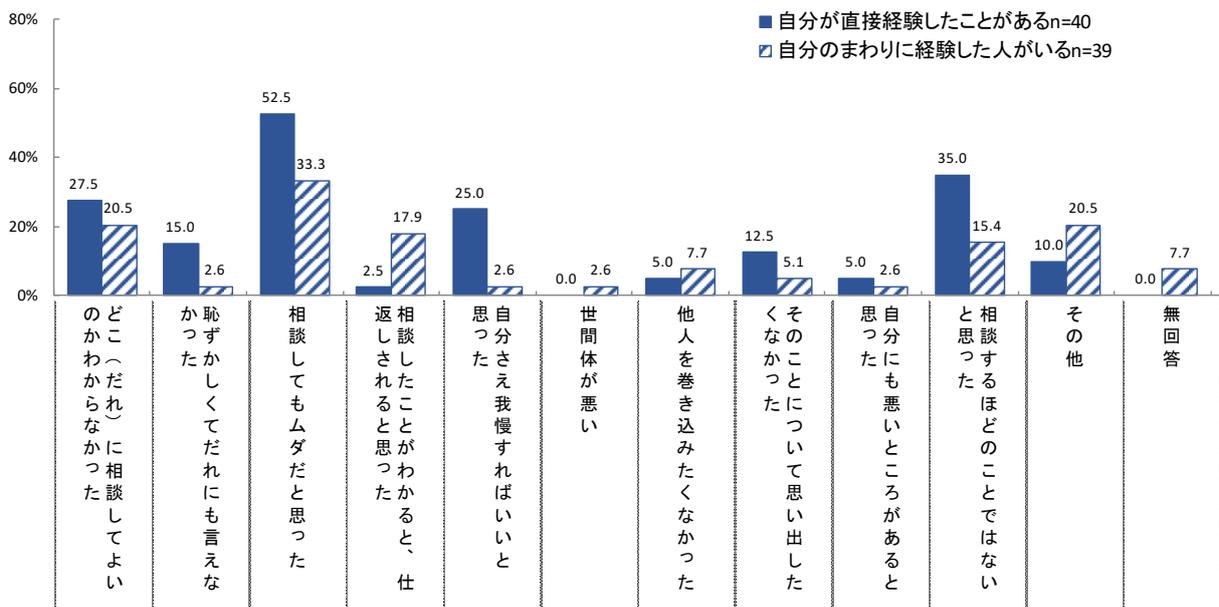
- DVの被害経験、まわりにいる経験者がいる人別で見ると、経験者では「相談してもムダだと思った」が最も多くなっています。また、自分のまわりに経験者がいる人では「どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった」「相談してもムダだと思った」の占める割合が高くなっています。

<DV>



- セクハラ被害経験、まわりにいる経験者がいる人別で見ると、経験に関係なく「相談してもムダだと思った」が最も多くなり、特に経験者ほど割合は高くなっています。

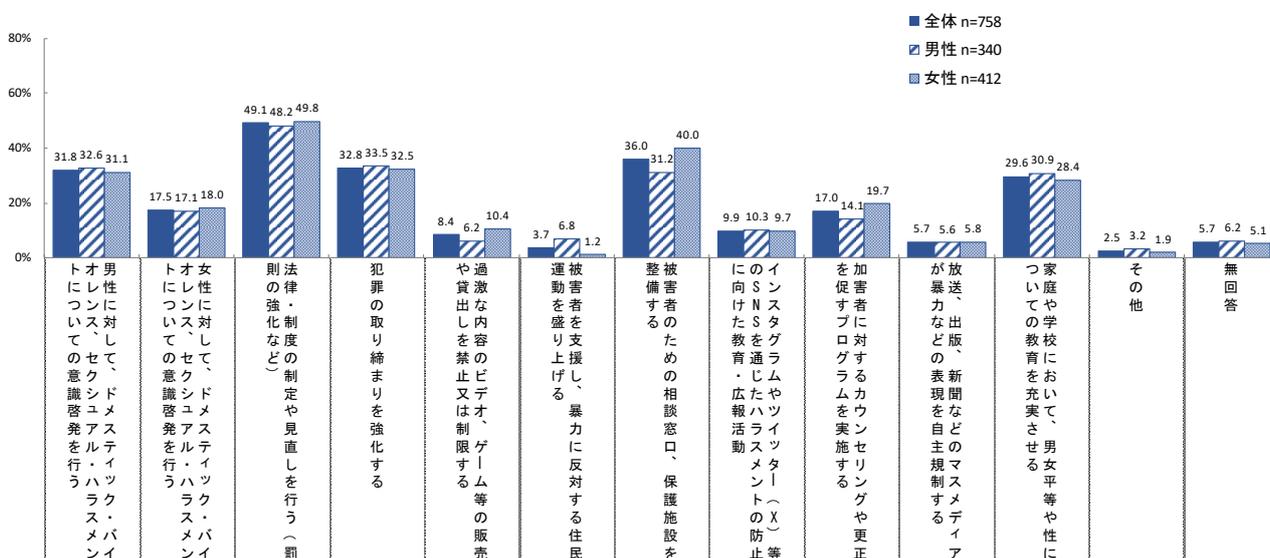
<セクハラ>



問 27 ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント等の行為をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

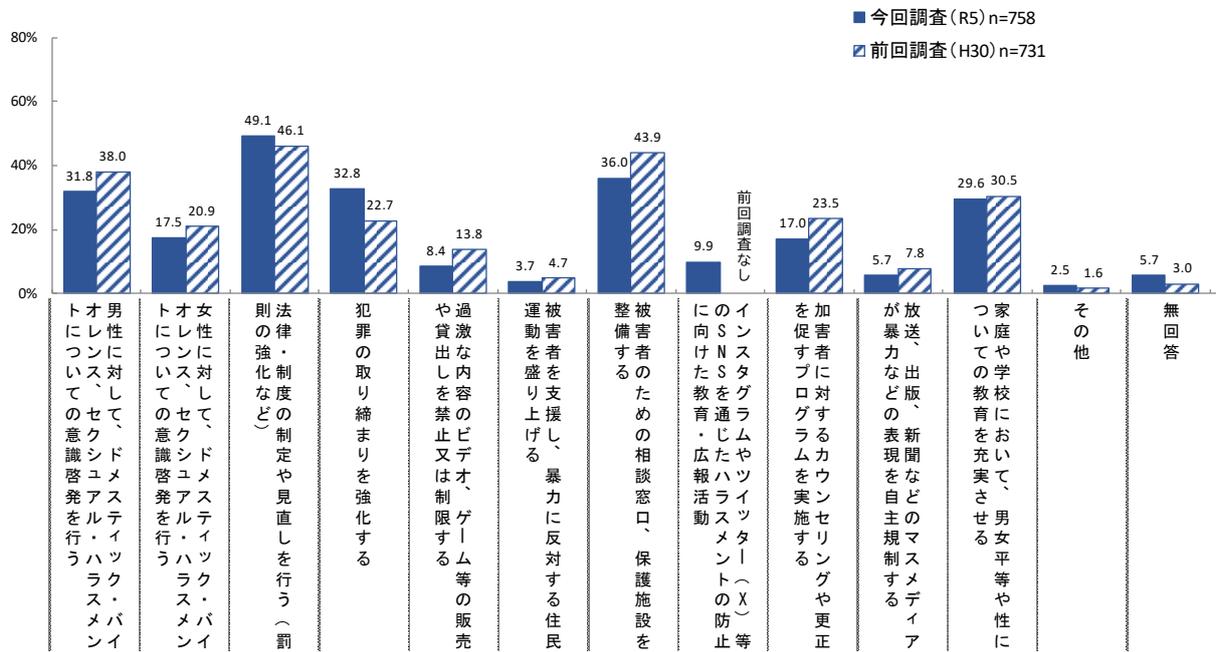
- ▶ DV、セクハラ等の行為をなくすためにすることについては、「法律・制度の制定や見直しを行う(罰則の強化など)」が49.1%と最も多く、次いで「被害者のための相談窓口、保護施設を整備する」が36.0%、「犯罪の取り締まりを強化する」が32.8%、「男性に対して、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントについての意識啓発を行う」が31.8%、「家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる」が29.6%となっています。
- ▶ 性別でみると、男女とも「法律・制度の制定や見直しを行う(罰則の強化など)」が最も高くなっています。また、「被害者のための相談窓口、保護施設を整備する」では8.8ポイント、女性が男性を上回っています。

図表 42 DV、セクハラ等の行為をなくすために必要なこと



➤ 前回調査と比較すると、「犯罪の取り締まりを強化する」は 10.1 ポイント増加しています。

<経年比較> <参考>



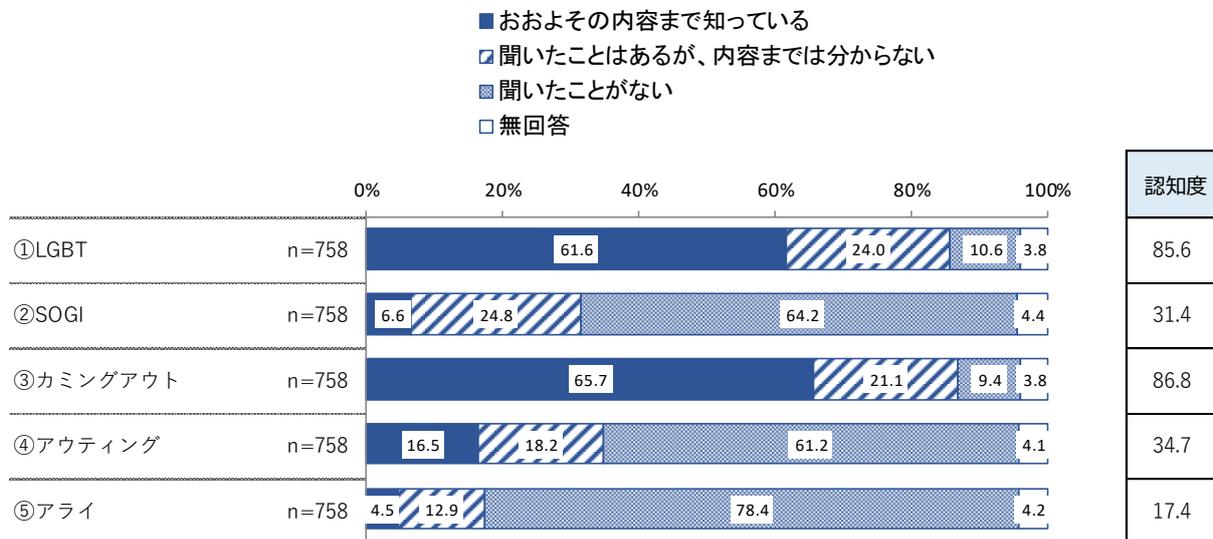
※前回調査（平成 30 年度）と選択肢が異なるため、参考値として記載

問 28 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。

(①～⑤についてそれぞれ○を1つ付けてください)

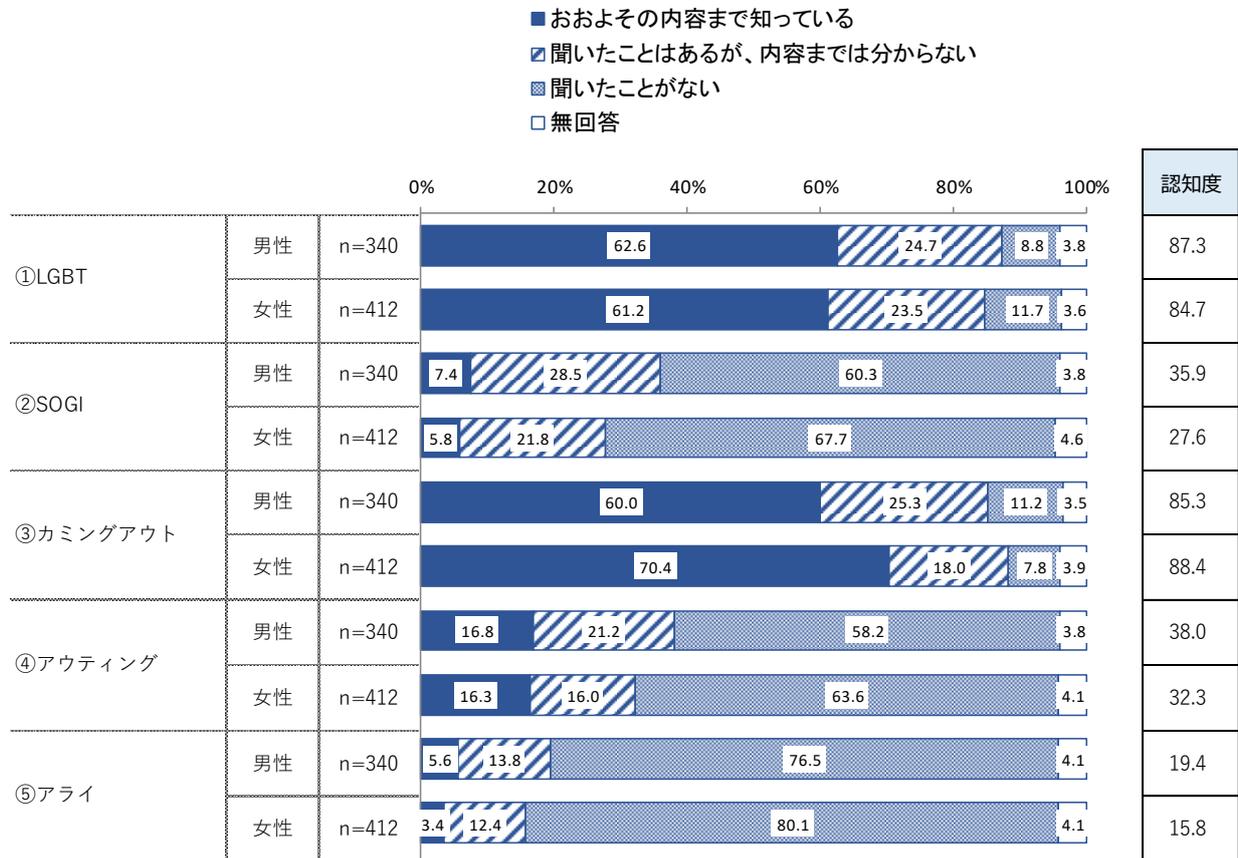
- ▶ 【①LGBT】については、「おおよその内容まで知っている」が 61.6%と最も多く、これに「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(24.0%)を合わせた、言葉の認知度は 85.6%となっています。一方で、「聞いたことがない」は 10.6%となっています。
- ▶ 【②SOGI】については、「聞いたことがない」が 64.2%と最も多くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(6.6%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(24.8%)を合わせた、言葉の認知度は 31.4%となっています。
- ▶ 【③カミングアウト】については、「おおよその内容まで知っている」が 65.7%と最も多く、これに「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(21.1%)を合わせた、言葉の認知度は 86.8%となっています。一方で、「聞いたことがない」は 9.4%となっています。
- ▶ 【④アウティング】については、「聞いたことがない」が 61.2%と最も多くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(16.5%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(18.2%)を合わせた、言葉の認知度は 34.7%となっています。
- ▶ 【⑤アライ】については、「聞いたことがない」が 78.4%と最も多くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(4.5%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(12.9%)を合わせた、言葉の認知度は 17.4%となっています。

図表 43 言葉の認知度



➤ 性別で見ると、【①LGBT】【③カミングアウト】の認知度は性別に関係なく、8割を超えており、【③カミングアウト】については、「おおよその内容まで知っている」の割合は女性の方が 10 ポイント程度高くなっています。一方で、その他の用語の認知度は3割以下となっています。

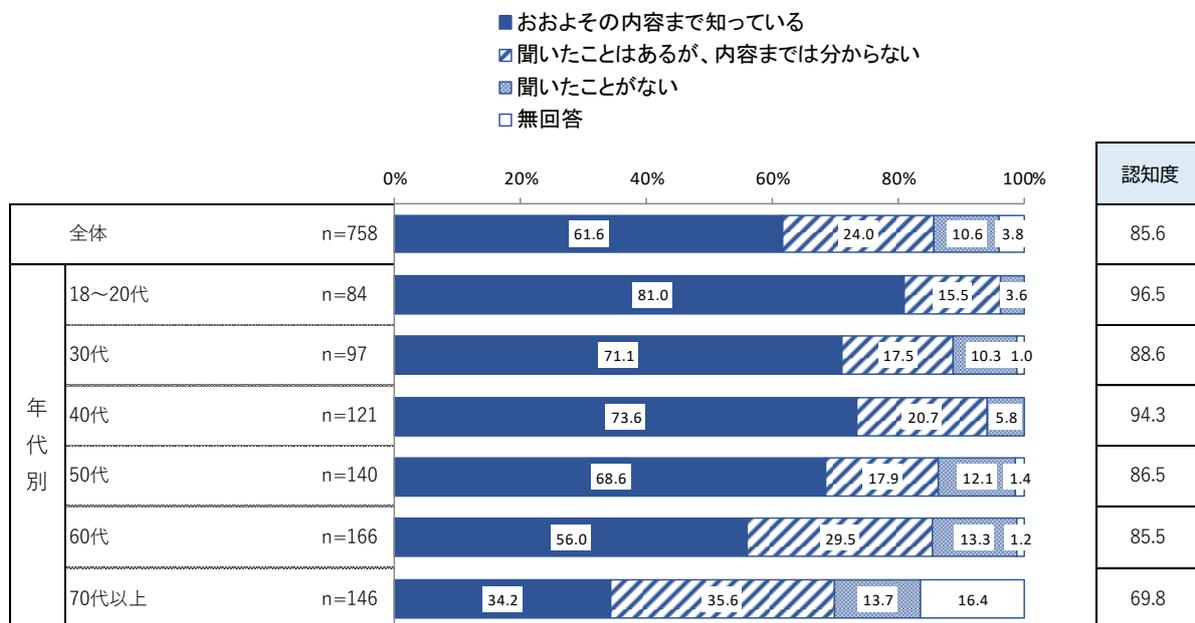
【性別】



① LGBT

➤ 年代別で見ると、18～20代で認知度が最も高く、その後年齢とともに認知度は下がる傾向にあります。

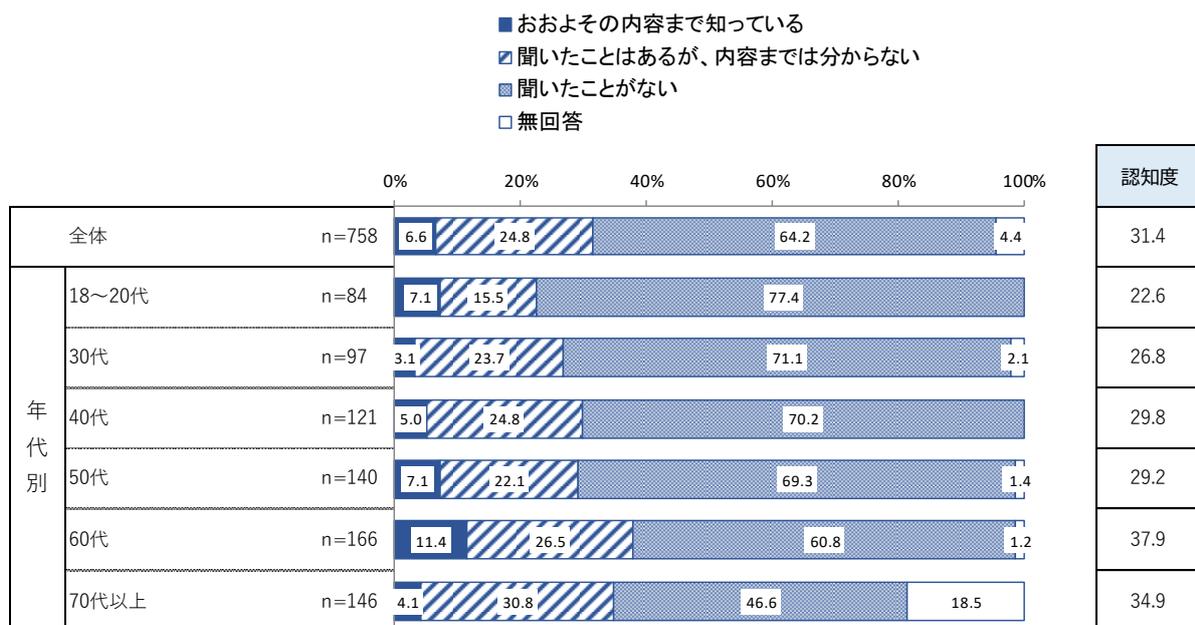
【年代別】



② SOGI

➤ 年代別にみると、年代に関係なく、認知度は低くなっています。

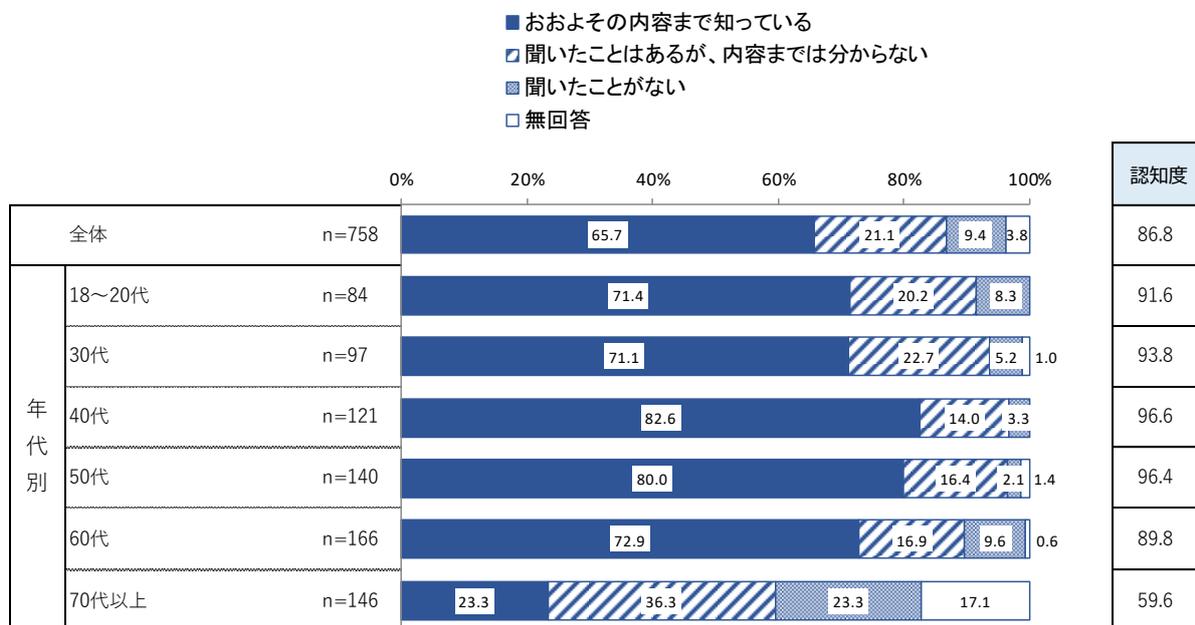
【年代別】



③カミングアウト

➤ 年代別で見ると 40～50 代で認知度は高く、「おおよその内容まで知っている」人は8割を超えています。

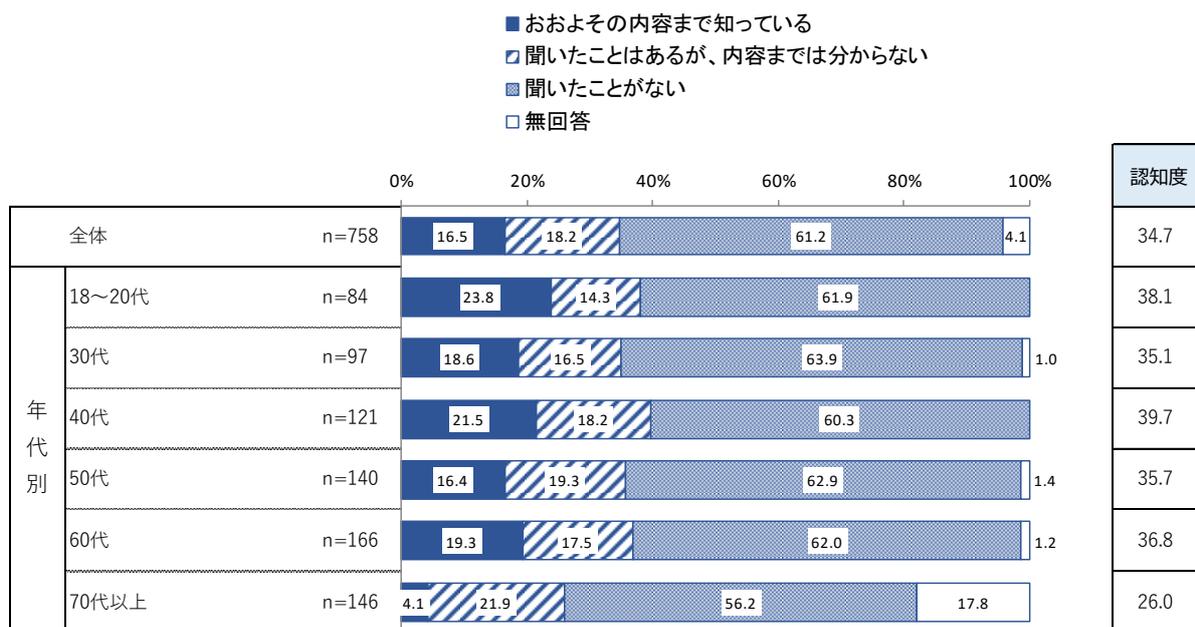
【年代別】



④アウトティング

➤ 年代別にみると、年代に関係なく、認知度は低いですが、特に 70 代以上で「おおよその内容まで知っている」割合は少なく、他の年代の半数以下となっています。

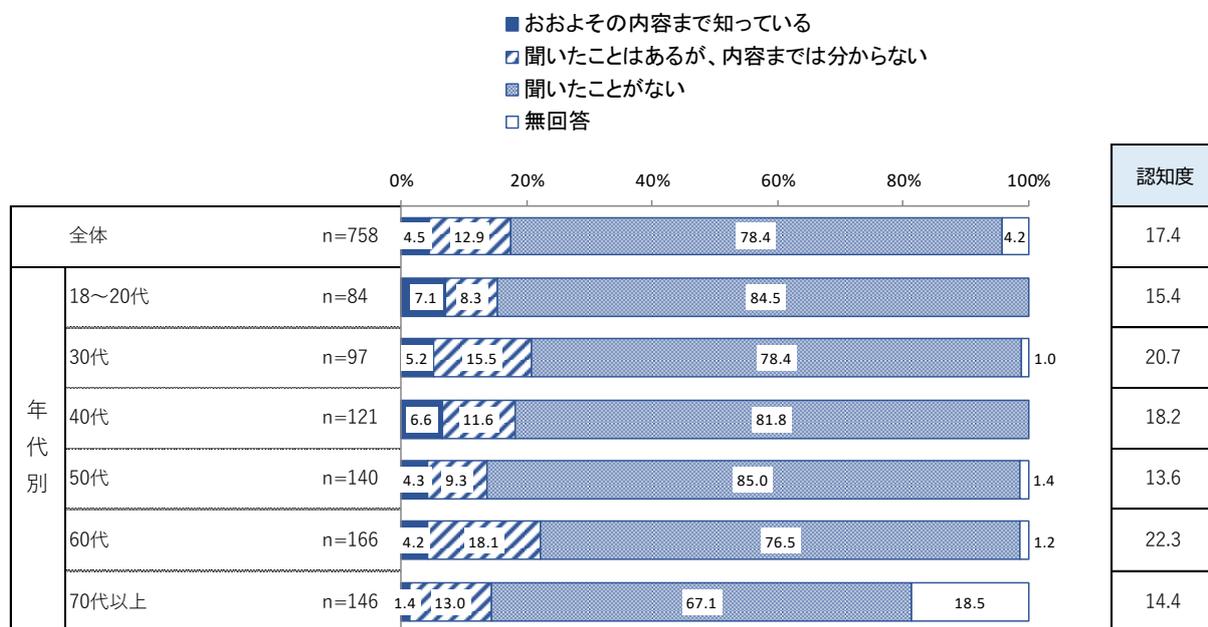
【年代別】



⑤アライ

➤ 年代別にみると、年代に関係なく、認知度は低くなっています。

【年代別】

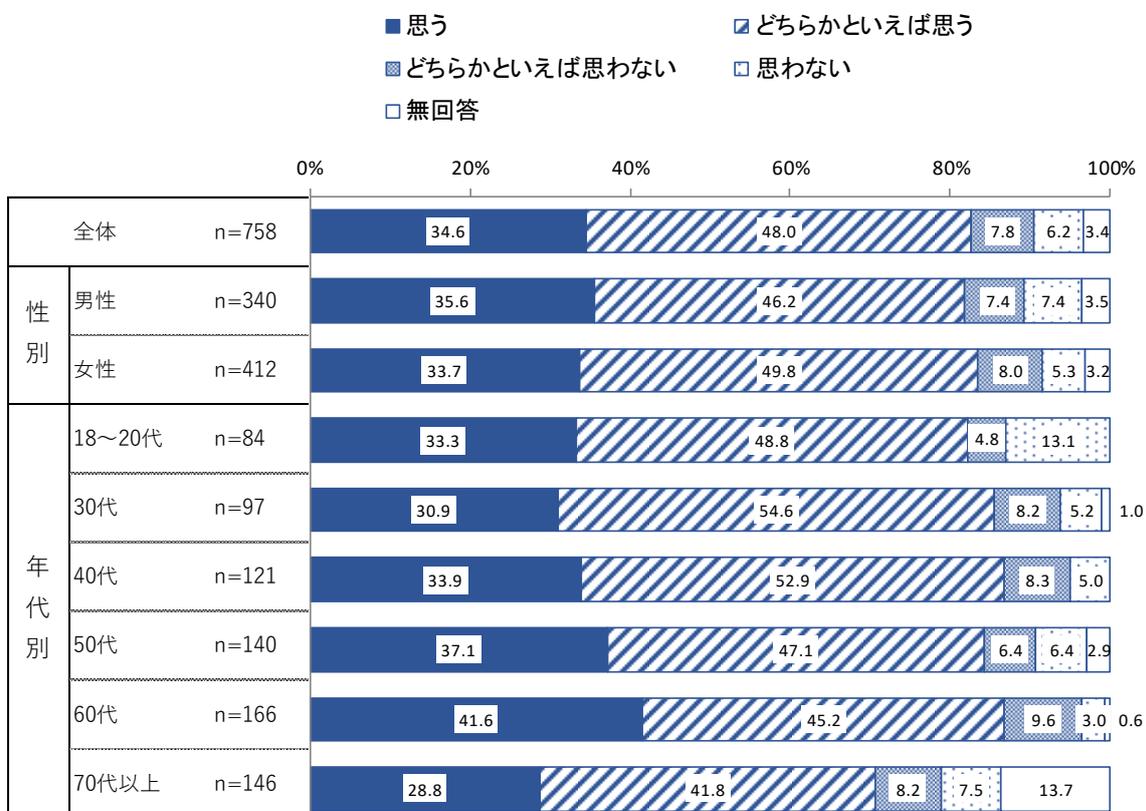


問 29 一般的に、性的少数者（LGBT等）の方々に対して、偏見や差別などがあると思いますか。
 (○は1つだけ)

- ▶ 性的少数者の方々に対する偏見や差別の有無については、「どちらかといえば思う」が 48.0%と最も多く、次いで「思う」が 34.6%となっており、これらを合わせた、“偏見や差別があると感じている人”が8割強を占めています。
- ▶ 性別で見ると、“偏見や差別があると感じている人”は男女とも8割を超えています。
- ▶ 年代別で見ると、“偏見や差別があると感じている人”は、70代以上で約7割と低いものの、その他の年代では8割を超えています。

図表 44 性的少数者の方々に対する偏見や差別の有無

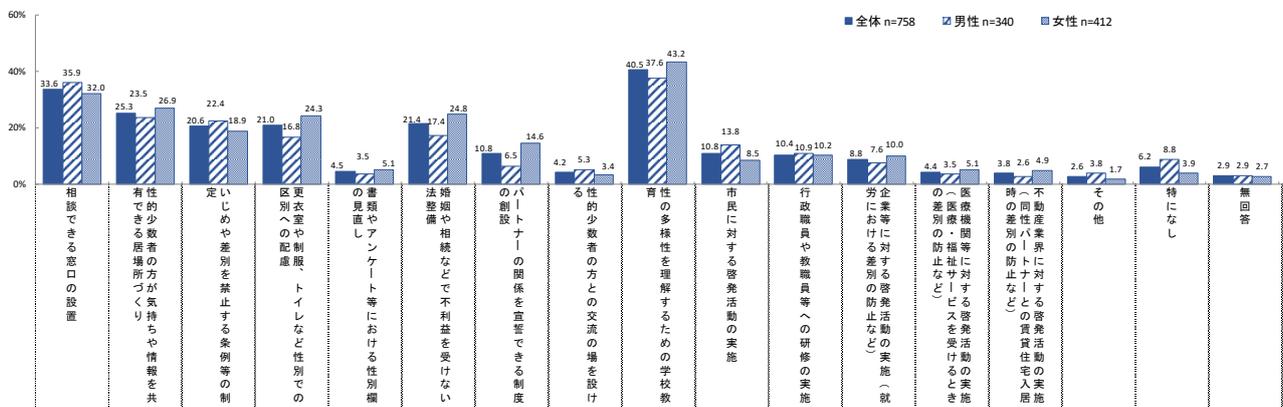
<全体・性別・年代別>



問 30 性的少数者（LGBT等）の方々に対する差別や偏見をなくし、生活しやすい社会をつくるためにはどのような取組が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ▶ 性的少数者の方々に対する差別や偏見をなくし、生活しやすい社会をつくるために必要な取組みについては、「性の多様性を理解するための学校教育」が 40.5%と最も多く、次いで「相談できる窓口の設置」が 33.6%、「性的少数者の方が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が 25.3%、「婚姻や相続などで不利益を受けない法整備」が 21.4%、「更衣室や制服、トイレなど性別での区別への配慮」が 21.0%、「いじめや差別を禁止する条例等の制定」が 20.6%となっています。
- ▶ 性別で見ると、「性の多様性を理解するための学校教育」が男女ともに最も高くなっています。また、「パートナーの関係を宣誓できる制度の創設」「更衣室や制服、トイレなど性別での区別への配慮」「婚姻や相続などで不利益を受けない法整備」などでは、女性が男性を上回っています。

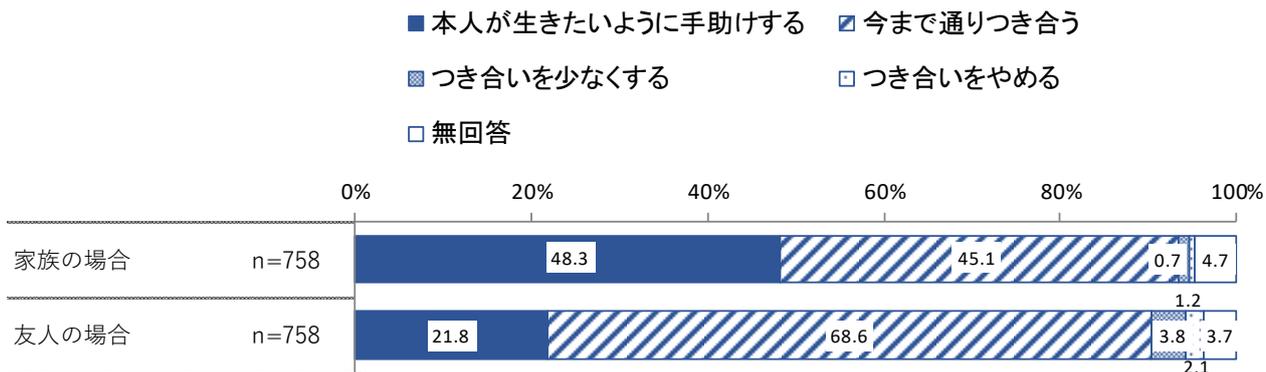
図表 45 性的少数者の方々が生活しやすい社会をつくるために必要な取組み



問 31 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBT）であることを打ち明けられたらどうしますか。（○はそれぞれ1つ）

- ▶ 家族から性的少数者であることを打ち明けられたときについては、「本人が生きたいように手助けする」が48.3%と最も多く、次いで「今まで通りつき合う」が45.1%となっています。
- ▶ 友人から性的少数者であることを打ち明けられたときについては、「今まで通りつき合う」が68.6%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が21.8%となっています。

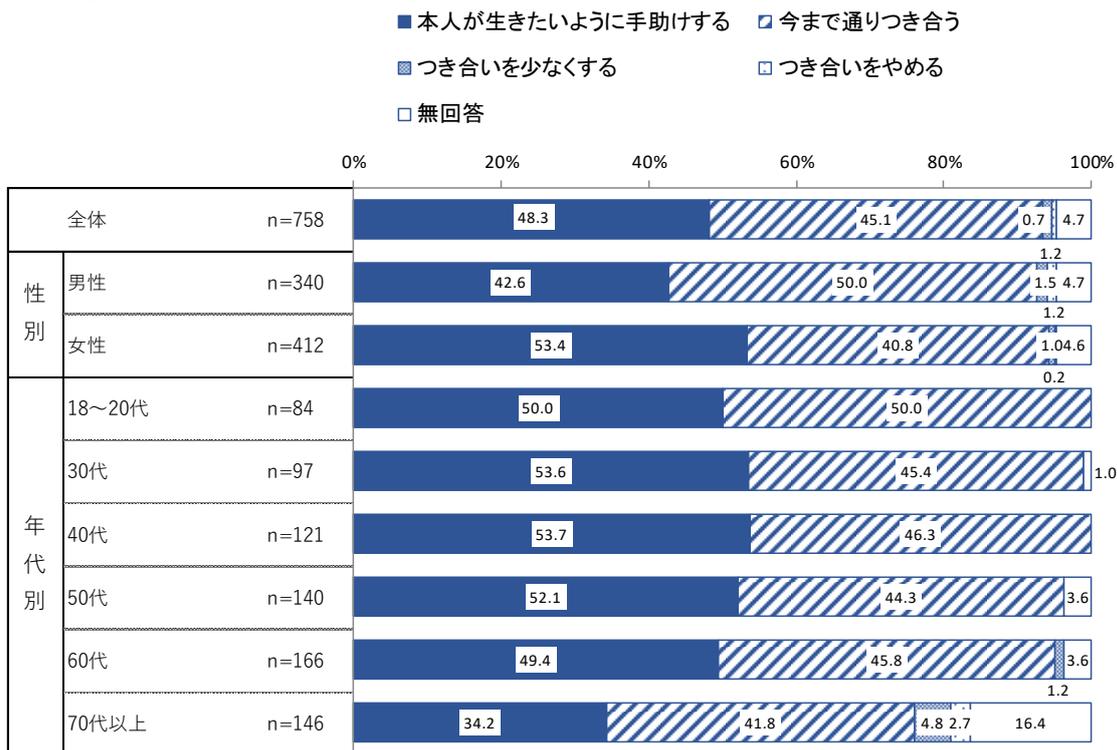
図表 46 身近な人から性的少数者であることを打ち明けられたときの対応



【家族の場合】

- ▶ 性別で見ると、「本人が生きたいように手助けする」では10.8ポイント、女性が男性を上回っているのに対し、「今まで通りつき合う」では9.2ポイント、男性が女性を上回っています。
- ▶ 年代別で見ると、「本人が生きたいように手助けする」は18～50代で5割を超えています。

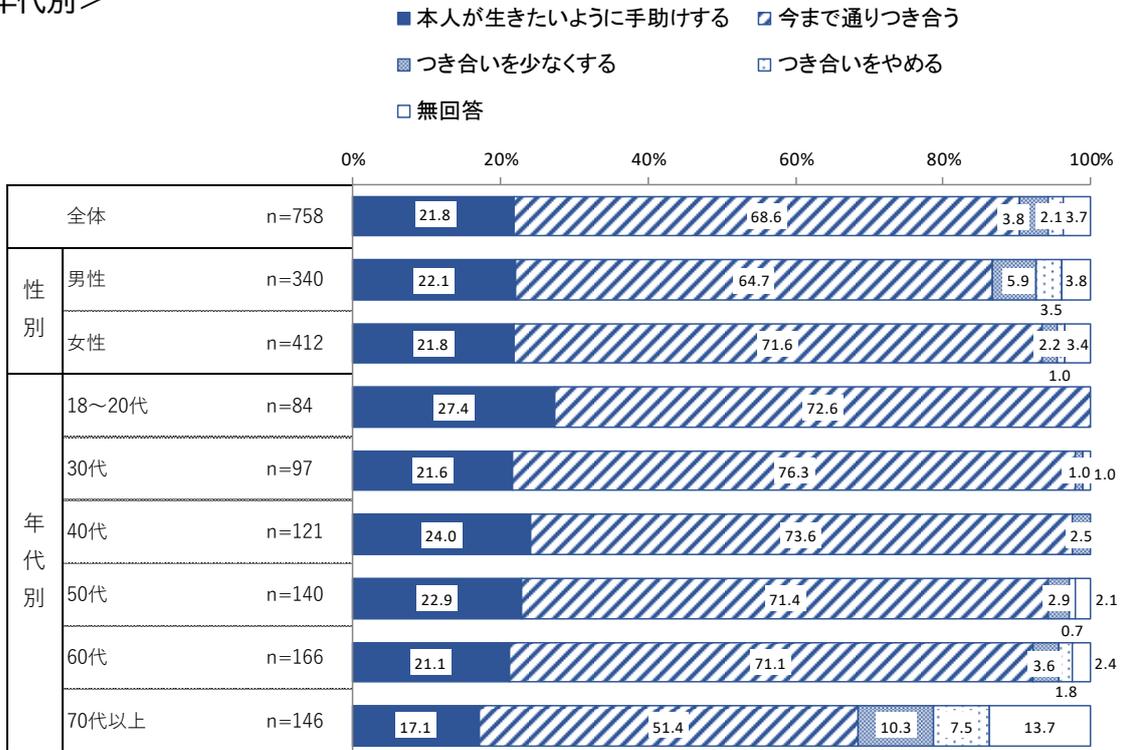
<性・年代別>



【友人の場合】

- 性別で見ると、「今まで通りつき合う」では 6.9 ポイント、女性が男性を上回っています。
- 年代別で見ると、「本人が生きたいように手助けする」は 18～20 代で3割弱となっており、それ以降、年代とともに割合は減少傾向にあります。

<性・年代別>

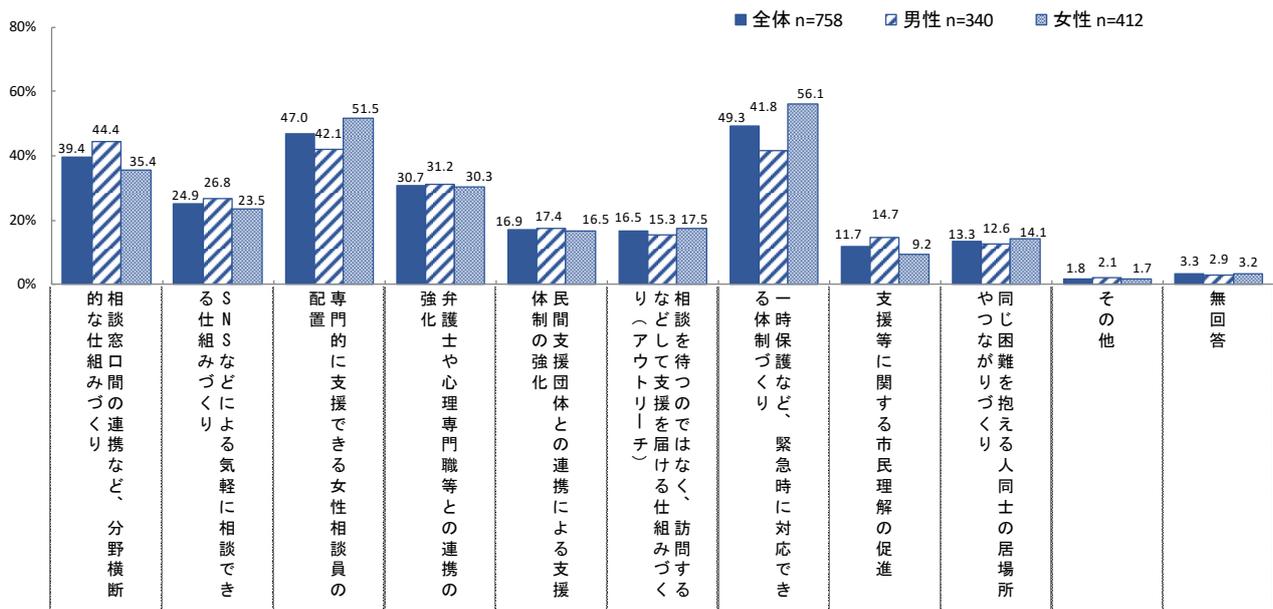


7 困難を抱える女性への支援について

問 32 貧困やDV、性暴力などに直面する女性への自立に向けて公的支援を強化していくため、令和4年5月に、「困難を抱える女性への支援に関する法律」が成立しました。このことについてあなたが特に各務原市で取り組む必要があると思うものを教えてください。(〇は3つまで)

- 困難を抱える女性への支援として、各務原市で取り組む必要があると思うものについては、「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が49.3%と最も多く、次いで「専門的に支援できる女性相談員の配置」が47.0%、「相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり」が39.4%、「弁護士や心理専門職等との連携の強化」が30.7%となっています。
- 性別で見ると、男性では「相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり」、女性では「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が最も高くなっています。また、「相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり」「支援等に関する市民理解の促進」などで女性に比べ男性の割合が高くなっているのに対し、「専門的に支援できる女性相談員の配置」「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」などでは、女性が男性を上回っています。

図表 47 困難を抱える女性への支援として、各務原市で取り組む必要があるもの



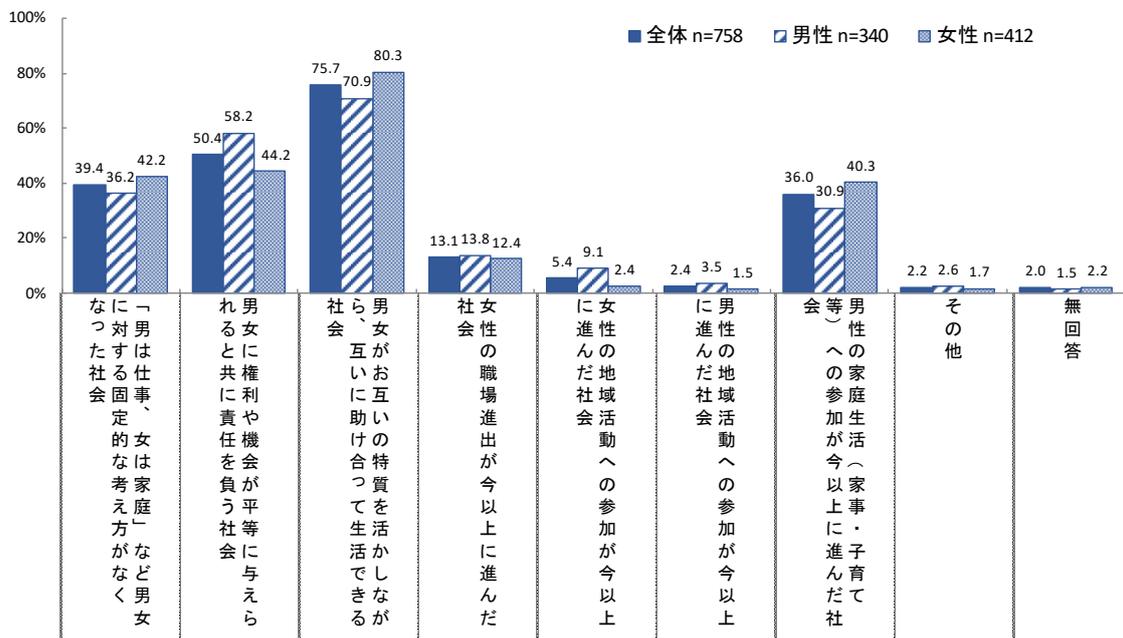
8 「男女共同参画社会」について

問 33 あなたは「男女共同参画社会」を特にどんな社会であって欲しいと思いますか。

(〇は3つまで)

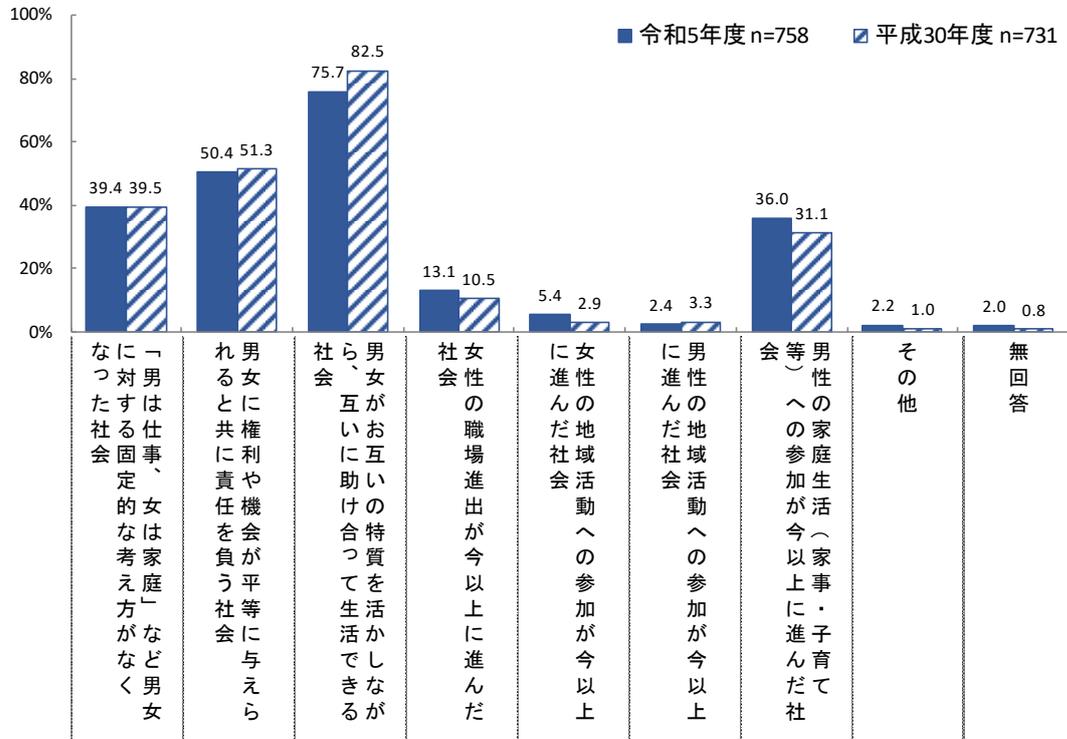
- 「男女共同参画社会」がどんな社会であってほしいかについては、「男女がお互いの特質を活かしながら、互いに助け合って生活できる社会」が 75.7%と最も多く、次いで「男女に権利や機会が平等に与えられると共に責任を負う社会」が 50.4%、「男は仕事、女は家庭」など男女に対する固定的な考え方がなくなった社会」が 39.4%、「男性の家庭生活(家事・子育て等)への参加が今以上に進んだ社会」が 36.0%となっています。
- 性別でみると、「男女がお互いの特質を活かしながら、互いに助け合って生活できる社会」が男女ともに最も高くなっています。また、「男女に権利や機会が平等に与えられると共に責任を負う社会」では、男性が女性より 14.0 ポイント高くなっているのに対し、「男女がお互いの特質を活かしながら、互いに助け合って生活できる社会」「男性の家庭生活(家事・子育て等)への参加が今以上に進んだ社会」では、女性が男性を 9.4 ポイント上回っています。

図表 48 「男女共同参画社会」がどんな社会であってほしいかについて



➤ 前回調査と比較してみると、「男女がお互いの特質を活かしながら、互いに助け合って生活できる社会」が最も高くなっているものの、割合は6.8ポイント減少しています。

<経年比較>

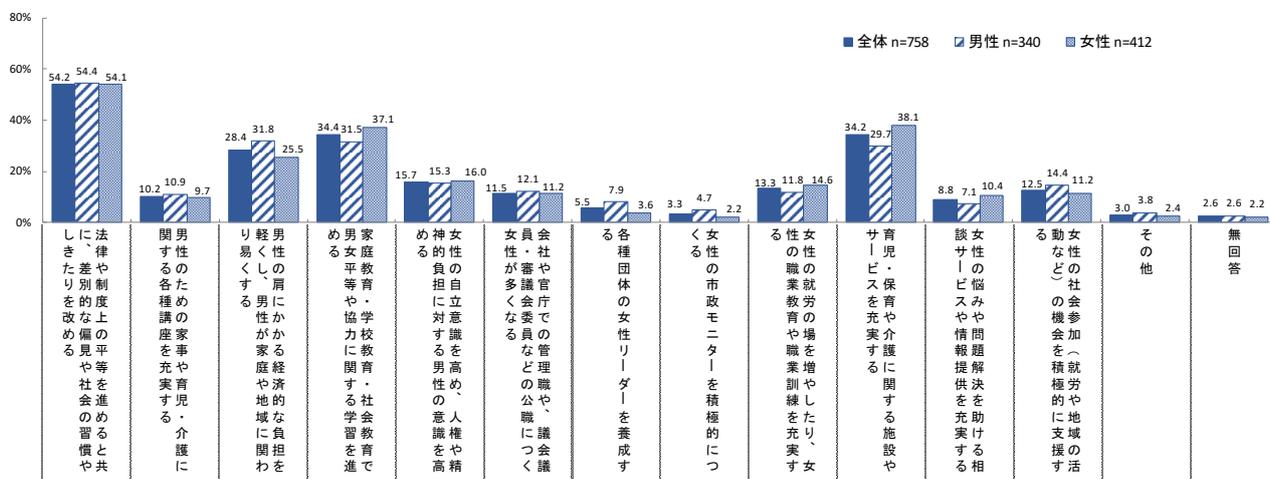


問 34 「男女共同参画社会」を実現するために、あなたが特に必要だと思うことは何ですか。

(○は3つまで)

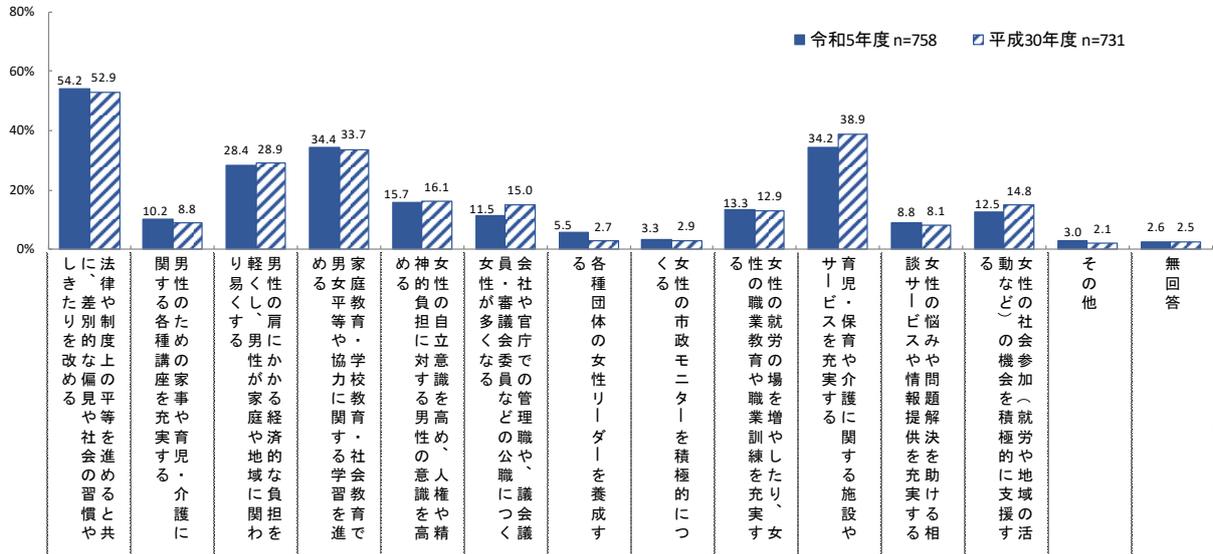
- ▶ 「男女共同参画社会」を実現するために必要だと思うことについては、「法律や制度上の平等を進めると共に、差別的な偏見や社会の習慣やしきたりを改める」が 54.2%と最も多く、次いで「家庭教育・学校教育・社会教育で男女平等や協力に関する学習を進める」が 34.4%、「育児・保育や介護に関する施設やサービスを充実する」が 34.2%、「男性の肩にかかる経済的な負担を軽くし、男性が家庭や地域に関わり易くする」が 28.4%となっています。
- ▶ 性別でみると、「法律や制度上の平等を進めると共に、差別的な偏見や社会の習慣やしきたりを改める」が男女ともに最も高くなっています。また、「育児・保育や介護に関する施設やサービスを充実する」は、男性で 29.7%、女性で 38.1%と、女性が 8.4 ポイント上回っています。

図表 49 「男女共同参画社会」を実現するために必要だと思うこと



➤ 前回調査と比較してみると、「法律や制度上の平等を進めると共に、差別的な偏見や社会の習慣やしきたりを改める」が半数以上を占めており、特に大きな変化はみられません。

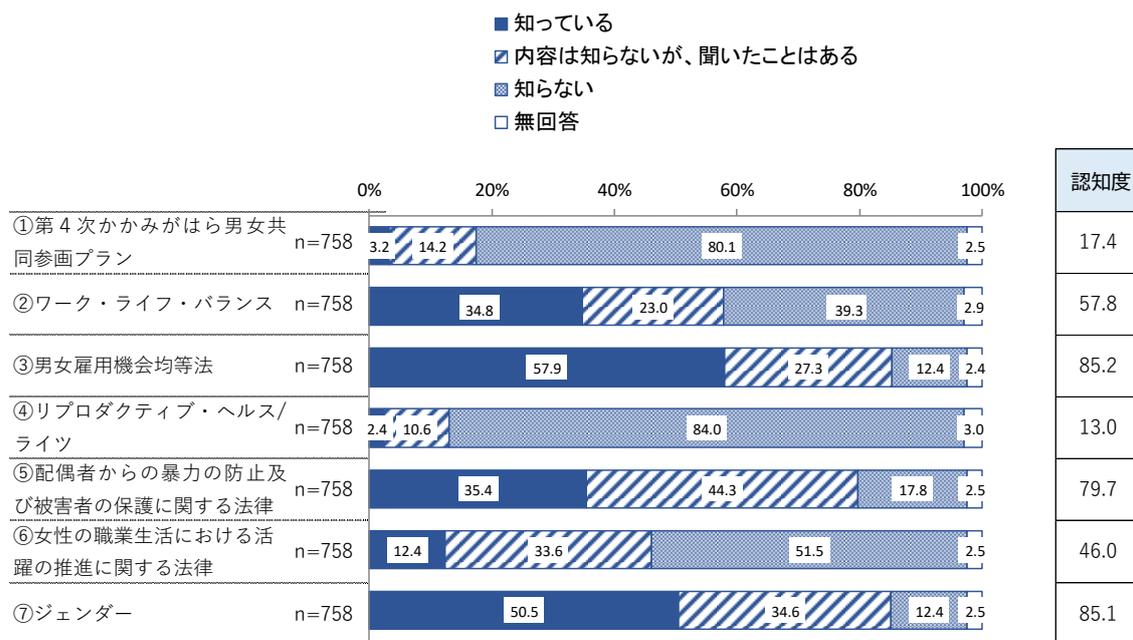
<経年比較>



問 35 あなたは次の用語についてご存知ですか。(それぞれ〇は1つだけ)

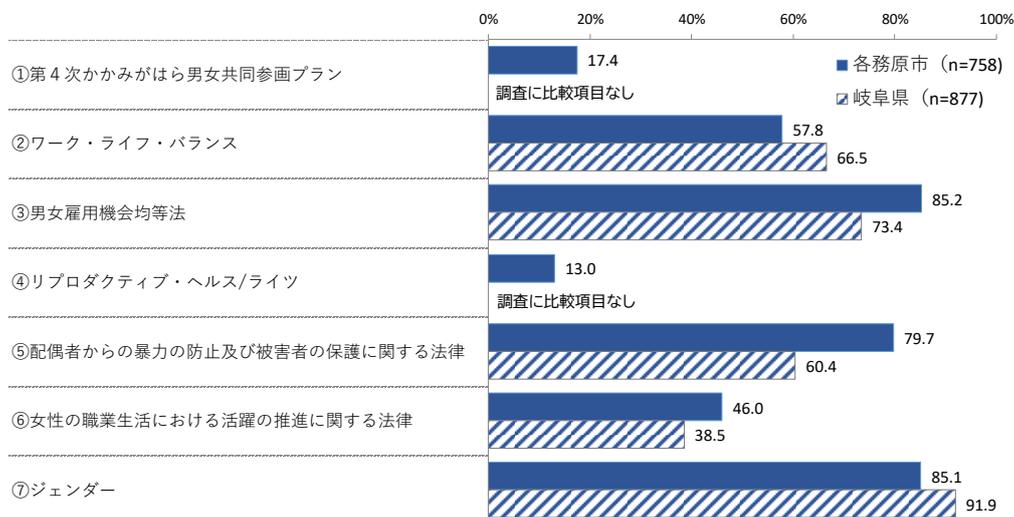
- 男女共同参画に関する言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、【③男女雇用機会均等法】は 85.2%、【⑦ジェンダー】は 85.1%、【⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律】は 79.7%の人が認知しており、認知度が高くなっています。一方で、【④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】【①第4次かかみがはら男女共同参画プラン】などは1割台となっています。

図表 50 男女共同参画に関する言葉の認知度



- 県の調査と比較すると、【③男女雇用機会均等法】【⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律】と回答した人は、10ポイント以上上回っています。

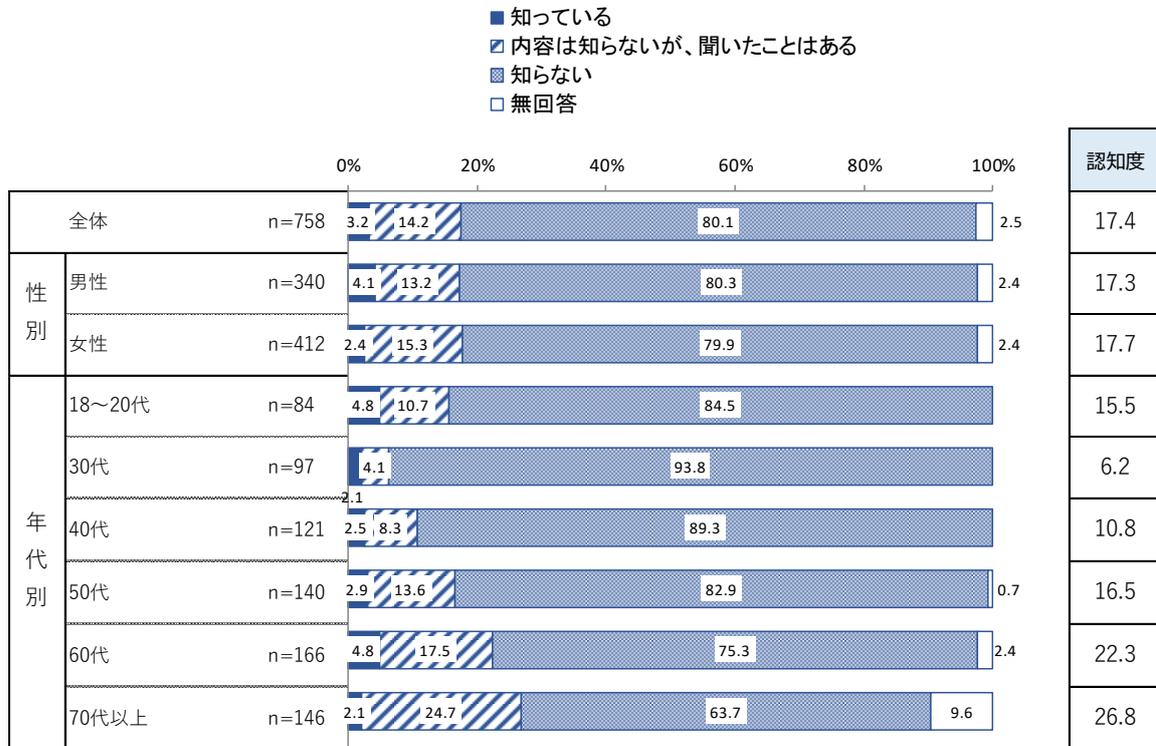
<岐阜県との比較> ※「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」のみ



【① 第4次かかみがはら男女共同参画プラン】

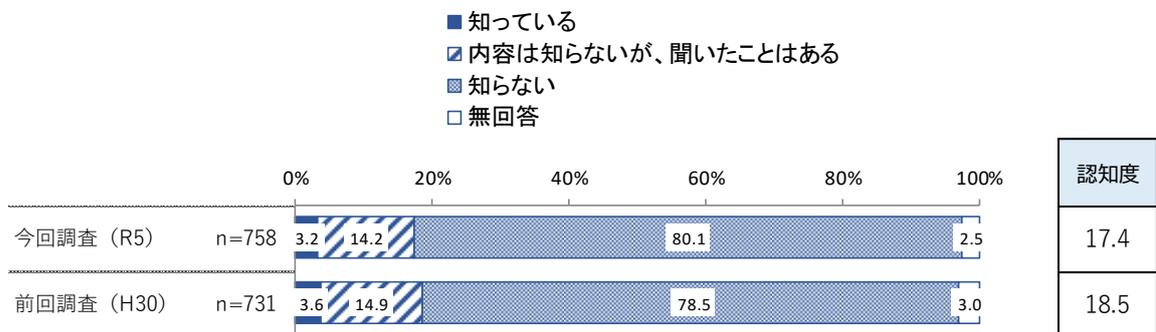
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男女とも2割弱となっています。
- 年代別で見ると、言葉の認知度は60代以上で2割を超えています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、特に大きな変化はみられません。

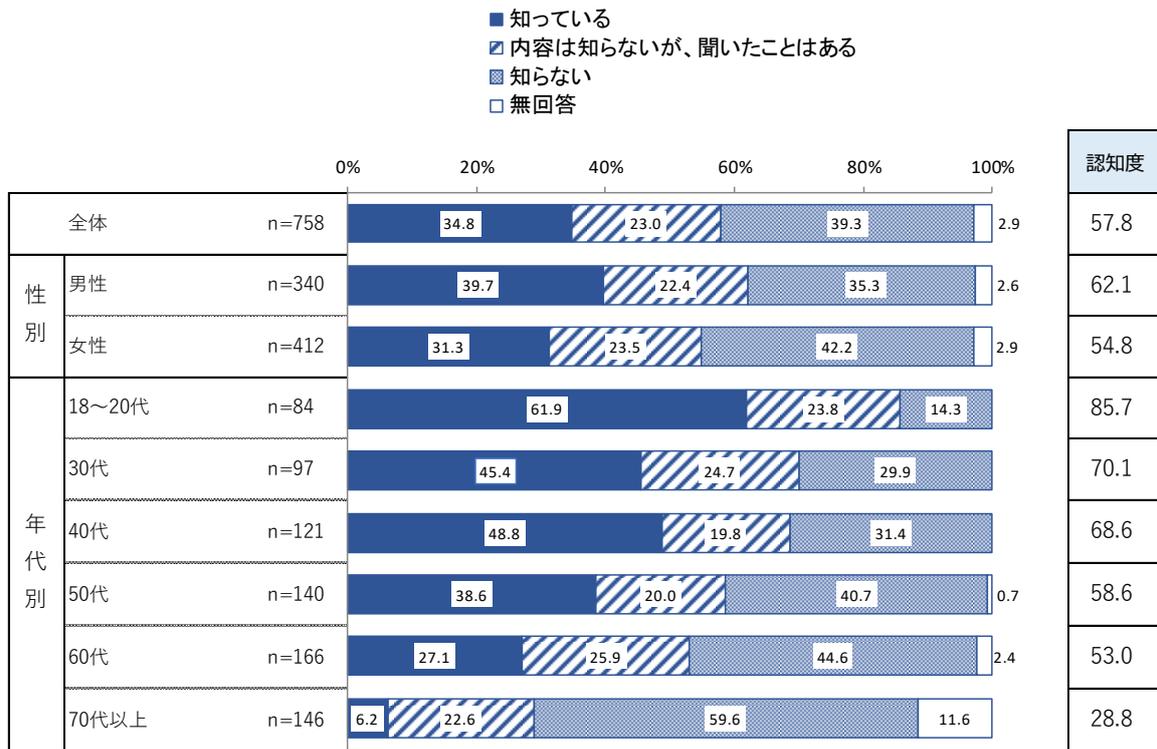
<経年比較>



【② ワーク・ライフ・バランス】

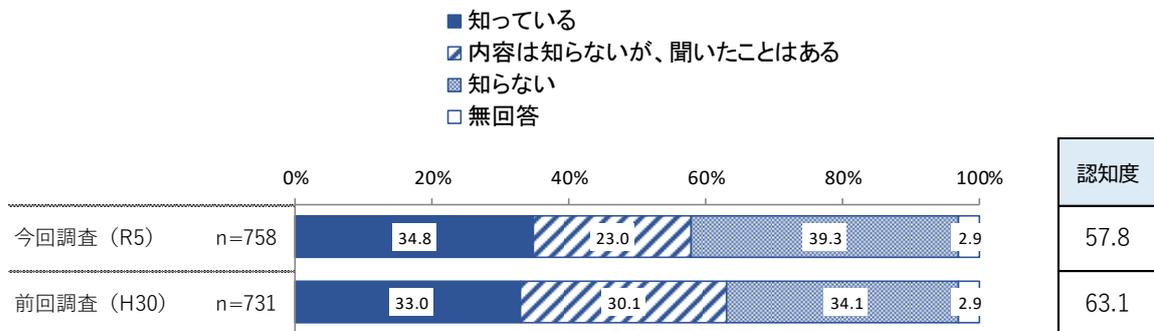
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男性が62.1%、女性が54.8%と、男性が7.3ポイント上回っています。
- 年代別で見ると、言葉の認知度は18～30代で7割を超え、それ以降、年代とともに認知度は低くなっています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、前回調査の63.1%から5.3ポイント減少しています。

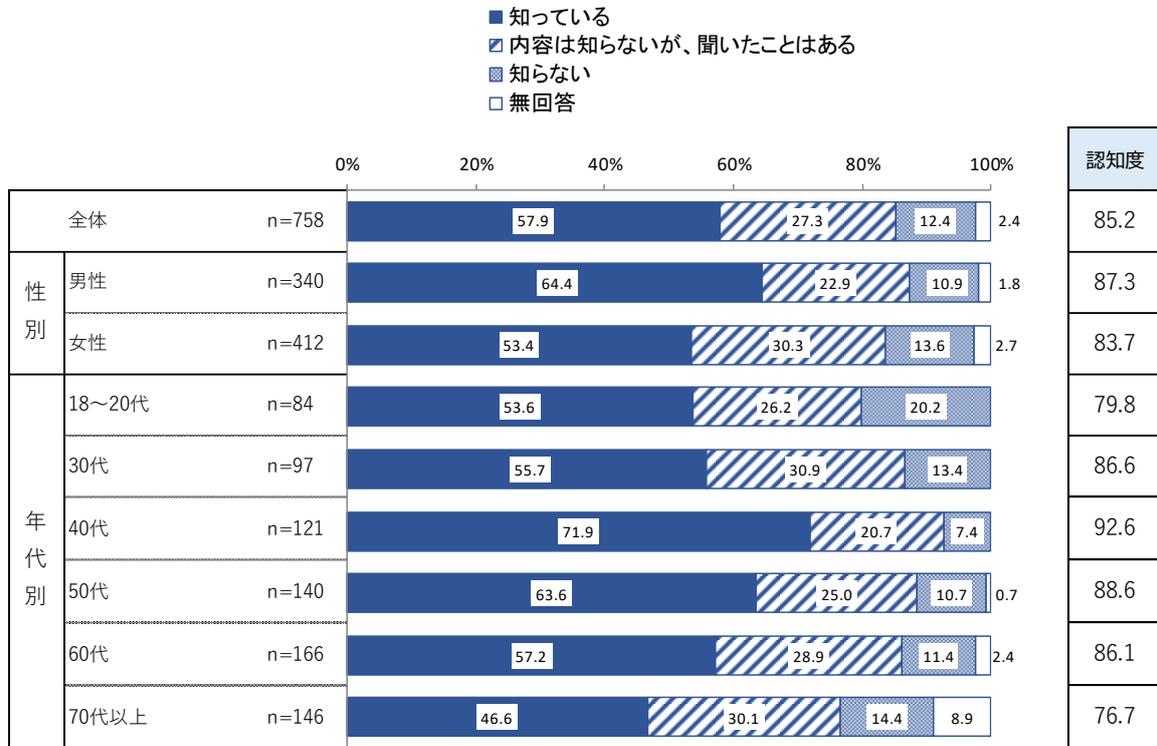
<経年比較>



【③ 男女雇用機会均等法】

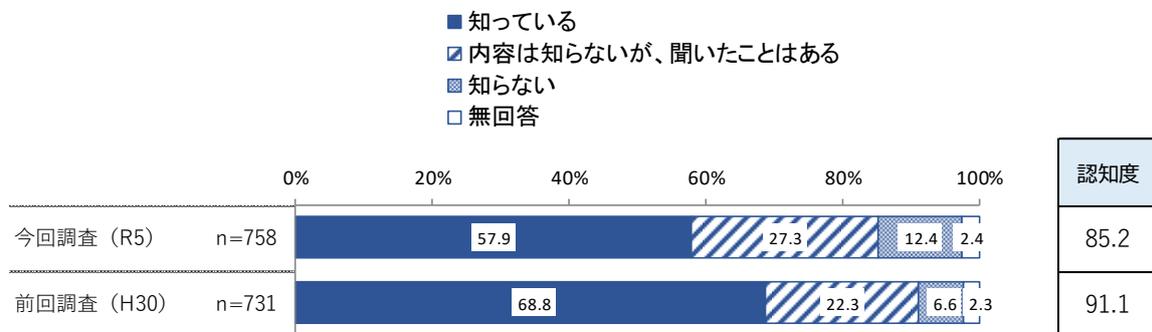
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男女とも8割を超え高くなっています。
- 年代別で見ると、言葉の認知度はいずれの年代においても7割を超え高くなっています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、前回調査の 91.1% から 5.9 ポイント減少しています。

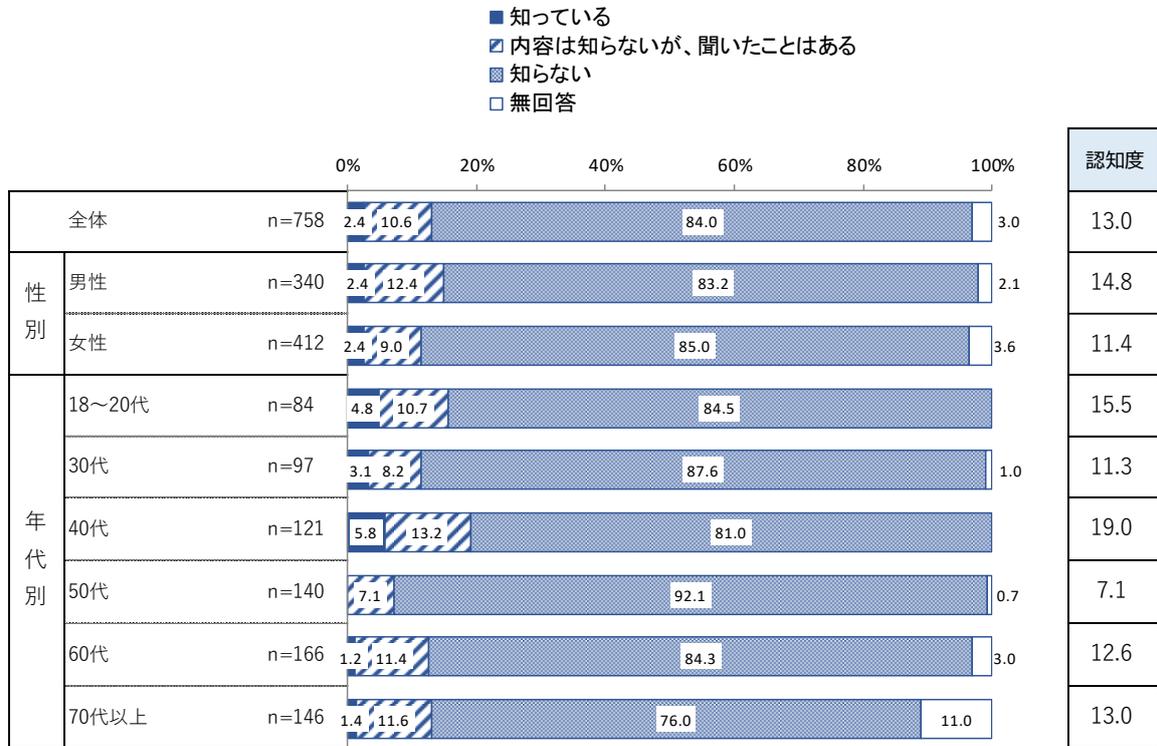
<経年比較>



【④ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】

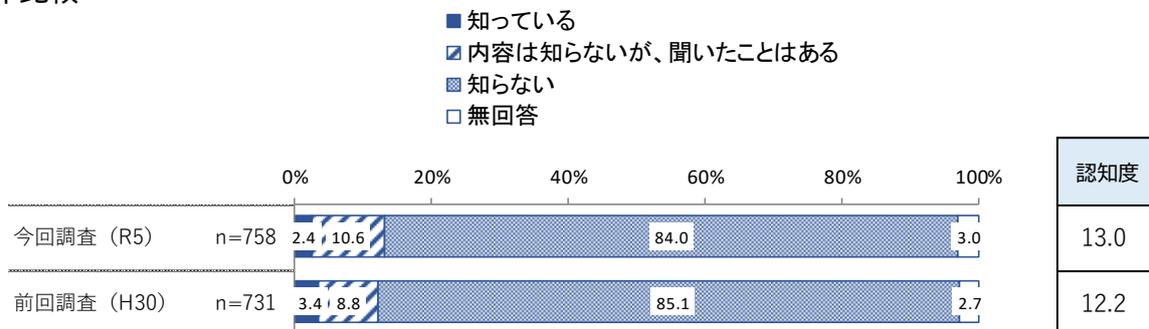
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男女とも1割程度となっています。
- 年代別で見ると、言葉の認知度はいずれの年代においても1割台と低くなっています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、大きな変化はみられません。

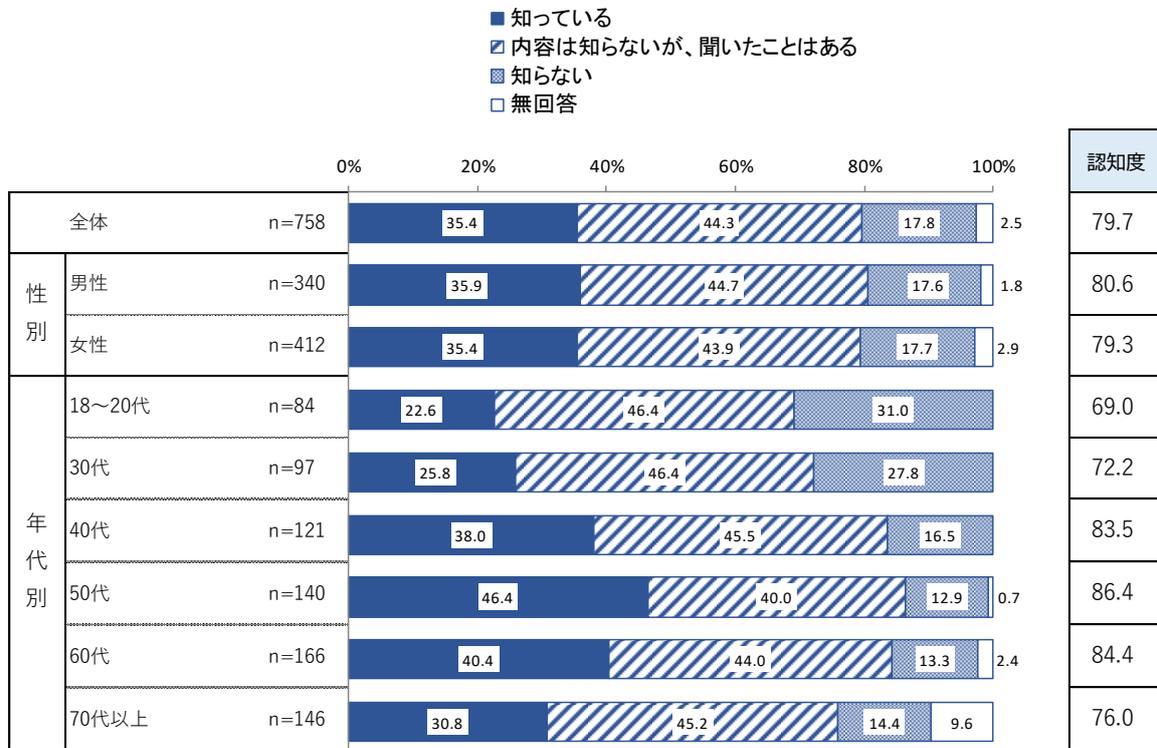
<経年比較>



【⑤ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律】

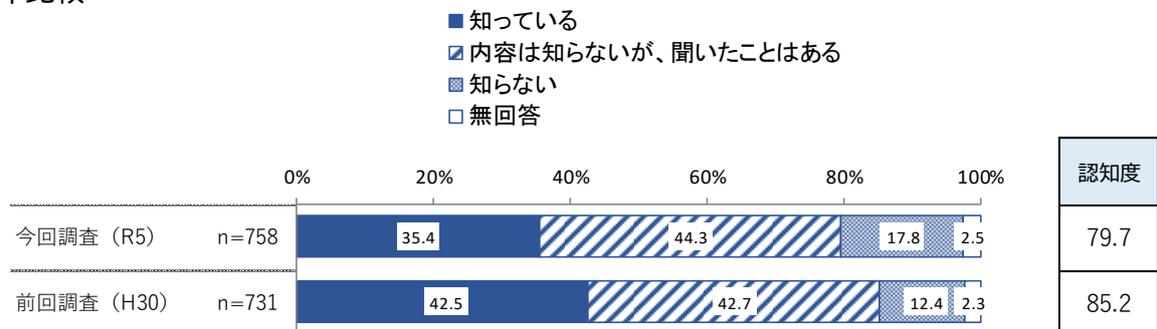
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男女とも約8割と高くなっています。
- 年代別で見ると、言葉の認知度はいずれの年代においても7割程度と高くなっています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、前回調査の85.2%から5.5ポイント減少しています。

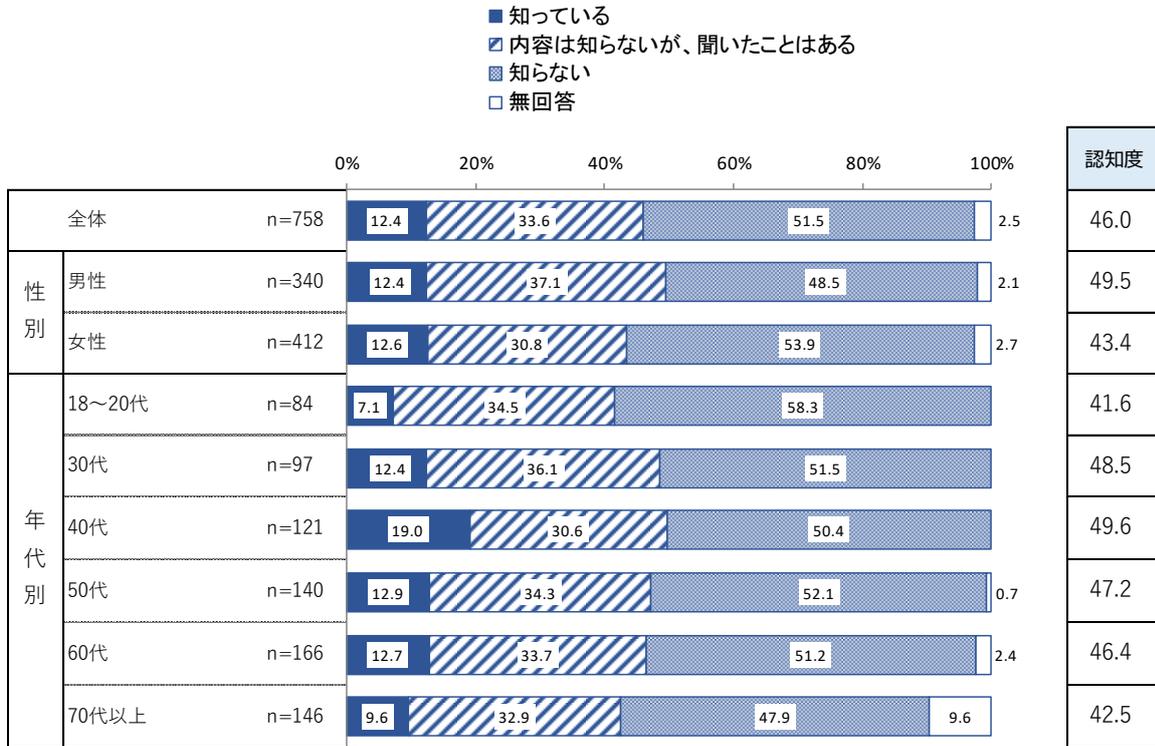
<経年比較>



【⑥ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律】

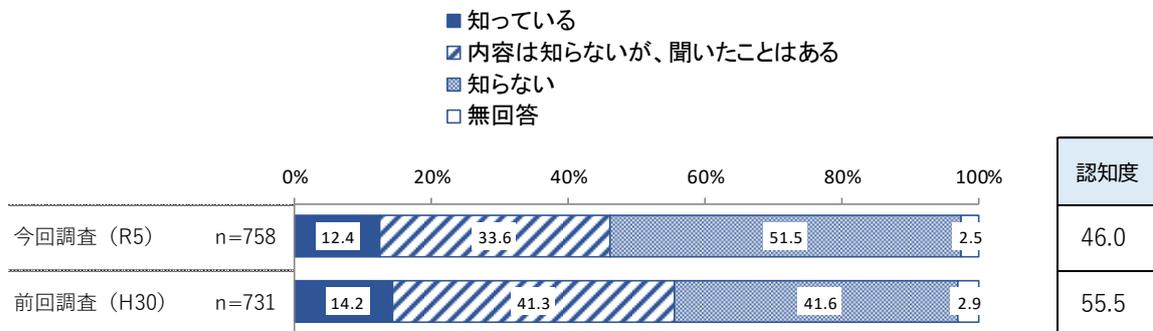
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男性が49.5%、女性が43.4%となっています。
- 年代別で見ると、言葉の認知度は、いずれの年代においても4割台となっています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、前回調査の55.5%から9.5ポイント減少しています。

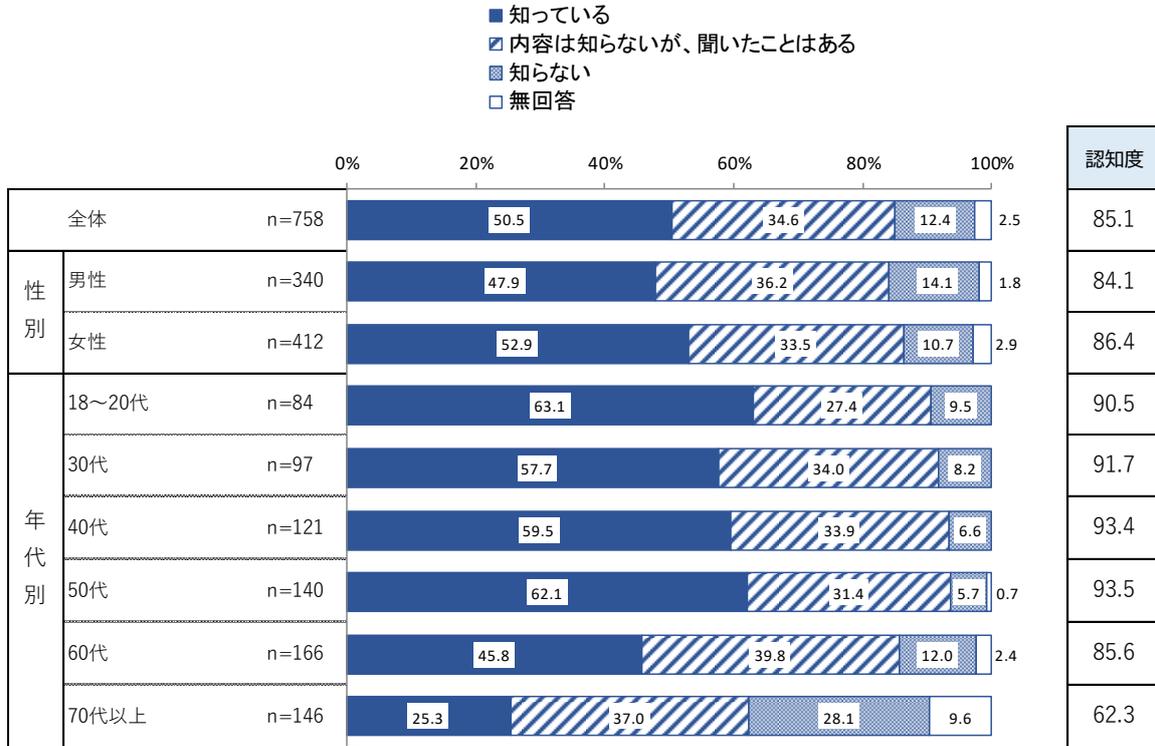
<経年比較>



【⑦ ジェンダー】

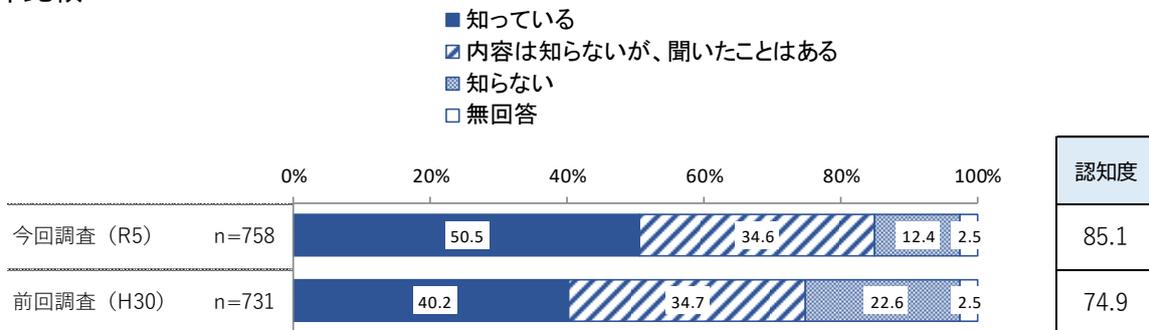
- 性別で見ると、言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、男女とも8割を超え高くなっています。
- 年代別で見ると、70代以上では62.3%となっているものの、それ以外の年代における認知度は8割を超え高くなっています。

<性・年代別>



- 言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については、前回調査の74.9%から10.2ポイント増加しています。

<経年比較>

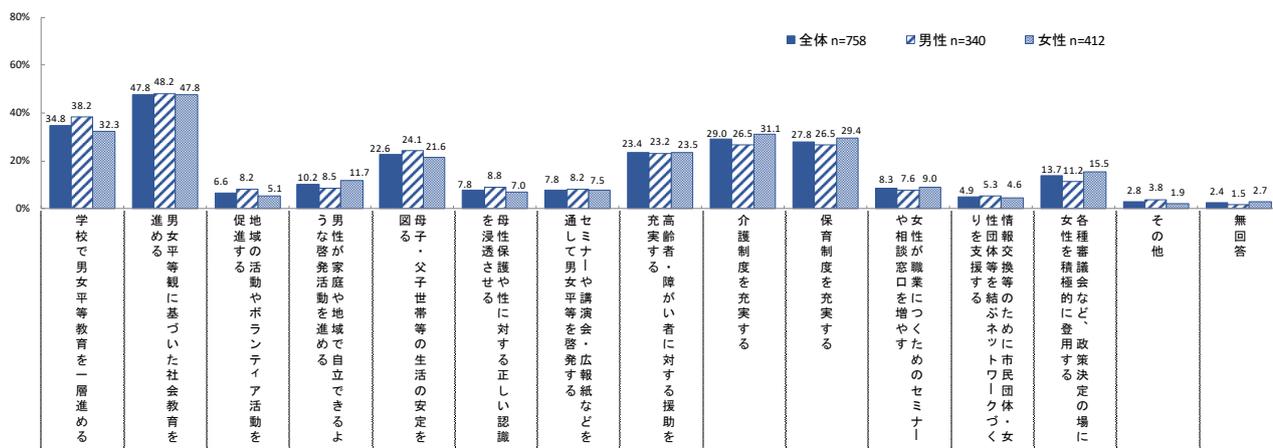


9 行政への要望について

問 36 あなたは、男女が平等で共に生き生きと暮らせるための市の施策として、特に何を望みますか。(〇は3つまで)

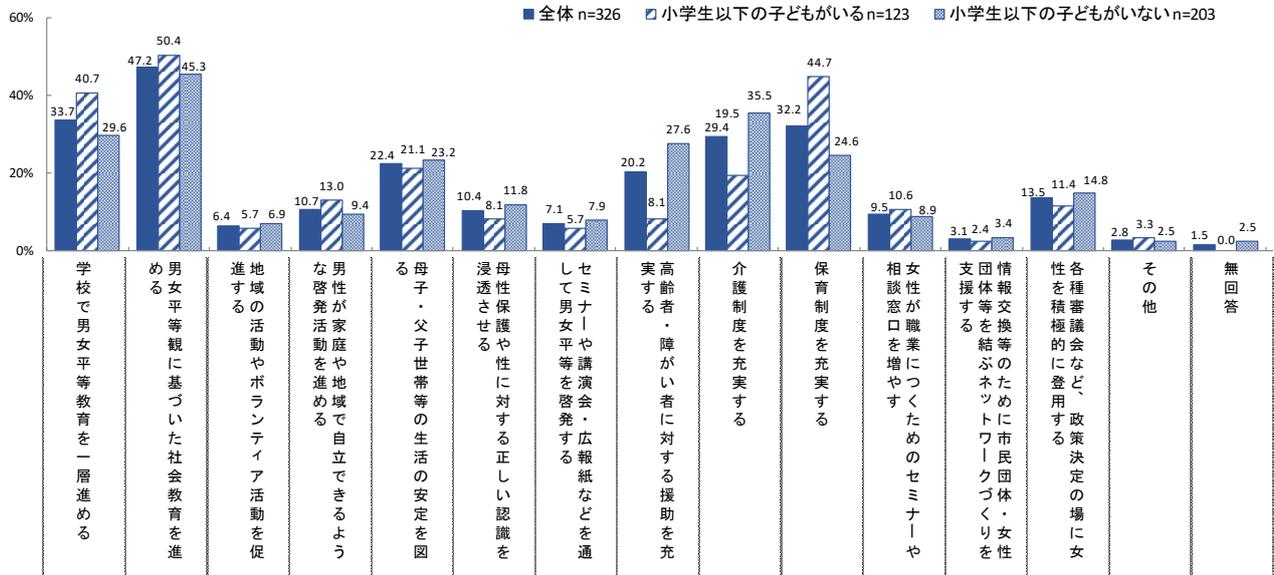
- ▶ 男女が平等で共に生き生きと暮らせるための市の施策として望むことについては、「男女平等観に基づいた社会教育を進める」が47.8%と最も多く、次いで「学校で男女平等教育を一層進める」が34.8%、「介護制度を充実する」が29.0%、「保育制度を充実する」が27.8%となっています。
- ▶ 性別で見ると、「男女平等観に基づいた社会教育を進める」が男女ともに最も高くなっています。

図表 51 市への要望



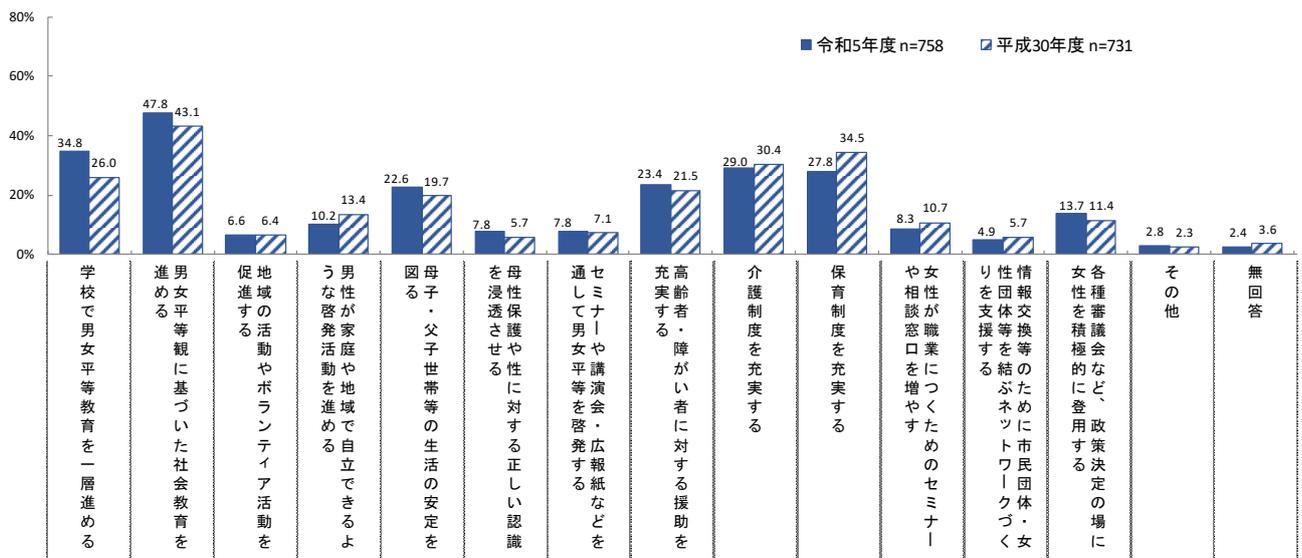
- ▶ 小学生以下の子どもの有無別でみると、「保育制度を充実する」「学校で男女平等教育を一層進める」などは、小学生以下の子どもがいる保護者からのニーズが高くなっています。

<小学生以下の子どもの有無別>



- ▶ 前回調査と比較すると、「学校で男女平等教育を一層進める」は 8.8 ポイント増加したのに対し、「保育制度を充実する」は 6.7 ポイント減少しています。

<経年比較>



10 自由意見

<男女平等について>

性別	年代	意見
女性	50代	理想と現実、男女で体力差はどうしてもでてしまう。
男性	50代	基本的に反対の姿勢である。
男性	50代	男性女性を全く一緒に考えるのではなく、男性女性の身体的特徴を考慮した平等を考えてほしい。
女性	50代	具体的に聞かれると男女平等という社会になるにはまだまだ時間がかかりそうです。若い人達が子どもを持ってゆとりを持って生活できる社会になるには、まず私達（50才以上）が進んで考え方を変えていく必要があると思います。（今の30代の人たちは子育てなど協力的です。学ぶべきことが多くあります）。
女性	60代	男女共同参画という言葉が市民に浸透していますか、私が知らないだけでしょうか。
女性	40代	女性とはこうあるべき、男性とはこうあるべき、という固執した考え方は、老若男女問わずしみついているので、本当に平等に暮らしている家庭を見た事がなく、もちろん社会でも同じ。女性の特性・男性の特性を生かして上手に社会を回すしかない。平等なんて無理だろうなあ…と思っているのが本音です。しかし、私も女性経営者の一人として日々、家事・子育て・仕事に追われております。自治会は正直…負担にしか感じていません。せっかくの休みが休めません…。金なら払うから草むしり業者に頼んでくれないかなあ…なんて思ってます。ゴメンナサイ。
女性	50代	一概には言えないが、高齢者の方が若者に比べて男女の格差が大きいと思う。男女だけでなく、若者の活躍の場を増やせば男女平等に近づくとと思う（特に政治の場）。
男性	60代	男性は男性としての特性があり、女性もまたしかり。無理に同じに扱うことは男女平等とは違うと思う。各々の特性を生かしながら共に社会生活を送る事が大切で、無理に平等など行っても役割を同じにする事は間違っていると思う。
女性	30代	男女の性以外の性についても考えるのであれば、今後は「男」「女」共同参画という表現自体も改めるのが良いのではないのでしょうか。
男性	50代	全ての女性が望んでいるとは思わない。やりたい女性や、働かざるを得ない女性に対するサポートは必要。
女性	50代	男女平等の中にも、男性にしか出来ない様な事や女性にしか出来ない事もあると思いますので、それぞれを上手く利用して協同してやっていける世の中になってほしいと思います。
女性	18～20代	全ての場面で男女が平等である必要はないのではないかなと思います。男女平等にしなくてはいけない場面もあるのは事実です。ですが、必ずしも全てにおいて平等にする必要はないと僕は思います。もっと男女とも思いやりの心を持つことが大事だと思います。相手を思いやる気持ちがあれば自然と男女が生きやすい環境になっていくと思います。

性別	年代	意見
女性	70代以上	男尊女卑が無くなると良い（特に高齢者）。
女性	40代	男女共同参画の実現の為に、形だけのリーダーをたてたり、無理矢理女性をリーダーにしたりしては本末転倒。男性であれ女性であれ、実力・能力のある人に仕事を任せたい。
女性	70代以上	人間社会を生きて行く為に必要なことは、互いに尊重し合い助け合っていくことに気付くこと。被害者意識を持つこと自体、そちらに原因ありうる。生まれてきた以上、己の役割使命を果たそうと努力すればよい。
男性		女性も職業意識をもち、地味な服装と化粧を厳守すべきである（アルバイトも含む）。
女性	70代以上	男性自身の意識改革次第のように思います。
女性	60代	（ネット情報ですが）男女格差現状 2021年世界 156か国中 120位が日本。上位に位置する国になればいいと思います。賃金格差については韓国、イスラエルに次いで大きい値となっていて、少々ビックリしました。男女格差が後進国である事は何が原因なのでしょう。仕事の内容、固定化。勤続年数（出産により退職）など。沢山あると思いますが、賃金の平等は必要かと思います。
男性	18～20代	男女平等とずっと言われてきて、勘違いした凶々しい女が増えたのも事実。男女平等になる為に、色々な改革もしないといけない。ただやりすぎも良くないと思う、中間って難しいよね。
男性	30代	男女平等は良い事ですが、男女の性質は遺伝的なものでもあるので、そういった点での平等は難しいと思います。
女性	70代以上	押し付けであってはならないと思う。子どもの頃からの家庭での教育、しつけ、親の生き方が大事だと思う。
女性	50代	男だから女だからという考えは根強いと思う。男女平等の教育を受けた子ども達が学校と社会は違うなど感じない社会に少しでもなってほしい。
男性	30代	一時的に女性を優遇しなければ、将来的な男女平等は実現出来ないと思うが、優遇されると共に責任と成果も求められるようになるということを、女性自身が認識しなければならないし、認識させるべきだと思う。
女性	40代	男女は昔からいろいろな場面で区別されてきたので、今急にどうにかしようというのは難しいと思う。これから少しずつそういった考えを改め、男女が共に生きやすい世の中にしていくことが大切だと思う。
男性	60代	原因の究明、責任の所在、有無を優先して、性別、能力の差などを言い訳にする、問題解決に対する消極性、女性の持つ能力に対する過小評価、経験（個人的）に基づく先入観→偏見を自覚すること。
男性	18～20代	性別の観念を社会から消し去ることによって平等を目指すのではなく、性別も含めた一人ひとりの個性を生かすような社会を目指していくことが大切だと思う。現在は男性が優遇されている環境が多いことから、女性の進出を支援することも必要だが、将来的には、男性が、女性が、というよりは、個人の特性を大事にした社会であるべきだと思う。
女性	60代	高齢の男性が参加しない社会であれば、ずいぶん変わると思います。

性別	年代	意見
女性	50代	昨今法改正や行政のサポートや、色々な男女問題に理解も深まり、今まで問題を抱えていた人たちが生きやすくなったと思います。ですが同時進行で本人の意識をマイナス思考からプラス思考へと意識改革を行うべきだと思います。与えられるものを享受するだけではなく、乗り越えていける自分で幸せになれる力を身に付けていける様なサポートが一番大切だと思います。男女が平等で共に生き生きと暮らせる世の中というのは、極論お互いがリスペクトし合い思いやりを持ち、あれもしてくれない、これもしてくれないの（無い）マイナス思考ではなく、あれもやってくれた、こんなこともやってくれたという（ある）プラス思考で、お互いの良い所を見て、大きな幸せじゃなくても小さな幸せを沢山見つけられるプロになれば皆生き生きと幸せな笑顔あふれる世の中になるのでは。そう思います。人としてのあり方。根本的な所を学ぶ機会を増やして下さい。
女性	60代	男女共同の言葉がおかしくありませんか、全員参加ですね。
男性	60代	男女共に特性が有りますので一律に平等では無くそれに沿った平等をする必要が有ります。例えば重い荷物は男性軽い荷物は女性が持てば良いかと思います。これを重い物を女性に持たせたら負担が大きいかと思いますので男女にあった制度にするのが良いと思います。何でも同じ様にするのは無理が有ると思います。
女性	18～20代	とにかく区別と差別を間違わないようにするべき。男女の身体の差異による仕事の割り振り(力仕事は男性に、など)は区別に該当すると思うが、根拠の無い決めつけは差別と変わらない。差別をしているのに正しい区別を自分ではしているのだという認識の人間がいるから差別はなくならないし広がっていくのだとも思う。男性も女性も同じ人間であるのには変わらないのだから仕事だろうが家庭だろうが、恋愛だろうが個人の趣味だろうが区別による向き不向きはあれど、そこまでであると思う。
女性	50代	昨今、様々な事に対し平等を唱えるけど、人間の性でいえば基本雄か雌（一部除く）。それぞれの性に役割があるから社会生活も必然的にそれに合わせているのが現状。生物学上の男性は子ども産めないでしょう。上辺の平等で法整備や窓口作っても歪みができるだけ。例えば男女雇用機会均等法。平等にすることで女性も残業、夜勤、転勤、その他を男性同様に担う必要がある。女性だからとか子どもが未成年だからで配慮しろって甘えでしか無い。だから平等なんてあり得ないと思う。
男性	40代	能力がある人ならば男女どちらでも構わないが、女性の枠を予め決める事自体が差別。能力が低いと最初から下に見ているのが透けて見える。また逆に能力が足りてなくても枠を埋めることになりかねない。
男性	40代	男女平等には違和感があります。男と女は違う、適材適所でやっていけば良いと思います。
女性	40代	年齢が高い人ほど男女差別する。高齢者にも学ぶ機会を持ってもらいたい。
男性	40代	男性、女性共に何々に多く登用するとかではなく、悩みなど相談できる場を多く設けると良いと思う。

性別	年代	意見
女性	40代	"長い歴史の中で男性優位主義は日本の体質の根本にあるため、男女平等というのは社会的にかなり難しいと感じる。
男性	70代以上	共同参画とは言え、女性でも参加しにくいと思う人の意見を聞くべきでは。
男性	70代以上	男女平等が余りにも過敏になっている昨今。男性は女性を、女性は男性を互いに認め合う平等ならいいのですが。

<子育てについて>

性別	年代	意見
男性	30代	保育士の待遇を改善する等して人員を増やし、充実した保育サービスが利用できるようにして頂きたいです。時間の制約があると夫婦ともフルタイムで働くことができません。
女性	60代	質問が難しい。女性が働きやすい環境をつくって頂きたい。子どもを金銭的負担なく保育所に預けられたら、家庭の経済の向上になると思います。
女性	30代	うちの旦那も家事等全然やりません。子どもも習い事へ乗せていくのをお願いしたら私が準備等やっているのにその間タバコを吸っていて乗せていだけ…小さい頃からもし結婚したら奥さんだけが全てやるんじゃないよって子どもに伝えないといけないなって思いました。これやれ、あれやれって言っても旦那もイライラすると思うので、男女共に参画(平等)というのを当たり前にしていけたら有難いです。
女性	18~20代	市内の公園に小さな子が遊べる遊具(人工芝を敷くなどハイハイの子でも遊べる)があると良いと思う。保育園に通うような子たちから、性教育をして、男女の違いを教えつつも、それぞれが個性として関わり合えるような教育をしてほしい。
女性	40代	私の子どもにはアレルギーがあります。夫は仕事で毎朝早くから夜21時頃帰って来る為、殆ど私が子ども達の面倒を見ています。なのでアレルギー症状が出たのを直接見ていないせいか、性格のせいか、危機感が薄い様に思います。先日、外食をした時、私が席を外している間に息子に原材料がハッキリしていないものを食べさせてしまい、じんましんが出ました。なので、またこのような事態に陥らない様に外食店のアレルギー表示を義務付けてほしいです。
女性	40代	子育てのことで、私の周りの幼児を抱えるご家庭では、まだまだワンオペ(母親)が続いています。父親の方は、会社で育児休暇制度があるにも関わらず利用できていない状況。うちも同じように父親は仕事中心です。私も早く仕事に戻りたいのですが、時間の余裕がありません。経済面のことを考えると収入が多い方が仕事を続け、少ない方がやめるという感じ。子育て世帯の家庭は、以前と全く変化がないといった印象です。家庭を守るのは女、仕事は男、平等ではありません。
男性	30代	"子の看護休暇を取得すると無給になってしまうため、給料が少ない妻に子どもの看病をお願いせざるを得ない。

性別	年代	意見
女性	30代	現在育児休業を取得中です。夫が育児休業を取得した際に初めて知りましたが、子育ては女性が行うものだという印象を受ける施設や掲示物、イベント等が多いと感じます。父親として子育てをしようにもやりにくいから仕事をするしかないという社会のため、女性の企業等での参画が少ないのでは、と感じます。
女性	40代	仕事、家庭での立ち位置、育児介護に対する価値観を男女ともに意識改革していくことが大切だと思っています。それが社会全体にも広がれば制度など何かが変わっていく気がします。例えば子育ての中で言うなら、学校行事、送迎やPTA活動等、男性にできないことは女性にもできない位の意識を男女共に持たなければ、女性の社会進出や改革はできないのではと思います。

<アンケートについて>

性別	年代	意見
女性	18～20代	性的被害を受けた事があるが、それを想起させるアンケートが非常に苦痛だった。そのようなアンケートを無作為に送ることで、傷付く人がいることも知ってほしい。LGBTの認知度をはかるためかもしれないが、「実際に周りにいるか」など実情を知ろうとするアンケートもほしかった。
男性	60代	本「市民意識調査」は、意義深く重要であると思います。が、問36は多過ぎ、半分くらいの方が集中して30分以上要しました。今後とも鋭意邁進して下さい。
女性	30代	質問とその回答の中に、問いに対する回答に合わないものが見られました。内容を精査した方が良いと思います。
女性	70代以上	高齢者に実感の湧かないアンケートでした。6の人権の配慮については答えて「どうなるの」という気がしています。6人家族で息子家族と幸せに生活しており、あまり知りたく無いアンケートでした。
男性	40代	何故、男女共同参画をするのか。市の目的が明確でないので、質問回答出来ない部分が多々ある。現状把握なのか、課題解決なのか、アンケートの目的をクリアにしてから、実施した方が良い。上記状況のアンケートで集計した物を市民の意見として扱わないでほしい。
女性	40代	アンケート内容が気分悪いものでした。
男性	40代	意図的なものもあるかと思いますが設問や回答自体が男女差別を促すように感じるものが複数ありました。先入観を持たずに本当の意味で男女の性別の違いをなくしての対応が出来ることを期待します。
男性	70代以上	パソコンで、入力できなかった。

<雇用について>

性別	年代	意見
女性	18～20代	男性だからこうあるべき、女性だからこうあるべきといった無意識の偏見に社会全体が気づき、それぞれの状況によって最も適当な選択が出来るよう、多様な生き方に対して寛容な世の中になると良いと思う。その為には、男女に関わらず、働き方（労働時間など）を見直す必要がある。女性が正規雇用で働くことが困難である理由の一つには、パートナーである男性の長時間労働の為、家事、育児の負担が大きいことが挙げられると思う。その点を置き去りにしたまま、昨今の様に育児休暇中に資格取得の支援をするとか、女性が働きやすい社会を目指すというのは難しい。子育て中の女性の一人としては、何もかも女性がもっと頑張ればいい、頑張らなさい、と言われていたようで苦しい。現在、家事と育児を主にこなすだけでもう精一杯です。
女性	30代	女性は出産・育児でどうしても思う様に働けません。しかし近年の物価上昇により共働きでないと生活はできません。パートの賃金は低すぎて生活を支えられません。正社員の給与でも全く賃上げが行われていません。子どもを産んでから自分の時間を犠牲にして必死に仕事も子育てもと思うと、不安で仕方ないです。安心して子どもを産めません。自分の老後のお金も心配です。もっと物価上昇に見合った賃上げをしてほしいです。そして子育てする女性の働きやすい環境を整えてほしいです。現在、私の職場では残業代の未払いが続いています。がんばって働いている人が不当な扱いをうけて、生活保護の人や何もしていない企業の役員、議員などが税金の無駄遣いや過剰な報酬をもらっていると思うと悲しいです。何とかして下さい。よろしくお願いします。
男性	18～20代	子どもがせめて3歳までは経済的にお母さんが家にいれる環境にしてあげてほしい。育休を取れたとしても大体会社的に一年。会社を辞めた方は無収入になる。最長2年と言われているが、会社はそうはいかない。そんな短い期間で大切な子どもの成長など見れない時間が多い。保育園に預けるのも小さくて心配だ。そして特に男性に関しては、働き続けなければならない為、成長をほぼ見れない。だけど母親も働かないと生活していくのが厳しくなっていく。若者ほどお金がなく、年配者の方がお金が多くもらえている。私たちが働ける若者だから年配者の分の税金も稼いでいるが、自分たちの生活も正直いっばいいいっばいだ。そして、自分たちが年配者になったときに、これまで支払ってきた厚生年金も、もらえる分は少ないであろう。子どもの将来、自分たちの将来。人生に不安しかない。
女性	50代	女性が正社員で働いて帰ってきて子育てしながら家庭を守るのは大変なことです。子ども達の生活時間が夜型になっていること、荒れる子が増えている今、男女平等を考え直すべき。
女性	40代	夫婦共働きをしなければいけないのは、男性の給料が安いせいなのではないか。シングルが多い時代、女性の負担が多すぎる…
女性	18～20代	社会人になってワークライフバランスを整えないと、結婚する気にもなれないのだと思った。

性別	年代	意見
女性	50代	女性というだけで、様々な場で登用しようという考え方自体が性差別と考えます。性別に関わらず、適任だと思われる人を登用すべきだと考えます。女性側も登用されたくないのに、女性というだけで昇進させられ、仕事を継続するのが困難になり退職した人もいます。女性全員が望んでると思ったら大間違いです。女性を軽視している人たちの意識が変わらなければ、社会は変わりません。こういうことを推し進めているメンバーの中に女性軽視をしている人がいないことを望みます。

<教育について>

性別	年代	意見
女性	40代	男子の進学校などで、家庭科教育をなくしている学校があると聞くが、そのような「男性は家事能力がなくても良い」とする考え方が、後々、周囲の女性を「家事育児は女性がやるもの。しかし、アベノミクス以降の政府や行政の姿勢に従い働くこともしろ」と追いつめることとなります。子どものうちに何をどう教わるのかで、数十年後の市民生活が良くも悪くもなります。このようなアンケートを取って頂けたこと大変ありがたい機会です。是非市民の声を拾い、分析して、今後に生かして頂きたいです。仕事、家事、育児に追われ、万年過労状態の一市民より…。
女性	60代	一校当たりの教員を増やし、教師も子どもにもゆとりある生活ができるようにお願い致します。
男性	40代	男女共同参画は、学校教育からが重要と思います。急いで実施しても各年代、育成環境も違う中、ひずみが出るのは当然です。長期スパンで変化させていくべきかと思います。
女性	30代	小中学生の子ども達は学校教育のおかげもあるのか「男らしくとか女らしく」と話をしようとする、それは良くないと反発してくれる。子ども達のほうが男女平等、個性が大事と理解しているのではないかと思う。

<政治について>

性別	年代	意見
男性	50代	国政も市政も女性議員の割合が非常に少ない。女性議員の割合を50%、男性議員も50代以下の若い議員を増やすことにより、古い考え方を改め、現代に合ったやり方が広まっていくと思う。
女性	70代以上	男女共同は当たり前だと思うけど、行政のトップ達が変わらなければ難しい。国会で居眠りやら失言やら罰金にするしか会社組織と同じ一回子育てと家事をやってもらうのが一番。紙の上と現実は違います。
女性	50代	女性が家庭を犠牲にしてまで働かなくてはならない今の経済的苦痛の問題に、国が取り組む事の方が先だと思いますが…まずは一番土台となる部分をきちんと安定させないと、それ以上何かを変えようと思っても無理だと思います。一番市民、国民が声をあげている部分の改善に力を注いで下さい。
男性	30代	前提として国政の失敗で国民に生じている経済苦境が打破され、男女共に十分な収入を得て自由な選択が取れる社会の実現が不可欠。その上で個人の選択に対して寛容な風潮を教育などで広めていくことが真の男女共同参画かと思いません。まずは国民全体の経済的安定です。

<地域活動について>

性別	年代	意見
男性	18～20代	学生や若者の女性が主体となって取り組む地域事業があってもよいかと。
男性	70代以上	今後共続く高齢社会で自治会活動が困難になっています。女性参画ができる行政指導をお願いします。人口減少と高齢で自治会長以下役員がいないのが現状です。
女性	30代	"年配の方に男尊女卑の考えを持っている人が多いので、地域の活動に参加したくなくなる。(女は黙って言う事を聞けのような人が多い)

<その他>

性別	年代	意見
女性	60代	世間の一人である人へのパワハラ。子ども、結婚して亡くなる人、高齢者の一生一人である人に対しての配慮。男女だけではない。最後は皆一人になるんです。

III. 調査結果（小・中学生）

1 あなた自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。（1つを選択）

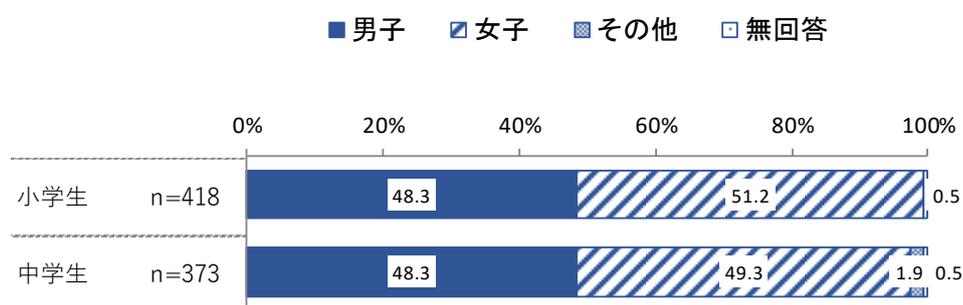
小学生

➤ 性別は「男子」が48.3%、「女子」が51.2%となっています。

中学生

➤ 性別は「男子」が48.3%、「女子」が49.3%となっています。

図表 52 性別



問2 現在、だれと一緒に住んでいますか。仕事の関係等で、一時的に離れて暮らしている人も含みます。（あてはまるものをすべて選択）

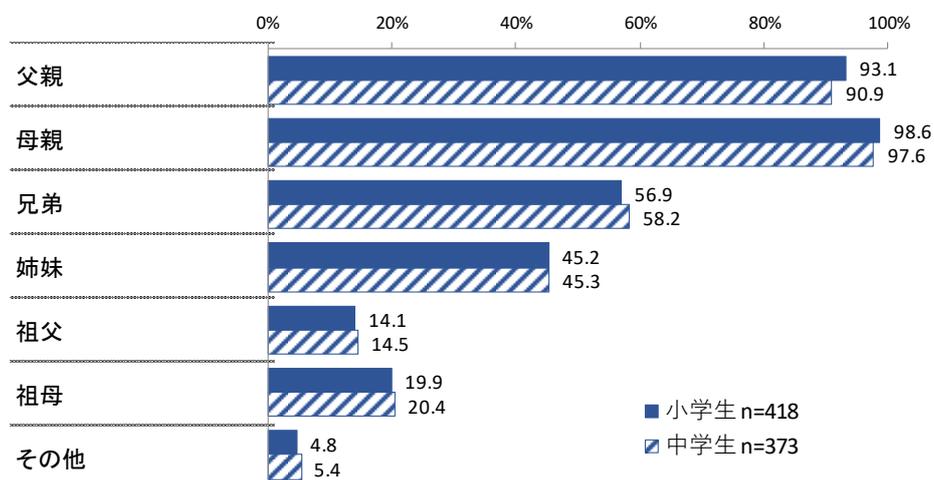
小学生

➤ 一緒に住んでいる人は、小学生では「母親」が98.6%と最も多く、次いで「父親」が93.1%、「兄弟」が56.9%、「姉妹」が45.2%となっています。

中学生

➤ 一緒に住んでいる人は、「母親」が97.6%と最も多く、次いで「父親」が90.9%、「兄弟」が58.2%、「姉妹」が45.3%となっています。

図表 53 同居家族



2 男女共同参画について

問3 あなたは、次の場面で男女は平等になっていると思いますか。

(①から③について、それぞれ1つ選択)

小学生

- 家庭では、「平等」が69.1%と最も多く、次いで「わからない」が17.9%となっています。
- 学校生活では、「平等である」が58.9%と最も多く、次いで「わからない」が24.2%となっています。
- 社会全体では「わからない」が44.5%と最も多く、次いで「平等」が32.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が11.5%となっています。

中学生

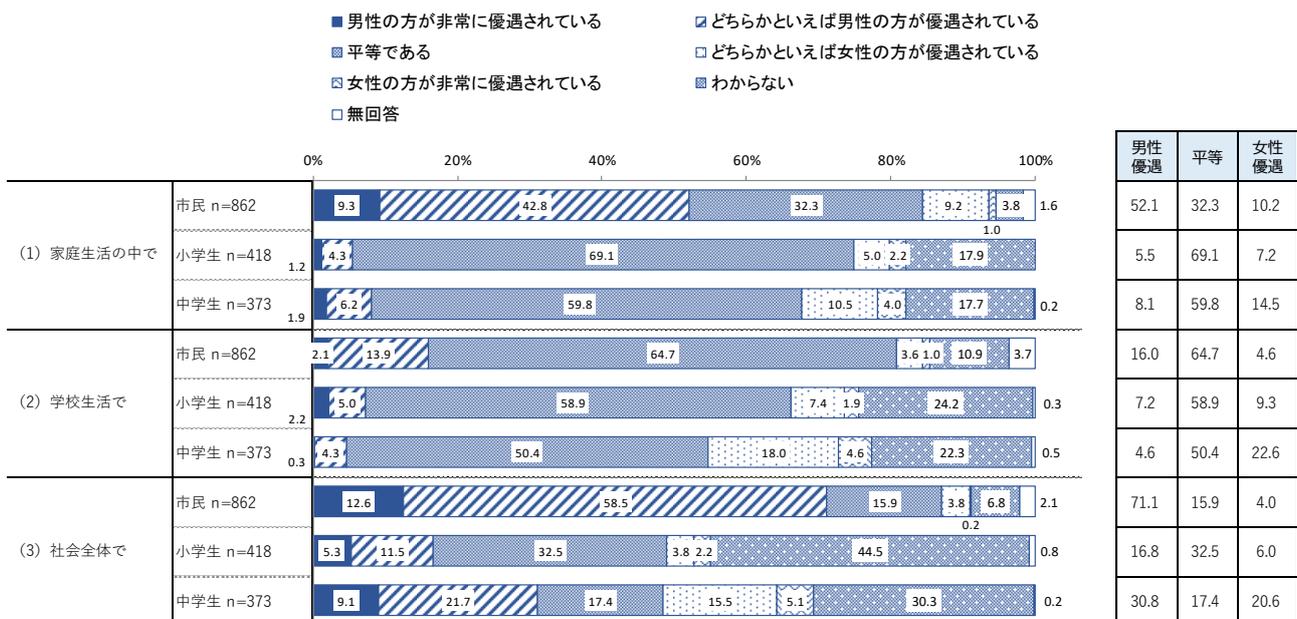
- 家庭では、「平等」が59.8%と最も多く、次いで「わからない」が17.7%となっています。
- 学校生活では、「平等である」が50.4%と最も多く、次いで「わからない」が22.3%となっています。
- 社会全体では「わからない」が30.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が21.7%、「平等」が17.4%となっています。

各調査の比較

- 各場面における男女の平等観については、家庭生活の中や学校生活では小学生、中学生ともに平等であると感じている割合が多くなっています。社会全体においては、「男性が優遇されている・どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合が他の項目よりも多く、小学生、中学生、市民と年代が上がるにつれて割合が増加しています。

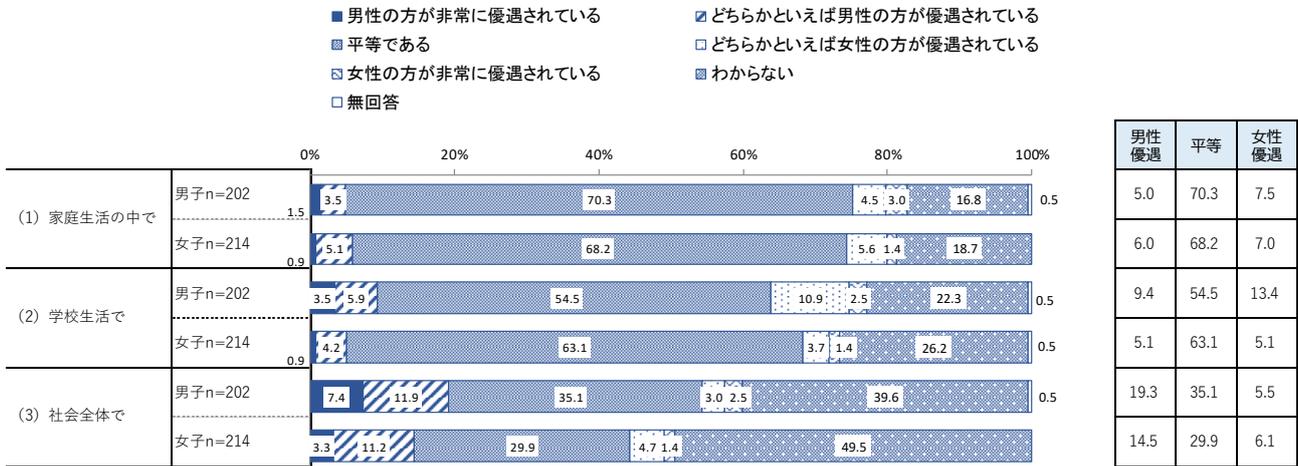
図表 54 家庭や学校等における男女の平等

<調査比較>

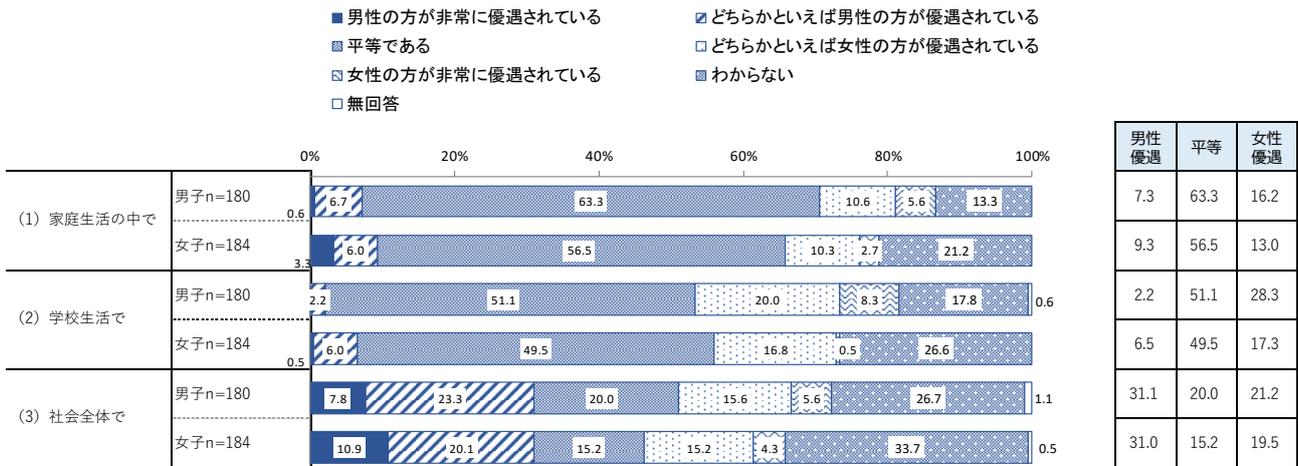


- ▶ 小学生では、学校生活においては「平等である」は、女子が男子を 8.6 ポイント上回っています。一方で、社会全体においては「平等である」は、男子が女子を 5.2 ポイント上回っています。
- ▶ 中学生では、いずれの項目においても「平等である」は、女子に比べて男子の方が高くなっています。

<小学生>



<中学生>



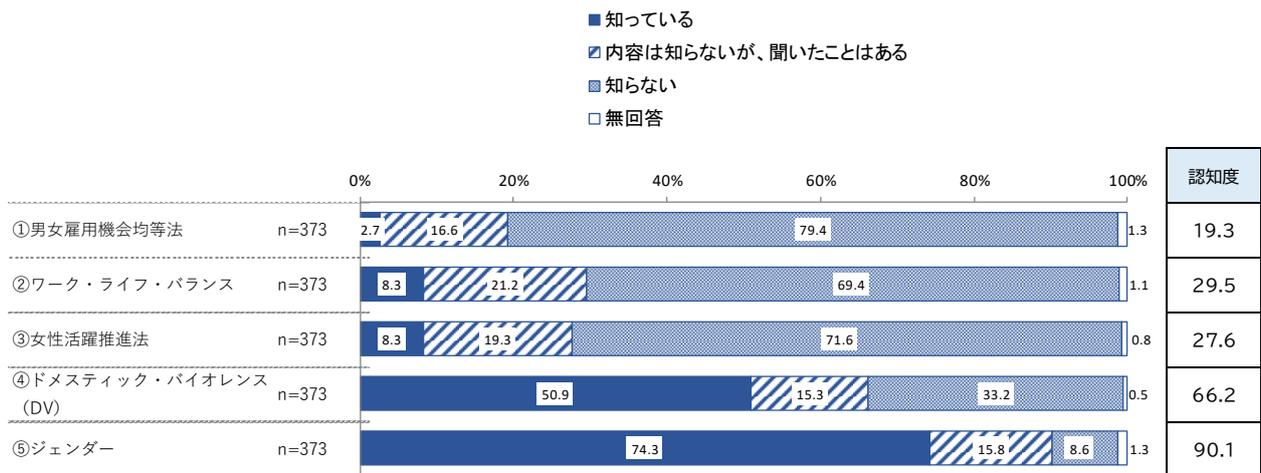
問. あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。(①～⑤について、それぞれ1つ選択)

【中学生：問4】

中学生

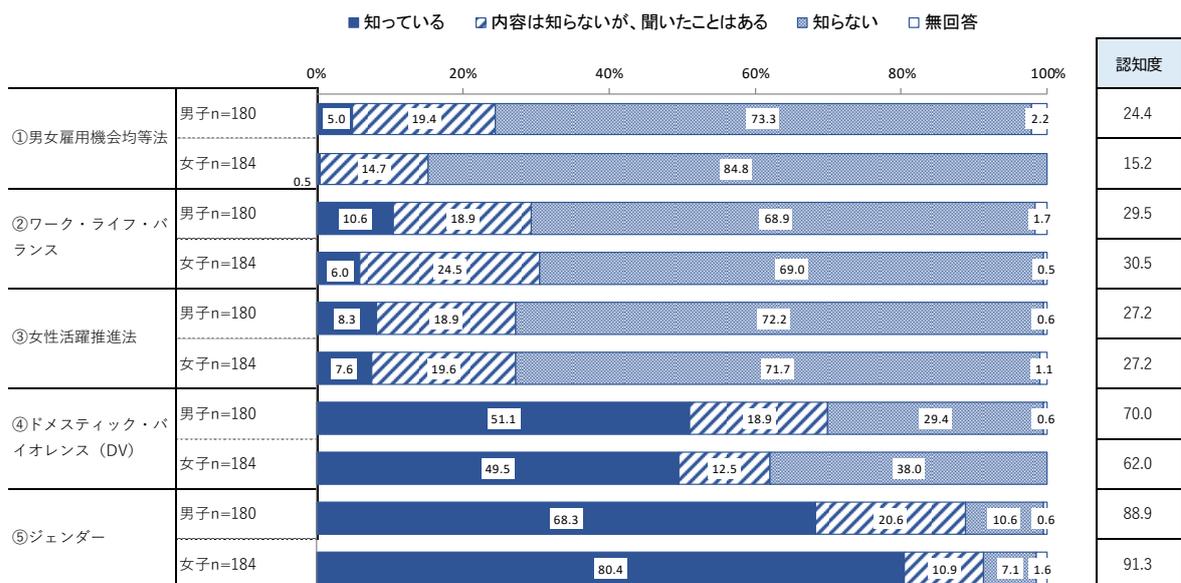
- 男女共同参画に関する言葉の認知度(「知っている」+「内容は知らないが、聞いたことはある」)については「⑤ジェンダー」は 90.1%、「④ドメスティック・バイオレンス(DV)」は 66.2%の人が認知しており、認知度が高くなっています。一方で、「①男女雇用機会均等法」「②ワーク・ライフ・バランス」「③女性活躍推進法」などは1～2割台となっています。

図表 54 男女共同参画に関する言葉の認知度



- 性別でみると、「①男女雇用機会均等法」「④ドメスティック・バイオレンス(DV)」の認知度は、女子に比べて男子の認知度が高くなっています。

<性別>



3 普段の生活について

問. あなたは、「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。
(あてはまるものを1つ選択)【小学生：問4 中学生：問5】

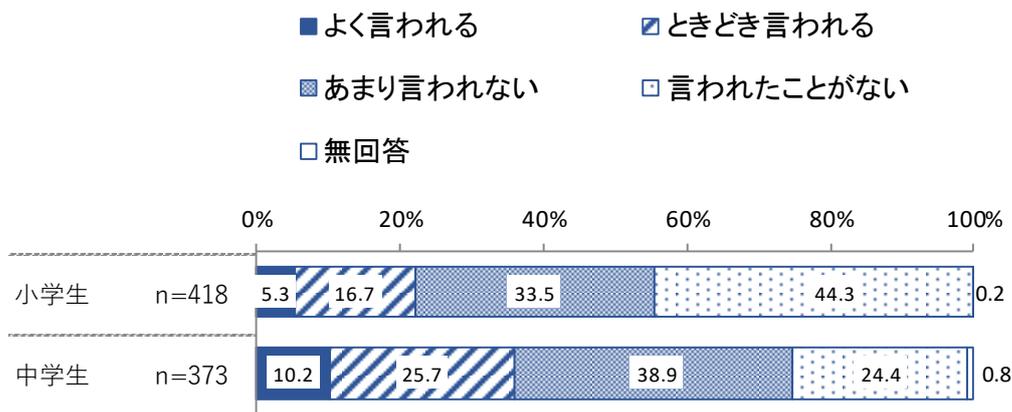
小学生

- 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われた経験については、「言われたことがない」が44.3%と最も多く、次いで「あまり言われなさい」が33.5%となっています。

中学生

- 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われた経験については、「あまり言われなさい」が38.9%と最も多く、次いで「ときどき言われる」が25.7%、「言われたことがない」が24.4%となっています。

図表 55 「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われた経験



<「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」を選択した人だけ答えてください。>

問.どんなことで言われましたか。(あてはまるものをすべて選択)

【小学生：問 4-1 中学生：問 5-1】

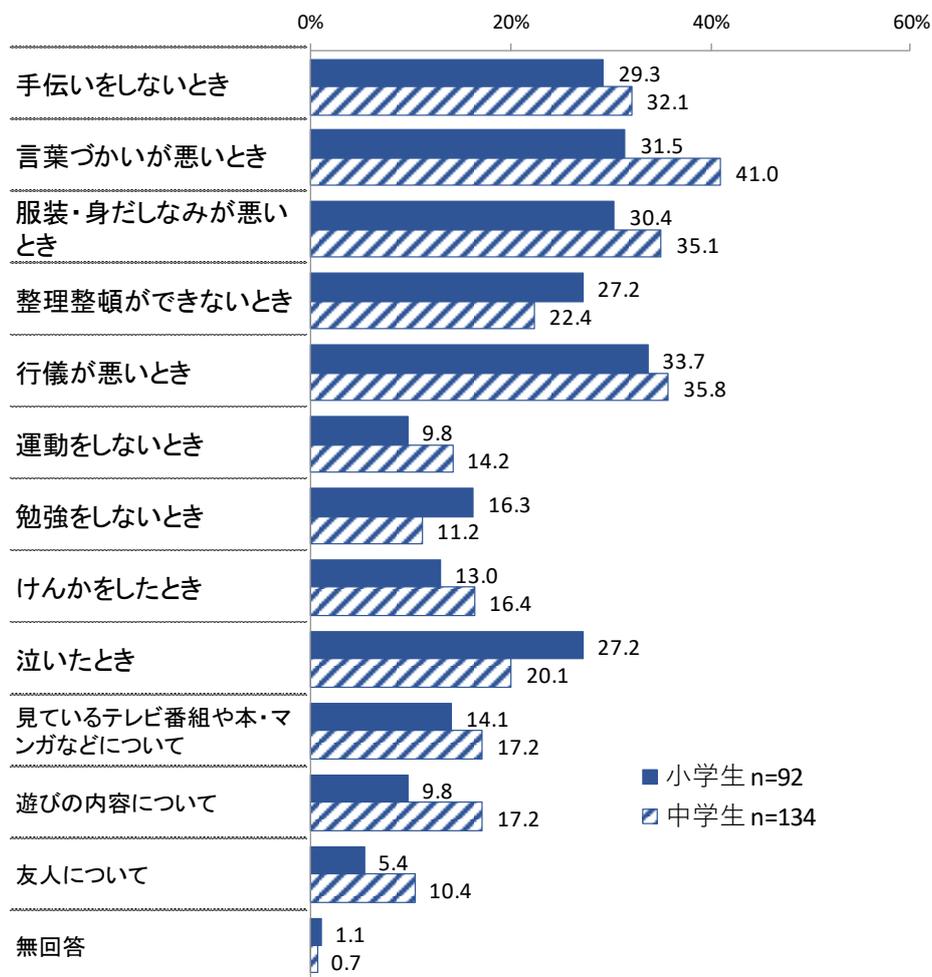
小学生

➤ どんな時に言われたかについては、「行儀が悪いとき」が 33.7%と最も多く、次いで「言葉づかいが悪いとき」が 31.5%、「服装・身だしなみが悪いとき」が 30.4%、「手伝いをしないとき」が 29.3%となっています。

中学生

➤ どんな時に言われたかについては、「言葉づかいが悪いとき」が 41.0%と最も多く、次いで「行儀が悪いとき」が 35.8%、「服装・身だしなみが悪いとき」が 35.1%、「手伝いをしないとき」が 32.1%となっています。

図表 56 言われた原因



問. その時、どんな気分でしたか。(あてはまるものを1つ選択)

【小学生：問 4-2 中学生：問 5-2】

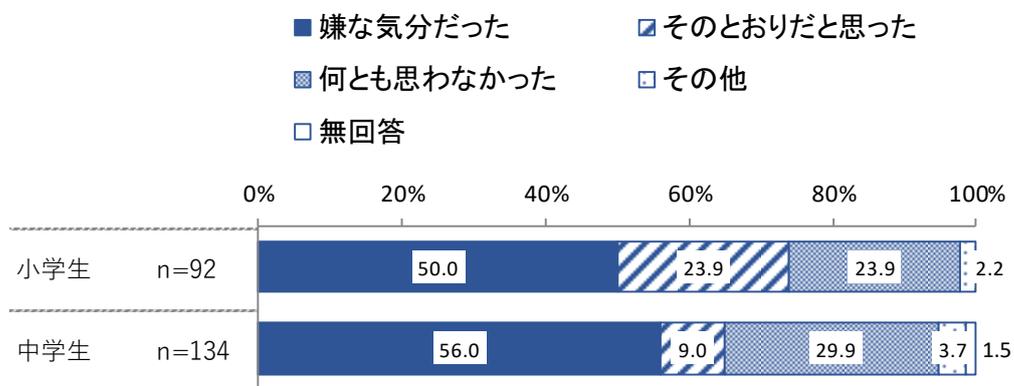
小学生

言われた時の気分については、「嫌な気分だった」が 50.0%と最も多く、次いで「そのとおりだと思った」「何とも思わなかった」が 23.9%となっています。

中学生

➤ 言われた時の気分については、「嫌な気分だった」が 56.0%と最も多く、次いで「何とも思わなかった」が 29.9%となっています。

図表 57 言われた時の気持ち



問. あなたにそれを言ったのはだれですか。(あてはまるものをすべて選択)

【小学生：問 4-3 中学生：問 5-3】

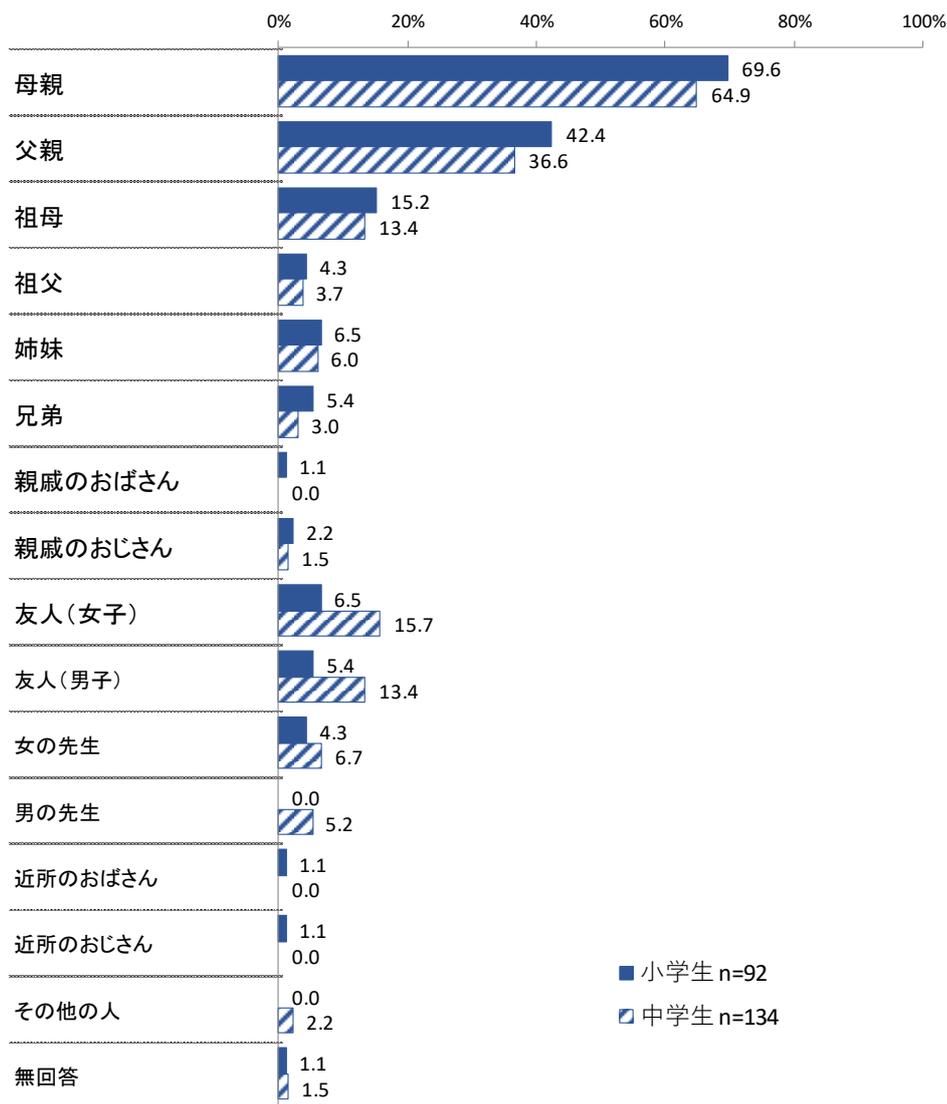
小学生

➤ 言われた相手については、「母親」が 69.6%と最も多く、次いで「父親」が 42.4%となっています。

中学生

➤ 言われた相手については、「母親」が 64.9%と最も多く、次いで「父親」が 36.6%となっています。

図表 58 言った人



問. あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。(あてはまるものをそれぞれ1つ選択)

【小学生：問5 中学生：問6】

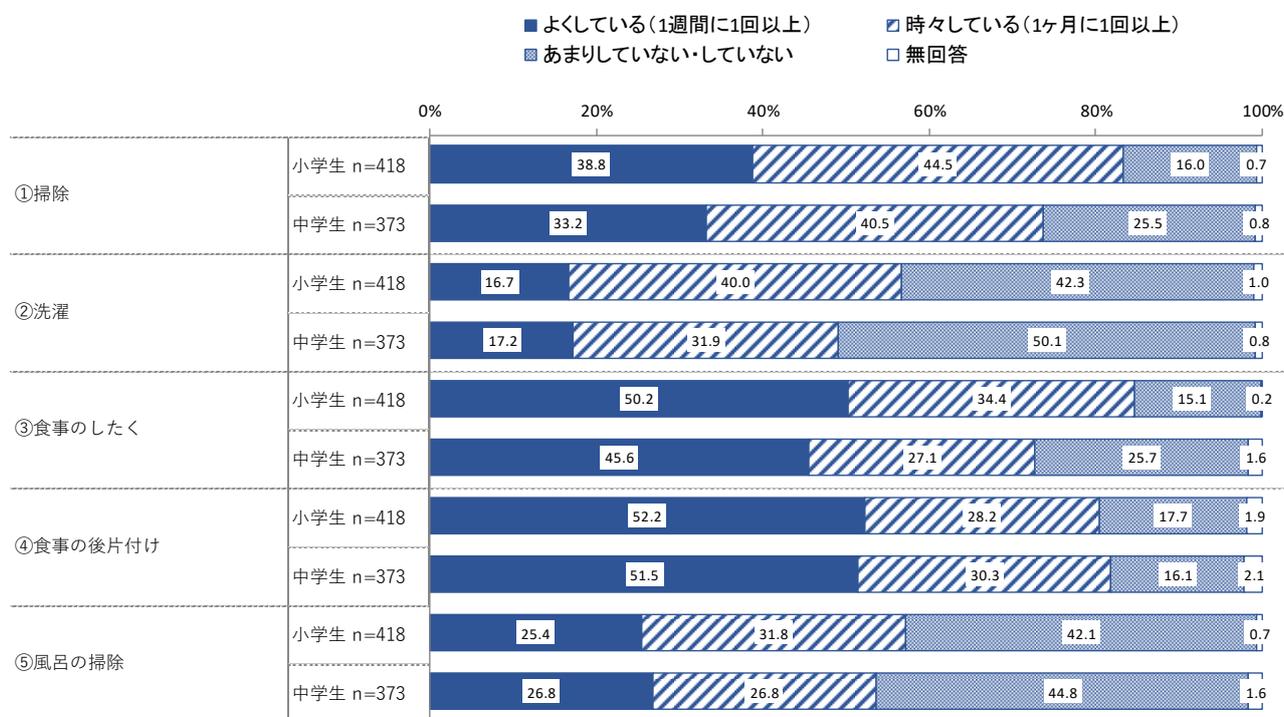
小学生

- 家の中の手伝いについては、いずれの項目においても“手伝いをしている”(「よくしている」+「時々している」)が5割を超えており、なかでも「④食事の後片づけ」や「③食事のしたく」「①掃除」などは8割を超えています。

中学生

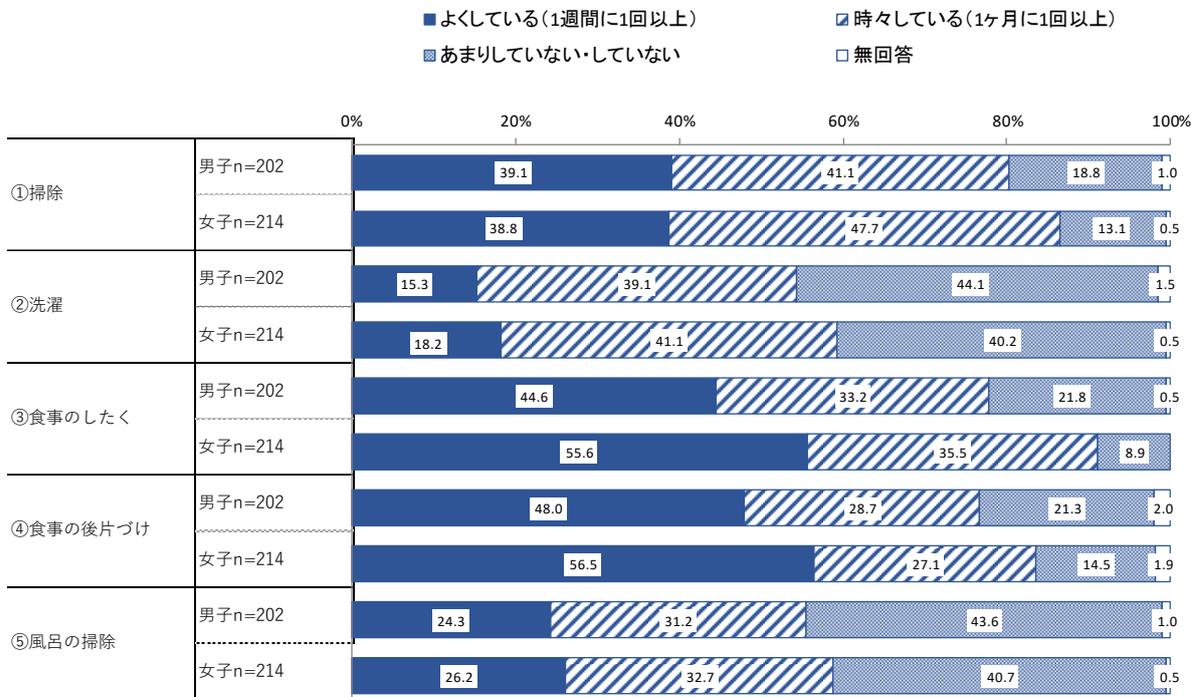
- 家の中の手伝いについては、「②洗濯」を除いた項目で“手伝いをしている”(「よくしている」+「時々している」)が5割を超えており、なかでも「④食事の後片づけ」や「③食事のしたく」「①掃除」などは7割を超えています。

図表 59 家庭内の手伝い

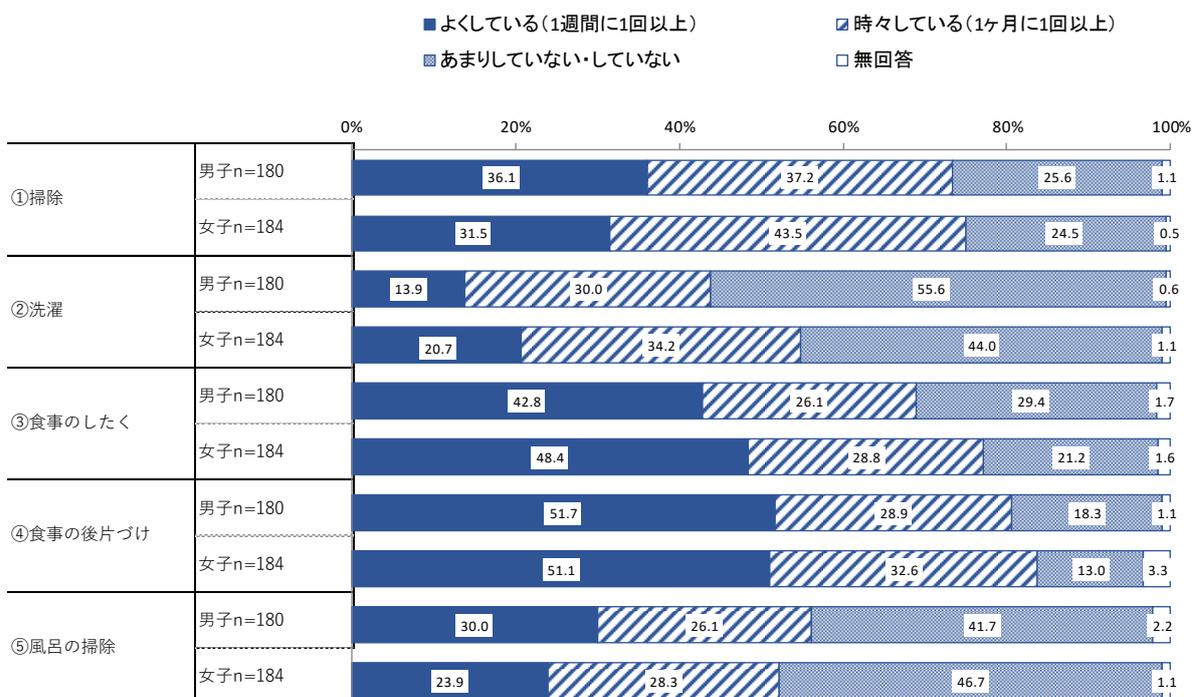


- 小学生ではいずれの項目においても“手伝いをしている”人は男子に比べ女子の方が高くなっています。
- 中学生では「⑤風呂の掃除」を除く、いずれの項目においても“手伝いをしている”人は男子に比べ女子の方が高くなっており、特に「②洗濯」は10ポイント以上の差が見られます。

<小学生>



<中学生>



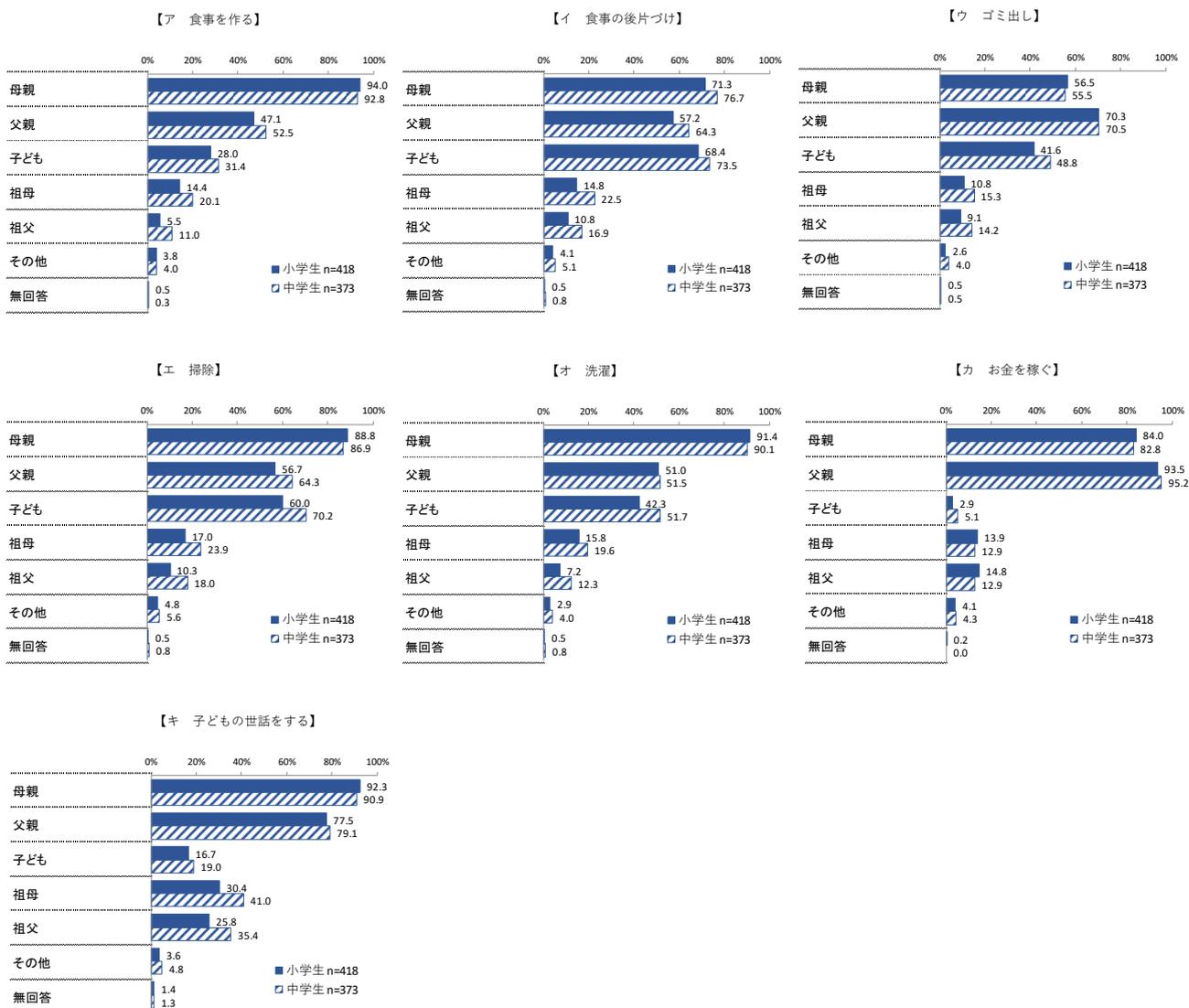
問. あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。

(①～⑦について、あてはまるものをすべて選択)【小学生：問6 中学生：問7】

小学生・中学生

- 家の中の役割については、小学生・中学生どちらも「ア 食事を作る」「イ 食事の後片づけ」「エ 掃除」「オ 洗濯」「キ 子どもの世話をする」などは、「母親」が最も多く、「ウ ゴミ出し」「カ お金を稼ぐ」などは、「父親」が最も多くなっています。

図表 60 家の中の役割



問. あなたは、「男性は仕事をして、女性は家事・子育てをするべきだ」という性別によって役割分担をする考え方について、どのように思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

【小学生：問7 中学生：問8】

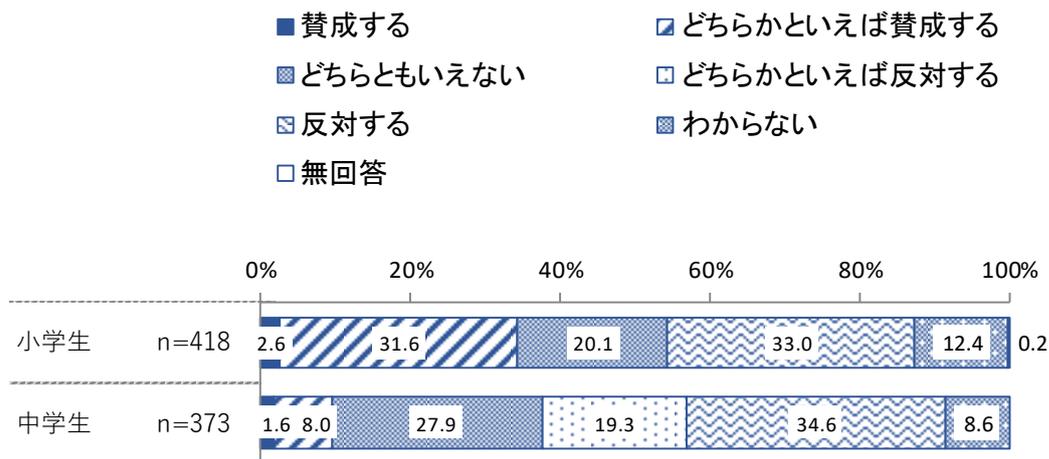
小学生

- 性別による役割分担については、「反対する」が 33.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成する」が 31.6%、「どちらともいえない」が 20.1%となっています。また、“賛成派”(「賛成する」+「どちらかといえば賛成する」)は 34.2%となっているのに対し、“反対派”(「反対する」+「どちらかといえば反対する」)は 33.0%と拮抗しています。

中学生

- 性別による役割分担については、「反対する」が 34.6%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 27.9%、「どちらかといえば反対する」が 19.3%となっています。また、“賛成派”(「賛成する」+「どちらかといえば賛成する」)が 9.6%に対し、“反対派”(「反対する」+「どちらかといえば反対する」)は 53.9%となっており、中学生は小学生と異なり“賛成派”が圧倒的に少なくなっています。

図表 61 性別による役割分担について



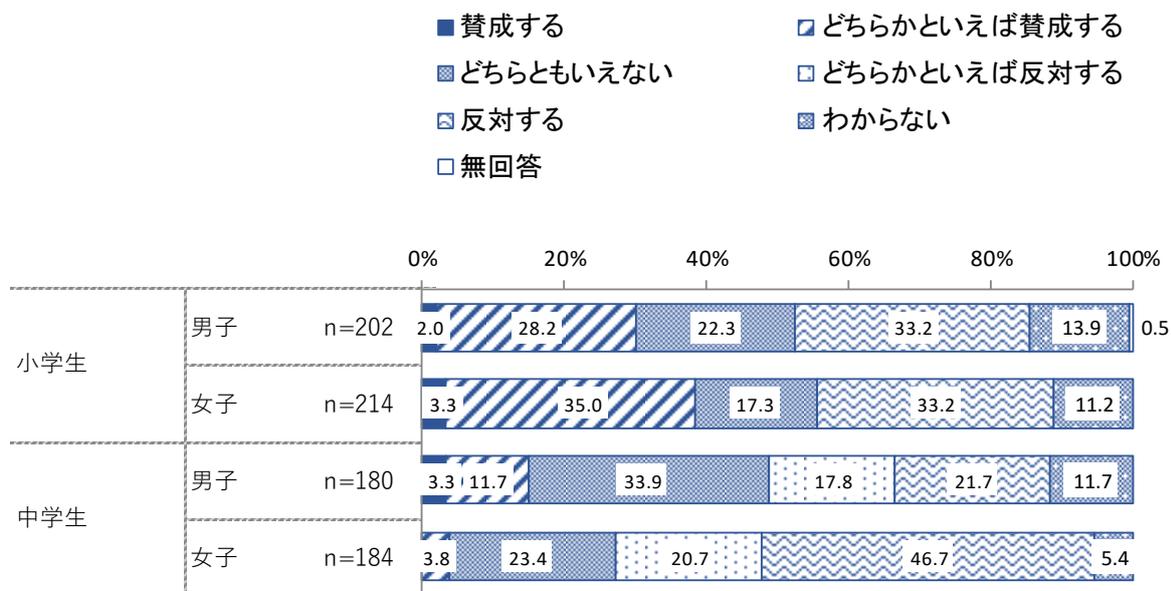
小学生

➤ 性別で見ると、男女ともに“賛成派”“反対派”が3割台となっています。

中学生

➤ 性別で見ると、男子では“賛成派”は 15.0%、“反対派”は 39.5%となっており、“反対派”が約4割を占めています。また、女子では、“賛成派”は 3.8%、“反対派”は 67.4%と、この傾向がより顕著となっています。

<性別>



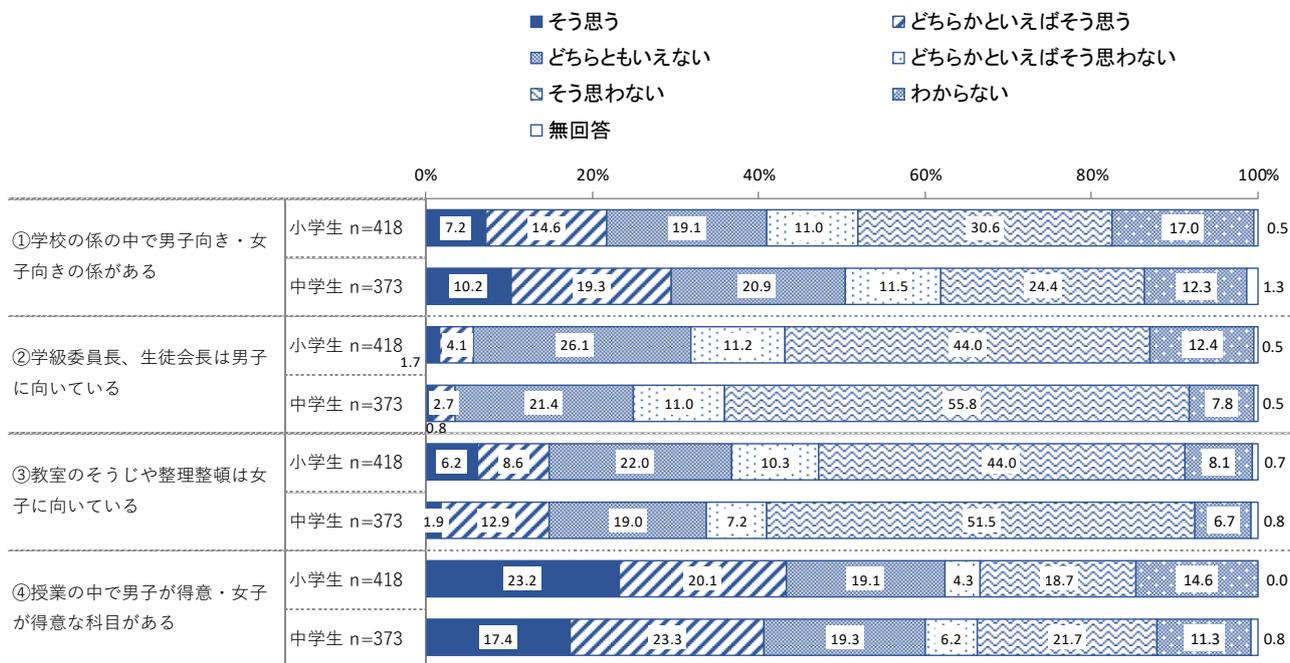
問. あなたは、次のことについてどう思いますか。(①から④について、それぞれ1つ選択)

【小学生：問8 中学生：問9】

小学生・中学生

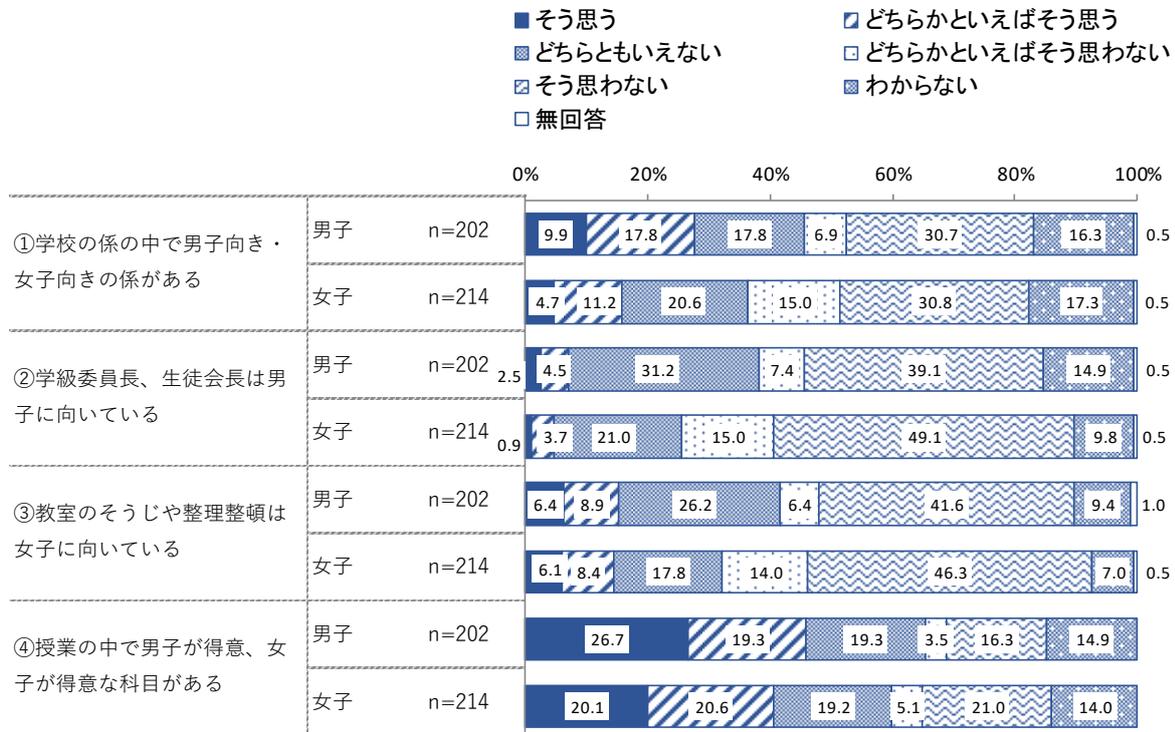
- 「男子が得意、女子が得意な科目がある」については、小学生・中学生ともに“そう思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合が“そう思わない”(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合よりも高くなっています。
- 「学校の係の中で男子向き・女子向きの係がある」についても、小学生・中学生ともに他の項目より“そう思う”が高くなっており、特に中学生で高くなっています。
- 一方、「学級委員長、生徒会長は男子に向いている」については、小学生・中学生ともに“そう思う”の割合が低く、特に中学生では「そう思わない」が55.8%と高くなっています。

図表 62 学校における男女の平等

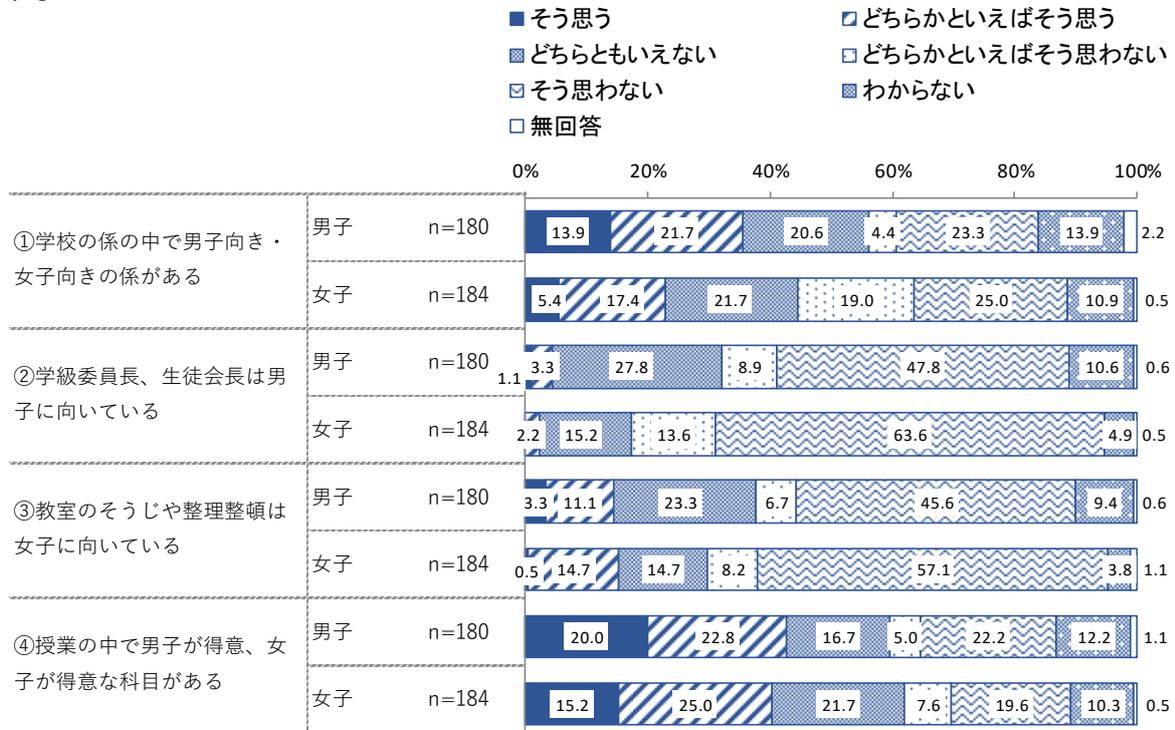


➤ 性別でみると、「①学校の係の中で男子向き・女子向きの係がある」について、小学生・中学生どちらも“そう思う”（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）の割合は、男子が女子を10ポイント以上上回っています。

<小学生>



<中学生>



4 仕事・将来について

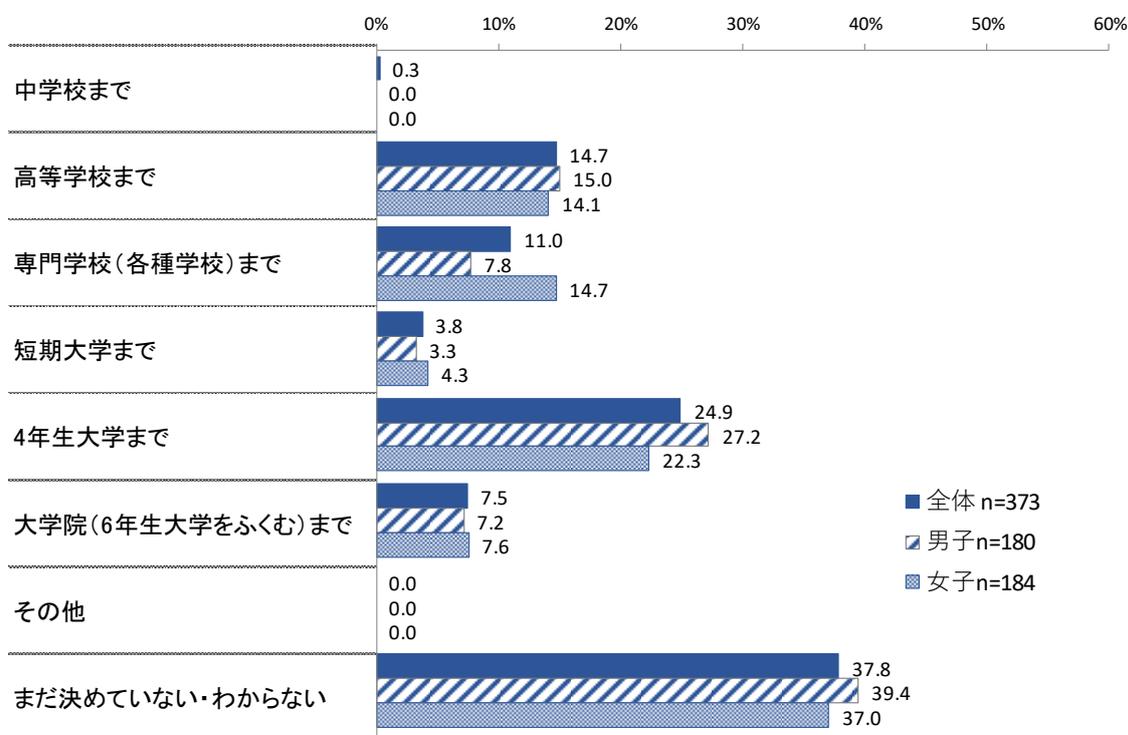
問. あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

【中学生：問10】

中学生

- 将来どの学校まで行きたいかについては、「まだ決めていない・わからない」が37.8%と最も多く、次いで「4年生大学まで」が24.9%、「高等学校まで」が14.7%となっています。
- 性別で見ると、「まだ決めていない・わからない」が男女ともに最も高くなっています。また、「専門学校(各種学校)まで」は女子が男子を6.9ポイント上回っているのに対し、「4年生大学まで」は男子が女子を4.9ポイント上回っています。

図表 63 将来の進路



問. あなたは、女性が仕事をするかどうかについてどう思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

【小学生：問9 中学生：問11】

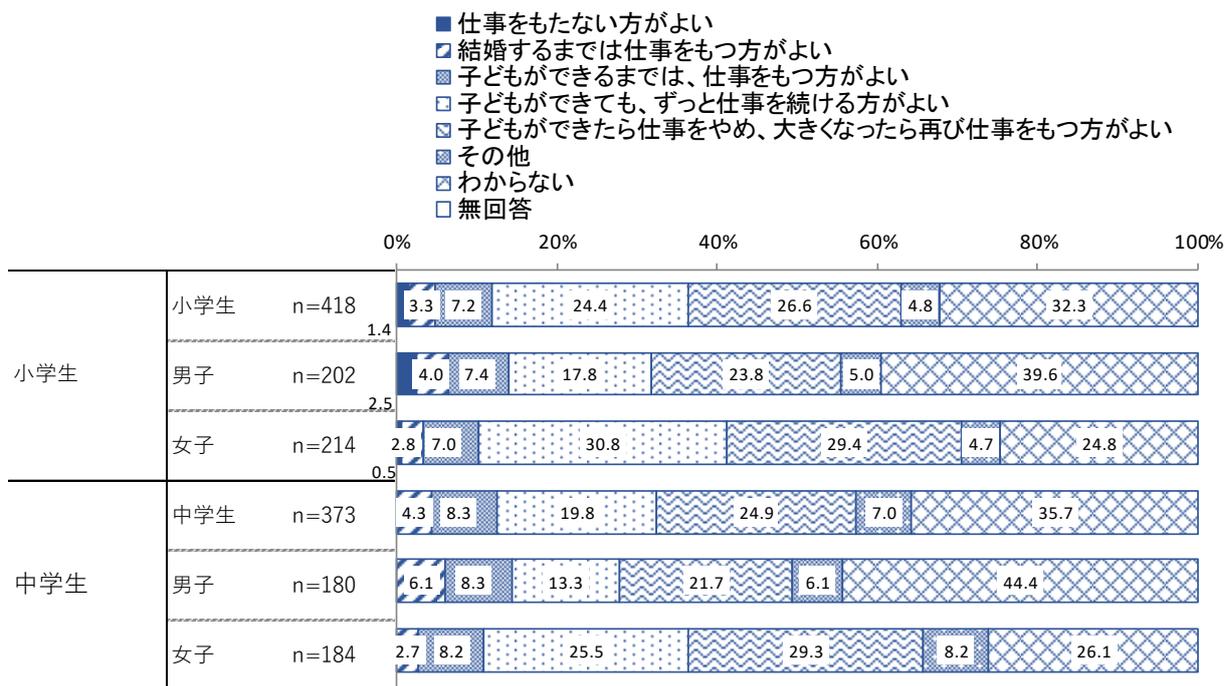
小学生

- 女性が仕事をするかどうかについては、「わからない」が 32.3%と最も多く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 26.6%、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が 24.4%となっています。
- 性別で見ると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した人は、男子では 17.8%、女子では 30.8%となっており、女子が男子を 13.0 ポイント上回っています。

中学生

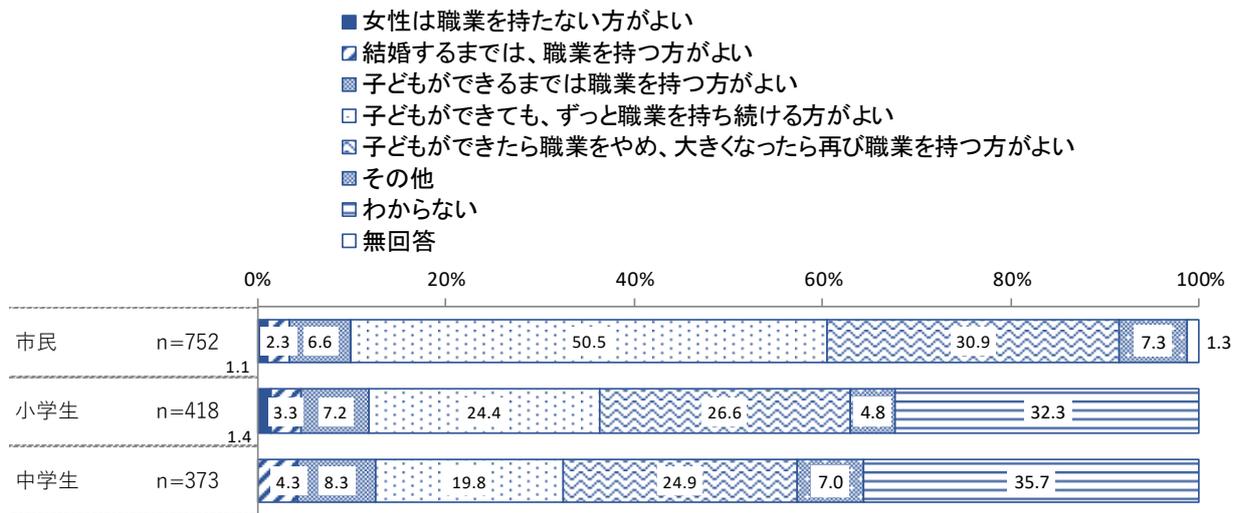
- 女性が仕事をするかどうかについては、「わからない」が 35.7%と最も多く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 24.9%、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が 19.8%となっています。
- 性別で見ると、女子で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が 12.2 ポイント、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 7.6 ポイント、それぞれ男子を上回っています。

図表 64 女性が仕事をするかどうかについて



- 女性が仕事を持つことについて、市民では、結婚・出産に関わらず継続して仕事を続けた方がよいと考える割合が約5割となっているものの、小学生、中学生では約2割から2割半ばとなっており、小学生、中学生の若い世代よりも、実際に就労に対する現実的な感覚を持つ市民の方が女性の継続就労を支持する傾向にあります。

<調査比較>



問. あなたは、多様性に関する次の言葉を知っていますか。

(①、②/①～⑤について、それぞれ1つ選択)【小学生：問10 中学生：問12】

小学生

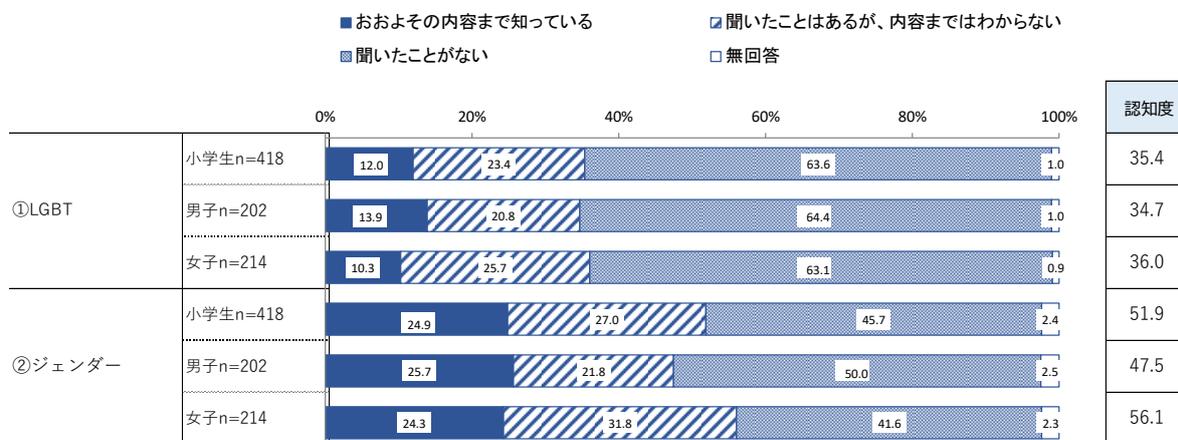
- 「LGBT」の認知度については、「聞いたことがない」が6割を超えており、「おおよその内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」を合わせた言葉の認知度は3割半ば、内容まで理解している割合は1割程度にとどまっています。性別による差はあまりみられません。
- 「ジェンダー」の認知度については、「聞いたことがない」が4割半ば、「おおよその内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」を合わせた言葉の認知度は約5割となっています。また、性別でみると、認知度は女子が男子を8.6ポイント上回っています。

中学生

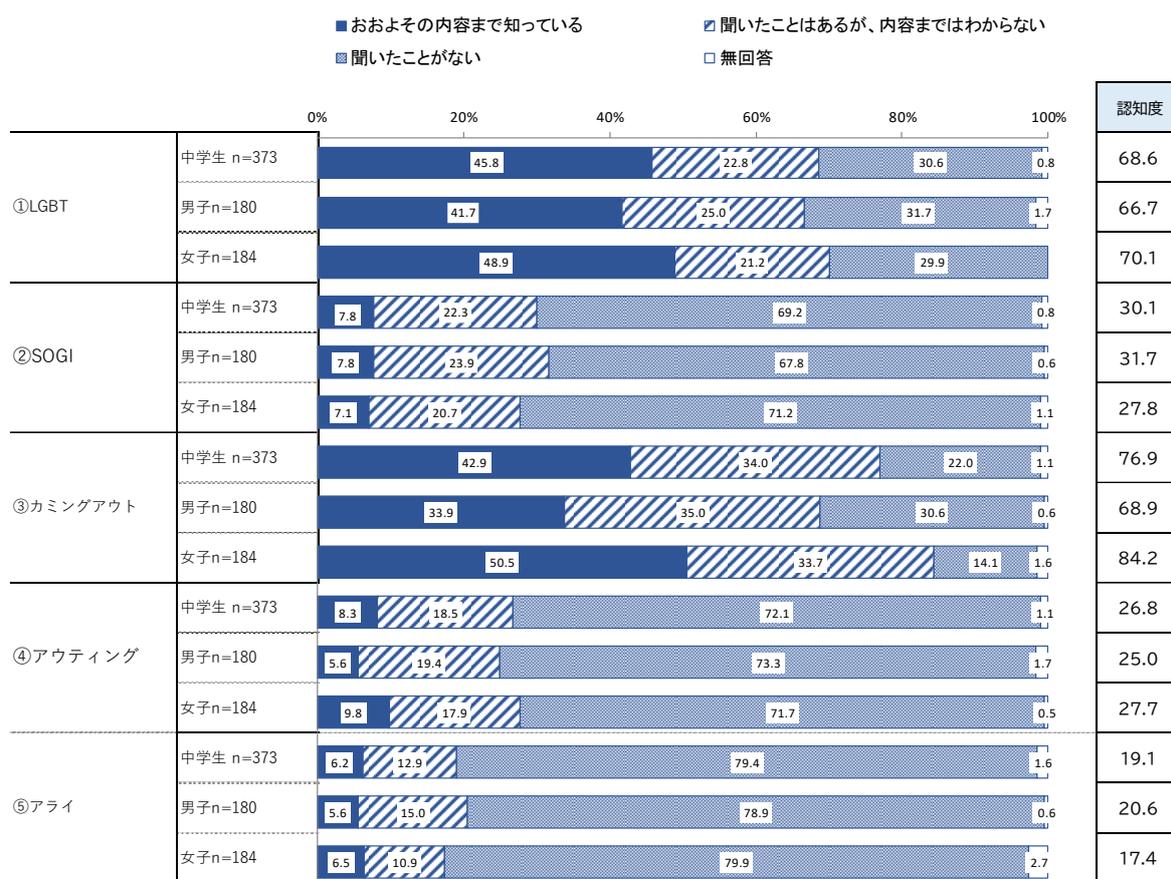
- 「LGBT」「カミングアウト」の認知度については、約7割～8割弱と高く、うち4割以上が内容まで理解しています。なかでも、男子に比べて女子の認知度が高くなっています。
- 一方で、「SOGI」「アウティング」「アライ」の認知度は約3割以下にとどまっており、内容まで理解している割合は1割に満たない状況となっています。

図表 65 多様性に関する言葉の認知度

<小学生>

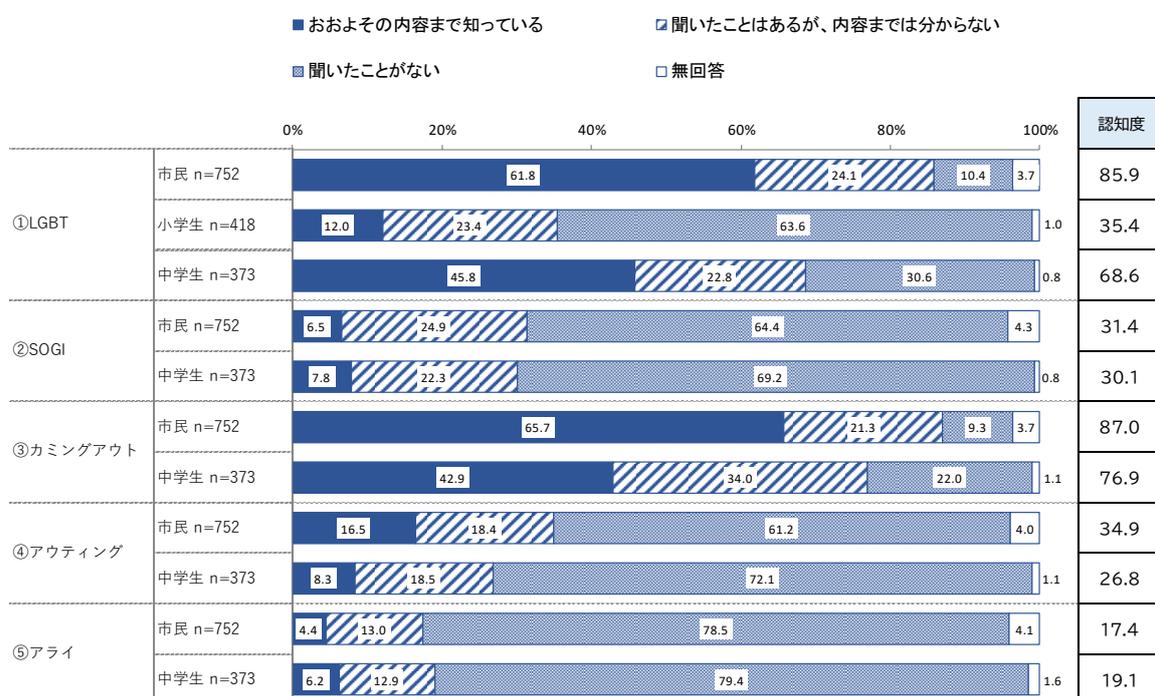


<中学生>



多様性に関する言葉については、市民と同様に「LGBT」と「カミングアウト」の認知度は高くなっていますが、市民に比べると低い割合となっています。「SOGI」や「アライ」「アウティング」の認知度は市民と同様に低い傾向にあります。

<調査比較>



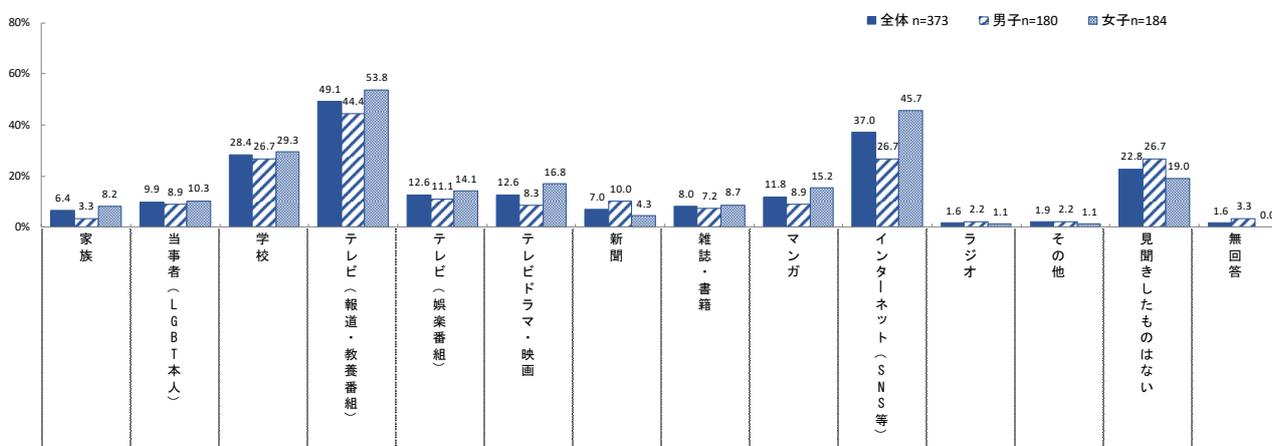
問. あなたが最近、性的少数者（LGBT）に関して情報を見聞きしたのはどこですか。

（あてはまるものすべてに○）【中学生：問13】

中学生

- 性的少数者(LGBT)に関して見聞きしたところについては、「テレビ(報道・教養番組)」が 49.1%と最も多く、次いで「インターネット(SNS 等)」が 37.0%、「学校」が 28.4%、「見聞きしたものはなし」が 22.8%となっています。
- 性別では、女子で「インターネット(SNS 等)」が 19.0 ポイント、「テレビ(報道・教養番組)」が 9.4 ポイント、「テレビドラマ・映画」が 8.5 ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「見聞きしたものはなし」が 26.7%と、女子より 7.7 ポイント高くなっています。

図表 66 性的少数者(LGBT)に関して見聞きしたところ

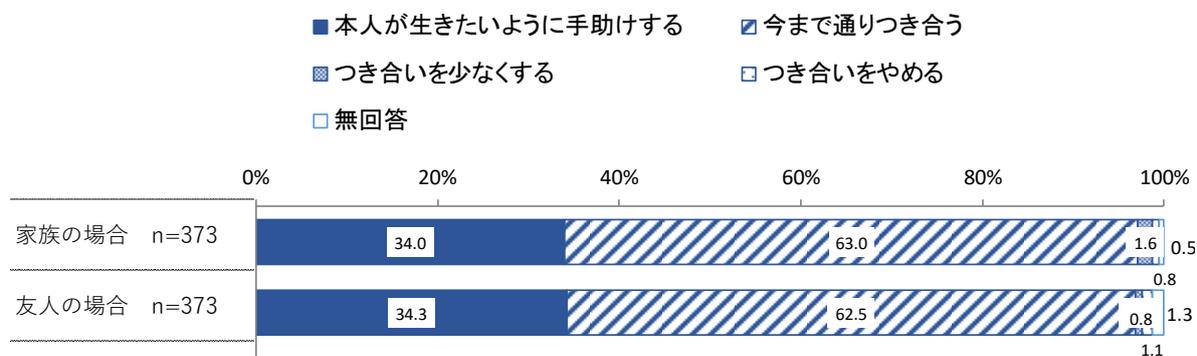


問. あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBT）であることを打ち明けられたらどうしますか。（あてはまるものをそれぞれ1つ選択）【中学生：問 14】

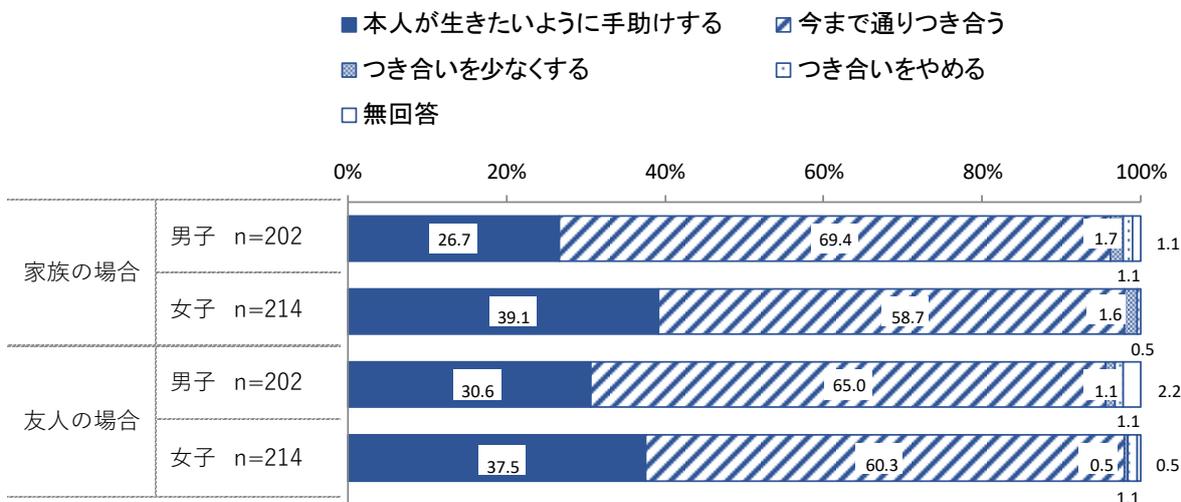
中学生

- 家族から性的少数者であることを打ち明けられたときについては、「今まで通りつき合う」が 63.0%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が 34.0%となっています。
- 性別では、女子で「本人が生きたいように手助けする」が 39.1%と、男子より 12.4 ポイント高くなっています。一方で、男子で「今まで通りつき合う」が 69.4%と、女子より 10.7 ポイント高くなっています。
- 友人から性的少数者であることを打ち明けられたときについては、「今まで通りつき合う」が 62.5%と最も多く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が 34.3%となっています。
- 性別では、女子で「本人が生きたいように手助けする」が 37.5%と、男子より 6.9 ポイント高くなっています。

図表 67 身近な人から性的少数者であることを打ち明けられたときの対応



<性別>



5 デートDVについて

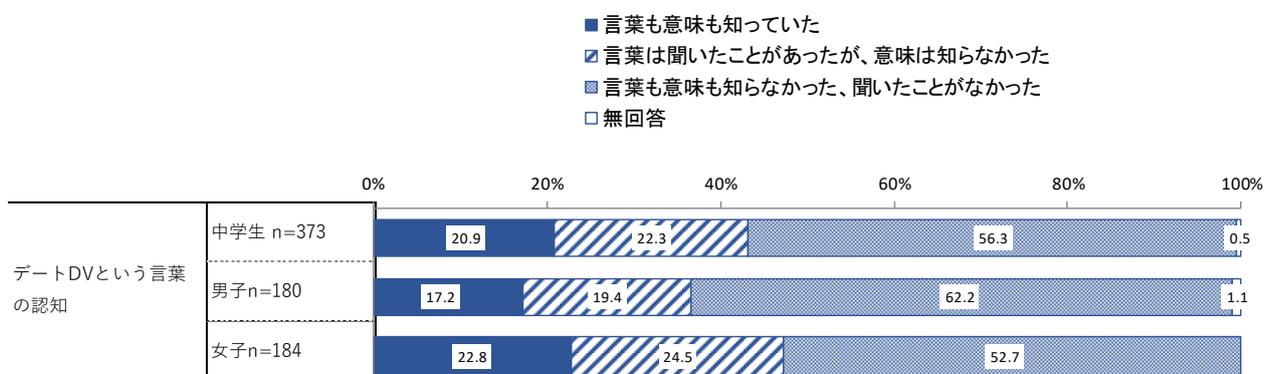
問. あなたは、「デートDV」という言葉を知っていましたか。(あてはまるものを1つ選択)

【中学生：問15】

中学生

- デートDVの認知度については、「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が56.3%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった」が22.3%、「言葉も意味も知っていた」が20.9%となっています。
- 性別では、男子で「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が62.2%と、女子より9.5ポイント高くなっています。

図 68 デートDVの認知度



6 自由意見

小学生

<男女平等について>

性別	意見	件数
男・女	男女関係無く平等にする。	23件
男・女	女と男の差別がなくなってほしい。	14件
男・女	男性女性で区別をするということをやめる。	12件
男・女	男は仕事、女は家事や子育てという固定概念をなくした方がよい。	6件
男・女	男女関係無く、平等に仕事をしたほうがいい。	3件
女	女の人が家事などをやるということや、男の人が仕事をするというのはおかしい。	1件
男	差別が無い方がよいと思います。自分の意見を言えば良いと思う。	1件
女	女だから、男だからという差別をしないでほしい。自分が得意、好きなことを否定されたくない。	1件
女	これからも、男女差別などの問題をなくしていきたいです。	1件
男	僕は男女の差別をせずに生きていきたいです。	1件
男	男女差別を無くして人権問題がない未来になるといいと思う。	1件
女	お父さんやお母さんみんなが一緒に働いて、男女、関係なしにやれば良いと思う。	1件
女	昔(お父さんやお母さんの時くらい)は女の人は、仕事をしないで家事をやる。男の人は仕事をする、というものがあつたけど、今では女の人も、男の人も、同じになったり、どの仕事も女の人も男の人もやっているから、いいと思う。でも、まだ男の子らしくとか、女の子らしくとかあるから、よくないと思う。	1件
男	どんな職業でも男女平等にしたい。	1件
女	よく子育てをするのは女性、仕事をするのは男性と言われているので男女両方で平等に子育てしたり仕事をしたりするといいと思う。	1件
女	男女で力の差はあるけど、そういうので差別はされるのはなくなったらいいなと思う。	1件
女	「家事は女がやる仕事だ」など、ではなく、女も男も関係なく、いっしょに家事をすること。	1件
女	男の子は「算数が得意」とか女子は「整理整頓が得意」とかをやめてほしい。	1件
女	女だから、男だからという理由で強制的にせず、自分のことは自分でしたり、自分じゃ出来ない事があつたら協力して頑張る。女でも、男でも平等に接する。	1件
女	「女の子は字が綺麗」「絵が上手」とかの偏見がなくなってほしい。	1件
女	男女平等になればいいと思う。男の人が家のことをやって女の人が仕事をやるでもいいと思う。	1件
女	将来は男性が優先されるような世の中じゃなくて(男が優先されるべきだ)や(女が優先されるべきだ)などの差別のようなものがなく、男女平等に接される世の中や今のように平等に接されるような世の中が続いて、これからもないといいと思いました。	1件

性別	意見	件数
女	女子、女性、男子、男性関係なく仕事や家事、育児などを進んで自分もやっていきたい。「女子だから」とか「男子だから」とは言わず、平等にしていきたい。	1件
男	やはり男だから色々しろと父から言われる時は嫌な気持ちになるから男女差別はまだ続いている感じがあるのでそこも直してほしい。時代とかどうでも良いとか言ってくるので、男女差別をしてはいけないということルールにしてみたら良いと思う。男は泣くなと言われるが、泣きたい時は泣かせてほしい。	1件
男	男性も女性も自由な世の中になってほしい。	1件
女	私が社会に出た時に男女差別をしている人が居たら私はそれに反対します。社会人にまでなって男女差別をしているのは大人として恥ずかしいと思います。	1件
女	私の家は母も父も一緒に家で仕事をしています。なぜ女は育児、男は仕事と言うイメージなのか私にはあまり分かりません。	1件
女	私なら社会に出て男女差別をされていたら良い気持ちにならない。	1件
女	性別である人は優遇され、またある人は、不遇なのは理不尽です。なぜなら不遇な人が生きづらくなるからです。わたしは女だから手伝ってとよく言われます。男女問わず平等になってほしいです。	1件
女	差別なくする。料理も好きな人がいるから男の人も家事をしてもいいと思う。	1件
男	男女平等に近づけることは賛成しているが、どうしても近づけられない場合もある。	1件
男	男女平等に接して多様性に配慮するべきだと思います。	1件
男	女の方が優先とか男の方が優先とかは良くないと思う。	1件
男	「男性・女性・男子・女子だから〇〇」という考えは僕は、認められないです。	1件
男	「あなたは男なんだからやって」や、「男子なのにそんなことも出来ないの」など、苦手なこともあるのにそれを無視してその性別なんだからやってという言葉がなくなしてほしい。	1件
女	男子だから女子だからとか気にしない。	1件
女	「女の子だから」をいうのをやめてほしい。	1件
女	(男だから)(女だから)をあまり言わない。	1件
女	「男性が仕事をして、女性は家事・子育てをする。」という事については反対します。子育ては夫婦でする事です。なので男女関係なく仕事をし、子育てをすれば良いと思います。LGBTについては良いと思います。	1件
女	「男性が仕事をして、女性は家事・子育てをする。」という事については反対します。子育ては夫婦でする事です。なので男女関係なく仕事をし、子育てをすれば良いと思います。LGBTについては良いと思います。	1件
男	男女どちらも(誰でも)お金は稼いでいい。	1件
女	昔、スーパーへ行ったら、小さい子と一緒にいたお母さんが、「女の子だから、ワンピース好きだよ。」と言って無理やり買っていたから女の子でもズボンとかはいてもいいんじゃないと思った。	1件
女	女の子でも大人になって外で働きたくなったら外で働きたい。	1件

性別	意見	件数
女	自分がしたいけど周りにいろいろ言われるから少し不平等だと思う。	1件
女	平等だと思う。	1件
男	人それぞれの好きな家庭などをやった方が平等に自由にいけると思う。	1件
女	仕事をして子育てもする。	1件
女	男女問わずみんなが周りの目を気にせず好きな事をできるようになってほしい。	1件

<これからの社会について>

性別	意見	件数
男・女	将来、差別のない社会になるといいと思う。	12件
男・女	僕たちの将来では、人権を尊重し、誰もが平等に接せられる様な社会になってほしい。	12件
男・女	男だからとか女だからとか関係なく生活していきたい。みんなで仲良く生活していきたい。	5件
女	女の人、男の人自由な世界がいいと思った。	2件
男	将来、治安がいいと思う。	1件
女	みんなが幸せだと思う生活できるといいな。	1件
男	父親だって洗濯、食事を作る、後片付け、衣類の修理などをやる。そういう男性でも女性でもなんでもやる。そういう未来にしたい。	1件
男	昔の事は忘れて、男性でも、女性でも自分のやりたい事を出来る様にして、笑われない未来にしたいと僕は思う。	1件
女	今は男の人が優先的になっているけど将来は女の人にも色々な選択肢があっていいと思う。	1件
男	グローバルな社会。	1件
男	安全に暮らしたい。	1件
女	政治家は男がやるべきだといわないで女の人にも総理大臣になるべきだ。	1件
女	将来はお母さんは家の家事をしてお父さんは仕事に出た方がいいと思います。	1件
女	女の子らしい職業。男の子らしい職業。そういうのが無くなって、誰もが自分の好きな職業、興味のある職業。やってみたい職業が男女問わず、できるようにしたい。	1件
男	将来仕事をする時には男女平等で仕事は男、家事は女という考え方がない世界になって欲しい。	1件
女	将来、(これから) 男は男でしかできない事、女は女でしかできない事を分けたりしても平和であるように男女問わず共同な作業や多少の差はあっても、気にせず同じような良い社会にできると、良いと思う。	1件

<将来について>

性別	意見	件数
男・女	将来は仕事をしたい。	6件
男	サッカー選手になりたいです。	4件
女	パン屋で働く。	2件
男・女	将来の夢は、絵師です。	2件
男	サラリーマン。	2件
女	将来は、看護師になりたい。	2件
男	結婚した人と幸せに暮らしたい。	2件
男	パソコンの作業をしている人になりたい。	1件
女	美容師になること。	1件
女	将来の夢、岐阜高校合格 アニメーター。	1件
女	自分から進んでできる人になりたい。	1件
男	子供のためにたくさん働きたい。	1件
男	マンガ家。	1件
女	私は男女関係なく、平等で、暮らしたい。自分らしくで、生きていきたい。将来の夢は、世界の女優になりたい。あと、インテリアデザイナーにもなりたい。	1件
男	自分の人生だから自由(法律などは守る)にしたい	1件
男	ユーチューバー。	1件
男	将来の夢は、ボートレーサーで、なぜなりたいかという(理由)育ててもらった分恩返しをしたいからです。	1件
女	将来の夢は人の役に立つことです。	1件
女	将来の夢は、ウェディングプランナーです。	1件
男	僕の将来の夢は、ラグビー日本代表になり、レギュラーになり勝ちつづけることです。	1件
女	わたしは将来、仕事をしたいです。何になりたいかという、決まってはいませんが、理科、算数が活かせる仕事がいいなと思います。勉強をもっとしたいです。	1件
男	将来はキャンピングカー屋さんになりたいです。	1件
	保健室の先生。	1件
女	将来の夢ダンサー。	1件
男	将来新幹線の運転手になりたい。	1件
男	パティシエになりたいけれど、男だから向いていないとかは関係ないと思う。	1件
男	出来ればゲームで叶えたいしその他にも叶えたい夢がいっぱいあるから叶えたい。夢を叶えられるなら叶えたいし、叶えるのが難しい夢は出来れば叶えたい。けど諦めずに叶えたい。	1件

性別	意見	件数
男	将来は女の人でも男の人でも不平等無く働けるゲームセンターの人になりたい。	1件
女	動物が好きだから飼育員。	1件
男	将来はプロ野球選手としてがんばり、仕事もしっかりとする。	1件
女	将来の夢になっても、男女差別せずに仕事を頑張る。	1件
男	将来の夢はプログラマーなので、習ってはいないけどプログラミングはやっている。	1件
男	将来の夢は、プログラマーだから、プログラミング教室に通っている。	1件
女	自分の将来のことを考えると今から頑張りたいと思いました。	1件
女	将来、バレーボール選手になりたい。	1件
女	私は将来通訳の仕事を持ち、趣味などで絵を描いたり、バレエ・ダンスをしたいです。	1件
女	デザイナーになること。	1件
女	保育園の先生。	1件
女	将来は父の仕事のお手伝いをしたいです。それと親を支えていくことです。	1件
男	自衛隊になりたい、お金が稼げるような仕事をしたい。	1件

<多様性について>

性別	意見	件数
男・女	女性がズボンをはいて良いように、男性もスカートをはいても良いと思う。	3件
男・女	私は女の子を好きになったけど将来的に付き合いたいとはあまり思わない。だけど、LGBTや男女が平等な世界になってほしい。	2件
女	LGBTの人への偏見をなくしたい。	1件
女	女子がメイクをしたら、男子がメイクをすることは別に、良いことだと思います。	1件
女	ジェンダーの人でも、暮らしやすくする。	1件
女	同性結婚が認められること、男女の差別がなくなること、同性愛者や性同一性障害への差別がなくなること。	1件
男	これからの中学校や高校で、男子と女子の制服があるのか。	1件
女	制服はズボンがいい。	1件
女	私は、スカートが苦手なので、「スカートをはきなさい」と言われると嫌な感じがする。	1件
女	性的加害を経験して、ジェンダー平等が達成されていないように感じる。性によって分けるようなことに抵抗はないものの、もっと自由になりたいと思う。	1件
男	学校の服装が変わる。	1件

<家庭生活について>

性別	意見	件数
男・女	もっとお手伝いをする。	5件
女	男の人が家事をしてもいいと思う。	2件
女	私の家ではお母さんお父さんも仕事をしています。おばあちゃんは家事をします。	1件
男	整理整頓や掃除は男がやっても良い。	1件
女	お父さんもお母さんも仕事をしている。お母さんがほぼ家事をしている。	1件
男	お母さんが大変そう。	1件
男	ぼくのお父さんとお母さんはどちらとも仕事をしているし、家事もしています。	1件
女	子育ては母じゃなくてもいい(父がやってもいい)。	1件
男	僕の家ではみんながご飯を作ってくれていてでもテレビなどでは女性がやることがあるのでそんなふうになって欲しいです。	1件
男	いままでご飯をお母さんに任せていたけど大人になったら男もご飯をつくる。	1件
女	家庭のことは、女性に任せるのではなくて、家族全員で一緒に。	1件

<学校生活について>

性別	意見	件数
男	友達がいって嬉しい。友達と一緒に過ごしたい。	2件
女	クラスの活動など男女平等に差別がなくなる将来にしたい。	2件
男	係や委員長、委員会など男女の差別をせずに共に助け合って、係や委員長、委員会を学校生活で頑張っていきたいです。	1件
男	4年生の時、女子たちから避けられているような気がした。とても嫌だった。他の男子も避けているような気がした。近くを通るたびにキヤーって言って離れられたりとかされた。先生に相談したけど、直らなかった。	1件
男	男女でひいきされず、なかよく学校生活をしたい。	1件
女	みんなが仲良く遊べる。	1件
女	休み時間にみんなで楽しく遊んでいると思う。(学級遊びなど)	1件

<その他>

性別	意見	件数
男	自分のやりたいことをやればいい。	1件
女	特に言われたから嫌な気持ちになったこともないし、もしかしたら私が悪い点もあったかもしれないから、きちんと話を聞こうと思います。	1件
女	私は男の子みたいになってみたい。	1件
女	お城が好きなので、友達と城めぐりをしたい。	1件
男	僕はこのままでもいいと思います。なぜなら4年生で特訓したからです。	1件

中学生

<男女平等について>

性別	意見	件数
男・女	男女平等がいいと思う。	11件
女	男女平等に接したりする事が今度、大切になっていくと思う。男女関係なく、できる仕事や、生活の事を考えていくべきだと思う。	4件
女	男女同じことをするという事で男子はこれをしなくてはならない、女子はこれをやらなくてはならない、といった差別はなくしたい。	3件
男	男女どちらもハッピー。	2件
女	ただ性別が違うだけだから、周りの目とか気にしないで生きた方がいいと思う。でも、そういう批判とかする人の考え方をできる限り変えたい。	1件
女	男女の隔たりをなくして友人と仲良くなれるようにしたい。	1件
女	男女が平等になることは難しいと思うけれどみんなが生き生きと生活できる社会になるといいなと思います。	1件
女	自分は女なので、男の人の方が給料がいいとかそういうのはあまり許せないタイプなので、そのところは改めて欲しいと思います。	1件
男	「男は家の外、女は家の中で仕事」という昔からある考え方が今「世の中の常識」的なものになってしまっているような気がする。変えなければいけない気がする	1件
女	男なんだから女なんだからそんな言葉この世にいらないと思う。男だって女になりたい人はいるし、女だって男になりたい人もいる。みんな違ってみんないいじゃない。思いました。	1件
男	誰にでも優しくする。	1件
女	男女平等の取り組みは行われてはいるけどまだ政治家は大半が男性だし、組織をまとめる立場の人間も女性は少ない。	1件
女	女子会限定とかの店を無くして欲しい。	1件
女	平等平等とか色々なってきたけど本当に今平等なのかなって思う。	1件
女	とある仕事は女性の方が向いている、一方こちらの仕事は男性の方が向いているなど、性別で仕事の向き不向きは決めずにその人本人がやりたい仕事をやるのが大切だと思うし、そうしていくべきだと思う。	1件
男	男女平等については人は皆平等なので格差が生まれることは良くないことだと思う。だけどそのことについて履き違えている女性とかのせいで男性がどんどん追い込まれているところもあるなと思うからよく理解してからそういうことを言ってほしい。	1件
女	平等ばかり意識しすぎても、男女でそりゃ、体の作りの違いなどがあるわけなのですから少し差が生まれたりしても仕方がないと思います。	1件
女	まず参議院議員とかは女性がすごく少ないのでそこからだと思います。政府ができれば国民も出来るのじゃないかと私は思います。	1件
男	この全てのアンケートを見ながら思ったのが男女差別は良くないと思った。	1件

<これからの社会について>

性別	意見	件数
男・女	男女問わず平等に生活できる社会がいい。	16件
男・女	平和な世界になってほしいです。	3件
男・女	男女で差別のない世界になってほしい。	3件
男	将来は誰も不安にならない社会になっていくといい。	1件
男	男女共同参画で日本が良い方向に向かえばと思います。	1件
男	これからの時代は昔と違ってみんなが平等であり。みんながさまざまな生き方できる時代になると思う。でもそれが違った方にいたり、それ関連がきっかけで事件が起きたりしたらそれもそれでデメリットな考え方になってしまうと思う。	1件
女	自分が生きたいように生きればよいと思う。	1件
女	男だからとか女だからと決めつけるのではなく、みんな平等だから自分の好きなことをすればよいと思う。政治も男の人ばかりだから女の人の意見も聞いてより良い社会にするとよいと思う。	1件
男	一人1人意見を持てる様に女性、男性関係ない社会にしたい。	1件
女	政治とか仕事の重要な役割などが男性のほうが多いイメージがあるから、20年、30年後でもいいから女性も進んで社会に貢献できるようになればよいと思った。	1件
女	性別で分けられたり、男だからとか女だからとかでその人が嫌な思いをすることがないように社会になってほしい。	1件
女	多くの人が自由に好きなように生きれたらよいと思う	1件
女	学校での不平等などなくなると良い(社会でも)。みんなが楽しめる社会にしたい。	1件

<将来について>

性別	意見	件数
女	韓国アーティスト。	1件
男	女と一緒に仕事をしたい。	1件
男	サッカー選手。	1件
男	将来幸せになりたい。	1件
女	性別に縛られない自由な仕事をしたい。	1件
女	ユーチューバー、プログラマー。	1件
女	仕事につく。	1件
女	自分のやりたいことを見つけ、一生懸命行えば良い。	1件
	将来周りに自分の性別に悩んだりする人がいたら、なるべくその人の近くにおいて話を聞いてあげたいと思った。	1件
女	将来決まてないです。	1件
男	将来のために勉強などを頑張りたい。	1件

<多様性について>

性別	意見	件数
女	同性でも結婚出来るようになる社会になってほしいです。	1件
女	将来は多様性を大切にされてほしいと思うし自分自身「女の子だから～」みたいなことを言われて違和感を感じたことがあったから、そう言うことを言う人が減ってほしいし理解が増えると良いと思う。	1件
その他	性同一性障害の人達や、同性恋愛などの、多様性の時代をつくりたい。	1件
女	制服を選択できるようにしてほしい。	1件
女	将来は今より LGBT の過ごしやすい社会・男女ともに仕事がしやすい社会が必要だと思う。LGBTの方がスーツなど着る場合男女がはっきりしてしまうので、女性でもズボンが履けたり、また LGBT の理解者が増えるだけでも良い社会になると思う。男性のみ・女性のみ募集する会社を時々見かける。その時に思うのが、もしなりたい職業が募集している人材が性のどちらかの場合どちらかが嫌な思いになってしまうと思う。	1件
男	人間一人ひとりに自由に生きる価値があるから、いいと思う。自分だって、自分のやりたい事や行きたい高校とかもあるから。	1件
女	子供だからこのようなことをしなさいなど自分がやりたいようにやれない社会は今も続いていると思います。もっと多様性について認め合うといいと思います。	1件
男	別に LGBT だからって遠ざけることはない、自分はそれ関連では関わらないだけ。そのほかは普通。	1件
男	もし周りの誰かが LGBT などだったら手助けになるような行動をしたい。	1件
男	よく制服に関して言われているから、男子の制服、女子の制服をどちらも使えるようなものにすれば、その人だけ困ることはないと思う。	1件

<学校生活について>

性別	意見	件数
男	給食配膳。	1件
男	みんなとバスケがしたい。	1件

<その他>

性別	意見	件数
男	みんなで頑張らなければいけない。	1件
女	身近では、野菜くれるおじいさんがいて平和。	1件
女	自分をできることをして頑張りたい。	1件
男	僕も色々気をつけます。	1件

IV. 高校生・大学生グループインタビュー

1 調査目的

各務原市における若い世代の男女共同参画に係る現状と課題を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的とし、市内の高校と大学に在学する学生にグループインタビュー調査を実施しました。

2 調査概要

区分	高校生・大学生グループインタビュー調査
調査対象者	各務原市内の高校・大学
調査方法	聞き取り方式
調査期間	令和5年12月20日～令和6年1月17日
対象学校数	高校:2校 大学:2校

3 調査結果

男女共同参画推進にあたり、日常での男女差は感じていないという意見がある一方で、職業における男女差を感じる事が多く、社会的な地位も男性優遇という意識があることがうかがえます。学校では力仕事は男子がやる事が多い、男子の方が身だしなみに厳しいなど、女性がやや優遇されていると感じていることが分かりました。家庭内においては、家事の割合は母親が多く、両親に固定的性別役割分担意識が根付いている家庭もある一方で、完全に家事を分担している等、両親に性別役割分担意識がないフラットな家庭では、子どもの固定的な性別役割分担意識があまりない傾向にありました。将来、自分自身が家庭を持った時については、パートナーと家事を分担してやりたいという意見が多い一方で、男子学生の中には共働きでなければパートナーに家事をしてもらいたいという意見もあり、固定的性別役割分担意識を持っていることがわかります。子どもが生まれた場合については、育休の取得、復職など継続就業の意向がやや多くありました。LGBTQ については、家族・友人問わず受け入れられると偏見や差別は殆どないものの、高齢層では偏見を持っている人が多いと感じるという意見もありました。

【主な意見】

①社会は男性優遇か、女性優遇か平等か

- ・職業においては、職種による性別の偏りや、男性と女性で年収や昇格に差があると感じる
- ・社会的にみたら地位的には男性が優遇されているが、女性も上に立つ手段・機会はある
- ・男性優遇のイメージは強いが、女性専用車両があるなど優遇されている面は局所的に変わる

②学校で男女差を感じる事

- ・力仕事は男子がやるなど役割を決められている場面はあるが、男女関係なく適した人がやれば良い

・男子、女子で制服や体操着に差がある

③家庭内での男女差を感じること

- ・親や祖父母から姉や妹が「女らしく」「男らしく」と言われることがある
- ・「男だから、女だから」というのは言われたことはあまりない

④家庭内の役割分担について

- ・家の事は殆ど母親がやっている
- ・父親も家事はやるが、母親の方がやる量が多い
- ・家事は両親が平等にやっている

⑤将来的に自分が家庭を持ったら、仕事はどのように分担したいか

- ・相手と話し合って分担して家事をやりたい
- ・共働きとなったら家事をやる(相手からやって欲しいと言われてたり、大変そうだったら手伝う)

⑥将来、子どもが生まれるたら仕事を続けたいか

- ・子どもが生まれるたら(できたら)一旦仕事を辞め、大きくなったら復職する
- ・子どもが生まれるたら、妻には育児に専念してもらいたい(相手には家にいてほしい)
- ・育児休暇を取って仕事を続ける
- ・夫婦で育休を取りたい

⑦LGBTQ についての認知度、周囲にいたらどう思うか

- ・小学校や中学校の授業、ニュース、ネット(SNS)で知った
- ・家族や友人がLGBTQ だったら驚くかもしれないが、受け入れる
- ・友人がLGBTQ でも、今までと同じように仲良くできる

V. 団体ヒアリング

1 調査目的

各務原市における男女共同参画に係る現状と課題を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的とし、市内の男女共同参画に係る団体等へヒアリングを実施しました。

2 調査概要

区分	団体ヒアリング調査
調査対象者	各務原市内の男女共同参画、人権、商工業に係る団体
調査方法	聞き取り方式
調査期間	令和6年1月11日～令和6年1月19日
対象団体数	4団体

3 調査結果

各団体の活動については、講座や講演会などの開催、イベントへの出展、啓発事業等を通じて、地域住民とのつながりづくりを中心に行っていることがうかがえます。

活動における問題点は、団体の知名度が低いことや、若年層の会員や新規入会者が少ないことが挙げられました。また、団体によっては、会員の男女比に差があることも課題となっています。

活動の活性化に向けた今後の取組については、啓発活動や勉強会の開催、団体を知ってもらうことなどに力を入れていく意向がうかがえます。

講座や講演会の開催、講師の紹介など、男女共同参画に関する学びの場の提供について、市との連携や支援が求められています。

【主な意見】

①男女共同参画社会の実現のための取組

- ・各団体の活動趣旨に沿った講座や講演会の開催、市内イベントへの出展
- ・人権に関わる相談対応や街頭啓発活動
- ・高齢者の生きがいづくりを目的としたイベントの開催
- ・暮らしやすい都市づくり(環境保全)をテーマとした出前講座やパネル展の実施

②活動における問題点

- ・団体の会員がほとんど女性で構成されており、男性会員が少ない
- ・定期的な勉強会がないので、自分自身で新しい情報を収集しなければいけない
- ・男女平等と言われているが、新任で選出される委員は男性ばかり

③活動の活性化に向けた今後の取り組みと直面する課題

＜今後の取組＞

- ・勉強会の開催を積極的に行う
- ・現在行っている事業の継続実施
- ・活動に深みを持たせる(泊りがけの研修など)

＜直面する課題＞

- ・若い世代や新規会員が少ない
- ・団体の知名度が低い

④活動推進をするにあたって市と連携したいことや支援してほしいこと

- ・男女共同参画に関わる講座を行う際の講師の紹介
- ・県や市で開催する講演会や学習会の情報提供
- ・市の出前講座のメニュー化など、男女共同参画を学べる機会の創出

各務原市男女共同参画に関する市民意識調査 調査結果報告書

令和6年3月

編集:各務原市役所 まちづくり推進課 生活相談係

〒504-8555 岐阜県各務原市那加桜町1丁目69番地

TEL:058-383-1884

FAX:058-382-7110